

文学部学修ガイドブック

文学部

学修ガイドブック

2018

SCHOOL of LETTERS

'18
専修大学

専修大学

専修大学 21 世紀ビジョン 「社会知性 (Socio-Intelligence) の開発」

社会知性 (Socio-Intelligence)

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観をもち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力

専修大学が創り育てる “知”

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、アメリカのコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てたい。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立しました。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。時は21世紀に至り、この建学の精神「**社会に対する報恩奉仕**」を、現代的に捉え直し、「**社会知性 (Socio-Intelligence) の開発**」を21世紀ビジョンに据えました。このビジョンは、創立者たちが専門教育によってわが国の人的基盤を築こうとした熱き思いを現代社会において実現することでもあります。

2018 文学部学修ガイドブック

平成30年4月1日

編集・発行 専修大学文学部

〒214-8580

神奈川県川崎市多摩区東三田 2-1-1

TEL 044-911-1254 (ダイヤルイン)

文 学 部

学修ガイドブック

2018

平成30年度

専 修 大 学

専修大学学則

第1章 大学の目的および使命

第1条 本大学は、社会現象に対する自由でとらわれな
い研究を基礎とし、旧い権威や強力に対してあくまで
批判的であることを精神とし、人間の値打を尊重する
平和的な良心と民主的な訓練を身につけた若い日本人
を創りあげることが目的としている。

学修ガイドブックとは…

学修ガイドブックは、みなさんのカリキュラムについて詳しく記載したものです。
卒業するまでカリキュラムは変わりません。このガイドブックをよく読み、紛失す
ることのないよう大切に活用してください。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

文学部は、学生が本学所定の課程を修め、必修科目を含む124単位修得の要件を充たし、次に掲げる目標を達成した学生に学士（文学）の学位を授与します。

- ・それぞれの分野における研究を通じて、いかなる権威にもとられない柔軟な発想と思考力を養い、幅広い教養を身につけていること。
- ・人間の営為に関する高度で体系的な専門知識によって、文化の継承と創造に寄与する能力を身につけていること。

この方針に基づく各学科において修得すべき資質・能力は、以下のとおりです。

日本語学科

- (1) 文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有している。（知識・理解、関心・意欲・態度）
- (2) 日本語の文法・語彙・音声・表記等のそれぞれの分野について、体系的な知識を獲得するとともに、古代・中古から現代に至るまでの日本語の歴史的推移を理解できる。（知識・理解）
- (3) 卓越した知見を活かし、国語教育・日本語教育などの教育分野のみならず、ことばを必要とするさまざまな領域に還元しようとする態度を持っている。（関心・意欲・態度）
- (4) 互いの理解を深めることのできるコミュニケーション能力や客観的な視点から観察・分析する能力を身につけている。（技能・表現）
- (5) コミュニケーション能力を高めるために必要な方法を自ら選択し、知見、自身の意見や考えなどを、聞き手にわかりやすく説明できる。（思考・判断）

日本文学文化学科

- (1) 文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有している。（知識・理解、関心・意欲・態度）
- (2) 日本の文学と文化に関する幅広い専門知識を修得している。（知識・理解）
- (3) 日本の文学と文化及びそれに関連する領域への関心を高め、意欲的に学ぶことができる。（関心・意欲・態度）
- (4) 創造的な表現力を身につけている。（技能・表現）
- (5) 国際的な視野に基づく総合的な思考・判断ができる。（思考・判断）

英語英米文学科

- (1) 文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有している。（知識・理解、関心・意欲・態度）
- (2) 高い英語運用能力を修得するとともに、英語圏の文学、文化や歴史や英語に関する知識を修得している。（知識・理解）
- (3) 英語圏文化についての広い教養に基づいて、国際的な視点を持つことができる。（関心・意欲・態度）
- (4) グローバル社会で役立つ英語運用能力を発揮し、思考・判断した内容を明確に表現できる。（技能・表現）
- (5) 自らの研究について、その有効性ととも問題点を理解し、相互批判を積極的に行うことができる。（思考・判断）

哲学科

- (1) 文化・歴史・社会，自然などについて幅広い教養を身につけ，社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有している。(知識・理解，関心・意欲・態度)
- (2) 哲学・思想のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得している。(知識・理解)
- (3) 自分を絶対視することなく，他者や異文化を理解する柔軟な視点を持つことができる。(関心・意欲・態度)
- (4) 文献を正確に読解する能力に基づいて，自己の解釈を説得的に表現できる。(技能・表現)
- (5) ものごとを分析的にとらえ，筋道立てて思考することができる。(思考・判断)

歴史学科

- (1) 文化・歴史・社会，自然などについて幅広い教養を身につけ，社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有している。(知識・理解，関心・意欲・態度)
- (2) 日本及び世界各地域における過去の歴史に見られる，人間が起こしたあるいは人間に降りかかった諸事象を理解している。(知識・理解)
- (3) 歴史上の諸事象に確認できる様々な課題を解決しうる分析手法を見出すことができる。(技能・表現)
- (4) 歴史上の様々な事象のうち，特定の分野について，自ら問題を設定し，研究を深めた上で，その成果を説得力をもって表現できる。(思考・判断)
- (5) 自らの研究について，その有効性ととも問題点をも理解し，相互批判を積極的に行うことができる。(思考・判断)

環境地理学科

- (1) 文化・歴史・社会，自然などについて幅広い教養を身につけ，社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有している。(知識・理解，関心・意欲・態度)
- (2) 地理学における基本的な知識，基礎的理論、地理学的な考察方法を修得している。(知識・理解)
- (3) 地域や環境における課題を見出し，それを解決しようとする意欲を有する。(関心・意欲・態度)
- (4) 地域や環境に関する調査・分析手法を身に付け，レポートの作成やプレゼンテーションができる。(技能・表現)
- (5) 地域や環境に関する課題の解決に必要な科学的思考ができる。(思考・判断)

人文・ジャーナリズム学科

- (1) 文化・歴史・社会，自然などについて幅広い教養を身につけ，社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有している。(知識・理解，関心・意欲・態度)
- (2) 社会事象に強い好奇心を抱き，氾濫する情報のなかから真実を見抜く態度を有している。(関心・意欲・態度)
- (3) 課題を発見・調査し，自らの考えや判断を明確に表現し，他者に正しく伝えることができる。(技能・表現)
- (4) 現代社会における諸問題や実践的な課題に対し，主体的に取り組み，解決に向けて問題点を理解し，分析することができる。(思考・判断)

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部では、卒業認定・学位授与の方針に掲げる資質や能力を身につけるための教育課程として、転換教育課程，導入教育課程，教養教育課程，専門教育課程の科目を体系的に編成し，講義・演習を適切に組み合わせた授業を行います。教育課程，教育内容・方法・学習成果の評価方法については，以下のように方針を定めます。

日本語学科

(1) 教育課程

- ・転換教育課程として，1年次に専修大学入門科目を配置しています。
- ・導入教育課程として，1年次に専修大学基礎科目（専門入門ゼミナール，基礎統計学，キャリア教育関連科目，情報リテラシー関連科目，基礎自然科学，外国語基礎科目，スポーツリテラシー）を配置しています。
- ・教養教育課程として，1・2年次に人文・社会科学関連の基礎的な科目（人文科学基礎関連科目，社会科学基礎関連科目），2年次以降において学際的なテーマを扱う科目（融合領域科目），そして全学年を通じて自然科学系科目，外国語系科目，保健体育系科目を配置しています。
- ・専門教育課程では，日本語の文法・語彙・音声・表記等の言語学の諸分野について体系的に学ぶことができ，古代，中古から現代に至るまでの歴史的推移について理解できるように専門科目を配置しています。さらに，コーパス言語学，社会言語学，国語教育，日本語教育といった専門科目も配置しています。

(2) 教育内容・方法

①転換教育課程（専修大学入門科目）

転換教育課程では，少人数演習形式の「専修大学入門ゼミナール」を設置し，社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち，大学での学修に求められる技能や能力（読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力）を身につけます。

②導入教育課程（専修大学基礎科目）

導入教育課程では，専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学修します。同時に，大学で学ぶときだけではなく，生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につけます。

- ・基礎統計学では，データを正しく読み取り，分析し活用する力を身につけます。
- ・キャリア教育関連科目では，自分の生き方を主体的に考え，行動することで，将来を切り開く力を身につけます。
- ・情報リテラシー関連科目では，ITを使って科学的・論理的に情報を分析，活用する力を身につけます。社会の一員としての役割を意識させます。
- ・基礎自然科学では，身近な自然現象や最先端の科学に対して関心を持ち，諸問題について自ら考える力を身につけます。
- ・外国語基礎科目では，語彙・文法などについて基礎的かつ体系的に理解し，世界の文化や社会について理解を深め，幅広い視野から様々な問題に取り組み力を身につけます。英語は必修とし，その履修にあたっては習熟度に基づくクラス編成をとることで，学生自身の学修進度にあった英語力の育成をはかります。英語以外の外国語は必修とし，基礎的内容から学ぶ事で外国語の能力の育成を図ります。

- ・スポーツリテラシーでは、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。

③教養教育課程（教養科目）

教養教育課程では、各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることで、多面的なものの見方の基礎を養成します。

- ・人文科学基礎関連科目、社会科学基礎関連科目、自然科学系科目では、それぞれの分野が対象とする問題や知見、用語を知り、社会の諸問題について、自ら考え、その解決に取り組む力を身につけます。
- ・融合領域科目では、同じテーマであっても複数の領域からのアプローチが存在することを理解し、多面的な思考能力や幅広い視野から社会の諸問題の解決に取り組む力を身につけます。
- ・外国語系科目では、導入教育課程の外国語基礎関連科目の修得を踏まえ、より高度なレベルの運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行なうことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野から様々な問題に取り組む力を身につけます。
- ・保健体育科目では、導入教育課程のスポーツリテラシーの修得を踏まえ、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。

④専門教育課程（専門科目）

- ・1年次において専門科目の学修を進める準備として、日本語学の概説科目と専門入門ゼミナール（導入教育課程）、日本語の情報処理科目を必修科目としています。
- ・2年次以降の専門教育課程では、日本語学の多様な分野を網羅する専門科目を設置しています。
- ・2年次以降のゼミナールでは、少人数でのゼミ形式の授業を行うことにより、個々の学生の資質を伸ばす教育を行っています。また、口頭発表能力及び文章表現力にも配慮した教育を行っています。

(3) 学修成果の評価方法

- ・教養教育課程の科目から8単位を修得したことをもって、文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有していると評価します。
- ・導入教育課程で必修とされている外国語基礎科目8単位および専門教育課程で必修とされている5科目22単位を修得したことをもって、互いの理解を深めることのできるコミュニケーション能力や客観的な視点から観察・分析する能力を身につけたと評価します。
- ・専門教育課程の科目から46単位を修得したことをもって、日本語学の各分野についての体系的な知識を獲得し、日本語の歴史的推移を理解したと評価します。
- ・転換教育課程および専門教育課程におけるゼミナール（演習科目）の単位を修得したことをもって、卓越した知見を活かし、国語教育・日本語教育などの教育分野のみならず、ことばを必要とするさまざまな領域に還元しようとする態度を持っていると評価します。
- ・卒業論文8単位の修得をもって、コミュニケーション能力を高めるために必要な方法を自ら選択し、知見、自身の意見や考えなどを、聞き手にわかりやすく説明できる能力を身につけたと評価するとともに、卒業認定・学位授与の方針に掲げる全ての資質や能力が身についたことを総合的に評価します。

日本文学文化学科

(1) 教育課程

- ・転換教育課程として、1年次に専修大学入門科目を配置しています。
- ・導入教育課程として、1年次に専修大学基礎科目（基礎統計学，キャリア教育関連科目，情報リテラシー関連科目，基礎自然科学，外国語基礎科目，スポーツリテラシー）を配置しています。
- ・教養教育課程として、1・2年次に人文・社会科学関連の基礎的な科目（人文科学基礎関連科目，社会科学基礎関連科目），2年次以降において学際的なテーマを扱う科目（融合領域科目），そして全学年を通じて自然科学系科目，外国語系科目，保健体育系科目を配置しています。
- ・専門教育課程では，古代から現代までを網羅した日本文学，これに緊密に関わる日本文化，さらにその実践としての創作，の3つの分野に関連する科目を中心として講義科目を配置しています。

(2) 教育内容・方法

①転換教育課程（専修大学入門科目）

転換教育課程では，少人数演習形式の「専修大学入門ゼミナール」を設置し，社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち，大学での学修に求められる技能や能力（読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力）を身につけます。

②導入教育課程（専修大学基礎科目）

導入教育課程では，専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学修します。同時に，大学で学ぶときだけではなく，生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につけます。

- ・基礎統計学では，データを正しく読み取り，分析し活用する力を身につけます。
- ・キャリア教育関連科目では，自分の生き方を主体的に考え，行動することで，将来を切り開く力を身につけます。
- ・情報リテラシー関連科目では，ITを使って科学的・論理的に情報を分析，活用する力を身につけます。社会の一員としての役割を意識させます。
- ・基礎自然科学では，身近な自然現象や最先端の科学に対して関心を持ち，諸問題について自ら考える力を身につけます。
- ・外国語基礎科目では，語彙・文法などについて基礎的かつ体系的に理解し，世界の文化や社会について理解を深め，幅広い視野から様々な問題に取り組み力を身につけます。英語は必修とし，その履修にあたっては習熟度に基づくクラス編成をとることで，学生自身の学修進度にあった英語力の育成をはかります。英語以外の外国語は必修とし，基礎的内容から学ぶ事で外国語の能力の育成を図ります。
- ・スポーツリテラシーでは，スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら，実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して，社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。

③教養教育課程（教養科目）

教養教育課程では，各学部・学科の専門教育を相対化し，専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び，異なる視点から問題にアプローチすることで，多面的なものの見方の基礎を養成します。

- ・人文科学基礎関連科目，社会科学基礎関連科目，自然科学系科目では，それぞれの分野が対象とする問題や知見、用語を知り，社会の諸問題について，自ら考え，その解決に取り

組む力を身につけます。

- ・融合領域科目では、同じテーマであっても複数の領域からのアプローチが存在することを理解し、多面的な思考能力や幅広い視野から社会の諸問題の解決に取り組む力を身につけます。
- ・外国語系科目では、導入教育課程の外国語基礎関連科目の修得を踏まえ、より高度なレベルの運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行なうことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野から様々な問題に取り組む力を身につけます。
- ・保健体育科目では、導入教育課程のスポーツリテラシーの修得を踏まえ、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。

④専門教育課程（専門科目）

- ・1年次より、日本文学・文化に関する基礎的・導入的な専門科目を配当することによって、2年次から本格的に始まる専門教育課程への準備を行います。
- ・2年次以降の専門教育課程では日本文学・文化に関する多彩な専門科目を設置します。
- ・2年次から4年次まで継続して履修する、人数を限定したゼミナールによって、専門分野についての深い知見と研究手法を身につけ、主体的な研究が行える能力を養成します。

(3) 学修成果の評価方法

- ・教養教育課程の科目から8単位を修得したことをもって、文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有していると評価します。
- ・専門教育課程の科目から56単位を修得したことをもって、日本の文学と文化に関する幅広い専門知識を修得したと評価します。
- ・転換教育課程および専門教育課程におけるゼミナール（演習科目）の単位を修得したことをもって、日本の文学と文化及びそれに関連する領域への関心を高め、意欲的に学ぶことができることを評価します。
- ・卒業論文8単位の修得をもって、創造的な表現力を身につけているとともに、国際的な視野に基づく総合的な思考・判断ができると評価するとともに、卒業認定・学位授与の方針に掲げる全ての資質や能力が身についたことを総合的に評価します。

英語英米文学科

(1) 教育課程

- ・転換教育課程として、1年次に専修大学入門科目を配置しています。
- ・導入教育課程として、1年次に専修大学基礎科目（専門入門ゼミナール、基礎統計学、キャリア教育関連科目、情報リテラシー関連科目、基礎自然科学、外国語基礎科目、スポーツリテラシー）を配置しています。
- ・教養教育課程として、1・2年次に人文・社会科学関連の基礎的な科目（人文科学基礎関連科目、社会科学基礎関連科目）、2年次以降において学際的なテーマを扱う科目（融合領域科目）、そして全学年を通じて自然科学系科目、外国語系科目、保健体育系科目を配置しています。
- ・専門教育課程においては、学生の興味・関心に対応して「英語コミュニケーションコース」と「英語文化コース」の2コースを設定し、2年次からいずれかのコースに所属した学生に対して、それぞれのコースに定められた授業を開講します。

(2) 教育内容・方法

①転換教育課程（専修大学入門科目）

転換教育課程では、少人数演習形式の「専修大学入門ゼミナール」を設置し、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる技能や能力（読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力）を身につけます。

②導入教育課程（専修大学基礎科目）

導入教育課程では、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学修します。同時に、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につけます。

- ・1年次において、聞く・話す・読む・書くという英語4技能を修得するための基礎的な科目として「専門入門ゼミナール」を必修科目として開講しています。
- ・基礎統計学では、データを正しく読み取り、分析し活用する力を身につけます。
- ・キャリア教育関連科目では、自分の生き方を主体的に考え、行動することで、将来を切り開く力を身につけます。
- ・情報リテラシー関連科目では、ITを使って科学的・論理的に情報を分析、活用する力を身につけます。社会の一員としての役割を意識させます。
- ・基礎自然科学では、身近な自然現象や最先端の科学に対して関心を持ち、諸問題について自ら考える力を身につけます。
- ・外国語基礎科目では、語彙・文法などについて基礎的かつ体系的に理解し、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野から様々な問題に取り組み力を身につけます。英語以外の外国語は必修とし、基礎的内容から学ぶ事で外国語の能力の育成を図ります。
- ・スポーツリテラシーでは、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。

③教養教育課程（教養科目）

教養教育課程では、各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることで、多面的なものの見方の基礎を養成します。

- ・人文科学基礎関連科目、社会科学基礎関連科目、自然科学系科目では、それぞれの分野が対象とする問題や知見、用語を知り、社会の諸問題について、自ら考え、その解決に取り組む力を身につけます。
- ・融合領域科目では、同じテーマであっても複数の領域からのアプローチが存在することを理解し、多面的な思考能力や幅広い視野から社会の諸問題の解決に取り組む力を身につけます。
- ・外国語系科目では、導入教育課程の外国語基礎関連科目の修得を踏まえ、より高度なレベルの運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行なうことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野から様々な問題に取り組む力を身につけます。
- ・保健体育科目では、導入教育課程のスポーツリテラシーの修得を踏まえ、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。

④専門教育課程（専門科目）

- ・1年次において専門科目の学修のための導入科目として「英語英米文学概論1・2」を必修科目として開講しています。
- ・1・2年次においては、聞く・話す・読む・書くという英語4技能それぞれに特化した科

目と統合した科目の計 14 科目をそれぞれの学生の英語力に応じて学修できるように習熟度別クラスにて必修科目として展開しています。2・3・4 年次では、英語力をさらに高められるように、多種の上級英語スキル科目計 14~16 科目を選択必修科目として展開しています。

- ・ 2・3・4 年次では、英語圏の文学や文化や英語に関する多彩な専門科目を選択必修科目として計 77~81 科目展開しています。
- ・ 3・4 年次では、少人数でのゼミ形式の授業を行うことで各自の個性的な資質の涵養に努めるゼミナールを必修科目として展開しています。

(3) 学修成果の評価方法

- ・ 教養教育課程の科目から 8 単位を修得したことをもって、文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有していると評価します。
- ・ 導入教育課程で必修とされている外国語基礎科目 4 単位および専門教育課程でコース毎に決められた必修科目の単位を修得したことをもって、高い英語運用能力を修得するとともに、英語圏の文学、文化や歴史や英語に関する知識を修得したと評価します。
- ・ 専門教育課程でコース毎に決められた選択必修科目および選択科目の単位を修得したことをもって、英語圏の文学、文化や歴史についての広い教養やグローバル社会で役立つ英語運用能力を修得したと評価します。
- ・ 転換教育課程および専門教育課程におけるゼミナール（演習科目）の単位を修得したことをもって、グローバル社会で役立つ英語運用能力を発揮し、思考・判断した内容を明確に表現できると評価します。
- ・ 卒業研究 4 単位の修得をもって、自らの研究について、その有効性ととも問題点を理解し、相互批判を積極的に行うことができると評価するとともに、卒業認定・学位授与の方針に掲げる全ての資質や能力が身についたことを総合的に評価します。

哲学科

(1) 教育課程

- ・ 転換教育課程として、1 年次に専修大学入門科目を配置しています。
- ・ 導入教育課程として、1 年次に専修大学基礎科目（専門入門ゼミナール、基礎統計学、キャリア教育関連科目、情報リテラシー関連科目、基礎自然科学、外国語基礎科目、スポーツリテラシー）を配置しています。
- ・ 教養教育課程として、1・2 年次に人文・社会科学関連の基礎的な科目（人文科学基礎関連科目、社会科学基礎関連科目）、2 年次以降において学際的なテーマを扱う科目（融合領域科目）、そして全学年を通じて自然科学系科目、外国語系科目、保健体育系科目を配置しています。
- ・ 専門教育課程では哲学全般、倫理学、論理学、芸術学に関する概論科目群、多様な地域や時代の思想史科目群、芸術・文化に関する科目、古典語に関する演習科目、最先端の特殊講義科目を年次進行に合わせて配置しています。

(2) 教育内容・方法

① 転換教育課程（専修大学入門科目）

転換教育課程では、少人数演習形式の「専修大学入門ゼミナール」を設置し、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる技

能や能力（読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力）を身につけます。

②導入教育課程（専修大学基礎科目）

導入教育課程では、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学修します。同時に、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につけます。

- ・基礎統計学では、データを正しく読み取り、分析し活用する力を身につけます。
- ・キャリア教育関連科目では、自分の生き方を主体的に考え、行動することで、将来を切り開く力を身につけます。
- ・情報リテラシー関連科目では、ITを使って科学的・論理的に情報を分析、活用する力を身につけます。社会の一員としての役割を意識させます。
- ・基礎自然科学では、身近な自然現象や最先端の科学に対して関心を持ち、諸問題について自ら考える力を身につけます。
- ・外国語基礎科目では、語彙・文法などについて基礎的かつ体系的に理解し、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野から様々な問題に取り組み力を身につけます。英語は必修とし、その履修にあたっては習熟度に基づくクラス編成をとることで、学生自身の学修進度にあった英語力の育成をはかります。英語以外の外国語は必修とし、基礎的内容から学ぶ事で外国語の能力の育成を図ります。
- ・スポーツリテラシーでは、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。

③教養教育課程（教養科目）

教養教育課程では、各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることで、多面的なものの見方の基礎を養成します。

- ・人文科学基礎関連科目、社会科学基礎関連科目、自然科学系科目では、それぞれの分野が対象とする問題や知見、用語を知り、社会の諸問題について、自ら考え、その解決に取り組む力を身につけます。
- ・融合領域科目では、同じテーマであっても複数の領域からのアプローチが存在することを理解し、多面的な思考能力や幅広い視野から社会の諸問題の解決に取り組む力を身につけます。
- ・外国語系科目では、導入教育課程の外国語基礎関連科目の修得を踏まえ、より高度なレベルの運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行なうことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野から様々な問題に取り組む力を身につけます。
- ・保健体育科目では、導入教育課程のスポーツリテラシーの修得を踏まえ、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。

④専門教育課程（専門科目）

ものごとを分析的に捉え、筋道立てて思考し、また、他者や異文化を理解する能力を培うために、専門科目群およびゼミナールを中心とする演習科目を通じた学修指導を行います。

- ・1年次に、大学のカリキュラム編成に慣れ、教養科目と専門科目の調和を図るための専門入門ゼミナール（導入教育課程）と、主な哲学分野の基礎を学ぶ概論科目を配置しています。また必修科目「哲学の手ほどき」を通じて、学生の関心を広げるとともに、興味と専門分野のミスマッチを避ける方策を導入しています。

- ・他者や異文化を理解する能力を培うための、多彩な概説科目を、1年次に8科目、2年次からさらに20科目配置しています。
- ・哲学を深く学ぶための古典語であるギリシア語・ラテン語について、1年次は入門科目、2年次以降は文献講読の科目を配置しています。
- ・2年次からは、ものごとを分析的に捉え、筋道立てて思考するための実践的な訓練として専門ゼミナールを配置しています。
- ・4年次に、文献の正確な読解と自らの見解を的確に表現する方法を身につけるための卒業論文を配置しています。

(3) 学修成果の評価方法

- ・教養教育課程の科目から8単位を修得したことをもって、文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有していると評価します。
- ・導入教育課程で必修とされている外国語基礎科目8単位および専門教育課程で必修および選択必修とされている24単位を修得したことをもって、自分を絶対視することなく、他者や異文化を理解する柔軟な視点を持つことができると評価します。
- ・専門教育課程の科目から28単位を修得したことをもって、哲学・思想のさまざまな領域で蓄積されてきた知識と理論を修得したと評価します。
- ・転換教育課程および専門教育課程におけるゼミナール（演習科目）の単位を修得したことをもって、文献を正確に読解する能力に基づいて、自己の解釈を説得的に表現できると評価します。
- ・卒業論文8単位の修得をもって、ものごとを分析的にとらえ、筋道立てて思考することができることを評価するとともに、卒業認定・学位授与の方針に掲げる全ての資質や能力が身についたことを総合的に評価します。

歴史学科

(1) 教育課程

- ・転換教育課程として、1年次に専修大学入門科目を配置しています。
- ・導入教育課程として、1年次に専修大学基礎科目（専門入門ゼミナール、基礎統計学、キャリア教育関連科目、情報リテラシー関連科目、基礎自然科学、外国語基礎科目、スポーツリテラシー）を配置しています。
- ・教養教育課程として、1・2年次に人文・社会科学関連の基礎的な科目（人文科学基礎関連科目、社会科学基礎関連科目）、2年次以降において学際的なテーマを扱う科目（融合領域科目）、そして全学年を通じて自然科学系科目、外国語系科目、保健体育系科目を配置しています。
- ・専門教育課程では日本史・アジア史・欧米史および考古学の諸専門分野を自由に選択して深く学ぶことができるように、専門的知識を提供する講義科目や、実践的演習科目を配置しています。

(2) 教育内容・方法

① 転換教育課程（専修大学入門科目）

転換教育課程では、少人数演習形式の「専修大学入門ゼミナール」を設置し、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる技能や能力（読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力）を身につけます。

②導入教育課程（専修大学基礎科目）

導入教育課程では、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学修します。同時に、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につけます。

- ・専門研究としての歴史学を理解し、基礎的な方法論を身につけるために専門入門ゼミナールを必修科目として配置しています。
- ・基礎統計学では、データを正しく読み取り、分析し活用する力を身につけます。
- ・キャリア教育関連科目では、自分の生き方を主体的に考え、行動することで、将来を切り開く力を身につけます。
- ・情報リテラシー関連科目では、ITを使って科学的・論理的に情報を分析、活用する力を身につけます。社会の一員としての役割を意識させます。
- ・基礎自然科学では、身近な自然現象や最先端の科学に対して関心を持ち、諸問題について自ら考える力を身につけます。
- ・外国語基礎科目では、語彙・文法などについて基礎的かつ体系的に理解し、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野から様々な問題に取り組み力を身につけます。英語は必修とし、その履修にあたっては習熟度に基づくクラス編成をとることで、学生自身の学修進度にあった英語力の育成をはかります。英語以外の外国語は必修とし、基礎的内容から学ぶ事で外国語の能力の育成を図ります。
- ・スポーツリテラシーでは、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。

③教養教育課程（教養科目）

教養教育課程では、各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることで、多面的なものの見方の基礎を養成します。

- ・人文科学基礎関連科目、社会科学基礎関連科目、自然科学系科目では、それぞれの分野が対象とする問題や知見、用語を知り、社会の諸問題について、自ら考え、その解決に取り組む力を身につけます。
- ・融合領域科目では、同じテーマであっても複数の領域からのアプローチが存在することを理解し、多面的な思考能力や幅広い視野から社会の諸問題の解決に取り組む力を身につけます。
- ・外国語系科目では、導入教育課程の外国語基礎関連科目の修得を踏まえ、より高度なレベルの運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行なうことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野から様々な問題に取り組む力を身につけます。
- ・保健体育科目では、導入教育課程のスポーツリテラシーの修得を踏まえ、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。

④専門教育課程（専門科目）

- ・1年次から歴史学各分野の概説科目を設置しています。
- ・2年次には歴史研究に特に必要とされる史料の読解のため、多様な言語・史料の「歴史資料研究法」20科目を配当します。
- ・2・3年次で多彩な専門科目を設置します。
- ・日本・世界の最新の歴史的動向を把握できる「世界史講義」を設置します。
- ・またゼミナール1・2を設置し、少数人数でのゼミ形式の授業を行うことで、各自の個性

的な資質の涵養に努めます。

(3) 学修成果の評価方法

- ・教養教育課程の科目から8単位を修得したことをもって、文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有していると評価します。
- ・専門教育課程で選択必修とされている12単位および選択科目42単位を修得したことをもって、歴史上の諸事象を理解し、その課題を解決しうる分析手法を身につけたと評価します。
- ・転換教育課程および専門教育課程におけるゼミナール（演習科目）の単位を修得したことをもって、歴史上の様々な事象のうち、特定の分野について、自ら問題を設定し、研究を深めた上で、その成果を説得力をもって表現できると評価します。
- ・卒業論文8単位の修得をもって、自らの研究について、その有効性ととも問題点をも理解し、相互批判を積極的に行うことができると評価するとともに、卒業認定・学位授与の方針に掲げる全ての資質や能力が身についたことを総合的に評価します。

環境地理学科

(1) 教育課程

- ・転換教育課程として、1年次に専修大学入門科目を配置しています。
- ・導入教育課程として、1年次に専修大学基礎科目（専門入門ゼミナール、基礎統計学、キャリア教育関連科目、情報リテラシー関連科目、基礎自然科学、外国語基礎科目、スポーツリテラシー）を配置しています。
- ・教養教育課程として、1・2年次に人文・社会科学関連の基礎的な科目（人文科学基礎関連科目、社会科学基礎関連科目）、2年次以降において学際的なテーマを扱う科目（融合領域科目）、そして全学年を通じて自然科学系科目、外国語系科目、保健体育系科目を配置しています。
- ・専門教育課程ではフィールドワークおよび空間情報分析の双方に重点を置き、地理学の体系を基礎的内容から専門深化した内容・応用的な内容へと学年進行に合わせて学べるように科目群を配置しています。

(2) 教育内容・方法

①転換教育課程（専修大学入門科目）

転換教育課程では、少人数演習形式の「専修大学入門ゼミナール」を設置し、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる技能や能力（読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力）を身につけます。

②導入教育課程（専修大学基礎科目）

導入教育課程では、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学修します。同時に、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につけます。

- ・2年次以降の専門科目で必要となる地理学の基礎的な知識と技法の身につけるために専門入門ゼミナールを必修科目として配置しています。
- ・基礎統計学では、データを正しく読み取り、分析し活用する力を身につけます。
- ・キャリア教育関連科目では、自分の生き方を主体的に考え、行動することで、将来を切り開く力を身につけます。

- ・情報リテラシー関連科目では、ITを使って科学的・論理的に情報を分析、活用する力を身につけます。社会の一員としての役割を意識させます。
- ・基礎自然科学では、身近な自然現象や最先端の科学に対して関心を持ち、諸問題について自ら考える力を身につけます。
- ・外国語基礎科目では、語彙・文法などについて基礎的かつ体系的に理解し、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野から様々な問題に取り組み力を身につけます。英語は必修とし、その履修にあたっては習熟度に基づくクラス編成をとることで、学生自身の学修進度にあった英語力の育成をはかります。英語以外の外国語は必修とし、基礎的内容から学ぶ事で外国語の能力の育成を図ります。
- ・スポーツリテラシーでは、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。

③教養教育課程（教養科目）

教養教育課程では、各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることで、多面的なものの見方の基礎を養成します。

- ・人文科学基礎関連科目、社会科学基礎関連科目、自然科学系科目では、それぞれの分野が対象とする問題や知見、用語を知り、社会の諸問題について、自ら考え、その解決に取り組む力を身につけます。
- ・融合領域科目では、同じテーマであっても複数の領域からのアプローチが存在することを理解し、多面的な思考能力や幅広い視野から社会の諸問題の解決に取り組む力を身につけます。
- ・外国語系科目では、導入教育課程の外国語基礎関連科目の修得を踏まえ、より高度なレベルの運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行なうことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野から様々な問題に取り組む力を身につけます。
- ・保健体育科目では、導入教育課程のスポーツリテラシーの修得を踏まえ、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。

④専門教育課程（専門科目）

- ・環境地理学を構成する各分野における概説的な内容の科目を1・2年次に配当します。
- ・より専門的な講義科目とフィールドワーク、空間分析、統計解析、地図・測量などの地理学研究のスキルを身につけるための講義・実習科目を2年次以降に配当します。このうち、比較的基礎的な内容のものは原則として2・3年次、より専門的または応用的な内容のものは原則として2～4年次に学ぶことにしています。
- ・3・4年次では、少人数でのゼミ形式の授業を行うことで、各自の個性及び関心分野に応じた資質の涵養に務めます。

(3) 学修成果の評価方法

- ・教養教育課程の科目から8単位を修得したことをもって、文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有していると評価します。
- ・専門教育課程の選択必修科目から24単位を修得したことをもって、地理学における基本的な知識、基礎的理論、地理学的な考察方法を修得していると評価します。
- ・専門教育科目の必修科目のうち、「環境地理学概論および調査法」、「野外調査法1」、「ゼミ

ナール1・2」の16単位を修得したことをもって、地域や環境における課題を見出し、それを解決しようとする意欲を有すると評価します。

- ・専門教育課程の選択必修科目「人文環境学調査法1～5」,「自然環境学調査法1～3」および「野外調査法2」の中から8単位を修得したことをもって、地域や環境に関する調査・分析手法を身に付け、レポートの作成やプレゼンテーションができると評価します。
- ・卒業論文8単位の修得をもって、地域や環境に関する課題の解決に必要な科学的思考ができると評価するとともに、卒業認定・学位授与の方針に掲げる全ての資質や能力が身についたことを総合的に評価します。

人文・ジャーナリズム学科

(1) 教育課程

- ・転換教育課程として、1年次に専修大学入門科目を配置しています。
- ・導入教育課程として、1年次に専修大学基礎科目（基礎統計学，キャリア教育関連科目，情報リテラシー関連科目，基礎自然科学，外国語基礎科目，スポーツリテラシー）を配置しています。
- ・教養教育課程として、1・2年次に人文・社会科学関連の基礎的な科目（人文科学基礎関連科目，社会科学基礎関連科目），2年次以降において学際的なテーマを扱う科目（融合領域科目），そして全学年を通じて自然科学系科目，外国語系科目，保健体育系科目を配置しています。
- ・専門教育課程においては、2年次以降において、学問の深化と相互連携に対応して「東西文化」,「生涯学習」,「ジャーナリズム」の3コースを設置し、いずれかのコースに所属した学生に対して、それぞれのコースに定められた授業を開講します。また、各コースの専門領域に関わる科目群の他に、各コースを横断する「アーカイブ関連科目群」を配置しています。

(2) 教育の内容・方法

①転換教育課程（専修大学入門科目）

転換教育課程では、少人数演習形式の「専修大学入門ゼミナール」を設置し、社会知性の開発を目指す専修大学の学生としての自覚と心構えを持ち、大学での学修に求められる技能や能力（読解力・思考力・プレゼンテーション力・文章力）を身につけます。

②導入教育課程（専修大学基礎科目）

導入教育課程では、専門的な知識・技能とそれに基づく思考方法や地球的視野からの視点をもつための基礎となる内容を学修します。同時に、大学で学ぶときだけではなく、生涯学ぶうえで社会においても必要とされる基礎的な力を身につけます。

- ・基礎統計学では、データを正しく読み取り、分析し活用する力を身につけます。
- ・キャリア教育関連科目では、自分の生き方を主体的に考え、行動することで、将来を切り開く力を身につけます。
- ・情報リテラシー関連科目では、ITを使って科学的・論理的に情報を分析、活用する力を身につけます。社会の一員としての役割を意識させます。
- ・基礎自然科学では、身近な自然現象や最先端の科学に対して関心を持ち、諸問題について自ら考える力を身につけます。
- ・外国語基礎科目では、語彙・文法などについて基礎的かつ体系的に理解し、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野から様々な問題に取り組み力を身につけます。英語は必修とし、その履修にあたっては習熟度に基づくクラス編成をとることで、学生自身の

学修進度にあった英語力の育成をはかります。英語以外の外国語は必修とし、基礎的内容から学ぶ事で外国語の能力の育成を図ります。

- ・スポーツリテラシーでは、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。

③教養教育課程（教養科目）

教養教育課程では、各学部・学科の専門教育を相対化し、専門教育の範囲を超えた広い領域の知識・技能を学び、異なる視点から問題にアプローチすることで、多面的なものの見方の基礎を養成します。

- ・人文科学基礎関連科目、社会科学基礎関連科目、自然科学系科目では、それぞれの分野が対象とする問題や知見、用語を知り、社会の諸問題について、自ら考え、その解決に取り組む力を身につけます。
- ・融合領域科目では、同じテーマであっても複数の領域からのアプローチが存在することを理解し、多面的な思考能力や幅広い視野から社会の諸問題の解決に取り組む力を身につけます。
- ・外国語系科目では、導入教育課程の外国語基礎関連科目の修得を踏まえ、より高度なレベルの運用能力を獲得し、適切なコミュニケーションを行なうことで、世界の文化や社会について理解を深め、幅広い視野から様々な問題に取り組む力を身につけます。
- ・保健体育科目では、導入教育課程のスポーツリテラシーの修得を踏まえ、スポーツを通じてコミュニケーション・スキルを育みながら、実践的な身体活動やスポーツが有する価値の学修を通して、社会生活上の諸問題を解決できる力を身につけます。

④専門教育課程（専門科目）

- ・1年次には、3つのコースに対応した各分野の基礎的知識を養うために、各分野の概説科目を設置しています。
- ・2年次からの専門教育課程科目では、「東西文化」、「生涯学習」、「ジャーナリズム」の3コースを学ぶ上で必要とされる、多彩で最新の専門科目を設置します。
- ・それぞれの進路で必要とされる科目を段階的かつ体系的に学修するとともに、他コースの専門科目の中から希望の科目を選択して学修することによって、幅広い知識と高い問題意識を修得することができます。
- ・2年次から専門ゼミナールを開講し、少人数でのゼミ形式での授業を行うことで、各自の個性的な資質の滋養に努めています。
- ・海外語学留学制度などの活用や、起業へのインターン制度を導入するなど、現場における実践的な教育を行います。

(3) 学修成果の評価方法

- ・教養教育課程の科目から8単位を修得したことをもって、文化・歴史・社会、自然などについて幅広い教養を身につけ、社会生活上の諸課題に取り組むための多様な視点を有していると評価します。
- ・導入教育課程の外国語基礎科目8単位の修得をもって、国際的な視野に立つ基礎的能力を身につけていると評価します。
- ・専門教育課程で選択必修とされている36単位および選択科目16単位を修得したことをもって、社会的・国際的諸課題に対して、情報・事実・データを分析し、問題を発見して、その解決に向けた見解を論理的に表現し、議論する能力を修得していると評価します。また、公正性・多様性と持続性といった観点から、人と社会のあるべき姿について思考し、

自分なりの見解として表現することができる」と評価します。

- ・ 専門教育課程におけるゼミナール（演習科目）の単位を修得したことをもって、特定の分野について、自ら問題を設定し、研究を深めた上で、その成果を説得力をもって表現できると評価します。
- ・ 卒業論文8単位の修得をもって、自らの研究について、その有効性ととも問題点をも理解し、相互批判を積極的に行うことができると評価するとともに、卒業認定・学位授与の方針に掲げる全ての資質や能力が身についたことを総合的に評価します。



文学部長
廣瀬 玲子

はじめに

ご入学おめでとうございます。専修大学文学部の教職員一同、みなさんを心より歓迎いたします。

専修大学の文学部は1966年に創設され、50年以上にわたって教育・研究に力を注いできました。その間、時代の変遷とともに改革を重ね、現在は、日本語学科、日本文学文化学科、英語英米文学科、哲学科、歴史学科、環境地理学科、人文・ジャーナリズム学科の7学科を擁する学部として発展をつづけています。

みなさんが物心ついたときはすでに21世紀。世界は今までになく緊密につながり、関係しあうようになりました。遠く離れた人々が助けあい、共に生きる道が模索されている一方で、今なお多くの人々が暴力によって傷つけあっている現実もあります。また、長い間わたしたち人間を含む多様な生物を育ててきた地球の環境にも変化が見られ、予測のつかないような規模の自然災害が起こっています。

地球の住民としてよりよく生きるためにわたしたちは何をしたらいいのでしょうか。もちろん、一人ひとりができることは限られています。しかし、何かできるはずです。「いまここ」にある問題を考えるときにも、「いま」「ここ」だけにとらわれるのではなく、別の時代、別の地域へと視野を広げてみましょう。これまで人間はどのように生きてきたのか、いま人間はどのように生きているのか。授業がそのような思索を深めるためのきっかけとなればうれしいことです。

みなさんはこれから4年間さまざまな授業を履修して興味のある分野についての知識や技能を学んでゆくこととなります。このガイドブックには、授業を履修するにあたってのルールが説明されていますので、該当する箇所を熟読してください。必修科目以外の科目を選択するにあたっては、講義要項（シラバス）を読むことも大切ですが、どのような授業があるのかを概観するには、ガイドブックに折りこんである学科別の科目一覧を見るのがいちばんです。初めてやってきた街で、高いところに上ってその街を展望するように、全体を見わたしてから学問の世界への一歩を踏み出してください。

また、大学での学修は授業を受けることだけではありません。わからないこと、疑問に思うことは図書館で調べ、友人と語りあいましょう。それらを通してみなさんが「社会知性」を身につけ、言葉の力によって世界をよりよいものへと変えてゆくことを心から期待しています。

目 次

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	3
教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	5
はじめに	19
第1章 卒業までに何を学ぶか	
I 大学の授業科目	27
1 専修大学の学士課程教育	27
2 全学公開科目	29
3 授業科目の種類	30
4 単位制と履修年次指定制	30
5 単位の考え方と算定基準	30
II 大学卒業の要件と科目の履修	31
1 大学卒業の要件	31
2 履修計画の立て方	32
3 履修上限単位数	32
4 科目の再履修	32
III 科目の履修登録	34
IV 試験と成績評価	35
1 試験の種類	35
2 受験上の注意, その他	36
3 定期試験規程に定められた筆記試験によらない成績評価	37
4 卒業論文・卒業研究	37
5 成績評価と通知	38
V 卒業	40
1 卒業見込証明書の発行	40
2 卒業発表	40
第2章 転換・導入教育課程と教養教育課程の学び方	
I 転換教育課程（専修大学入門科目）	43
II 導入教育課程（専修大学基礎科目）	44
専門入門ゼミナール	44
基礎統計学	45
キャリア教育関連科目	45

情報リテラシー関連科目	47
基礎自然科学	47
外国語基礎科目・英語	48
外国語基礎科目・英語以外の外国語	50
スポーツリテラシー	52
Ⅲ 教養教育課程（教養科目）	53
人文科学基礎関連科目	53
社会科学基礎関連科目	55
自然科学系科目	56
融合領域科目	59
外国語系科目・英語	60
外国語系科目・英語以外の外国語	64
外国語系科目・海外語学研修	68
保健体育系科目	70
Ⅳ 外国人留学生の特例履修科目	72

第3章 専門教育課程の学び方

専門科目では何を学ぶか	75
-------------	----

日本語学科

I 日本語学科の特色	76
II 卒業要件と科目の履修方法	77
1 卒業要件	77
2 科目の履修方法	78
日本語学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧	83
日本語学科（外国人留学生）転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧	85
日本語学科専門科目一覧	87

日本文学文化学科

I 日本文学文化学科の特色	91
II 卒業要件と科目の履修方法	92
1 卒業要件	92
2 科目の履修方法	93
日本文学文化学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧	97
日本文学文化学科（外国人留学生）転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧	99
日本文学文化学科専門科目一覧	101

英語英米文学科

I	英語英米文学科の学生のために	105
1	英語英米文学科の特色	105
2	1年次の履修に当たって	106
3	コース分けについて	106
II	卒業要件と科目の履修方法	107
1	卒業要件	107
2	科目の履修方法	108
	英語英米文学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧	115
	英語英米文学科（外国人間学生）転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧	117
	英語英米文学科（英語コミュニケーションコース）専門科目一覧	119
	英語英米文学科（英語文化コース）専門科目一覧	121

哲学科

I	哲学科の特色	123
II	卒業要件と科目の履修方法	125
1	卒業要件	125
2	科目の履修方法	125
	哲学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧	131
	哲学科（外国人留学生）転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧	133
	哲学科専門科目一覧	135

歴史学科

I	歴史学科の特色	139
II	卒業要件と科目の履修方法	140
1	卒業要件	140
2	科目の履修方法	141
	歴史学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧	147
	歴史学科（外国人留学生）転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧	149
	歴史学科専門科目一覧	151

環境地理学科

I	学科の目的・課題・方法	155
II	卒業要件と科目の履修方法	156
1	卒業要件	156
2	科目の履修方法	156
III	履修モデルと資格認定手続き	162
1	履修モデル	162

2	資格の取得のための条件と手続き	162
	環境地理学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧	165
	環境地理学科（外国人留学生）転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧	167
	環境地理学科専門科目一覧	169
人文・ジャーナリズム学科		
I	人文・ジャーナリズム学科の学生のために	173
1	人文・ジャーナリズム学科の特色	173
2	1年次の学修とコース分け	174
II	卒業要件と科目の履修方法	174
1	卒業要件	174
2	科目の履修方法	175
	人文・ジャーナリズム学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧	181
	人文・ジャーナリズム学科（外国人留学生）転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧	183
	人文・ジャーナリズム学科専門科目一覧	185
文学部専門科目一覧		189

第4章 教職，司書，司書教諭，学校司書，学芸員課程について

I	教職課程	203
1	教職課程とは	203
2	免許状の種類と取得所要資格	203
3	教職課程の履修について	204
II	司書・司書教諭・学校司書課程	204
1	司書・司書教諭・学校司書課程とは	204
2	資格取得証明書について	205
3	司書・司書教諭・学校司書課程の履修について	205
III	学芸員課程	206
1	学芸員課程とは	206
2	学芸員課程の履修について	206
IV	大学院教職課程	206
V	科目等履修生	207

付 録

I	専修大学定期試験規程	211
II	専修大学定期試験規程	214
III	定期試験における不正行為者処分規程	218

第1章

卒業までに何を学ぶか

- I 大学の授業科目
- II 大学卒業の要件と科目の履修
- III 科目の履修登録
- IV 試験と成績評価
- V 卒 業

I 大学の授業科目

1. 専修大学の学士課程教育

専修大学に入学したみなさんが、これから4年間専修大学に在学し、各学部学科で定められている授業科目の単位を修得すると、それぞれの専門分野を付した「学士」となって卒業し、「社会への第一歩」を踏み出します。

この入学から「社会への第一歩」を繋ぐ「学び」の道のりが「学士課程」と言えるでしょう。

しかしながら、中学校や高等学校の勉強と大学での「学び」は同じではありません。大学では、一人ひとりが自分で「学び」を選択し、自ら研鑽することが求められます。大学における「学び」は、受動的、画一的な「学習」ではなく、能動的、自律的な「学修」なのです。

そこで専修大学の学士課程では、まず、みなさんが大学での「学び」や生活にスムーズに適應できるよう「転換教育課程（専修大学入門科目）」を設置しています。「転換教育課程」で、みなさんは少人数の「専修大学入門ゼミナール」において、専修大学の学生としての自覚と心構えを得るでしょう。

続く「導入教育課程（専修大学基礎科目）」では、大学や社会で求められる必要不可欠な基礎的知識や技能（アカデミックスキル）を修得します。「導入教育課程（教養科目）」は、「専門教育課程（専門科目）」および「教養教育課程」に進むための、言わば「ゲート（入口）」です。

このように、専修大学の学士課程は「転換教育課程」、「導入教育課程」、「教養教育課程」および「専門教育課程」の4つの領域から成る「三層構造」となっており、教育課程全体の体系性・順次性が確保されるとともに、かつ教養教育と専門教育の有機的連携が図られています。

「教養教育課程」と「専門教育課程」も、基礎から応用へと段階的に学修できる科目配置となっています。「教養教育課程」には、人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・外国語系科目・保健体育系科目の5つの系統からなる科目群があり、基礎科目で興味を持った分野をより深く学べるようになっていきます。みなさんは、多様な専修大学の「教養科目」の中から各自の興味や関心を深化、発展させたり、専門分野を多角的に考察したりすることで、社会に通用する力を確実につけることができます。今日のかつ学際的・融合的な科目も用意されています。

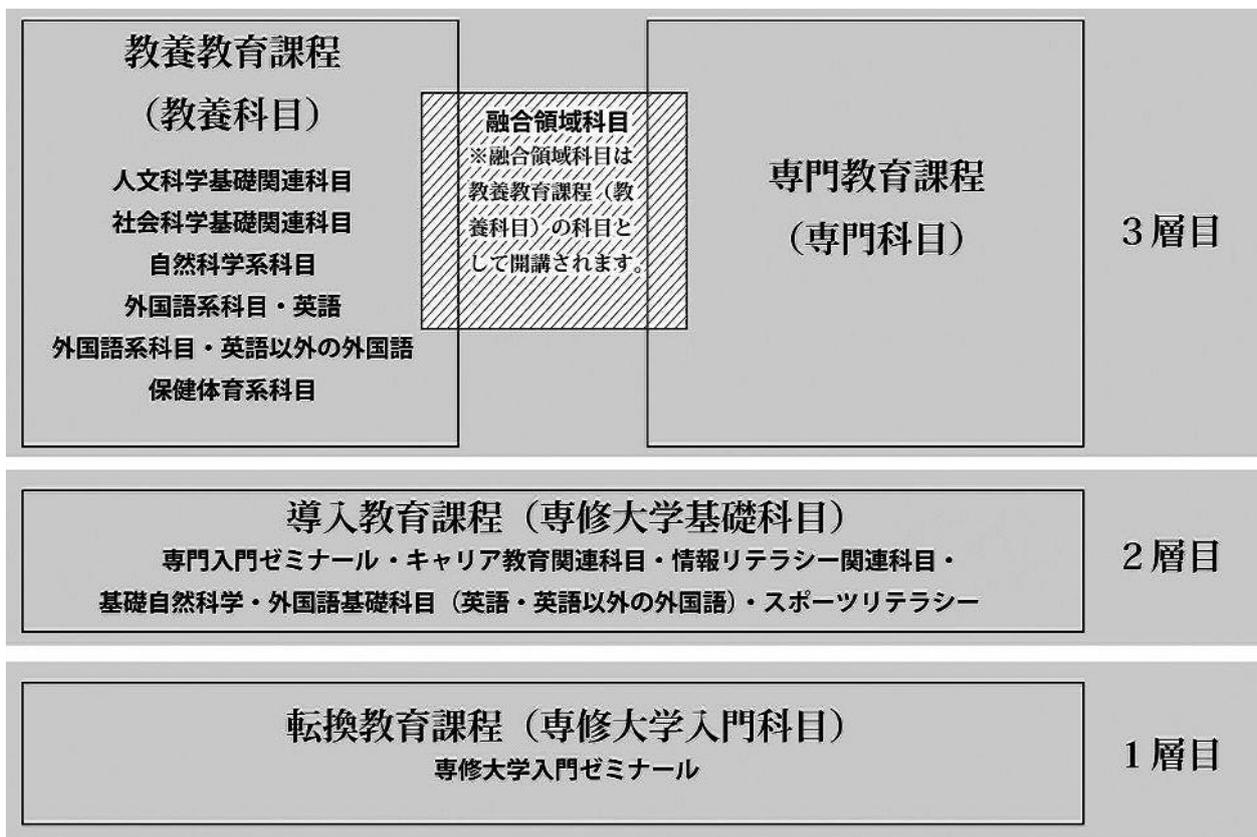
つまり、みなさんは、どの学部にも所属していても、社会に出てから必要な基礎的知識や技能を学び、課題解決能力、論理的思考力、コミュニケーション能力などを身につけることができます。専修大学の学士課程教育は、一人ひとりの「学修」が、将来の持続的成長につながるよう、様々に工夫されているのです。

専修大学は、みなさんが「社会への第一歩」を力強く踏み出せるように、「学び」の道筋を示し、その教育の質を保証しています。専修大学の学士課程は、みなさんを社会に誘う道標であり、みなさんを生涯にわたって勇気づけ、励ます、力強い知的基盤となるのです。

みなさんの眼前には、無限大の夢と希望が満ち溢れています。しかし内外の環境は急速劇的に変化しており、それらに適時適切な対応をしつつ、世界に飛翔するためには、国際的通用性を備え、先見性・創造性・独創性に富み、積極的に社会を支え、社会を改善する意欲・能力が肝要です。

「学び」は一瞬の夢ではありません。生涯続く険しい道のりです。高い志と気概を失うことなく、21世紀を生き抜くために、専修大学の学士課程で人生の礎を築いて下さい。

専修大学の学士課程教育の概念図



※この概念図の上下は時間軸を示すものではありません。

※学部学科によって設置される科目は異なります。

※専門教育課程については、第3章「専門教育課程の学び方」を参照して下さい。

2. 全学公開科目

(1) 全学公開科目とは

本学では、各学部・学科の教育方針に則して、多様な授業科目を開講している。このうち、「専門科目」は学部別に開講されているため、他学部で開講している専門科目に興味があっても、以前は履修することができなかった。

みなさんの多様な履修希望に応え、他学部で開講されている専門科目を卒業単位として履修できるよう、「学部間相互履修制度」が設けられた。この制度で履修できる科目が「全学公開科目」である。

(2) 公開される科目

各学部で開講する全ての専門科目が公開される訳ではない。どの科目を「全学公開科目」とするか、そして、何年次に配当するかは科目を開講している各学部で定める。

卒業するまでに、どんな科目が「全学公開科目」として履修できるかは、1年次のガイダンスおよびホームページで告知する。

(3) 講義内容

「全学公開科目」の講義内容を知りたい場合は、その科目を公開する学部の講義要項を閲覧する必要がある。各学部の講義要項はホームページで確認できる。

(4) 履修手続

「全学公開科目」は、公開している学部での履修に支障をきたさないよう、履修者数の制限を行うことがある。このため、履修を希望する学生は、その科目担当者の履修許可を得なければならないことになっている。

履修手続・選考等の詳細は、ガイダンスで告知する。

(5) 修得した単位の扱い

「全学公開科目」を履修して修得した単位は、卒業要件単位のうち自由選択修得要件単位として認定される。各学科で卒業要件単位に認定される上限単位は下表のとおりとなる。

学 科	認 定 上 限 単 位
日 本 語 学 科	34 単位
日 本 文 学 文 化 学 科	28 単位
英 語 英 米 文 学 科	16 単位
哲 学 科	30 単位
歴 史 学 科	28 単位
環 境 地 理 学 科	24 単位
人 文 ・ ジ ャ ー ナ リ ズ ム 学 科	32 単位

3. 授業科目の種類

大学で履修する科目は、必ず修得しなければならない科目や多くの科目のなかから自分の学びたいものを自由に選択できる科目など、次のとおり3種類に分類できる。

必修科目……卒業までに必ず修得しなければならない科目（授業科目一覧では○印で示す）

選択必修科目……決められた科目群の中から指定された方式で選択し、卒業までに必ず修得しなければならない科目（授業科目一覧では◎印で示す）

選択科目……適宜選択履修できる科目（授業科目一覧では△印で示す）

4. 単位制と履修年次指定制

1つの科目の授業を受け、試験に合格すると、その科目についての「単位」が与えられる。「単位」とは一定の質の勉強ないし学修の量を示す基準となるもので、大学で開講している各授業科目には、科目の種類や時間数によってそれぞれ単位数が定められている。大学において学修する場合、すべて単位数によって勉強の達成度が計算され、卒業の可否が決定される。これが単位制である。

また、一部の科目は指定された年次内に単位を修得しなければならない。これを履修年次指定制という。所定の年次で単位を修得することが、次の年次における配当科目を登録・履修し得る条件となっている場合もある。履修方法は学科によって幾分ちがいががあるので注意すること。

5. 単位の考え方と算定基準

大学の授業は、講義、演習、実験、実習、実技などによって行われる。そして、単位とは、授業の受講に加え、事前の準備や事後の展開という学修の課程に要する時間を加味したもので、学修の量を数字で表した学修成果の指標といえる。なお、単位数はそれぞれの科目により異なる。

大学設置基準において「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成すること」とされており、大学での2単位の講義科目であれば、授業を含めて90時間の学修が必要とされていることになる。毎週1時限の教室での授業が1学期行われて30時間分の学修をしたものとみなしている。したがって、2単位科目の場合、残りの60時間分を教室外で学修しなければならない。漫然と授業を受けるだけでなく、事前の準備や事後の展開にも力を入れるように心がけてほしい。

みなさんは、まずこの単位制度を充分理解して、学期や学年ごとに配当されている授業科目を計画的に、かつコンスタントに修得していく努力が求められる。

Ⅱ 大学卒業の要件と科目の履修

1. 大学卒業の要件

大学を卒業するためには、(1)4年以上（休学の期間を除いて8年以内）在学すること、(2)所定の科目の単位を修得すること、の2要件が必要である。卒業要件を充たした者は、学位記が授与され、学士（文学）の学位が与えられる。

卒業までに最低限修得しなければならない単位を**卒業要件単位**という。「大学設置基準」にその一般的最低基準が示されており、大学の決めた卒業要件単位を修得しなければその大学を卒業することはできない。

本学における文学部の卒業要件単位は、各学科とも下記のとおりであるが、内訳条件については第2章「転換・導入教育課程と教養教育課程の学び方」および第3章「専門教育課程の学び方」の各学科、コースの条件を参照のこと。

卒業要件単位

区 分		日 本 語 学 科	日本文学 文化学科	英語英米文学科		哲 学 科	歴史学科	環境地理 学 科	人 文 ・ ジャーナリ ズム学科
				英語コミュ ニケーション	英語文化				
転換・導入 教育課程	専修大学 入門科目	2	2	2	2	2	2	2	2
	専修大学 基礎科目	11	9	7	7	11	11	11	9
教養教育 課 程	教養科目	9	9	9	9	9	9	9	9
専門科目	必修科目	22	20	40	32	24	20	24	20
	選択必修 科 目	—	—	44	40	20	12	24	36
	選択科目	46	56	0	0	28	42	30	16
自由選択修得要件単位		34	28	22	34	30	28	24	32
卒業要件単位合計		124	124	124	124	124	124	124	124

2. 履修計画の立て方

みなさんは、それぞれの個性と志向に応じて、4年間の大学生活全体の大枠を考えたその上で、各年度の具体的な履修計画を立てなくてはならない。

もちろん大学生活全体の大枠を考えるとと言っても、入学当初から上級年次の選択科目のどれとどれを履修するかというようなことは決めておくことはできない。学修の段階が進むにしたがって何を選択すべきかという判断もできるようになるからである。しかし、各年次でどのくらいずつ単位を修得していったらよいかはあらかじめ考えておく必要がある。この際下級年次で比較的多く、上級年次で少なくなるよう計画するのが賢明である。とくに4年次には卒業論文・卒業研究に取り組み、就職活動をしったりしなくてはならないので、あまり卒業要件単位を残しておかないほうがよい。このように計画することによって上級年次になってから、余裕をもって広い範囲から選択科目を選び、また自主的な学修を深くすすめることができるようになる。

科目の選択に際して、転換・導入教育課程と教養教育課程については、第2章の「転換・導入教育課程と教養教育課程の学び方」をよく読み、また、専門科目については、学科・コースによって異なるので、第3章の「専門教育課程の学び方」をよく読んで研究する必要がある。

それでは、履修計画を立てる際の注意事項を次にあげておく。

- ① 年度はじめに行われる履修ガイダンスに出席し、シラバスを活用して各自の履修計画を考える。
- ② 科目の年次配当を十分考慮し、後に悔いを残さないようにする。
(原則として配当年次以外の履修は認められていない。)
- ③ 各年次ごとに相応の単位を修得するようにする。
- ④ 必修科目、選択必修科目の単位は必ず指定された年次に修得するようにする。
- ⑤ 卒業要件単位は、必要な最低修得単位であるから実際にはこれを上回る単位数を計上して計画をたてる。

3. 履修上限単位数

文学部では、履修できる上限の単位数が定められており、各年次一律に48単位が上限となる。海外語学短期研修及び資格課程科目については、年間履修上限単位数には含めない。また、履修上限単位数には、再履修科目も含める。

4. 科目の再履修

配当年次が指定された科目の単位は配当された年次で必ず修得しなければならない。万一やむを得ない理由で必修科目および選択必修科目の単位を修得できなかった場合には、原則として次の年次にそれらの科目を再履修することになる。もちろん、次の年次に進級すると、その年次に配当さ

れている必修科目や選択必修科目があり、それらと再履修科目が時間割の上で重複し、両方を同時に履修できない場合がある。もし、そのような場合は、まず**再履修科目を優先して履修しなければならない**。したがって必修科目や選択必修科目の再履修は極力さけるように努力しなければならない。ただし、この原則は選択科目にはあてはまらず、もちろん、自らの判断で再履修しても良い。不明な点は、各学科のカリキュラム委員の教員もしくは教務課の窓口に問い合わせること。

Ⅲ 科目の履修登録

科目の履修登録は、各自が考えた履修計画に基づいてその年度の授業科目の単位を修得する意志を表示する手段である。各自、学修ガイドブックおよび年度はじめに行う履修ガイダンスに従って、その年度に履修する科目を選択し、定められた期日までに登録しなければならない。これを本学では履修登録と呼んでいる。履修登録に際しての注意事項を次にあげておくので厳守し、誤りのないように手続きして欲しい。

- ① 所定の期日までに履修登録を行わなかった場合、その年度の授業科目の履修は認められず、単位は修得できない。
- ② 各年次の時間割の配付および履修登録手続きに関する説明は、ガイダンス時に行う。ガイダンスでは、各種登録、重要事項の指示等を行うので必ず出席すること。
- ③ スポーツ演習系および書道の科目を受講する者は、受講人員に制限があるので、登録前に希望する科目の選択カードを受け取っておかなければならない。選択カードの交付日時、場所、方法等については、掲示またはガイダンスで知らせる。
また、その他の科目でも、初回授業時に選抜（抽選）や履修制限を行う場合もあるので、必ずガイダンスで説明を受け、履修を希望する科目の初回授業に出席すること。
- ④ 登録後の科目の変更は原則として認めないので十分検討して登録する。
- ⑤ ゼミナールは原則として、履修する前の年の10～11月頃、テーマ、募集人員、選考方法などについてのガイダンスがあり、選考のうえ、各ゼミナールの履修者が内定されるので掲示に注意する。
- ⑥ 同一曜日・同一時限においては、1科目しか登録できない。ただし、前期科目、後期科目のように期間の異なるものは、この限りでない。
- ⑦ 前年度までに単位を修得した科目は、指定された科目を除いて再度履修することはできない。
- ⑧ 学年・学科・クラスが指定されている場合は、それに従って科目を履修しなければならない。
- ⑨ 同じ名称をもつ科目は、指定された特定の科目を除いて2つ以上は履修できない。
- ⑩ 必修科目は、指定された年次で必ず履修しなければならない。なお、当該年度に修得できなかった場合は、翌年度必ず再履修しなければならない。
- ⑪ 履修を継続する意思のない授業科目が生じた場合に、履修中止申請期間内に所定の申請手続きを行うことにより、当該授業科目の履修を中止することができる。（一部の科目を除く）

IV 試験と成績評価

試験は、日常の学修成果を問うものである。したがって試験には、厳正な態度で臨まなければならない。遅刻はもちろんのこと、自己の健康管理を怠り欠席することのないよう注意しなければならない。

定期試験は、定期試験規程（p. 214を参照）に基づいて実施されるので、規程を熟知し、さらに次の事項についても十分理解しておかなければならない。 ※実施の時期は変更することがある。

1. 試験の種類

(1) 前期試験

前期のみの半期授業科目について7月から8月の間に実施する。

(2) 後期試験

後期のみの半期授業科目および通年の授業科目について1月から2月の間に実施する。

(3) 追試験

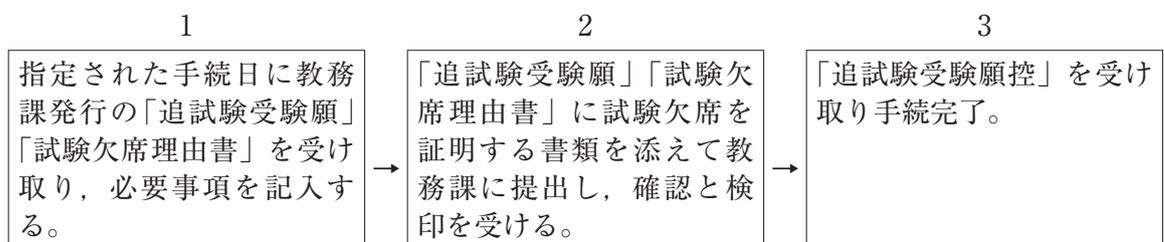
前期試験または後期試験をやむを得ない理由で受験できなかった場合、当該授業科目について前期追試験を8月、後期追試験を2月から3月の間に実施する。

なお、本学では、「やむを得ない理由」が拡大解釈されることのないよう、厳しい基準を設けている。医師の診察を要しない程度の病気や寝坊による遅刻等は、「やむを得ない理由」とは見なされないので注意すること。

① 追試験受験手続

追試験の受験希望者は、指定された期間に追試験受験願と、試験欠席理由を証明する書類を教務課文学部に提出し、受験許可を得なければならない。

◎追試験受験手続きの手順



② やむを得ないと認める試験欠席理由および提出しなければならない書類は、次のとおりである。

- ・教育実習 教育実習参加を証明するもの
- ・就職試験 就職試験受験を証明するもの

・ 公式試合	公式試合参加を証明するもの
・ 天災その他の災害	被災を証明するもの
・ 二親等以内の危篤又は死亡	危篤又は死亡を証明するもの
・ 本人の病気又は怪我	医師の診断書
・ 交通機関の事故	遅延又は事故を証明するもの
・ その他当該学部長がやむを得ない理由と認めた事項	学部長の承認を得た本人記載の理由書

2. 受験上の注意, その他

(1) 受験について

受験上の注意については、定期試験規程にも定められているが、さらに次の点にも十分注意を払う必要がある。

- ① 同じ名称の授業科目がいくつも開講されている場合があるので、自分の履修した科目の授業曜日・時限および担当者を試験時間割で確認し、間違いのないようにすること。
- ② 同一科目でも、試験場が複数教室に分かれている場合が多いので十分注意すること。
- ③ 試験監督から配布された答案用紙以外の用紙を使用しないこと。
- ④ 答案用紙の再交付は行わない。
- ⑤ 試験場内での私語は、不正行為と見なされるので絶対にしないこと。

また、廊下等での私語は、受験中の学生の迷惑となるので慎むこと。

(2) 定期試験時間割

定期試験時間は、授業時間とは異なり、原則として60分である。定期試験時間割は、試験実施前に文学部掲示板に掲示する。ただし、資格課程科目の試験時間割は、試験実施前に教務課資格課程掲示板に掲示する。

【注意】

学生証不携帯者は、いかなる理由があっても受験できない。

ただし、当該試験開始時刻までに教務課窓口申し出た場合は、当日のみ有効の「臨時学生証」の交付（有料）を受けて受験することができる。試験開始時刻前に試験場で学生証不携帯に気づいた場合は、所定の手続をすることにより臨時学生証の交付を認めることがある。

試験当日は、不測の事態に備えて試験開始30分前には登校し、学生証の携帯と試験場を必ず確認すること。

なお、遅刻をした場合に受験が認められるのは、試験開始後20分までに試験場に到着した場合である。

3. 定期試験規程に定められた筆記試験によらない成績評価

科目によっては、平常点で成績評価が行われるため、前期試験、後期試験は実施されず、したがって追試験も実施されないものがある。

平常点で評価される科目の場合、各科目の授業期間を通しての、授業への貢献度や授業での発表内容、レポート、授業の中で実施されるテスト等（注1）によって総合的に成績評価が行われる。

注1）授業の中で実施されるテストは、期末テスト、授業内テスト、中間テスト、小テスト等と呼ばれ、定期試験規程に定められた試験ではないため、追試験は実施されない。

ただし、これらのテストのうち、授業期間の最終週に実施されるものの中には、授業科目担当教員の判断によって、定期試験規程を準用して実施する場合もあり、その授業科目については、追試験が実施される（追試験を受験するためには、前述の追試験受験手続きをとり、受験許可を得ることが必要になる）。

4. 卒業論文・卒業研究

① 卒業論文

卒業論文は、文学部（英語英米文学科を除く）では必修科目になっている。卒業論文は4年次で提出し、その審査に合格しなければならない。卒業論文は、専門的かつ自主的な研究の中核であり、指導教員の指導を受け、その指導による学修の成果として提出するものである。

(1) 論文提出

12月中旬（提出締切日はかなりの期間をおいて事前に日・時・場所などを掲示で発表するので厳守すること。）

(2) 論文の規格

学科ごとに規格・様式等が定められているので、詳細については学科の指示に従うこと。

(3) 提出時に携行すべきもの

学生証、卒業論文題目届（題目届、論文の題目及び中表紙は完全に一致していることが必要である。）

(4) 口述試験

1月中旬～1月下旬（事前に文学部掲示板にて発表）

欠席すると単位は与えられない。この期間はスケジュールを空けておくこと。

② 卒業研究

英語英米文学科の学生は4年次に卒業研究を履修し、提出しなくてはならない。卒業研究は、指導教員のもと、各自の4年間の学修・研究の成果をまとめるものであり、それぞれの成果にふさわしい形式を選択することが出来る。詳しくはp. 110の「(d) ゼミナールおよび卒業研究」を参照してほしい。

5. 成績評価と通知

(1) 成績評価の方法について

学業成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、口述試験、実技試験またはレポート）によって評価されるが、科目によっては、それに学修の状況等を平常点として加味し評価する場合や、平常点だけで評価する場合もある。

成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格とする。また、授業科目ごとの成績に対してグレードポイント（G P）を付与し、G P A（Grade Point Average）を算出する。

(2) 成績評価の区分

評点	評価	G P*	内容
100～90	S	4.0	抜群に優れた成績
89～85	A+	3.5	特に優れた成績
84～80	A	3.0	優れた成績
79～75	B+	2.5	良好な水準に達していると認められる成績
74～70	B	2.0	妥当と認められる成績
69～65	C+	1.5	一応の水準に達していると認められる成績
64～60	C	1.0	合格と認められるが最低限度の成績
59～0	F	0.0	不合格
認定	N	なし	留学等で修得した単位を本学の単位として認定。GPAに算入しない。
履修中止	W	—	所定の期日までに履修中止の手続きを行った場合。GPAに算入しない。

※ G P = グレードポイント

(3) G P A（Grade Point Average）制度について

G P A制度は、国内外の大学で一般的な成績評価方法として使用されているもので、授業科目ごとの成績評価（本学ではSからFの8段階）に対してグレードポイント（G P）を付与し、この単位当たりの平均を算出した値がG P Aである。具体的な算出方法は次のとおり。

$$(Sの修得単位数 \times 4.0) + (A+の修得単位数 \times 3.5) + (Aの修得単位数 \times 3.0) + (B+の修得単位数 \times 2.5) + (Bの修得単位数 \times 2.0) + (C+の修得単位数 \times 1.5) + (Cの修得単位数 \times 1.0) + (Fの単位数 \times 0.0)$$

総履修単位数（F評価の授業科目の単位数を含む）

【G P Aに関する各種要件】

- ・ G P Aの算出対象となる科目は、卒業要件にかかわる科目（全学公開科目など、自由選択修得要件単位となる科目を含む）とする。
- ・ 留学等で単位認定された科目（N）は、G P Aに算入されない。また、履修中止した科目についても、G P Aに算入されない。

- ・ 不合格（F）の科目を再度履修した場合，成績の合否にかかわらず，G P Aには最新の評価が反映される。
- ・ G P Aは，小数点第3位を四捨五入し，小数点第2位まで表示とする。
- ・ 一度単位を修得した科目を，次学期以降に再度履修することはできない。

(4) 履修中止について

「履修中止」とは，履修を継続する意思のない授業科目が生じた場合に，履修中止申請期間に所定の手続きを行うことにより，当該授業科目の履修を中止することができる制度である。履修中止申請期間は，前期（対象科目：前期および通年科目）と後期（対象科目：後期科目）にそれぞれ設定される。日程，手続方法，その他詳細については，掲示で確認すること。

なお，履修中止申請をする際には，以下の点に注意すること。

- ①履修中止した授業科目については，当該授業への出席，定期試験の受験，単位の修得はできない。
- ②履修中止した授業科目の単位は，年間の履修上限単位に含まれる。また，履修中止単位数分の新たな履修登録は認めない。
- ③履修中止した授業科目は，G P Aに算入されない。
- ④履修中止により，当該年度の履修登録科目がなくなる場合は，履修中止申請が認められない。
- ⑤履修中止申請した授業科目について，履修中止申請期間後に申請を取り下げることができない。

(5) 成績通知について

学業成績の結果は点数で表し，9月（前期科目）および3月に「成績通知書」にて通知する。成績通知書は，大学のホームページを経由して閲覧することができる。

なお，就職活動等で使用することになる「単位修得学業成績証明書」には，修得した授業科目のみをSからCの評価で記載する。併せて，通算のG P Aを記載する（G P Aには不合格科目も算入される）。

※資格試験，留学などの結果により単位を認定する科目もある。この場合，認定される科目の評価は，点数などで表さず，すべて「認定」と記載する。

V 卒 業

1. 卒業見込証明書の発行

4年次は多くの学生にとって忙しい1年になる。卒業論文や卒業研究などで大学生活の総まとめをすると同時に、将来を考えて就職活動にも時間をさかなければならなくなるからである。就職活動に際し必要となる書類の1つに**卒業見込証明書**がある。これは、各自が3年次までに修得すべき最低限の単位をすでに修得し、4年次の年度末には卒業する見込みであることを証明する書類である。企業は、採用の適否を判断する資料の1つとしてしばしば卒業見込証明書の提出を要求するので、3年次までにしかるべき卒業要件単位を修得し、大学からこの証明書を交付してもらい、それを企業などに提出しなければならない。以下に表示する卒業見込証明書の発行条件を念頭におき、万全を期して履修計画を立て、勉学に精進してほしい。

卒業見込証明書の発行条件

発 行 年 次	発 行 条 件
4 年 次	3年次終了時に卒業要件単位を90単位以上修得していること。

2. 卒業発表

- (1) 卒業が決定した学生については、2月下旬に第1次卒業決定者として掲示にて発表する。
- (2) 2月下旬に行われる追試験の結果、卒業が決定した学生については、3月中旬に第2次卒業決定者として、郵送にて発表する。
- (3) 卒業の可否は、必ず本人が登校し、掲示を確認すること。電話での問い合わせには一切応じない。

第2章

転換・導入教育課程と教養教育課程の学び方

- I 転換教育課程（専修大学入門科目）
- II 導入教育課程（専修大学基礎科目）
- III 教養教育課程（教養科目）
- IV 外国人留学生の特例履修科目

I 転換教育課程（専修大学入門科目）

大学における学修では、高校までとは異なり、授業に出席して講義を聴くことや教科書や参考文献など基礎文献を読むことに加え、みなさんが、自らの問題関心や勉学の目的に沿って、自主的に勉強に取り組まなければなりません。そのためには、図書館を利用し、パソコンを駆使するなどして、勉学に必要な資料を収集すること、専攻によっては実態調査などのフィールドワークを行うこと、そして自ら学んだ内容をまとめて教員や他の学生に報告すること、その成果を論文やレポートにまとめることなど、みなさんの積極的な勉学が求められます。

「転換教育課程」は専修大学の学士課程教育の三層構造の一層目にあたります。この課程で展開される専修大学入門科目として「専修大学入門ゼミナール」が設置されています。

この科目は、みなさんが、高校生活から大学生活への転換を図り、専修大学の学生としての自覚を持ち、大学での学修に求められる基本的なスキル（技法）を身につけることが目標であり、具体的な目的として、以下の点をあげることができます。

第1に、大学で学ぶことの意味を充分理解することです。大学の学修では、みなさんが、将来的な展望も踏まえ、積極的に学修を深めることが求められます。

第2に、専修大学の学生としての自覚を持つために、専修大学の歴史を学ぶことです。みなさんが、これから4年間勉学に励む「学びの庭」である専修大学の成り立ちと歴史を支えた先人たちの努力の歩みを知ることが、専修大学で学修することの意義を理解することでもあります。

第3に、大学で学ぶための基本的な技法（「アカデミックスキル」という）を修得することです。すなわち「講義をどのように聞くか」「どのように資料を収集するか」「学修の成果をどのように相手に伝えるか」「どのように討論するか」「学修の成果をどのようにまとめるか」について学ぶこと、より具体的には「講義でのノートのとおり方」「資料の収集方法」「報告の方法（レジュメの作成方法）」「討論の方法」「論文・レポートの書き方」など、大学における学修の方法を修得することです。

「専修大学入門ゼミナール」は、みなさんが、これらの目的を達成できるよう、学部・学科により人数は異なりますが、おおよそ1クラス25名前後の少人数により実施されます。

また、「専修大学入門ゼミナール」は、学修のための入門科目ということだけにとどまらず、みなさんが、新入生として専修大学という同じ「学びの庭」に集った友人や教員との交流を通じて、大いに語り、励まし合いながら、大学生活を満喫するための基礎作りの場ともなります。

なお、この科目は全学科に配置されている必修科目です。

Ⅱ 導入教育課程（専修大学基礎科目）

「導入教育課程」は専修大学の学士課程教育の三層構造の二層目にあたり、そこに設置されている科目は「専修大学基礎科目」と称されます。一層目の「転換教育課程」で学びつつ、あるいは学んだのち、三層目の「教養教育課程」と「専門教育課程」に進むための基本的な力を養います。基礎ですから1年次に履修することになります。

「専門入門ゼミナール」は、「転換教育課程」の科目「専修大学入門ゼミナール」に引き続いて履修し、所属する学部・学科の「専門教育課程」への導入としての役割を持ちます。また、この科目によって、みなさんが「専修大学入門ゼミナール」で学んだアカデミックスキルを定着させます。

「導入教育課程」で設置されている科目を学ぶことで、みなさんは大学で学ぶだけでなく、社会で必要とされるさまざまな力を伸ばすことができます。それらの力とは、外国語を運用する力（外国語基礎科目）、情報を分析し活用する力（基礎統計学、情報リテラシー関連科目）、複合的な視点で観察し思考する力（基礎自然科学）、自分の将来を切り開いていく力（キャリア教育関連科目）、自分の健康を維持管理する力（スポーツリテラシー）です。これらの力は、国際化・情報化・複雑化が進む社会において、みなさんが活躍するために必要な社会知性を身につけるために、役立つことでしょう。

区 分		科 目	
導入教育課程	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール	
	基礎統計学	データ分析入門	
	キャリア教育関連科目	キャリア入門	
	情報リテラシー関連科目	情報入門Ⅰ，情報入門Ⅱ	
	基礎自然科学	あなたと自然科学	
	外国語基礎科目	英語	Basics of English, Intermediate English
		英語以外の外国語	ドイツ語初級，フランス語初級， 中国語初級，スペイン語初級， ロシア語初級，インドネシア語初級， コリア語初級
	スポーツリテラシー	スポーツリテラシー	

【専門入門ゼミナール】

専門入門ゼミナールは2年次以降学ぶ専門科目への導入的な役割を担っています。それぞれの学科で専門的に学ぶ学問には特有の考え方や研究の仕方があります。どのように文献を読み、どのように分析し、どのように研究したことを形にするかという一連の研究方法の基礎を学んでいきます。

この科目は、日本語学科、英語英米文学科、哲学科、歴史学科、環境地理学科に設置されている必修科目です。

[基礎統計学]

大学の講義では分野によらず、データを根拠として推論された結果が語られることが多くあります。そして、社会ではさまざまな意思決定にデータの分析結果が用いられます。みなさんも、新聞やテレビの報道などでさまざまな調査データについての分析結果を、見たり聞いたりすることがあるでしょう。犯罪の件数、内閣の支持率、ある病気による死亡率、企業の売上高、さらにそれらの経年変化など、多くの調査結果が報道で取り上げられます。データによって示される結果は、私たちと身近なところで関係があることから、一見すると関係がないとも思えることまであります。たとえば、読んで味わう文学作品でさえ、作品中の表現の頻度や表現の間の関係をもとに数量的に分析されることがあります。

発表されたデータに基づく指標や表・グラフを見聞きして驚くことがあるかもしれません。もし発表が自分の感覚とずれている場合、自分が持っている指標のイメージが実は間違っていたり、そもそも発表する側が間違っただけの印象を与える指標や表・グラフを（時には故意に）用いていたっている可能性があります。

したがって、データが示すことを正しく読み取る力を身につけておかななくてはなりません。他者が発表した分析結果を批判的に評価する力も重要です。さらに、自分がデータに基づいた報告を行う立場になったときに、相手にその内容を効果的に伝える表・グラフを作成することができれば、報告書やプレゼンテーションはより良いものになるでしょう。このようにデータを扱う基本的な力をデータリテラシーと呼びます。「基礎統計学」という区分に設置された科目「データ分析入門」では、データリテラシーを身につけることを目的としています。

[キャリア教育関連科目]

キャリア教育関連科目は、「大学生活において、様々な選択肢の中から自分の生き方を主体的に考え行動する力を身につけること」を目的としています。大学生活をどのように送るか、卒業後の進路をどのように選択するかといったことは誰も簡単に決めることはできません。これを解決するには、将来どのような働き方をしたいか、そのために大学4年間をいかに過ごすかなど、自分のキャリアについてさまざまな視点から検討し、デザインすることが必要です。

そもそも、「キャリア (career)」の語源はラテン語で、「車道」や「車輪の跡 (轍)」などを意味しています。ですから、ある人のキャリアとは、その人が歩んできた人生の軌跡ということになります。こうした語源から、キャリアは「個人の様々な立場・役割・職務の連鎖」と一般に定義されています。一方、「デザイン」は、「設計」とか「構想」を指します。したがって、キャリアをデザインするとは、「自分の立場や役割を認識し、それにふさわしい己の有り様について構想を練る」ということになります。言い換えれば、過去の人生を踏まえながら、未来の自分の生き方、働き方や学び方について深く考え、そのために現在自分は何をすべきかを認識すること、となります。

1年次にキャリアデザインに対する基本的な考え方を身につけることで、将来に対する漠然とした不安感を取り除き、自分の将来像や課題をより具体的にしていきます。そしてそれを解決・実現

するために自分が身につけるべき能力を明確にし、充実した学生生活に向けた具体的な第一歩を踏み出すこともこの科目のねらいのひとつです。

キャリア教育関連科目に設置される「キャリア入門」は、自分の性格や価値観を知ることから始め、社会の成り立ちや具体的な仕事の内容、働くことにまつわる法律などを知ること、さらには自分の目標を実現するためにはどのような能力が必要かなどについて理解することが、主な目的となります。そして、「キャリア入門」を履修すると、キャリアに関わる意識や能力がどの程度身についたか認識できるようになります。したがって、その後の学生生活において、どのように専門知識を学んでいけばいいかといった「大学内での学修」と、ボランティアやインターンシップなど実際の経験を積み重ねる「大学外での学修」を総合的に見るできるようになります。

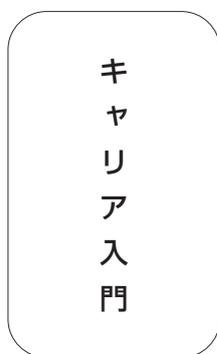
授業では一方的に話を聴くのではなく、自分の言葉で語る機会を大切にしています。授業で学んだ知識をグループワークなどで表現し、先生や仲間、大学外からのゲストスピーカーから意見をもらうことで、自分の考えを客観的に見つけ、少しずつキャリアに関する視点を身につけていくことができます。さらにキャリアデザインセンターの各種講座は、授業で取り扱ったことについて発展的に学習できるよう、授業の進捗に合わせて展開しています。これに加え、授業期間中にキャリアカウンセリングを受けると、よりいっそう自分に適したキャリアを見つけられるでしょう。

このようにキャリア入門を受講すると、大学内外での学びを意識しながら、キャリアに対する知識を獲得し、職業選択の段階へとスムーズに移行することが可能になります。なお、キャリア入門での学修内容は、教養教育課程の融合領域科目などで開講されるキャリア関連科目に発展的に継承されていきます。あるべき自分を早い段階で意識し、己の進むべき道を主体的に選択できるよう、キャリアの考え方をしっかり修得してください。

なお、「キャリア入門」は、単位の修得は義務づけられていませんが、必ず履修しなければならない「必履修」科目です。単位を修得できなかった場合でも、次年度に履修することはできません。

導入教育課程
(専修大学基礎科目)
キャリア教育関連科目

教養教育課程
融合領域科目
など



- 産業・企業への理解を深め、進路(業種、職種)選択の能力修得を目指す
- 企業が抱える問題を解決することを通し、主体的にキャリア形成できる能力を身につける

【情報リテラシー関連科目】

大学での学修は、単に知識を覚えるのではなく、なぜそうなるのかを自分で考えることが必要です。そのためには、自分でデータを分析し、表現することが必要になります。そのため情報リテラシー関連科目は、PCを使って科学的・論理的な思考をするのに必要な基礎的な事項を学修します。

情報リテラシー関連科目に設置される「情報入門Ⅰ」、「情報入門Ⅱ」では、専修大学から利用できるさまざまな知的資源の検索・収集方法を学修し、表計算ソフトウェア等を使って情報を加工・分析します。また、統計データを実際にPCを使って分析します。分析結果などをプレゼンテーションやWebを通して表現する能力を身につけます。また、コンピュータ処理の特徴を理解し、どのようにコンピュータに指示を与えるのかを学修します。詳しくは、[専修大学 情報入門](#)で検索してください。テキストなどを参照できます。

なお、「情報入門Ⅰ」、「情報入門Ⅱ」は選択科目です。単位を修得できなかった場合でも、次年度に履修することはできません。

情報入門Ⅰ

- 専修大学の情報システムの利用法
- 検索サイトやCiNiiなどのデータベースを使ったデータ検索
- 文書作成
- 表計算
 - データ分析
 - 計算式によるデータ分析
 - グラフによる可視化
 - 絶対参照・相対参照の概念
 - 統計資料を使った分析

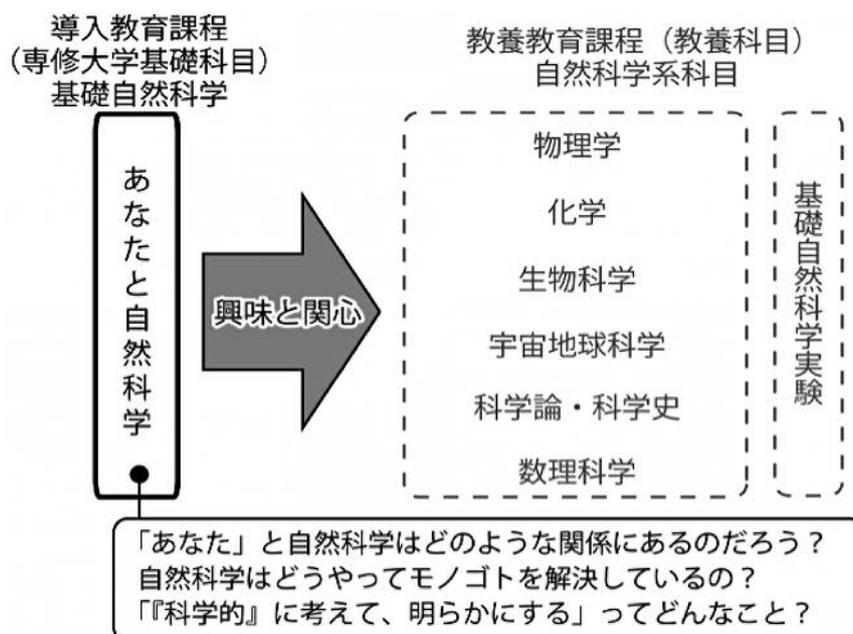
情報入門Ⅱ

- プレゼンテーションソフトウェアによるスライド作成・表現法の学修
- 表計算ソフトウェアを使った高度な処理
- HTML文を記述することによるWeb（ホームページ）の作成
- アンケート集計（クロス集計など）
- プログラミング（どのようにコンピュータへ処理方法の指示を与えるか）
- シミュレーション

【基礎自然科学】

専修大学における自然科学系科目の講義は、みなさんが『社会の抱える諸問題に対する総合的な科学的思考力を育むことができるようになること』を目的としています。なぜ文科系の学部を専攻するみなさんが、自然科学系科目を受講する必要があるのでしょうか。

現在、私たちは、地球温暖化、エネルギー問題、安全性や倫理性に関する問題（遺伝子操作、放射能など）に直面しています。みなさんが、将来どのような職業に就いたとしても、自然科学的な考え方や知識、結論の根拠を自分で判断する力や科学的に論述する力は必要になるでしょう。「基礎自然科学」で展開される科目である「あなたと自然科学」は、みなさんの自然科学的な思考力・探究力・論述力を高め、みなさんと自然科学の関係を知るための導入として設置されます。ここで学んだことは、卒業までに学んでいく教養教育課程の自然科学系科目につながっていきます。この科目で興味・関心を深め、教養教育課程で学びたい自然科学の分野を見つけるのが良いでしょう。



[外国語基礎科目・英語]

みなさんの中には、これまで大学入学を目標に英語を学んできたという人も多くいるでしょう。しかしこれからは、日本を含めた世界を意識して、英語の学修に取り組んでください。急速なグローバル化の時代、みなさんが将来どの分野に進もうとも、コミュニケーションの手段として、また情報収集、発信の手段として、英語は不可欠です。実用的な面のみならず、異文化への関心や理解を深め、人間としての視野を広げることも大変重要です。

外国語基礎科目の英語では、高等学校までで学んできた英語を土台としつつ、新たに大学生として英語や英語を取り巻く社会状況を理解し、学修することを目指します。そこでの学修は、2年次以降に開講される教養教育課程の外国語系科目へとつながっていきます。

(1) 外国語基礎科目・英語の履修方法

文学部では、1年次で、外国語基礎科目の英語4科目（4単位）を必修として履修することとなっています（英語英米文学科は除く）。

(A群) Basics of English (RL) 1a, 1b または Intermediate English (RL) 1a, 1b の2科目と、

(B群) Basics of English (SW) 1a, 1b または Intermediate English (SW) 1a, 1b の2科目を履修します。RLはリーディングとリスニングが中心、SWはスピーキングとライティングが中心の科目です。BasicsとIntermediateの違いについては、次の(2)を見てください。

科目名にaがつく科目は前期、bがつく科目は後期開講で、これらの科目は半期1単位で半期ごとにそれぞれの成績がつきます。

(2) 外国語基礎科目・英語の特徴

外国語基礎科目の英語は習熟度別クラスで学修します。入学時の「英語科目プレイスメントテスト

ト」(基礎学力テスト)によって、Basics of English と Intermediate English のどちらを履修するかが決定します。

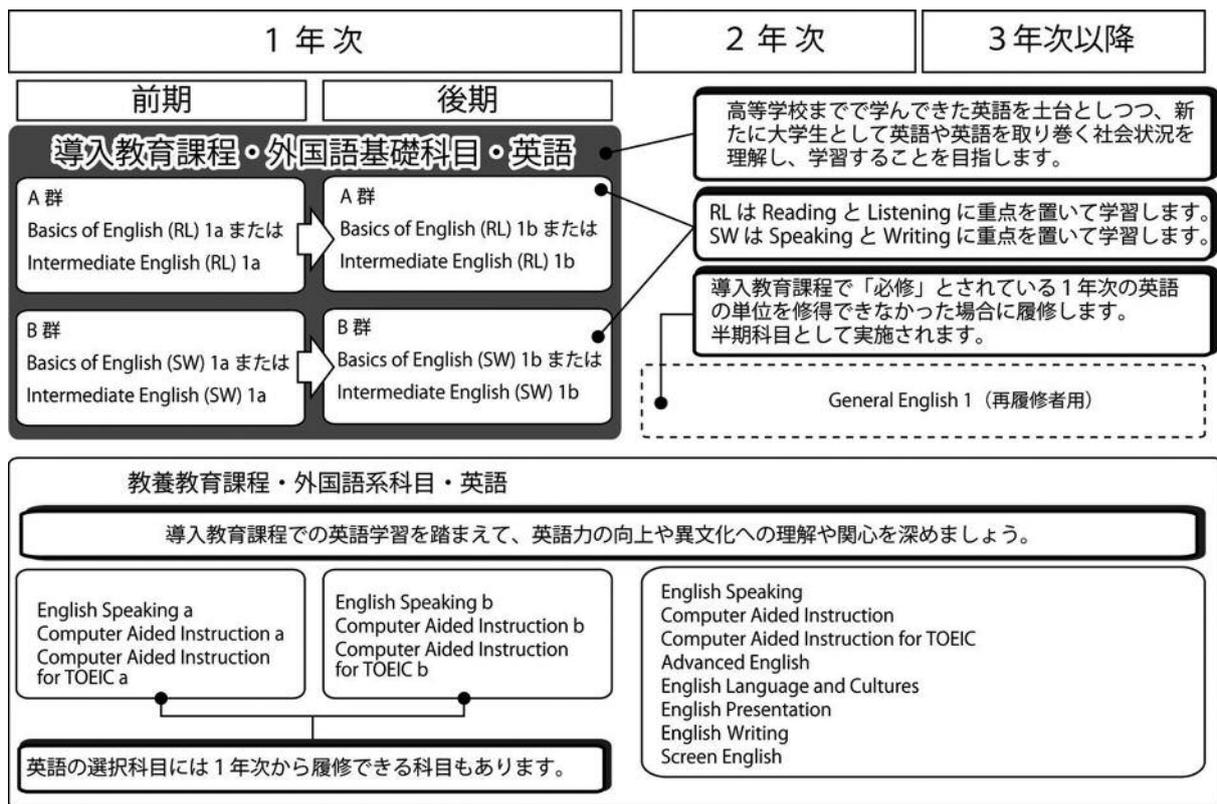
基礎的な学修が必要な場合は、Basics of English,

基礎が修得されている場合は、Intermediate English を履修します。

Intermediate English はさらに Mid と High にわかれています。特に希望すれば、英語科目プレイスメントテストによって指定されたクラスより1レベル上 (Basics of English → Intermediate English (Mid), Intermediate English (Mid) → Intermediate English (High)) のクラスの履修を許可される事もあります。

(3) 再履修について

導入教育課程の必修科目として開講されている1年次の英語の単位を修得できなかった場合には、2年次以降、再履修科目である General English 1 を履修して不足分の単位を修得しなければなりません。General English 1 は半期科目として実施されます。



1 年次から履修できる選択科目

教養教育課程に設置される外国語系科目では、みなさんのニーズにこたえられるよう幅広い選択科目を用意しています。1年次から選択できる英語の選択科目は次の3種類です。これらは2～4年次でも選択できます。選択科目で修得した単位は、自由選択修得要件単位として、卒業要件単位に含まれます。

English Speaking a

English Speaking b

ネイティブスピーカーの指導のもと、会話を中心にコミュニケーション力を養います。この科目は、a, bそれぞれ4単位まで履修することができます（英語英米文学科は除く）。

Computer Aided Instruction a

Computer Aided Instruction b

e-learning教材を使用し、基礎的な英語力を強化します。

Computer Aided Instruction for TOEIC a

Computer Aided Instruction for TOEIC b

e-learning教材を使用し、TOEIC[®]で600点以上のレベルの英語力獲得を目指します。

これらの科目は半期1単位です。

[外国語基礎科目・英語以外の外国語]

英語以外の外国語のキーワードは3つのC

Communication + Cultures + Connections

外国語を学ぶというのは、ことばそのものを修得すると同時に、その背景にある社会の考え方や文化（Cultures）に触れるということです。そこから、未知の人たちとのコミュニケーション（Communication）が始まります。新しいことばは、英語だけでは知ることのできない世界とつながる（Connections）、新鮮な窓口です。

外国語基礎科目に設置される英語以外の外国語では、これらの言語の基本となるコミュニケーション力・語学力を養うことを目的としています。

文学部では、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、コリア語が設置されています。

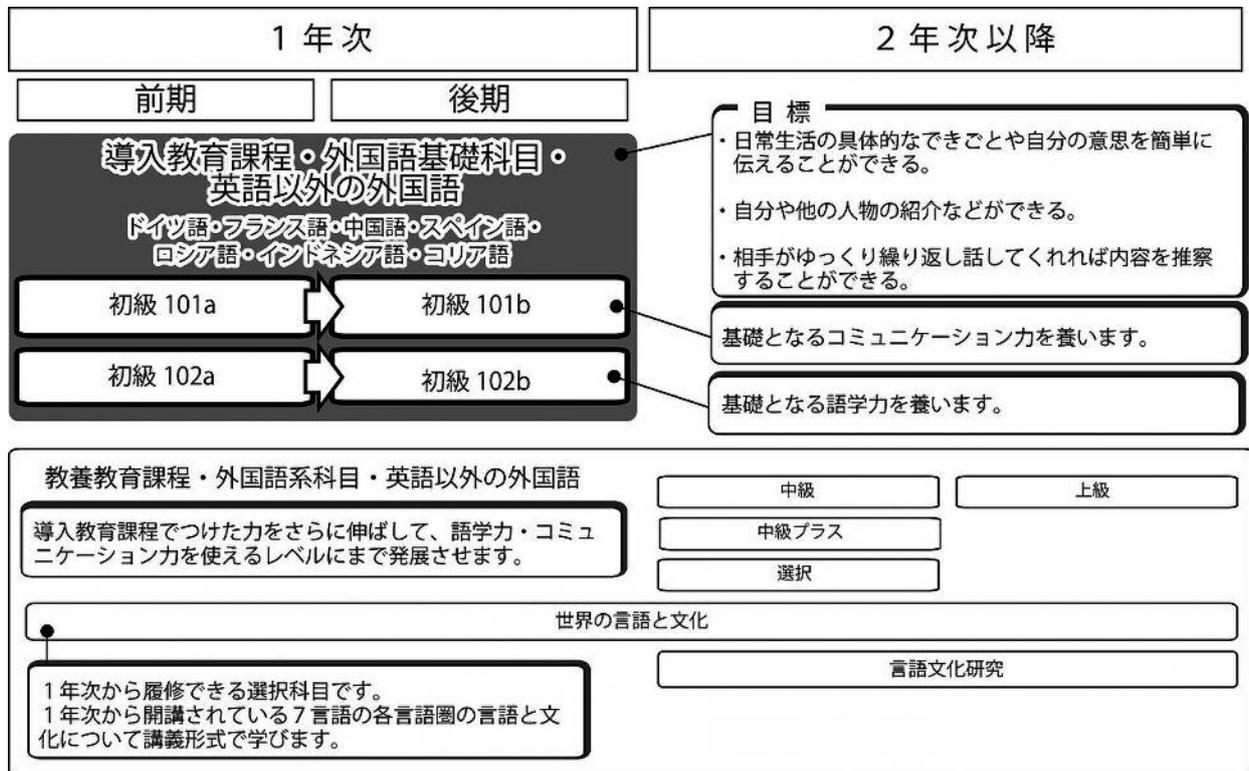
ここでの勉強は、2年次以降に開講されている教養教育課程の英語以外の外国語科目の学修へとつながっていきます。そこでは導入教育課程で学んだ言語の中級・上級レベルの学修のほか、第三外国語としてアラビア語、イタリア語を勉強することができます。また、あわせて「世界の言語と文化」、「言語文化研究」（ともに日本語による講義科目）を履修することで、さまざまな国や地域の社会とその背後にある文化を勉強できます。

(1) 外国語基礎科目・英語以外の外国語の履修方法

文学部では、1年次で、導入教育課程・外国語基礎科目の英語以外の外国語から、同一言語で4科目（4単位）を必修として履修することになっています。

選択した言語の初級 101a と 101b, 初級 102a と 102b のそれぞれ 2 科目を履修します。科目名に a がつく科目は前期, b がつく科目は後期開講で, これらの科目は半期 1 単位で半期ごとにそれぞれの成績がつきます。

教養教育課程での英語以外の外国語の履修方法は, 「Ⅲ 教養教育課程 (教養科目)」 (p.53) を参照してください。



1 年次から履修できる選択科目

教養教育課程に設置される外国語系科目の中には, みなさんのニーズにこたえられるよう幅広い選択科目を用意しています。1 年次から選択できる英語以外の外国語の選択科目は「世界の言語と文化」です。各国の言語の背景にある文化を広く学びます。

すでに英語以外の外国語を学んでいる場合

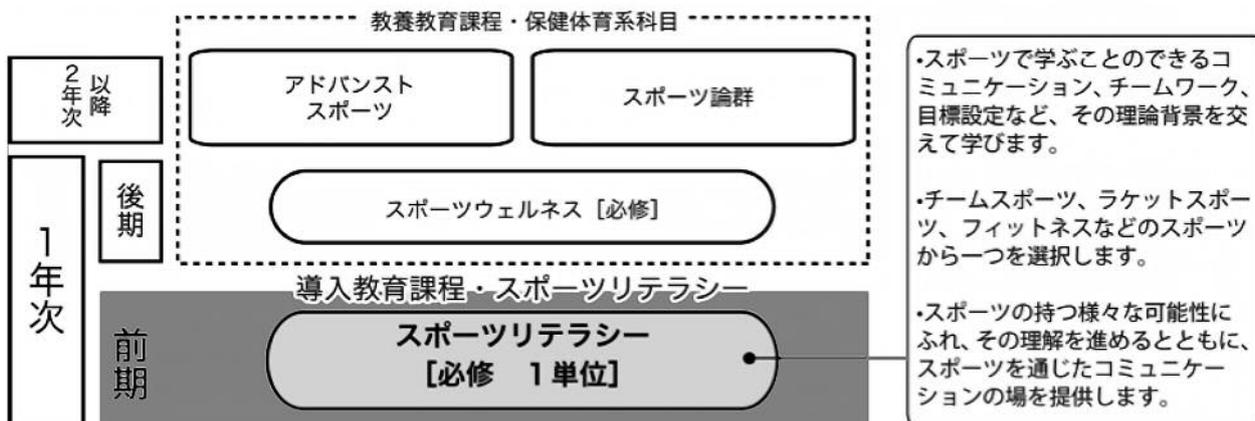
高校までに, すでに英語以外の外国語をある程度修得し, 指定された資格試験で一定の基準を満たしている場合, 入学年度当初に英語以外の外国語の初級 101 a ・ 101 b および初級 102 a ・ 102 b (4 科目 4 単位) の認定を行い, 中級の科目に進むことができます。資格試験の種類と基準, 申請方法については p.66 を参照し, 期日までに教務課窓口で手続きを行ってください。

[スポーツリテラシー]

「スポーツリテラシー」とは、「スポーツ実践を通じて、その過程における経験をスポーツ文化に関する知を活用しながら分析・鑑賞・評価し、スポーツによるコミュニケーションを創り出す能力」を言います。スポーツリテラシーでは、スポーツが有する様々な可能性に触れて身体知を養い、スポーツを通じた学士力の養成と心身の健康の維持増進に取り組みます。また、共に学ぶ仲間作りの場としてのスポーツを実践し、スポーツを媒介にして学生間の意思疎通能力を育みながら豊かな人間性や倫理観を養います。

「スポーツリテラシー」での取り組みは、教養教育課程の「スポーツウェルネス」や「アドバンストスポーツ」での実践的な身体活動や「スポーツ論群」で学ぶスポーツが有する多角的な価値の理解につながっていきます。

この科目は必修科目です。1年次に単位を修得できなかった場合、次年度以降、再履修しなければなりません。



スポーツリテラシー履修上の注意事項

疾病、身体虚弱および肢体不自由など、運動を制限されている場合は、教務課窓口もしくは第1回目の授業時に申し出て下さい。

個々の科目内容については、Web 講義要項を参照して下さい。

Ⅲ 教養教育課程（教養科目）

教養教育課程の位置づけと目的

「教養教育課程」は専修大学の学士課程教育の三層構造の一番上の層にあたります。そこで展開される科目は教養科目とよばれ、「専門教育課程」で展開される専門科目と併せて、一層目の「転換教育課程」、二層目の「導入教育課程」で身につけた基本的な力を用いて、さらに知識を広げ、それぞれの分野の理解をいっそう深めることを目的としています。また、専門教育課程で展開される科目を別の視点から捉えることができるようになることも大きな目的です。「教養教育課程」は専門教育課程とともに専修大学の学士課程教育の大きな柱となっています。

教養科目を学ぶ意義

現代社会には情報があふれ、ストレスも多くなっています。このような時代には、バランスの取れた人間性を涵養することがますます重要になってきます。文化や社会、身体や自然への知識と理解、またそこから得られる国際的な広い視点は、複雑な社会で生きるための基礎です。

教養科目の学び方

教養教育課程の科目のうち、人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は、1・2年次で履修します。自分の学部・学科の専門性を考慮して、履修することが望まれます。外国語系科目・自然科学系科目・保健体育系科目はWeb 講義要項（シラバス）の配当学部・配当年次に従って履修します。融合領域科目は、2・3・4年次で履修します。

各区分に設定された卒業要件単位を超えて修得した場合、上限はありますが、自由選択修得要件単位として卒業単位に算入されます。外国語系科目・自然科学系科目・保健体育系科目は導入教育課程において、入門的な内容や科目の大きな目標・目的を学んでいます。それらを基礎とし、さらなる学修によって、これらの分野をより深く理解することができます。

[人文科学基礎関連科目]

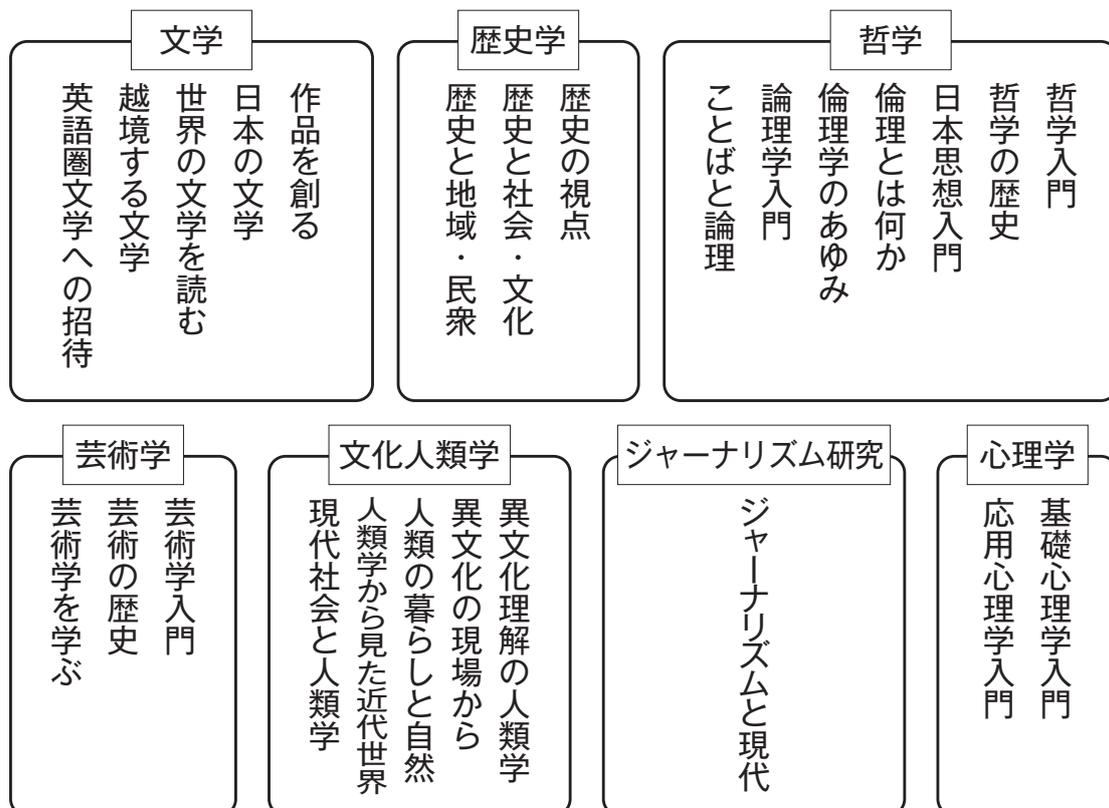
人文科学の領域にはさまざまな学問が含まれています。本学においては別表に示すように、大きい枠組みでは、文学・歴史学・哲学・心理学・人類学などに分かれています。これらの学問はさらに細かい分野に分けられているので、皆さんは多種多様な領域を持つ人文科学に驚くかもしれません。では、これらの学問分野はどうして人文科学としてひとくくりにまとめられるのでしょうか。それは、これらの学問がいずれも、人間の行い、これまで人間がやってきたことにかかわっているからです。

例えば、自然科学では、人間が住んでいる世界や環境を（宇宙から素粒子まで）さまざまなサイズで研究します。そして科学が人間を研究対象とする場合でも、それは、生物としての人間であり、

物質としての人間です。あるいは、社会科学においては、ひとまず人間を全体としてみて、その活動から出発して人間の本質について問いかけます。これに対し、人文科学は、具体的で個別的でもある人間のさまざまな営みを研究対象とし、そこから人間というものがどういう生き物であるのかを理解しようとする、そのような領域なのです。人間の営みはさまざまですから、それに応じて多種多様な学問が生まれます。また、このように言ったからといって、人文科学は自然科学や社会科学などの他の分野と無関係だと言っているわけではありません。むしろ、人文科学は、人間の行為を研究しながらも、自然科学や社会科学と思わぬ仕方で結びついており、そうした結びつきを知ることは、大学で学問をすることの醍醐味の一つでもあります。

本学で展開される人文科学の科目には、大学で初めて出合う科目もたくさんあります。また、すでに学んだことのある分野でも、大学での講義が予想とはまったく違って驚くことがあるかもしれません。私たちは人文科学の領域からは複数の科目を履修してみることを勧めています。そうすることによって、人間の営みの違った側面を知り、違った観点をもつことができるはずです。ここに人文科学領域の、単なる知識にはとどまらない最大の面白さがあり、これらの科目を学ぶ目的があります。

人文科学の学問領域と人文科学基礎関連科目の設置科目



[社会科学基礎関連科目]

社会科学基礎関連科目を学ぶ意義と目的

人びとは何らかの社会的な組織や集団（企業、国家、家族、地域など）の一員として生きています。何気ないふるまいや考え抜いた選択も、自分自身から一歩離れて観察すると、社会的な組織や集団、各種制度の影響をうけていることに気がきます。社会科学とは、社会を構成する組織や集団、制度の内容を知り、それぞれがどのような影響を与しあっているのかを理解することで深めることができます。

自分が生きている社会ですから、理解できていると思いついてしまったり、先入観にとらわれて誤認することもあります。それを防ぐには、「自分自身から一歩離れて観察する視点」（＝客観的な基準）が重要です。しかし、この視点は唯一無二のものが存在するわけではありません。多様な視点があり、学問領域によって異なる基準が用意されています。この点を踏まえ、社会科学基礎関連科目では、学問領域ごとに得意としている社会の観察眼を学べるよう、図にあるような科目を展開しています。

社会科学基礎関連科目の学び方

- ・社会科学基礎関連科目は、1・2年次に履修します。
- ・開講されている科目で扱う具体的な内容については、Web 講義要項（シラバス）で確認してください。
- ・自分の所属する学部・学科の専門分野に隣接する教養科目を学ぶことは大変意義があります。一方、固定観念に縛られずに社会で生じている出来事や課題への観察眼を養うには、一見すると関連のない分野を学ぶことによっても身に付きます。このことは、学びを深める上での基本です。したがって、どの学科に所属していても、複数の科目群から履修することが望まれます。

社会科学の学問領域と社会科学基礎関連科目の設置科目



〔自然科学系科目〕

自然科学系科目を学ぶ意義

自然科学系科目として、物理学、化学、生物科学、宇宙地球科学、科学論・科学史、数理科学および基礎自然科学実験が設置されています。専修大学基礎科目「あなたと自然科学」でその一端に触れた科学的思考力をそれぞれの科目を通じて深化させます。

自然科学系科目の目的

①自然や物質の成り立ちと人間の存在に関する普遍的な原理の理解

現在では、宇宙の創成から人類の誕生に至るまでの科学的な理解が進んでいます。「地球に生きる私たち」という位置づけができる力を養います。

②現代社会を生き抜くための多角的な視野の形成

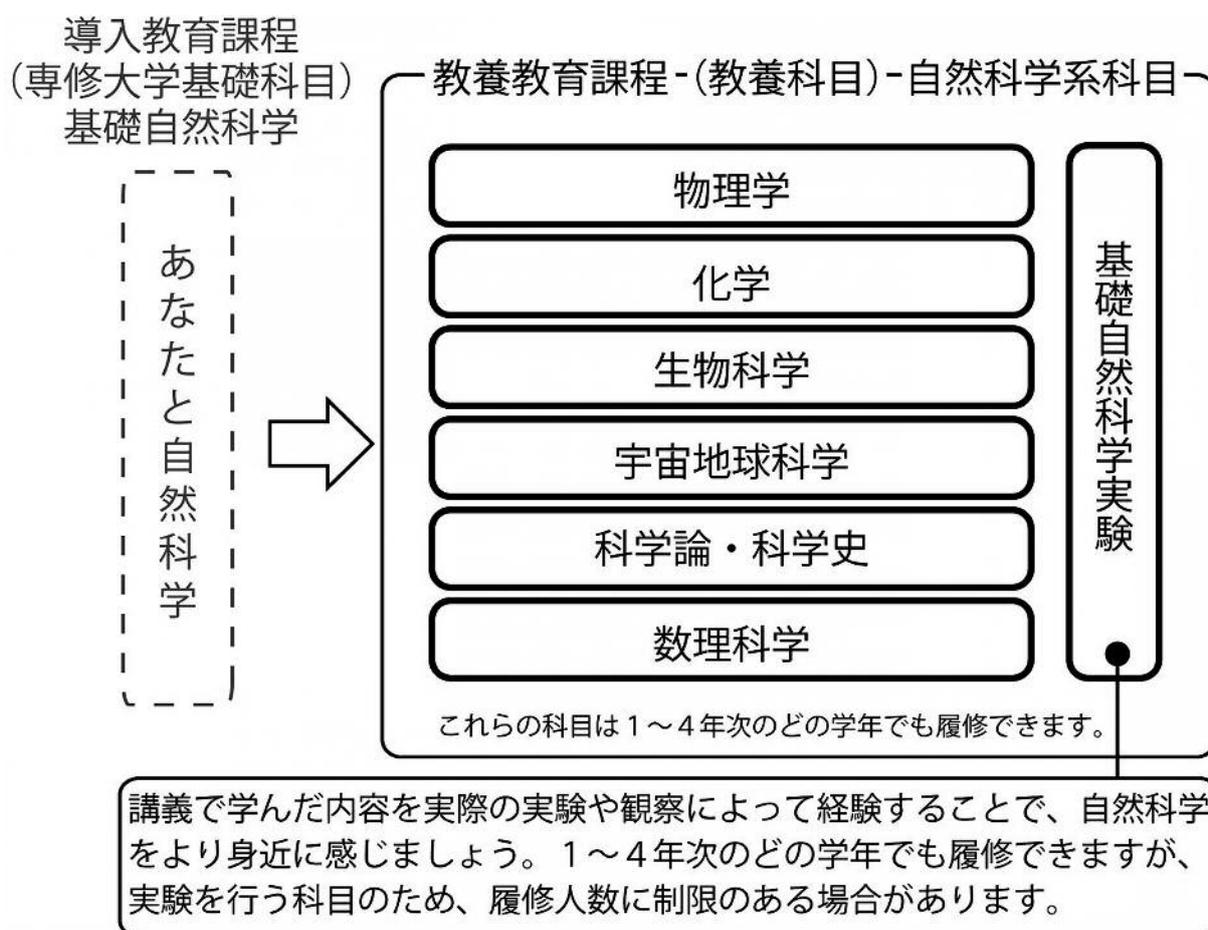
人文・社会科学系の学問と異なる、実験や観察に基づいたアプローチをする自然科学的な発想や視点を身につけ、客観的な思考力を養います。

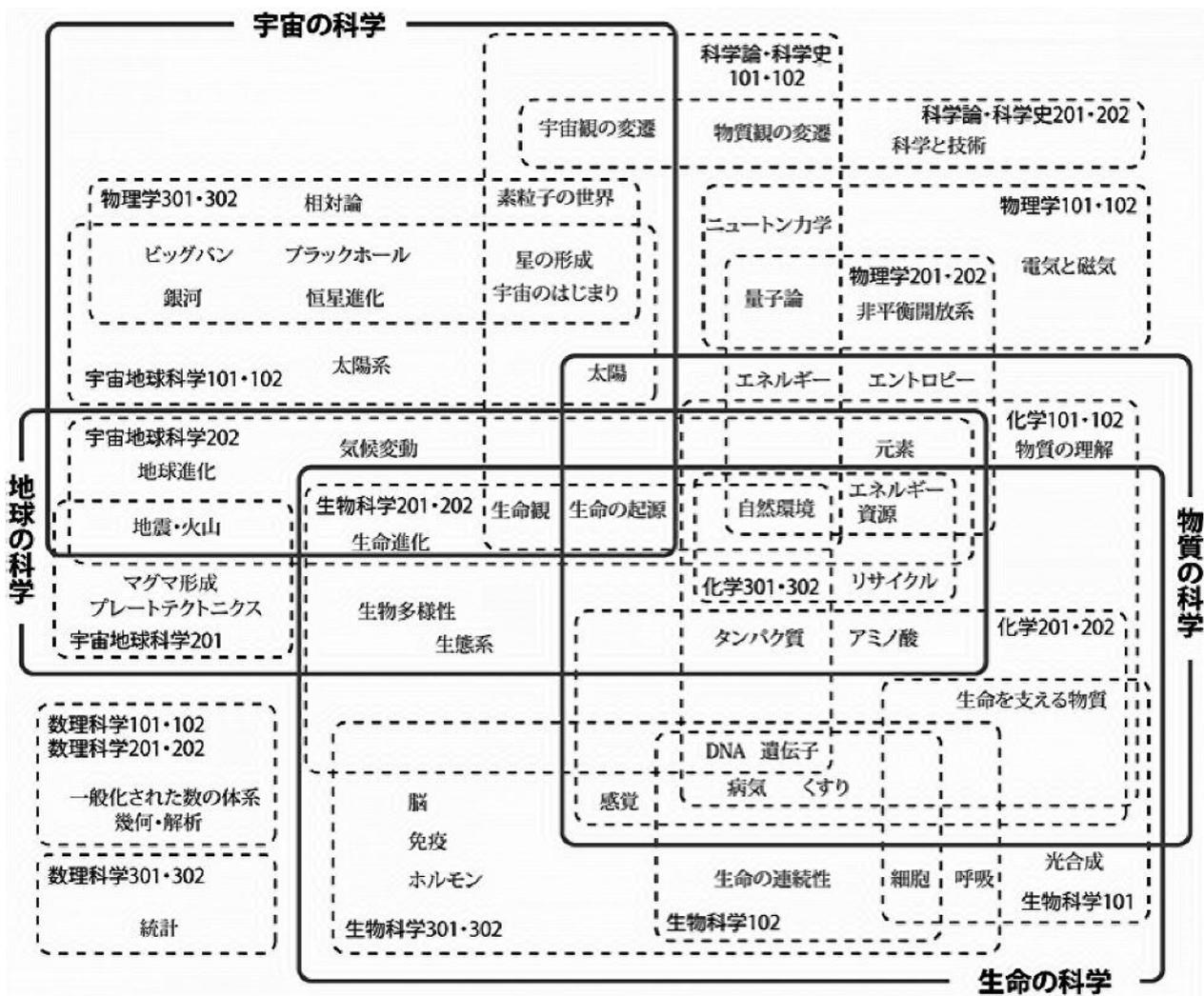
③現代社会が抱える課題を解決する能力の育成

科学技術の著しい発展は、人類に恩恵をもたらす一方で環境問題や遺伝子操作などの数々の問題も生み出してきました。これらの問題に対する適切な判断力や深く広い生命観を培います。

自然科学系科目の学び方

自然科学に関する代表的なキーワードとそれぞれの自然科学系科目が扱うおおよその内容の関連は次の図のように示されます。「物質の科学」や「宇宙の科学」といったより広いテーマは複数の科目に関連していることが分かります。各自の学修目的に合わせて履修科目を選択して下さい。





興味のあるキーワードを中心に近隣の科目を履修するのも一つの方法です。

例) 「自然環境」がキーワード→宇宙地球科学 201 と生物科学 201・202, および化学 301・302 を履修する。

例) 「宇宙のはじまり」がキーワード→宇宙地球科学 101・102 と物理科学 301・302 を履修する。
分野を越えて幅広く, そして深く履修することも可能です。

例) 数理科学で「数学」を学び, この知識を生物科学 201・202 の「生態系」の学習に活かす。

注意事項

- ◎ 「〇〇101」など番号までが科目名です。「〇〇101」と「〇〇102」は別科目です。
- ◎ 「〇〇101」, 「〇〇201」, 「〇〇301」は科目のテーマ・内容を区別する番号であり, 難易度を意味するものではありません。「〇〇301」から履修しても構いません。
- ◎ いずれの科目も, 年次に関わらず自由に履修することができます。ただし, 教室定員によっては履修者を抽選で決定することがあります。
- ◎ 開講されている科目で扱う具体的な内容については, Web 講義要項 (シラバス) で確認してください。
- ◎ 科目名が同じでも, 担当する教員が異なる場合, 扱う内容が異なることもあります。

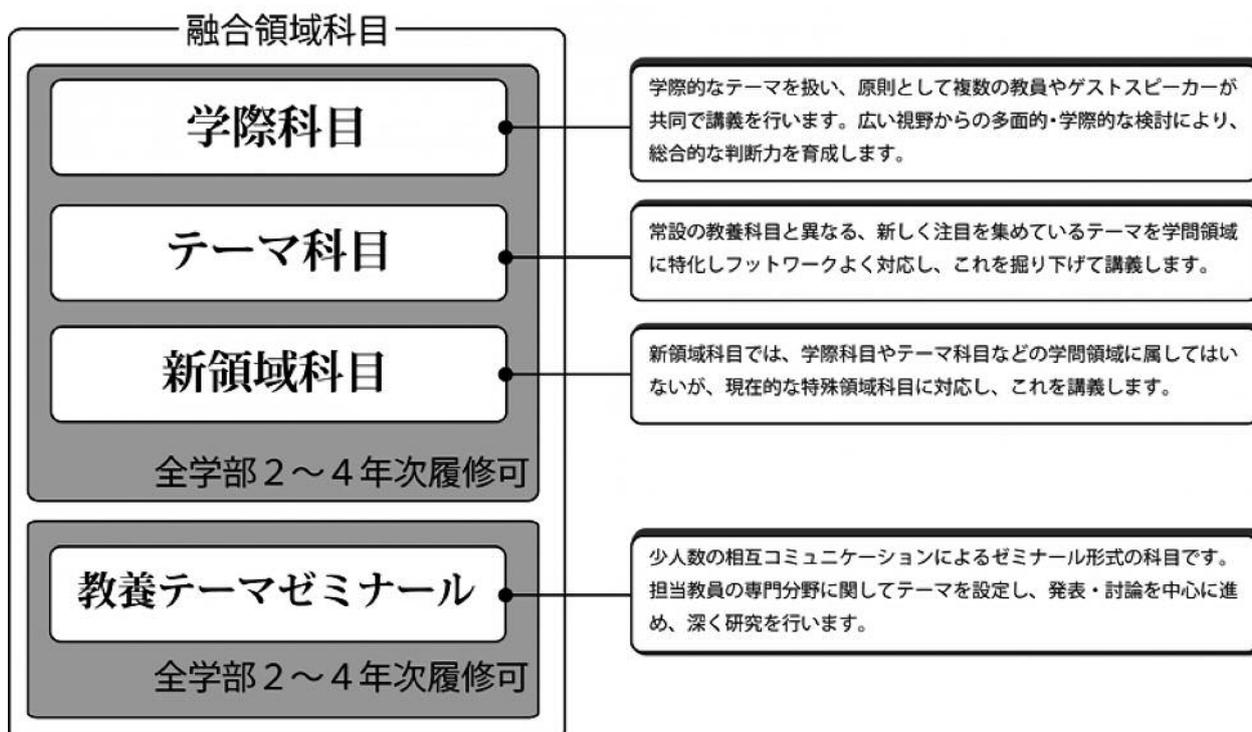
【融合領域科目】

(1) 融合領域科目を学ぶ意義と目的

融合領域科目は、各学部における専門科目とは異なり学際的なテーマを扱います。また一つのテーマについて多方面からのアプローチが存在することをみなさんに示しながら、どんな社会現象や自然現象にも複数の側面（多面性）があり、それらの間に複雑な関係性があることを理解させ、思考力に総合的な分析力や判断力が加わることを主な教育目的としています。

(2) 融合領域科目の学び方

- ・融合領域科目は、2・3・4年次に履修します。
- ・開講されている科目で扱う具体的な内容については、Web 講義要項（シラバス）で確認してください。



注意事項

- ◎ 「教養テーマゼミナール」はⅠ・Ⅱ・Ⅲに区分され、Ⅰは2年次、Ⅱは3年次、Ⅲは4年次配当です。連続して同じ「教養テーマゼミナール」を履修することもできますし、年度毎に別の「教養テーマゼミナール」を履修することもできます。
- ◎ 同一年度に複数の「教養テーマゼミナール」を履修することはできません。
- ◎ 同一年度に「教養テーマゼミナール」と専門科目のゼミナールを履修することはできます。
- ◎ 同一教員の「教養テーマゼミナール」を2年間以上履修する場合、「教養テーマゼミナール論文」を作成することが可能です。
- ◎ 「教養テーマゼミナール」は、毎年11月頃、次年度の履修者の募集を行います。募集要項は教務課で配布します。

[外国語系科目・英語]

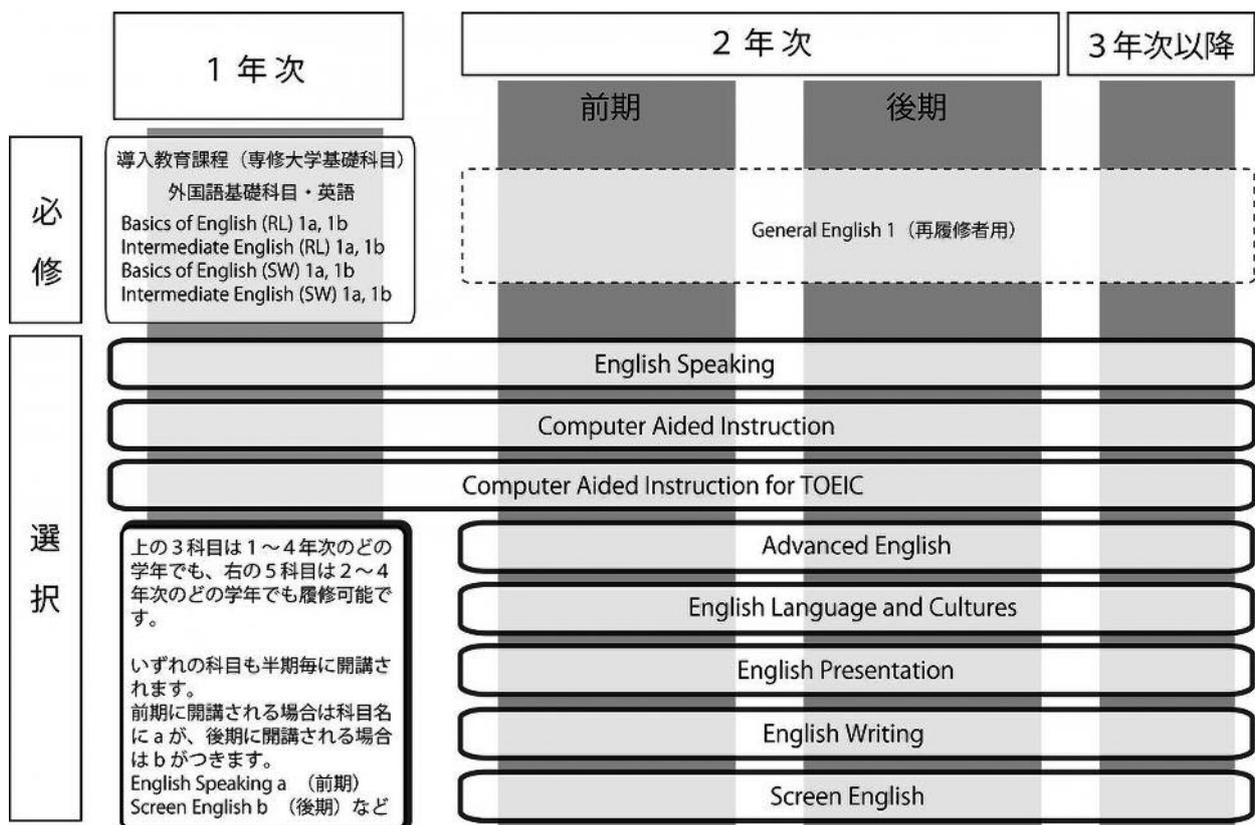
外国語系科目・英語を学ぶ意義

外国語系科目の英語では、コミュニケーションの手段として、また情報収集、発信の手段として不可欠な英語力をさらに伸ばしていくことを目指しています。グローバル化時代の多様なニーズにこたえられるよう、教養教育課程の英語には様々な科目が用意されています。導入教育課程での英語学修を踏まえて、幅広く用意された選択科目を積極的に履修することで英語力の向上とともに、異文化への関心や理解を深め、人間としての視野を広げていってください。

外国語系科目・英語の学び方

(1) 履修方法

文学部では、2年次以降、教養教育課程の外国語系科目の英語は選択科目として履修していきます。様々な選択科目が設置されているので、それぞれの関心や必要に応じた履修計画を立ててください。選択科目で修得した単位は、自由選択修得要件単位として、卒業要件単位になります。



1 年次から履修できる選択科目

1 年次から選択できる選択科目は2～4年次でも選択できます。

English Speaking a

English Speaking b

ネイティブスピーカーの指導のもと、会話を中心にコミュニケーション力を養います。この科目は、a, bそれぞれ4単位まで履修することができます（英語英米文学科は除く）。

Computer Aided Instruction a

Computer Aided Instruction b

e-learning 教材を使用し、基礎的な英語力を強化します。

Computer Aided Instruction for TOEIC a

Computer Aided Instruction for TOEIC b

e-learning 教材を使用し、TOEIC®で600点以上のレベルの英語力獲得を目指します。

これらの科目は半期 1 単位です。

2 年次から履修できる選択科目

2～4年次は、1年次から選択できる上記の3種類の科目に加えて、さらに5種類の選択科目を履修することができます。

Advanced English a

Advanced English b

発展的な内容を学修し、英検、TOEFL®, TOEIC®等の資格試験に対応できる英語力を目指します。この科目は、a, bそれぞれ4単位まで履修することができます。

English Language and Cultures a

English Language and Cultures b

英語圏の文化、言語、コミュニケーションのあり方を、様々な題材を使って掘り下げていきます。この科目は、a, bそれぞれ4単位まで履修することができます。

English Presentation a

English Presentation b

プレゼンテーションの技法を身につけ、聞き手にわかりやすく説明する能力を養います。

English Writing a

English Writing b

正しい文章を書き、正確に情報を伝達する能力を養います。

Screen English a

Screen English b

映画を主要な教材として、生きた口語表現と背景にある文化を学びます。

これらの科目は半期 2 単位です。

(2) 資格試験による単位認定 (英語)

英検, TOEFL®, TOEIC® において, 一定の基準を満たしている学生には一定水準以上の英語力を有するものとみなし, 下記の表のとおり単位を認定します。

	検定試験の種類	認定基準	認定単位数	認定科目群		認定科目名 (単位数)
上位基準	英検 TOEFL iBT®* TOEIC®	準1級 83点以上 730点以上	4	必修科目	A群	Intermediate English (RL) 1a または Basics of English (RL) 1a (1)
					A群	Intermediate English (RL) 1b または Basics of English (RL) 1b (1)
					B群	Intermediate English (SW) 1a または Basics of English (SW) 1a (1)
						Intermediate English (SW) 1b または Basics of English (SW) 1b (1)
				選択科目	Advanced English a (2)	
					Advanced English b (2)	
					English Language and Cultures a (2)	
					English Language and Cultures b (2)	
下位基準	英検 TOEFL iBT®* TOEIC®	— 61点以上 600点以上	2	必修科目	A群	Intermediate English (RL) 1a または Basics of English (RL) 1a (1)
					A群	Intermediate English (RL) 1b または Basics of English (RL) 1b (1)
					B群	Intermediate English (SW) 1a または Basics of English (SW) 1a (1)
						Intermediate English (SW) 1b または Basics of English (SW) 1b (1)
				選択科目	Advanced English a (2)	
					Advanced English b (2)	
					English Language and Cultures a (2)	
					English Language and Cultures b (2)	

* TOEFL iBT® = TOEFL Internet-Based Test

注意事項

単位認定の取り扱いについて

- ◎認定単位数の上限は4単位です。下位基準による2単位の認定を受けたものが、その後に上位基準を満たした場合、翌年度以降に追加認定を申請できますが、その際の認定単位数は、上限単位数から既認定単位数を差し引いた2単位となります。
- ◎同一基準において複数の検定試験で基準を満たしている場合も、認定はいずれか一種類の検定試験によります。
- ◎TOEFL ITP[®], TOEIC[®]-IP は認定対象には含まれません。
- ◎認定科目の成績評価は点数で表さず、「認定」とします。
- ◎認定された単位は、各年次の履修上限単位数には含めません。
- ◎認定科目（群）は原則として、未修得の必修の英語科目とし、すべての必修科目の既修得者および英語英米文学科の学生は Advanced English a, b または English Language and Cultures a, b を認定します。

申請手続き

- 1) 申請期間内に提出書類を教務課に提出し、「単位認定申請書類受領書」の交付を受けます。
- 2) 申請期間は、当該年度の4月20日（休日の場合は前日）までとします。
- 3) 提出書類は①単位認定申請書と②合格証またはスコアカードの原本です。入学試験の出願時に原本を提出した場合は、窓口で申し出てください。
- 4) 合格資格の有効期限は申請日からさかのぼり、2年以内とします。

[外国語系科目・英語以外の外国語]

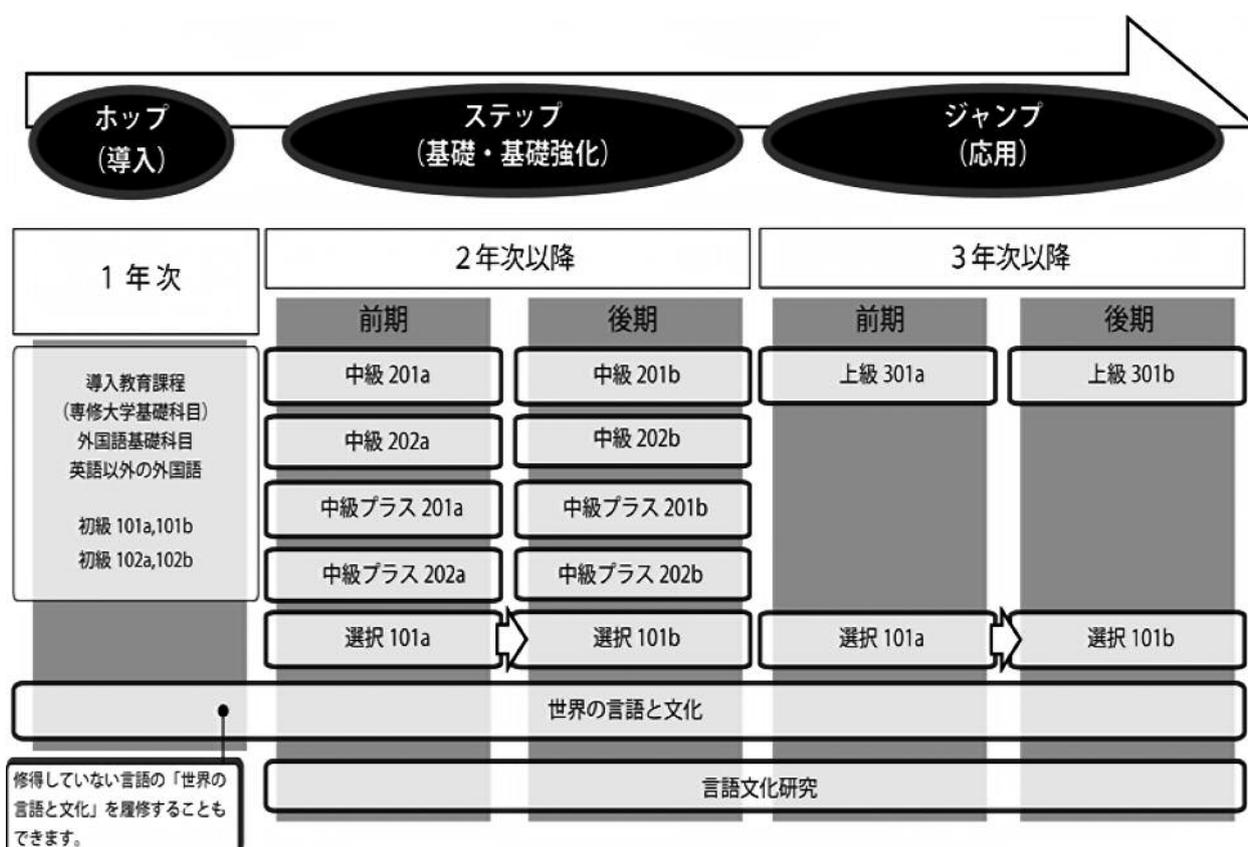
外国語系科目・英語以外の外国語を学ぶことの意義

導入教育課程・外国語基礎科目の英語以外の外国語で学んだコミュニケーション力・語学力をさらに高めるのが、教養教育課程での学修の目的です。

導入教育課程で学んだ言語の中級・上級レベルに進んで、いっそう力をつけるとともに、第三の外国語としてアラビア語、イタリア語も勉強することができます。また、ともに日本語による講義科目として行われる「世界の言語と文化」、「言語文化研究」を履修することで、さまざまな国や地域の社会とその背後にある文化を勉強してください。

外国語系科目・英語以外の外国語の履修方法

文学部では、2年次教養教育課程・外国語系科目は選択必修の外国語科目としては設定されていませんが、ぜひ、中級以上に進んで、積極的に語学の修得、コミュニケーション力の上達を図るとともに、さまざまな世界とその文化に触れてください。



教養教育課程・外国語系科目・英語以外の外国語で展開される科目の概要

中級 201 a, 201 b :

初級で学んだことの復習 + さらに発展した語学力・コミュニケーション力を養います。年度を越えてそれぞれ2科目(2単位)まで履修することができます。

中級 202 a, 202 b :

初級で学んだことの復習 + さらにテーマ別に語学力を養います。年度を越えてそれぞれ2科目(2単位)まで履修することができます。

中級プラス 201 a, 201 b・中級プラス 202 a, 202 b :

通常の中級科目に加えて、さらに学修したい人たちのためのプラス科目です。中級科目との同時履修を奨めます。ここではより実践的な読解力を磨いたり、中・長期で留学したりする際に使えるようなコミュニケーション力をつけたりします。年度を越えてそれぞれ2科目(4単位)まで履修することができます。

上級 301 a, 301 b :

個別のテーマで、中級以上のさらに進んだレベルの語学力を養います。同一年度にそれぞれ2科目(4単位)まで、年度を越えてさらに2科目(4単位)、合計4科目(8単位)履修することができます。

選択 101 a, 101 b :

第三の外国語として、入門的な語学力・コミュニケーション力を養います。

世界の言語と文化 :

各国の言語と、その背景にある文化を広く学びます。日本語による講義科目です。

言語文化研究 :

世界各地のさまざまな文化や社会およびその間の関係を深く学びます。日本語による講義科目です。

注意事項

- ◎矢印で結ばれた科目(選択 101 a ⇨ 選択 101 b)は、同一曜日・時限、同一担当の科目をセットで履修してください。
- ◎外国語基礎科目の英語以外の外国語初級4科目(4単位)を修得した場合は、同じ言語の選択 101 a・101 bを履修することはできません。同様に、同じ言語の初級4科目(4単位)と選択 101 a・101 bを同時に履修することはできません。
- ◎自由選択修得要件単位として履修した科目の単位を修得できなかった場合には、再度履修することができます。
- ◎中級以上の科目については、開講されない外国語もあります。
- ◎教養教育課程の英語以外の外国語で修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入されません。

役立ちガイド：「CALL自習室」と「語学相談」の紹介

生田・神田キャンパス1号館地下にはCALL自習室とCALLライブラリーがあり、各種語学の視聴覚教材をはじめ、検定試験対策教材や雑誌等が視聴、閲覧できます。また、CALL自習スペースは生田10号館1階情報コアゾーンにも設けられていて、DVDを中心とした教材が利用できます。語学相談も受け付けているので、積極的に利用しましょう。

資格試験による単位認定（英語以外の外国語）

すでに英語以外の外国語をある程度修得し、下表の資格試験の基準を満たしている学生は、初級101 a・101 bおよび初級102 a・102 bの単位認定の申請を行ってください。

検定試験の種類	認定基準	認定 単位数	認定科目（単位数）
ドイツ技能検定試験	4級	4	ドイツ語初級101 a (1)
Goethe-Institut ドイツ語検定試験	A 2	4	ドイツ語初級101 b (1)
オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験	A 2	4	ドイツ語初級102 a (1)
			ドイツ語初級102 b (1)
実用フランス語技能検定試験	4級	4	フランス語初級101 a (1)
			フランス語初級101 b (1)
DELF-DALF フランス語資格試験	A 2	4	フランス語初級102 a (1)
			フランス語初級102 b (1)
中国語検定試験	4級	4	中国語初級101 a (1)
			中国語初級101 b (1)
HSK漢語水平考試	HSK 4級	4	中国語初級102 a (1)
			中国語初級102 b (1)
スペイン語技能検定	4級	4	スペイン語初級101 a (1)
			スペイン語初級101 b (1)
DELEスペイン語検定試験	A 2	4	スペイン語初級102 a (1)
			スペイン語初級102 b (1)
ロシア語能力検定試験	3級	4	ロシア語初級101 a (1)
			ロシア語初級101 b (1)
			ロシア語初級102 a (1)
			ロシア語初級102 b (1)
インドネシア語技能検定試験	D級	4	インドネシア語初級101 a (1)
			インドネシア語初級101 b (1)
			インドネシア語初級102 a (1)
			インドネシア語初級102 b (1)
ハングル能力検定試験	5級	4	韓国語初級101 a (1)
			韓国語初級101 b (1)
韓国語能力試験	TOPIK I (1級)	4	韓国語初級102 a (1)
			韓国語初級102 b (1)

注意事項

単位認定の取り扱いについて

- ◎同一言語の4科目4単位をセットで認定します。
- ◎同一基準において複数の検定試験で基準を満たしている場合も、認定はいずれか一種類の検定試験によります。
- ◎認定科目の成績評価は点数で表さず、「認定」とします。
- ◎認定された単位は、各年次の履修上限単位数には含めません。
- ◎認定された場合は、所定の手続きを経ることで、1年次に同一言語中級科目の履修が認められます。
- ◎認定された場合は、初級101 a・101 bおよび初級102 a・102 bを履修することはできません。別の外国語を学修する場合、2年次以降に選択101 a・101 bを履修してください。

申請手続き

- 1) 申請期間内に提出書類を教務課に提出し、「資格試験による単位認定・既習者科目履修登録申請書類受領書」の交付を受けます。
- 2) 申請期間は、入学年度の4月20日（休日の場合は前日）までとします。
- 3) 提出書類は①資格試験による単位認定・既習者科目履修登録申請書と②合格証またはスコアカードの原本です。

[外国語系科目・海外語学研修]

海外語学研修および交換留学

本学の国際交流センターでは、海外の大学等と協定を結び様々な留学プログラムを設け、留学を希望する学生のサポートを行っています。留学は実践的に語学力を伸ばす絶好の機会であると同時に、異文化圏での生活を肌で体験することによって、机上の学修では決して得ることのできない感動や刺激を受けることができます。各プログラムの詳細については、国際交流事務課まで問い合わせてください。

海外語学短期研修

「夏期・春期留学プログラム」は、夏期・春期休暇を利用して海外の協定校等で約1ヶ月にわたって集中的な語学研修を行うものです。留学プログラム開設コース及び内容については平成29年11月現在のものです。

海外語学短期研修1

2単位（1～3年次担当）

夏期留学プログラム

開設コース：

社会知性開発（実用英語とイギリス文化）

研修期間は約3週間で、1日4～5時間程度の初級レベルの語学研修と課外活動を行います。実践的な会話を学修し、ホームステイやフィールドトリップなどをおして現地の文化・歴史・生活習慣を学べます。

海外語学短期研修2

2単位（1～3年次担当）

春期留学プログラム

開設コース：

英語

フランス語

中国語

スペイン語

コリア語

ドイツ語

研修期間は3～6週間で、1日4時間程度の語学研修と課外活動を行います。社会知性開発・英語コースの応募にはTOEFL®スコアが必要です。また、コースによっては現地の正規授業の聴講、文化施設見学やフィールドトリップ等、様々なプログラムが展開されています。

注意事項

- ◎詳細は年度により異なる可能性があります。その年度のパンフレットをよく読むようにしてください。
- ◎単位は希望者のみに与えられますので、希望者は研修参加が決定した後で定められた期日までに科目履修登録を行ってください。
- ◎評価は各プログラムの習熟度により本学の基準で行い、「認定」として単位を授与します。
- ◎それぞれの言語ごと各1回単位を自由選択修得要件単位として修得することができます。ただし、4年次生の参加者及び同一留学プログラム同一言語コース2度目の参加者については対象となりません。
- ◎当該科目は留学プログラムに参加した次年度に選考される学術奨学生および卒業時に選考される川島記念学術賞の選考対象科目から除外されます。

海外語学中期研修

「中期留学プログラム」は、本学協定校あるいは研修校に前期または後期の約4～5ヶ月間留学し、外国人留学生を対象に開講されている集中語学コースに参加するプログラムです。留学プログラム開設コース及び内容については平成29年11月現在のものです。

海外語学中期研修1～8 各2単位（2～4年次担当）

中期留学プログラム

開設コース：

英語

- 前期：カルガリー大学（カナダ）
オレゴン大学（アメリカ）
ウーロンゴン大学（オーストラリア）
ワイカト大学（ニュージーランド）
- 後期：ネブラスカ大学リンカーン校（アメリカ）

社会知性開発

- 後期：ワイカト大学+インターンシップ（ニュージーランド）

ドイツ語

- 前期：ライプツィヒ大学（ドイツ）

フランス語

- 後期：リュミエール・リヨン第2大学 CIEF（フランス）

中国語

- 後期：上海大学（中国）

スペイン語

- 後期：イベロアメリカーナ大学（メキシコ）

コリア語

- 後期：檀国大学（韓国）

実践的なコミュニケーション能力の習得に加え、大学の正規授業を受けるために必要なアカデミックスキル（プレゼンテーション、ノート・テイキング、リサーチ、論文の書き方等）や、異文化について学ぶことができます。

注意事項

- ◎詳細は年度により異なる可能性があります。その年度の募集要項及びガイドブックをよく読むようにしてください。
- ◎中期留学プログラムの留学期間は在学期間に算入されます。
- ◎単位は希望者のみに与えられますので、希望者は中期留学プログラムへの参加決定後、所定の期間に教務課で面接の上、中期留学プログラムにおいて修得を希望する科目の履修登録を行ってください。
- ◎学習成果の評価は、当該科目担当教員が「事前授業」、「事後授業」、「留学先の成績表」等に基づいて行い、「認定」として単位を授与します。
- ◎単位は自由選択修得要件単位として、英語では海外語学中期研修1～8（英語）（各2単位）、ドイツ語では海外語学中期研修1～8（ドイツ語）（各2単位）、フランス語では海外語学中期研修1～8（フランス語）（各2単位）、中国語では海外語学中期研修1～8（中国語）（各2単位）、スペイン語では海外語学中期研修1～8（スペイン語）（2単位）、コリア語では海外語学中期研修1～8（コリア語）（各2単位）で、それぞれ最高16単位まで認定されます。
- ◎英語英米文学科、人文・ジャーナリズム学科は学科の専門科目での単位認定も行われます。英語英米文学科の専門科目での単位認定についてはp.113を、人文・ジャーナリズム学科の専門科目での単位認定についてはp.179を参照してください。
- ◎当該科目は留学プログラムに参加した次年度に選考される学術奨学生および卒業時に選考される川島記念学術賞の選考対象科目から除外されます。

【保健体育系科目】

「スポーツウェルネス」を学ぶ

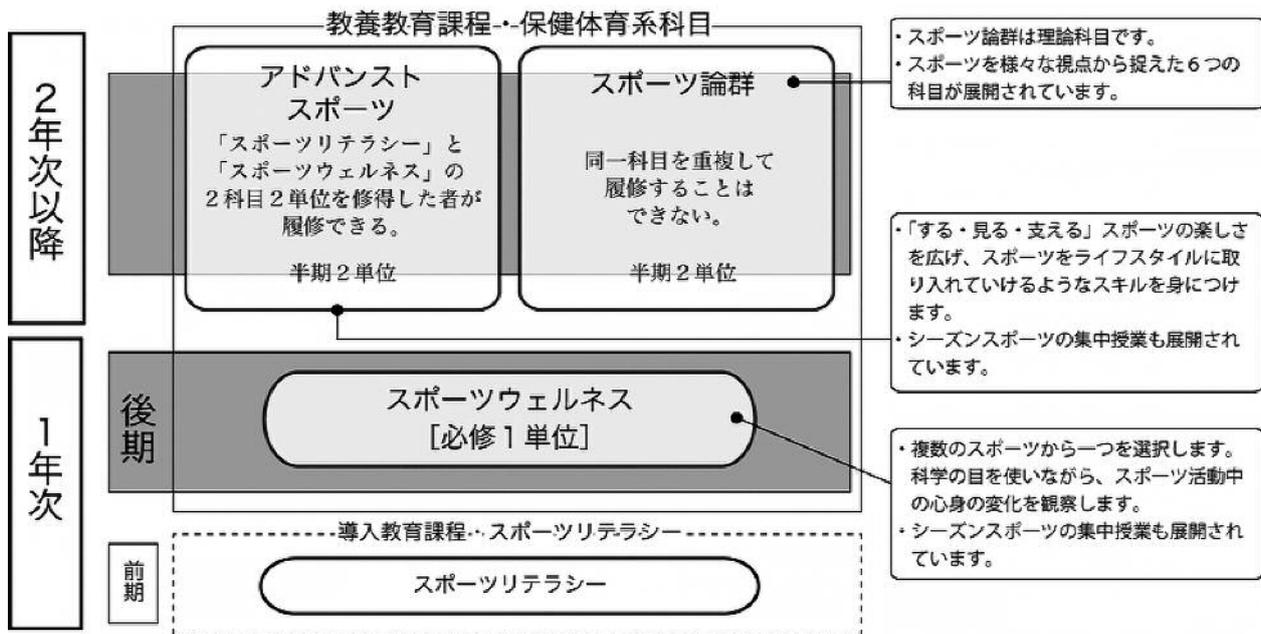
「スポーツウェルネス」とは、「スポーツ実践を通じて、積極的に心身の健康維持・増進を図ろうとする生活態度・行動」のことを言います。スポーツウェルネスでは、スポーツを通じた身体活動が、健康なライフスタイルの創造に貢献することを体感し、「学びの力」の土台となる心身の健康の維持増進を果たすとともに、将来における健康面の課題を解決するための運動習慣の醸成を図ります。

「アドバンストスポーツ」を学ぶ

「アドバンストスポーツ」では、スポーツを専門的レベルから学びます。対象スポーツにおける幅広い知識と専門性の高い技術の獲得とともに、ビデオを利用したゲーム分析、審判法やマッチメイク等のマネジメントについての学修などにより、スポーツをライフスタイルの中に取り込み、生涯にわたり身体的、精神的、社会的に健康で豊かな生活を送る能力を身につけることを目的としています。

「スポーツ論群」を学ぶ

「スポーツ論群」は理論科目です。スポーツが有する多角的な価値について、社会科学、自然科学、人文科学などの視点から学び、世界共通の人類の文化であるスポーツに関する教養を深めるとともに、在学時および卒業後において日常的にスポーツに親しみ、スポーツを通じて地域社会と積極的に関わりながら心身の健全な発達、明るく豊かな生活の形成に繋げることのできる能力の醸成を目指します。



注意事項

- ◎「スポーツリテラシー」と「スポーツウェルネス」は同一年度に同一種目を重複して履修することはできません。例えば、「スポーツリテラシー」（前期）でテニスを履修した場合、「スポーツウェルネス」（後期）でテニスを履修することはできません。但し、「スポーツリテラシー」でゴルフを履修し、「スポーツウェルネス」で集中授業のゴルフを履修することは可能です。
- ◎「アドバンストスポーツ」は同一種目を重複履修、また複数種目を履修する事ができます。
- ◎「スポーツ論群」は、同一科目でなければ複数履修することができます。
- ◎個々の科目内容については、Web 講義要項（シラバス）を参照してください。

IV 外国人留学生の特例履修科目

導入教育課程・外国語基礎科目

1 年次	日本語文章理解 1 → 日本語文章理解 2	半期	2 科目	2 単位
(必修科目)	日本語音声理解 1 → 日本語音声理解 2	半期	2 科目	2 単位
	日本語口頭表現 1 → 日本語口頭表現 2	半期	2 科目	2 単位
	日本語文章表現 1 → 日本語文章表現 2	半期	2 科目	2 単位

注意事項

- ◎矢印で結ばれた科目（前期 1 → 後期 2）は、同一曜日・時限、同一担当の科目をセットで履修してください。
- ◎前期 1 を修得できなかった場合は、後期 2 の履修登録を削除しなければなりません。

教養教育課程・留学生専修科目

1 年次					
(必修科目)	一般日本事情 1	一般日本事情 2	半期	2 科目	4 単位

教養教育課程・外国語系科目

2 年次以上	応用日本語理解 1	応用日本語理解 2	半期	2 科目	2 単位
(選択科目)	応用日本語表現 1	応用日本語表現 2	半期	2 科目	2 単位

注意事項

- ◎応用日本語科目の履修には、前年度までに「日本語文章理解 1」、「日本語文章理解 2」、「日本語音声理解 1」、「日本語音声理解 2」、「日本語口頭表現 1」、「日本語口頭表現 2」、「日本語文章表現 1」、「日本語文章表現 2」の単位をすべて修得していなければなりません。
- ◎応用日本語科目は、同一年度に同一科目を履修することはできませんが、年度を変えれば、それぞれ 1 で 3 科目 3 単位、2 で 3 科目 3 単位まで履修することができます。
- ◎応用日本語科目は、自由選択修得要件単位として卒業要件単位に換算されます。
- ◎母語の科目を、外国語基礎科目および外国語系科目（世界の言語と文化、言語文化研究を除く）として履修することはできません。

第3章

専門教育課程の学び方

専門科目では何を学ぶか

日本語学科

日本文学文化学科

英語英米文学科

哲学科

歴史学科

環境地理学科

人文・ジャーナリズム学科

専門科目では何を学ぶか

第1章で記したように、本学における教育は、「転換・導入教育課程」、「教養教育課程」および「専門教育課程」に分かれている。「転換・導入教育課程」は大学や社会で求められる必要不可欠な基礎的知識や技能の修得のために、「教養教育課程」は豊かな教養を身につけて社会に巣立っていく基礎を築くために、設けられている。

これに対し、「専門科目」は、みなさんが所属する学部・学科の特色を最もよく示すものである。文学部は、次のような7学科5コース制を採っている。

日 本 語 学 科 (L G)	
日 本 文 学 文 化 学 科 (L B)	
英 語 英 米 文 学 科 (L A)	— 英語コミュニケーションコース — 英語文化コース
哲 学 科 (L T)	
歴 史 学 科 (L R)	
環 境 地 理 学 科 (L K)	
人 文 ・ ジ ャ ー ナ リ ズ ム 学 科 (L Z)	— 東西文化コース — 生涯学習コース — ジャーナリズムコース

文学部の各学科・コースが設けている専門科目の学び方は、以下の各学科・コースのガイドで説明することとして、ここでは専門科目の学び方にかかわる一般的な点について述べる。

文学部の専門科目は、「講義」「実習」「ゼミナール」のいずれかの授業形式（あるいはその組み合わせ形式）をとっている。それぞれの科目には独自のねらいがあるが、他の科目と深い関連をもつ場合も多く、その関連を考慮して、履修する学年が配当されている。特に、積み上げによる学修の効果が期待されている科目の履修にあたっては、配当年次のもつ意味に留意してほしい。

また、文学部の特色は、教員と学生のあいだ、学生と学生のあいだの言葉のやりとりを重視する少人数教育である。とりわけ「ゼミナール」は、学生が「調べる」—「発表する」—「討論する」ことを通じて研究対象への理解を深める、大学ならではの授業形式である。

以上の点を考慮に入れ、さらに卒業に必要な条件を視野に入れたうえで、自らの関心や目的にしたがった履修計画を立てることが重要である。一人ひとりが念入りにデザインした時間割——それは、個性あふれる自分だけの時間割となるだろう。

日本語学科

I 日本語学科の特色

多くの言語の中で、日本語の世界は一見、他とは隔絶した特異な存在であり、そこで培われた文学や文化も孤立した存在のように思えるかもしれない。しかし日本語は古くから、他の言語や文化からさまざまな要素を取り入れ、そこに新しい生命を吹き込むことにより、豊饒な世界を作り上げてきた言語である。その日本語を深く考察することは、自らを客観的にとらえ、世界に開かれた視点を得ることにほかならないともいえる。

本学科の教育課程は、日本語学（国語学）・言語学を背景とし、本学の教育基本理念である「社会知性の開発」に基づいたカリキュラムによって構成されている。本学科では、バランスの取れた日本語運用能力を培うことを第一の目標とし、そのために日本語の性質や特徴の把握はもとより、他言語との関わりという視点も取り込んだ、網羅的で広汎な日本語の教育、コミュニケーション能力の向上に資する教育を目指している。

この教育を通じて本学科では、次のような人材の育成を目標とする。

- ① 自国の言語に対する深い理解と認識を持った人材
- ② 情報化社会で活躍できる知識と技術を備えた人材
- ③ 日本語学に関する豊かな知見を身につけ、国際社会でも活躍できる人材

入学後、1年次では、日本語の基本的な性質や構造を理解し、日本語を学問的に分析する方法を学ぶ。2年次以降は、その知識を盤石のものとし、上記①～③の目標を目指して専門的な知見を身につけていく。また、授業での考察結果の発表や、ゼミナールで提示される課題についての検討や討論など、実際の日本語運用能力の育成も重視して身につけていく。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

以下では、大学を卒業するために必要な諸要件と科目の具体的な履修方法について概説する。以下の説明をよく読み、それに沿って履修計画を立ててほしい。

1. 卒業要件

一般に大学を卒業するためにはいくつかの要件が必要であるが（一般的な要件についてはp.31「大学卒業の要件」を参照），それに加えて，日本語学科の学生には，以下の表に示した要件を充たすことが要求される。次項「科目の履修方法」を読み，具体的な履修方法を理解した上でこの表を改めて見直し，要求されるものが何であるかを確認してほしい。

区 分		卒業要件単位			
転換・導入教育課程	専修大学基礎科目	専修大学入門科目	2	13	
		専門入門ゼミナール	2		
		基礎統計学			
		キャリア教育関連科目			
		情報リテラシー関連科目			
		基礎自然科学			
		外国語基礎科目	英語		4
			英語以外の外国語		4
スポーツリテラシー	1				
教養教育課程	教養科目	人文科学基礎関連科目	8	9	
		社会科学基礎関連科目			
		自然科学系科目			
		融合領域科目			
		外国語系科目	英語		
			英語以外の外国語		
			海外語学研修		
		保健体育系科目	スポーツウェルネス		1
			アドバンストスポーツ		
			スポーツ論群		
自由選択修得要件単位		34			
専門教育課程	専門科目	必修科目	22	68	
		選択科目	46		

2. 科目の履修方法

日本語学科の学生は、卒業までに専修大学入門科目2単位、専修大学基礎科目11単位、教養科目9単位、専門科目68単位、自由選択単位となる科目34単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。

なお、履修にあたっては、上記に加え、以下の二点にも注意を払ってほしい。

まず**第一**は、配当年次が指定されている科目については、その年次に履修しなければならないということである。また、指定された配当年次が複数の学年にわたる科目や、配当年次の指定がない科目でも、それが選択必修科目である場合には、過重負担にならない限り、なるべく低年次で履修することが望ましい。

第二は、同一名称の科目は原則としてひとつしか履修できないということである。一度に同一名称の科目を二つ以上履修登録することはできないし、一度単位を修得した科目をもう一度履修することもできない。

上記の点を考慮し、各人の興味と関心に従って自由に独創的な時間割を組んでもらいたい。具体的な履修方法については以下に詳説するが、まず pp.83～88 の表を概観し、カリキュラムの大枠を頭に入れておいてほしい。

(1) 転換・導入教育課程、教養教育課程の履修方法

転換・導入教育課程、教養教育課程にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので、履修に際しては注意しなければならない。転換教育課程は p.43 に、導入教育課程は pp.44～52 に、教養教育課程については pp.53～71 に詳しい説明があるので、それを参考にして以下を確認してほしい。

1) 転換教育課程（専修大学入門科目）

転換教育課程に配置されている専修大学入門ゼミナールは、1年次に半期2単位を必ず修得しなければならない。

2) 導入教育課程（専修大学基礎科目）

① 専門入門ゼミナール

専門入門ゼミナールは、1年次に半期2単位を必ず修得しなければならない。

② 外国語基礎科目

(i) 英語

1年次で英語4科目を履修し、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。A群の Basics of English (RL) 1a（前期）、1b（後期）または Intermediate English (RL) 1a（前期）、1b（後期）の2科目と、B群の Basics of English (SW) 1a（前期）、1b（後期）または Intermediate English (SW) 1a（前期）、1b（後期）の2科目を履修する。

(ii) 英語以外の外国語

1年次でドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、コリア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。初級101a(前期)、初級101b(後期)の2科目と、初級102a(前期)、初級102b(後期)の2科目を履修する。

③ スポーツリテラシー

スポーツリテラシーは、1年次の前期に1単位を必ず修得しなければならない。

④ 上記以外の科目

上記以外の導入教育科目に配置された科目(データ分析入門、キャリア入門、情報入門Ⅰ、情報入門Ⅱ、あなたと自然科学)は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

3) 教養教育課程(教養科目)

① 人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から8単位履修しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので履修する際には注意しなければならない。人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は1, 2年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は3, 4年次で再履修することはできない。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されている。融合領域科目は2年次以降に開講される。

② 保健体育系科目

スポーツウェルネスは、1年次の後期に1単位必ず修得しなければならない。

③ 上記以外の教養教育課程科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

(2) 専門科目の履修方法

専門科目として開講される科目名称等については pp. 189～200 の「文学部専門科目一覧」を見てもらいたい。科目の中には、必ず修得しなければならない必修科目（上記専門科目一覧で○印のついた科目）、多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる選択科目（△印のついた科目）の2通りがある。なお、科目の中には、年間を通して授業を行う通年科目と、半年で完了する半期科目および1年おきに開講される隔年科目があるので注意してほしい。

① ゼミナール

ゼミナールは、教員と学生が同じテーブルを囲み、設定されたテーマにとりくむ少人数の専門的な演習科目である。そのテーマや内容は年度ごとに示され、その運び方は教員によって異なるので、自分が何を勉強したいのかよく自覚した上で、複数展開されるゼミナールの中から、自分にもっともふさわしいものを選んでもらいたい。

2年次から4年次に開講されるゼミナールは、すべての学生にとって必修である。したがってゼミナールを計3科目（12単位）修得しなければ卒業できない。4年次に開講されるゼミナール3は、卒業論文指導をも兼ねた授業になる。

ゼミナールの再履修については、「(4) 再履修について」を参照すること。

② 「日本語教育実習A」および「日本語教育実習B」「日本語教育実習C」

「日本語教育実習A」は、2・3・4年次生が対象となる。履修者は、国際交流センター日本語日本事情プログラムの協力による模擬授業を行うことになっており、日本語を母語としない人たちとの間のコミュニケーションスキル向上も目指している。

「日本語教育実習B」は、3・4年次生を対象とした、日本語教育のための実習形式での授業である。授業の一環として、毎年夏休み後半の9月に、韓国の提携校において教育実習を行っている。また、韓国での実習までに模擬授業を行ってより効果的な授業を模索したり、帰国後には実習の様子を撮影したビデオを見ながら、改善すべき点などについて議論を行い、日本語教育についてより深く考える機会としている。

そのほかに、春休み中の1月末または2月初めからの6週間、英語圏の提携校において日本語教育の教育実習を行い、その成績に応じて単位を読み替えて「日本語教育実習C」が認定されるという単位取得の道も開かれている。日本語教育実習Cは、2・3年次生を対象としたもので、募集人数は年度によっても異なるが、毎年数名を募集している。新学期の4月のガイダンスで履修について詳しく説明しており、7月初旬頃に募集開始となる。

③ 卒業論文

卒業論文は、4年次生が大学生活の総決算として制作する論文である。4年次生は卒業論文のために特に指導教員の指導を受けるが、早い者は1年次の終り頃から題目の選定にかかり、精進してとりかかる一大事業である。レポートとはちがって、たとえわずかにもせよ、学問のレベルを突破しようとする学生の野心作でなければならない。それだけに苦労も多く4年次はほとんどこれに専心できるような態勢をととのえておく必要がある。

所定の単位を修得し、この卒業論文を提出し、論文についての口述試験に合格して、はじめて学士（文学）の学位が与えられることになる。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは、上記の卒業要件単位をすべて修得した上で、さらに履修する科目の総称である。したがって自由選択修得要件単位に算入されるものは以下の6つである。

- a. 転換・導入教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 選択科目の卒業要件単位を超えて修得した日本語学科開講の専門科目の単位。
- d. 日本語学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
- e. 教職に関する科目ならびに司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし8単位まで。(詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)
- f. 日本語学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし34単位まで。

自由選択修得要件単位となる科目の履修方法は、原則として完全に学生各自の裁量に委ねられる。それぞれの興味と関心に応じ、自由に独創的な時間割を組んでもらいたい。ただし、卒業までに自由選択修得要件単位数が34単位に達していなければならないことを忘れないでほしい。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

日本語学科の学生に課されている専門科目の必修単位数は5科目22単位である。何らかの理由でこれらの単位を修得できなかった場合、必ず次の年次で同一名称の科目を再履修しなければならない。再履修科目はすべてに優先して履修しなければならない点を銘記しておいてほしい。ただし、ゼミナールは、2年次でゼミナール1、3年次でゼミナール2、4年次でゼミナール3がそれぞれ必修科目となっており、同一年次に複数のゼミナールを履修することは原則として認められていないことから、例えば2年次でゼミナール1の単位が修得できなかった場合、その単位は5年次に再履修することになる。この点は注意を要する。

② 選択科目の再履修

選択科目の単位を修得できなかった場合は、必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく、別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能である。

日本語学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考		
専修大学 入学生 教育基 礎課 科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール			2			
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール			2			
	基礎統計学	データ分析入門				修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される		
	キャリア教育関連科目	キャリア入門						
	情報リテラシー関連科目	情報入門 I 情報入門 II						
	基礎自然科学	あなたと自然科学						
	英語	A 群	Basics of English (RL) 1a(1) Basics of English (RL) 1b(1) または Intermediate English (RL) 1a(1) Intermediate English (RL) 1b(1)	General English 1 (1)		2	General English 1は、英語A・B群の単位を修得できなかった場合に履修する科目。	
		B 群	Basics of English (SW) 1a(1) Basics of English (SW) 1b(1) または Intermediate English (SW) 1a(1) Intermediate English (SW) 1b(1)	General English 1 (1)		2		
	外国語 基礎 科目 の 外 国 語	ドイツ語初級 101 a (1) ドイツ語初級 101 b (1) ドイツ語初級 102 a (1) ドイツ語初級 102 b (1) フランス語初級 101 a (1) フランス語初級 101 b (1) フランス語初級 102 a (1) フランス語初級 102 b (1) 中国語初級 101 a (1) 中国語初級 101 b (1) 中国語初級 102 a (1) 中国語初級 102 b (1) スペイン語初級 101 a (1) スペイン語初級 101 b (1) スペイン語初級 102 a (1) スペイン語初級 102 b (1) ロシア語初級 101 a (1) ロシア語初級 101 b (1) ロシア語初級 102 a (1) ロシア語初級 102 b (1) インドネシア語初級 101 a (1) インドネシア語初級 101 b (1) インドネシア語初級 102 a (1) インドネシア語初級 102 b (1) コリア語初級 101 a (1) コリア語初級 101 b (1) コリア語初級 102 a (1) コリア語初級 102 b (1)				4	1年次で同一言語の101 a・bと102 a・bを履修しなければならない。 同一言語の初級科目をすべて(4科目4単位)履修あるいは修得した場合、他の言語の初級科目を履修することはできない。	
		スポーツリテラシー	スポーツリテラシー(1)					1
人文科学基礎 関連科目		作品を創る 1 作品を創る 2 日本の文学を読む 世界を越える文学への招待 英語圏の視点・民衆 歴史と社会・文化 歴史基礎入門	応用心理学入門 哲学入門 日本の思想 倫理学入門 倫理学と論理 芸術学入門	芸術の歴史 1 芸術の歴史 2 芸術学 異文化理解の人類学 異文化の現場から自然 人類学から見た近代世界 現代社会と人類学 ジャーナリズムと現代				卒業要件単位8単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 「教養テーマゼミナール論文」は、「教養テーマゼミナール」の単位を修得し、次年度以降に同一教員の「教養テーマゼミナール」を履修する場合に作成(履修)することができる。
社会科学基礎 関連科目		日本国憲法 社会学入門 政治学 経済学 地理学 自然環境の地理学 人文・社会環境の地理学	社会学入門 現代社会学 社会学の歴史 社会学思想と現代 社会学入門 社会学の場	教育と社会のダイナミズム 情報社会と人間(環境と認知) 情報社会と人間(情報デザイン) はじめての経営 マーケティングベーシックス				
自然科学系科目		基礎自然科学実験(1) 基礎自然科学実験 生物学101 生物学102 生物学201 生物学202	生物学301 生物学302 宇宙地球科学101 宇宙地球科学102 宇宙地球科学201 宇宙地球科学202	化学101 化学102 化学201 化学202 化学301 化学302	物理学101 物理学102 物理学201 物理学202 物理学301 物理学302	数理学101 数理学102 数理学201 数理学202 数理学301 数理学302		
融合領域科目			学際科目101 学際科目102 学際科目103 学際科目104	学際科目105 学際科目106 学際科目107 学際科目108	学際科目109 学際科目110 学際科目111(4) 学際科目112(4)	学際科目113(4) 学際科目114(4) 学際科目115(4)		
			テーマ科目201 テーマ科目202	テーマ科目203 テーマ科目204	テーマ科目205 テーマ科目206	テーマ科目207 テーマ科目208		
			新領域科目301 新領域科目302	新領域科目303 新領域科目304	新領域科目305			
			教養テーマゼミナール I (4)	教養テーマゼミナール II (4)	教養テーマゼミナール III (4)	教養テーマゼミナール論文		
英語 基礎 強化 応用		English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)				修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、それぞれ4単位まで履修することができる。 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目2単位まで履修することができる。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできない。 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目4単位まで履修することができる。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできない。 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目、同一年度に4単位、年度を越えてさらに4単位、合計8単位まで履修することができる。 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 同一言語の選択101a・bをセットで履修する。同一言語の初級101a・b, 102a・bをすべて(4科目4単位)履修あるいは修得した場合、同一言語の選択101a・bを履修することはできない。 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 海外語学短期研修は、夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修1に、春期留学プログラムを修了した場合に短期研修2に認定される。 海外語学中期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定される。
	Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b					
	ドイツ語中級 201 a (1) ドイツ語中級 201 b (1) ドイツ語中級 202 a (1) ドイツ語中級 202 b (1) フランス語中級 201 a (1) フランス語中級 201 b (1) フランス語中級 202 a (1) フランス語中級 202 b (1)	中国語中級 201 a (1) 中国語中級 201 b (1) 中国語中級 202 a (1) 中国語中級 202 b (1) スペイン語中級 201 a (1) スペイン語中級 201 b (1) スペイン語中級 202 a (1) スペイン語中級 202 b (1)	ロシア語中級 201 a (1) ロシア語中級 201 b (1) ロシア語中級 202 a (1) ロシア語中級 202 b (1) インドネシア語中級 201 a (1) インドネシア語中級 201 b (1) インドネシア語中級 202 a (1) インドネシア語中級 202 b (1)	コリア語中級 201 a (1) コリア語中級 201 b (1) コリア語中級 202 a (1) コリア語中級 202 b (1)				
	ドイツ語中級プラス 201 a ドイツ語中級プラス 201 b ドイツ語中級プラス 202 a ドイツ語中級プラス 202 b フランス語中級プラス 201 a フランス語中級プラス 201 b	フランス語中級プラス 202 a フランス語中級プラス 202 b 中国語中級プラス 201 a 中国語中級プラス 201 b 中国語中級プラス 202 a 中国語中級プラス 202 b	スペイン語中級プラス 201 a スペイン語中級プラス 201 b スペイン語中級プラス 202 a スペイン語中級プラス 202 b コリア語中級プラス 201 a コリア語中級プラス 201 b					
		ドイツ語上級 301 a ドイツ語上級 301 b フランス語上級 301 a フランス語上級 301 b 中国語上級 301 a 中国語上級 301 b スペイン語上級 301 a スペイン語上級 301 b		ロシア語上級 301 a ロシア語上級 301 b インドネシア語上級 301 a インドネシア語上級 301 b コリア語上級 301 a コリア語上級 301 b				
		選択ドイツ語 101 a (1) 選択ドイツ語 101 b (1) 選択フランス語 101 a (1) 選択フランス語 101 b (1) 選択中国語 101 a (1) 選択中国語 101 b (1)	選択スペイン語 101 a (1) 選択スペイン語 101 b (1) 選択コリア語 101 a (1) 選択コリア語 101 b (1) 選択アラビア語 101 a (1) 選択アラビア語 101 b (1)		選択イタリア語 101 a (1) 選択イタリア語 101 b (1)			
	世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(コリア語)				
	言語文化研究(ヨーロッパ) 1 言語文化研究(ヨーロッパ) 2	言語文化研究(アジア) 1 言語文化研究(アジア) 2	言語文化研究(アメリカ)					
	海外語学短期研修1(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)						
	海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)					
スポーツウェルネス	スポーツウェルネス(1)				1			
アドバンススポーツ	アドバンススポーツ					修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 アドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していない場合は、履修することはできない。		
スポーツ論	健康と生涯スポーツ スポーツと発育発達	オリンピックとスポーツ トレーニング科学	スポーツコーチング 人類とスポーツ					
自由選択修得要件単位					34			

日本語学科 (外国人留学生) 転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は、単位数を示す (記載のない科目は2単位)。

Table with columns: 区分, 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 卒業要件単位数, 備考. Rows include: 専修大学入門科目, 基礎統計学, 基礎自然科学, 外国語, 留學生専修科目, 人文科学基礎, 社会科学基礎, 自然科学系科目, 融合領域科目, 教養, 外国語, 海外語, 保健体育系科目.

自由選択修得要件単位数 34

日本文学文化学科

I 日本文学文化学科の特色

日本文学文化学科は古代から現代までの長い伝統を有する日本文学、これに緊密に関わる日本文化、その現代的実践を支える創作・理論という、三つの軸より成り立つ学科である。更にこれに関する学問領域として、中国文学や各種メディア関係の講義もある。

個々の詳しい内容は、本学修ガイドブックの専門科目一覧や、各講義の要項を参照してほしいが、おおまかに説明すれば以下のようになる。

文学では『万葉集』に始まり『源氏物語』、中世文学、江戸文学、更には明治から現在活躍中の作家の作品にいたるまで、それぞれを専門とする教員を配し、幅広く扱っている。また日本文学と不可分の関係にある中国文学や、他国の文学と日本文学を比較研究する比較文学の講義もある。

文化面では、民俗学や京都を中心とした伝統文化研究、現代メディアの重要な要素である出版文化やアニメーションの講義もある。

創作面では、文藝創作、書道、理論面では演劇、映画、マンガ等を研究する講義がある。

2・3・4年次のゼミナール1・2・3は必修科目である。学生は原則として3年間通して同じ教員の担当するゼミナールに属する。その指導のもと、専門知識を深め、卒業時には卒業論文、卒業作品を完成させる。

本学科の専門科目には、1年次より学べる基礎的な科目と、より高度な内容の科目がある。後者は、文学・文化、創作・理論の研究系科目が中心で、2年次以上で履修することができる。

本学科はこれまでの説明でもわかるように、多種多様な科目を用意しているが、各自の学問的関心や将来の進路志望によっては、他学部や他学科の科目を履修し、これを卒業要件単位に含むことも可能である。本学科は、所属の学生がそれぞれ自由に個性を伸ばし、卒業後も自信を持って社会へ飛び立ってゆけるよう導き、あるいはサポートしてゆくことを、学科の使命と考えている。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

以下では、卒業のために必要な諸要件と科目の具体的な履修方法について概説する。以下の説明をよく読み、それに沿って履修計画を立ててほしい。

1. 卒業要件

一般に大学を卒業するためにはいくつかの要件が必要であるが（一般的な要件についてはp.31「大学卒業の要件」を参照）、それに加えて、日本文学文化学科の学生には、以下の表に示した要件を充たすことが要求される。次項「科目の履修方法」を読み、具体的な履修方法を理解した上でこの表を改めて見直し、要求されるものが何であるかを確認してほしい。

		区 分		卒業要件単位	
転換・導入教育課程	専修大学基礎科目	専修大学入門科目		2	11
		基礎統計学			
		キャリア教育関連科目			
		情報リテラシー関連科目			
		基礎自然科学			
		外国語基礎科目	英語	4	
			英語以外の外国語	4	
スポーツリテラシー		1			
教養教育課程	教養科目	人文科学基礎関連科目		8	9
		社会科学基礎関連科目			
		自然科学系科目			
		融合領域科目			
		外国語系科目	英語		
			英語以外の外国語		
			海外語学研修		
		保健体育系科目	スポーツウェルネス	1	
			アドバンストスポーツ		
			スポーツ論群		
自由選択修得要件単位				28	
専門教育課程	専門科目	必修科目		20	76
		選択科目		56	

2. 科目の履修方法

日本文学文化学科の学生は、卒業までに専修大学入門科目2単位、専修大学基礎科目9単位、教養科目9単位、専門科目76単位、自由選択修得要件単位となる科目28単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。また各年次に修得する単位の目安（1年次38単位、2年次38単位、3年次36単位、4年次12単位）が定められているので、この条件も充たすように毎年の履修計画を立てなければならない。

なお、履修にあたっては、上記の二点に加え、以下の二点にも注意を払ってもらいたい。

まず**第一**は、配当年次が指定されている科目については、その年次に履修しなければならないということである。また、指定された配当年次が複数の学年にわたる科目や、配当年次の指定がない科目でも、それが選択科目である場合には、過重負担にならない限り、なるべく低年次で履修することが望ましい。

第二は、同一名称の科目は原則としてひとつしか履修できないということである。一度に同一名称の科目を2つ以上履修登録することはできないし、一度単位を修得した科目をもう一度履修することもできない。

上記の点を考慮し、各人の興味と関心に従って自由に独創的な時間割を組んでもらいたい。具体的な履修方法については以下に詳説するが、まずpp.97～102の表を概観し、カリキュラムの大枠を頭に入れておいてほしい。

(1) 転換・導入教育課程、教養教育課程の履修方法

転換・導入教育課程、教養教育課程にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので、履修に際しては注意しなければならない。転換教育課程はp.43に、導入教育課程はpp.44～52に、教養教育課程についてはpp.53～71に詳しい説明があるので、それを参考にして以下を確認してほしい。

1) 転換教育課程（専修大学入門科目）

転換教育課程に配置されている専修大学入門ゼミナールは、1年次に半期2単位を必ず修得しなければならない。

2) 導入教育課程（専修大学基礎科目）

① 外国語基礎科目

(i) 英語

1年次で英語4科目を履修し、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。A群のBasics of English (RL) 1a（前期）、1b（後期）またはIntermediate English (RL) 1a（前期）、1b（後期）の2科目と、B群のBasics of English (SW) 1a（前期）、1b（後期）またはIntermediate English (SW) 1a（前期）、1b（後期）の2科目を履修する。

(ii) 英語以外の外国語

1年次でドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、コリア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。初級101a(前期)、初級101b(後期)の2科目と、初級102a(前期)、初級102b(後期)の2科目を履修する。

② スポーツリテラシー

スポーツリテラシーは、1年次の前期に1単位を必ず修得しなければならない。

③ 上記以外の科目

上記以外の導入教育科目に配置された科目(データ分析入門、キャリア入門、情報入門Ⅰ、情報入門Ⅱ、あなたと自然科学)は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

3) 教養教育課程(教養科目)

① 人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から8単位履修しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので履修する際には注意しなければならない。人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は1、2年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は3、4年次で再履修することはできない。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されている。融合領域科目は2年次以降に開講される。

② 保健体育系科目

スポーツウェルネスは、1年次の後期に1単位必ず修得しなければならない。

③ 上記以外の教養教育課程科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

(2) 専門科目の履修方法

専門科目として開講される科目名称等についてはpp.189～200の「文学部専門科目一覧」を見てもらいたい。科目の中には、必ず修得しなければならない必修科目と多くの科目の中から自分の選びたいものを自由に選べる選択科目の2通りがある。ほとんどの科目は半年で完了する半期科目であるが、ゼミナールおよび書道科目の一部は一年を通じて行われる通年科目なので、注意してほしい。

① ゼミナール

ゼミナールは教員と学生同士が特定のテーマのもとにディスカッションしながら学ぶ少人数制の専門的な授業である。そのテーマや内容は年度ごとに示される。自らが関心を寄せる研究領域

をよく考えた上で、複数展開されるゼミナールの中から、自分にもっともふさわしいものを選んでほしい。ゼミナールは1年次の後期に開かれるゼミナールガイダンスに出席した上で提出した希望届によって決定する。

② 卒業論文

卒業論文は、4年次生が大学生活の総決算として作成する論文である。4年次生は卒業論文のために特に指導教員の指導を受けるが、早い者は1年次の終り頃から題目の選定にかかり、念入りに準備してとりかかる一大事業である。レポートとは異なり、学問のレベルを突破しようとする野心作でなければならない。多くの労力を費やすことになるため、4年次はほとんどこれに専心できるような態勢をととのえておく必要がある。

所定の単位を修得し、この卒業論文を提出し、論文についての口述試験に合格して、はじめて学士（文学）の学位が与えられることになる。なお、ゼミナール1・2の単位が未修得の場合でも、4年次の卒業論文の提出は認められる。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは、上記の教養科目および専門科目の卒業要件単位をすべて修得した上で、さらに履修する科目の総称である。したがって自由選択修得要件単位に算入されるものは以下の6つである。

- a. 転換・導入教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 選択科目の卒業要件単位を超えて修得した日本文学文化学科開講の専門科目の単位。
- d. 日本文学文化学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
- e. 教職に関する科目ならびに司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし8単位まで。（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）
- f. 日本文学文化学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし28単位まで。

自由選択修得要件単位となる科目の履修方法は、学生各自の裁量に委ねられる。それぞれの興味と関心に応じ、自由に独創的な時間割を組んでもらいたい。ただし、卒業までに自由選択修得要件単位数が28単位に達していなければならないことを忘れないでほしい。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

日本文学文化学科の学生に課されている専門科目の必修単位数は4科目20単位である。何らかの理由でこれらの単位を修得できなかった場合、必ず次の年次で同一名称の科目を再履修しなければならない。再履修科目はすべてに優先して履修しなければならない点を銘記しておいてほしい。ただし、ゼミナールは、2年次でゼミナール1、3年次でゼミナール2、4年次でゼミナール3がそれぞれ必修科目となっており、同一年次に複数のゼミナールを履修することは原則として認められていないことから、例えば2年次でゼミナール1の単位が修得できなかった場合、その単位は5年次に再履修することになる。この点は注意を要する。

② 選択科目の再履修

選択科目の単位を修得できなかった場合は、必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく、別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能である。

日本文学文化学科 (外国人留学生) 転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は、単位数を示す (記載のない科目は2単位)。

Table with columns: 区分, 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 卒業要件単位数, 備考. Rows include categories like 専修大学入門科目, 基礎統計学, 基礎自然科学, 外国語, 人文科学基礎, 社会科学基礎, 自然科学系科目, 融合領域科目, 教養, 外国語, 基礎, 応用, 海外語, 海外語短期研修, アドバンススポーツ, and 保健体育系科目.

自由選択修得要件単位数

28

日本文学文化学科専門科目一覧

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は配当年次を示す。

区分	1 年 次			2 年 次			3 年 次			4 年 次			備 考	卒業要件 単 位
	科 目 名	単 位	必・選	科 目 名	単 位	必・選	科 目 名	単 位	必・選	科 目 名	単 位	必・選		
転換・導入教育課程														11
教養教育課程														9
専 門 教 育 課 程	必修科目			ゼミナール1	4	○	ゼミナール2	4	○	ゼミナール3 卒業論文	4	○	4科目20単位必修	20
	選 択 科 目			日本文学概論1 (方法) (1・2・3・4)							2	△	56 単位選択	56
日本文学概論2 (理論) (1・2・3・4)										2	△			
日本文学講義1 (1・2・3・4)										2	△			
日本文学講義2 (1・2・3・4)										2	△			
日本文学講義3 (1・2・3・4)										2	△			
日本文学講義4 (1・2・3・4)										2	△			
日本文学講義5 (1・2・3・4)										2	△			
日本文学講義6 (1・2・3・4)										2	△			
日本文化講義1 (1・2・3・4)										2	△			
日本文化講義2 (1・2・3・4)										2	△			
日本文化講義3 (1・2・3・4)										2	△			
日本文化講義4 (1・2・3・4)										2	△			
日本文化講義5 (1・2・3・4)										2	△			
日本文化講義6 (1・2・3・4)										2	△			
中国文学講義1 (1・2・3・4)										2	△			
中国文学講義2 (1・2・3・4)										2	△			
出版文化論1 (1・2・3・4)										2	△			
出版文化論2 (1・2・3・4)										2	△			
ビジュアル文化論 (1・2・3・4)										2	△			
児童文学研究 (1・2・3・4)										2	△			
日本文学実地研究 (1・2・3・4)										2	△			
民俗文化論1 (1・2・3・4)										2	△			
民俗文化論2 (1・2・3・4)										2	△			
日本文学研究1 (2・3・4)										2	△			
日本文学研究2 (2・3・4)										2	△			
日本文学研究3 (2・3・4)										2	△			
日本文学研究4 (2・3・4)										2	△			
日本文学研究5 (2・3・4)										2	△			
日本文学研究6 (2・3・4)										2	△			
日本文学研究7 (2・3・4)										2	△			
日本文学研究8 (2・3・4)										2	△			
現代文学研究1 (2・3・4)										2	△			
現代文学研究2 (2・3・4)										2	△			
中国文学研究1 (2・3・4)										2	△			
中国文学研究2 (2・3・4)										2	△			
比較文学研究1 (2・3・4)										2	△			
比較文学研究2 (2・3・4)										2	△			
文藝創作1 (2・3・4)										2	△			
文藝創作2 (2・3・4)										2	△			
日本文学通史1 (古典) (2・3・4)										2	△			
日本文学通史2 (近現代) (2・3・4)										2	△			
中国文学史1 (2・3・4)										2	△			
中国文学史2 (2・3・4)										2	△			
日本文化研究1 (2・3・4)										2	△			
日本文化研究2 (2・3・4)										2	△			
日本文化研究3 (2・3・4)										2	△			
日本文化研究4 (2・3・4)										2	△			
日本文化研究5 (2・3・4)										2	△			
日本文化研究6 (2・3・4)										2	△			
日本文化研究7 (2・3・4)										2	△			
日本文化研究8 (2・3・4)										2	△			
アジア文化研究1 (2・3・4)										2	△			
アジア文化研究2 (2・3・4)										2	△			
マンガ研究1 (2・3・4)										2	△			
マンガ研究2 (2・3・4)										2	△			
比較文化研究1 (2・3・4)										2	△			
比較文化研究2 (2・3・4)										2	△			
伝統文化研究1 (2・3・4)										2	△			
伝統文化研究2 (2・3・4)										2	△			
演劇研究1 (2・3・4)										2	△			
演劇研究2 (2・3・4)										2	△			
現代文化研究1 (2・3・4)										2	△			
現代文化研究2 (2・3・4)										2	△			
映画研究1 (2・3・4)										2	△			
映画研究2 (2・3・4)										2	△			
書道1 (1・2・3・4)										2	△			
書道2 (1・2・3・4)										2	△			
書道3 (1・2・3・4)										2	△			
書道4 (1・2・3・4)										2	△			
書道5 (1・2・3・4)										2	△			
書道6 (1・2・3・4)										2	△			
				書道史 (2・3)				2	△					
				書道美学論 (2・3)				2	△					
自由選択 修得要件 単 位 と なる科目	日本文学文化学科の学生に受講が認められている転換・導入教育課程, 教養教育課程, 専門教育課程の科目。 教職・司書・司書教諭・学校司書課程の科目の一部(詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)。全学公開科目。											△	28	
年次修得 単 位 の 目 安	38			38			36			12				124

英語英米文学科

I 英語英米文学科の学生のために

1. 英語英米文学科の特色

近年インターネットやSNSやe-mailの発達により、今や私たちは、場所や時間に制約されることなく、かつほんのわずかな時間で、世界の出来事を知り、また自らのメッセージを世界に向けて発信することができるようになった。このように高度に発達した情報化社会の中で生きる現代人を結びつけているのが国際語としての「英語」である。私たちは英語を通して世界を知り、英語を通して自らの意思を伝えており、英語の果たす役割は今後もさらに重要なものになることと思われる。

英語英米文学科では、このような国際化の進む社会の中で活躍できる人材を育てることを目標としている。社会のニーズにより適切に応えることができるように平成22年度にカリキュラムを大幅に改編した。カリキュラムの特徴としては「きめ細やかな指導」、「参加型・発信型の授業の展開」、および「英語力と教養の充実」の3点が挙げられる。

これら3つの特色は1年次教育に顕著に見られる。英語英米文学科では2年次より英米文学、英米研究、英語学、および応用言語学の4つの専門分野に関する講義科目を展開しているが、「英語英米文学概論1, 2」はこれら4つの分野の概要を紹介し、専門的な講義科目を理解するために必要な基礎的な知識・教養を提供する入門授業としての役割を担っている。

また、平成26年度から1年生を対象に全学部で導入された半期科目「専修大学入門ゼミナール」において、学生は少人数のクラスで専修大学の歴史を学び、大学で学ぶことの意義について考える。4年間を通じて、自分自身について、自分が置かれている環境について知り、大学卒業後の姿が思い描けるような道筋をつける助けをする。それと同時に、大学での学修の基礎となるアカデミック・スキルを身につけるための導入ゼミナールとしての性格も併せ持ち、学生は、図書館の利用法、情報検索の方法、文献の読み方、レポートの書き方、グループ・ディスカッションの進め方、プレゼンテーションの仕方などの作業に主体的に取り組み、情報を「受信」するだけでなく、自らの視点で分析した内容を「発信」する訓練を積むことになっている。

この専修大学入門ゼミナールは、後期には、listening, speaking, reading, writingという英語の4技能を総合的に学ぶ「専門入門ゼミナール」にそのまま移行し、20人程度という少人数クラスで、学生のレベルにあった「きめ細やかな指導」を行うことにより学生の基礎的な「英語力」の向上を目指す。

1年次では、学科の専任教員が担任としてクラスの指導に当たり、各学生の長所・短所を考慮に入れながら今後の大学での学修等について適切なアドバイスをすることになっている。こうしたきめ細やかな指導は2年次の「英語総合演習1, 2」に引きつがれることになっている。

2年次以降は「英語コミュニケーションコース」と「英語文化コース」のいずれかのコースに所属して、英米文学、英米研究、英語学、および応用言語学の4つの専門分野に関する「専門知識や教養」を身につけていくことになる。専門講義はすべて2年次から受講することができ、学生は早

い段階から専門性を培うことができるように工夫されている。「英語文化コース」は、「英語」ということばのしくみや歴史、英語で表現された文学、そして英語の文化的背景などについて学び教養を深めることを目指している。伝統的な専門領域だけではなく、「英米映画論1, 2」など現代的なテーマを扱う講義も開講されている。「英語コミュニケーションコース」は、1年次で養った英語力をさらに向上させ、さまざまなコミュニケーションの場面に対応できる運用力を身につけることを目的としたコースである。新カリキュラムにおいては、「英語コミュニケーションコース」を専攻した学生にはアメリカ、ニュージーランド等にある専修大学の協定校に留学することを積極的に奨励しており、留学で学んだ成果は「中期留学」という科目名で単位認定することができるようにした。

本学では中期留学だけでなく、短期、 Semester、長期とさまざまな形態の留学プログラムを用意しているので、コースを問わず在学中に是非一度は留学をし、英語力を高めると共に、異文化に触れることにより考え方や視野を広げることに挑戦してほしい。また教員を志望する学生は教職科目も履修し、教員への道を目指してほしい。

3年次以降は、各学生はゼミナールに所属し、英語の運用力を高めるとともに専門的な知識をさらに深めていくことになる。英語英米文学科では15名から20名程度からなる小規模編成によるゼミナールを展開しており、学生と教員および学生同士の関係も緊密で、「大学時代のよき思い出」を創ることのできる貴重な場となりうる。4年次には大学での学修の最終的な成果として卒業研究に取り組むことになる。英語英米文学科では学生の創造性に答えることができるよう、従来の「論文形式」だけでなく、通訳コンテスト、プレゼンテーション、ホームページ作成、翻訳作品などの斬新で多様な形態を取り入れている。

このように4年間で、「きめ細やかな指導」により「英語力と教養」を磨き、専門知識を深め、自らの意見や見解を「発信」する力を身につけた後は、さまざまなキャリアを目指して社会に巣立ち羽ばたいてほしいと願っている。

2. 1年次の履修に当たって

1年次で、英語英米文学科での学修の基礎と英語力を高めることが重要課題である。そのため、listening, speaking, reading, writingの4技能に関する多様な科目を履修することになっている。後期から始まる「専門入門ゼミナール」では自分の英語のレベルに応じて、足りない部分を補強し得意な部分をより一層伸ばすことを目指している。「英語英米文学概論1, 2」は2年次以降の専門科目への橋渡しの役割を担っている入門講義であり、かつ大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ授業でもある。また、「専修大学入門ゼミナール」では、専修大学の歴史を学び、大学で学ぶことの意義について考える。これらの科目はすべて必修科目であり、英語英米文学科の1年生は必ずこれらの科目の単位を修得しなければならない。1年次でこれらの科目の単位を履修できない場合、2年次以降希望のコースに進むことができなくなったり、2年次での時間割編成が困難になることがあるので、十分注意してほしい。

3. コース分けについて

英語英米文学科の学生は、1年次から2年次に進級する時に、「英語コミュニケーションコース」と「英語文化コース」の2コースのいずれかに所属することになる。コース志望調査は1年次の秋

に行い、英語コミュニケーションコースへの志望者が当該学年在籍数の4分の1を超えた時には選抜が行われる。英語コミュニケーションへの選抜は、1年次の秋に実施される2回目のプレイスメント・テストの成績を基準とし、1年次の専門必修科目の単位をすべて修得することを条件にして行われる。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

以下に大学を卒業するために必要な要件と、科目の具体的な履修方法について概説する。説明をよく読み、それに沿って履修計画を立ててほしい。

1. 卒業要件

一般に大学を卒業するためにはいくつもの要件があるが（一般的な要件については、p.31「大学卒業の要件」を参照）、それに加えて、英語英米文学科の学生には、以下の表に示した要件を充たすことが要求されている。次項「科目の履修方法」を読み、具体的な履修方法を理解した上でこの表を改めて見直し、何が必要か確認してほしい。

[英語コミュニケーションコース]

		区 分	卒業要件単位		
転換・導入教育課程	専修大学基礎科目	専修大学入門科目	2	9	
		専門入門ゼミナール	2		
		基礎統計学			
		キャリア教育関連科目			
		情報リテラシー関連科目			
		基礎自然科学			
		外国語基礎科目	英語以外の外国語		4
		スポーツリテラシー			1
教養教育課程	教養科目	人文科学基礎関連科目	8	9	
		社会科学基礎関連科目			
		自然科学系科目			
		融合領域科目			
		外国語系科目	英語		
			英語以外の外国語		
			海外語学研修		
		保健体育系科目	スポーツウェルネス		1
			アドバンススポーツ		
			スポーツ論群		
自由選択修得要件単位			22		
専門教育課程	専門科目	必修科目	40	84	
		選択必修科目	44		
		選択科目			

[英語文化コース]

		区 分	卒業要件単位		
転換・導入教育課程	専修大学基礎科目	専修大学入門科目	2	9	
		専門入門ゼミナール	2		
		基礎統計学			
		キャリア教育関連科目			
		情報リテラシー関連科目			
		基礎自然科学			
		外国語基礎科目 英語以外の外国語	4		
スポーツリテラシー	1				
教養教育課程	教養科目	人文科学基礎関連科目	8	9	
		社会科学基礎関連科目			
		自然科学系科目			
		融合領域科目			
		外国語系科目	英語		
			英語以外の外国語		
			海外語学研修		
		保健体育系科目	スポーツウェルネス		1
			アドバンススポーツ		
			スポーツ論群		
自由選択修得要件単位			34		
専門教育課程	専門科目	必修科目	32	72	
		選択必修科目	40		
		選択科目			

2. 科目の履修方法

英語英米文学科の学生は、上表にある通り、英語コミュニケーションコースを専攻する場合は、専修大学入門科目2単位、専修大学基礎科目7単位、教養科目9単位、専門科目84単位、自由選択修得要件単位となる科目22単位以上、英語文化コースを専攻する場合は、それぞれ2単位、7単位、9単位、72単位、34単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。また、各年次に修得する単位の目安（1年次36単位、2年次38単位、3年次38単位、4年次12単位）が定められているので、この条件をも満たすよう毎年の履修計画を立てなければならない。

履修にあたっては、さらに以下の2点にも注意を払ってほしい。

- ① 配当年次が指定されている科目は、その年次に履修しなければならない。配当年次が複数の学年にわたって指定されている科目や、指定がない科目については、前記修得単位の目安も考慮しながら、各自が自分に合った履修計画を充分練って、年次配分を考えてほしい。その場合に必ず必修科目を優先的に修得するよう配慮しなければならない。
- ② 同一名称の科目は原則として1つしか履修できない（一部の教養科目を除く）。また、一度

単位を修得した科目をもう一度履修することもできない。

ただし、同一名称であっても内容が異なれば「Special Seminar」は、4科目8単位まで履修することができる。

上記の点を考慮し、各自の興味と関心に従って自由に独創的なカリキュラムを組んでほしい。

(1) 転換・導入教育課程，教養教育課程の履修方法

転換・導入教育課程，教養教育課程にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので，履修に際しては注意しなければならない。転換教育課程は p.43 に，導入教育課程は pp.44～52 に，教養教育課程については pp.53～71 に詳しい説明があるので，それを参考にして以下を確認してほしい。

1) 転換教育課程（専修大学入門科目）

転換教育課程に配置されている「専修大学入門ゼミナール」は，1年次に半期2単位を必ず修得しなければならない。

2) 導入教育課程（専修大学基礎科目）

① 専門入門ゼミナール

「専門入門ゼミナール」は，1年次に半期2単位を必ず修得しなければならない。

② 外国語基礎科目

(i) 英語以外の外国語

1年次でドイツ語，フランス語，中国語，スペイン語，ロシア語，インドネシア語，ロシア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して，前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。「初級101a（前期）」，「初級101b（後期）」の2科目と，「初級102a（前期）」，「初級102b（後期）」の2科目を履修する。

③ スポーツリテラシー

「スポーツリテラシー」は，1年次の前期に1単位を必ず修得しなければならない。

④ 上記以外の科目

上記以外の導入教育科目に配置された科目（「データ分析入門」，「キャリア入門」，「情報入門Ⅰ」，「情報入門Ⅱ」，「あなたと自然科学」）は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

3) 教養教育課程（教養科目）

① 人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から8単位履修しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので履修する

際には注意しなければならない。人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は1, 2年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は3, 4年次で再履修することはできない。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されている。融合領域科目は2年次以降に開講される。

② 保健体育系科目

「スポーツウェルネス」は、1年次の後期に1単位必ず修得しなければならない。

③ 上記以外の教養教育課程科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

(2) 専門科目の履修方法

専門科目は、演習科目、特殊演習科目、講義科目、ゼミナールおよび卒業研究の4つの科目群から構成されている。それぞれの科目群に開講される科目名称等についてはpp.189～200の「文学部専門科目一覧」を参照してほしい。各科目は、必修科目（○のついた科目）、選択必修科目（◎のついた科目）、選択科目（△のついた科目）のいずれかに指定されている。必修科目と選択必修科目はコースによって異なるので、2年次以降は自分の属するコースで指定されている科目を履修するよう注意しなければならない。

(a) 演習科目

演習科目は高校までに修得した英語をもとに、英語の4技能（聴く、話す、読む、書く）の基礎的な運用力を養うための科目である。そのうち、「Composition 1, 2」と「Oral Communication 1～4」は通常のクラスを二分して、少人数クラスで受講するよう配慮されている。1年次に開講される演習科目は各コースともすべて必修科目となっている。2年次以降はコースによって開講科目、修得方法が異なるので、後述のコース別の履修方法を参照してほしい。

(b) 特殊演習科目

特殊演習科目は主として翻訳、通訳等の実務英語に関わる科目と、高度な講読、作文、会話等の訓練を行う演習科目からなっている。このうち「通訳入門1, 2」, 「翻訳入門1, 2」は英語コミュニケーションコースの学生には必修科目となっている。また、英語文化コースに属する2年次生で3年次に英語コミュニケーションコースに変更を希望する学生も、これらの科目をすべて修得していなければならない。詳しい履修方法については後述のコース別の履修方法を参照してほしい。

(c) 講義科目

講義科目は英語学、英米文学、英米研究、応用言語学のさまざまなテーマに関する講義を行う科目である。これらの中には隔年に開講される科目が多数あるので、履修計画を立てる際には注意が必要である。

(d) ゼミナールおよび卒業研究

英語英米文学科では1年次に「英語英米文学概論1, 2」を必修科目として開講している。こ

ここでは、英語学・応用言語学および英米文学・英米研究の2つの領域について、各クラスに2名の教員が半期毎に担当し、専門科目への導入を図る。なお、1年次で「英語英米文学概論1, 2」を修得できなかった学生は2年次のコース分けに際して支障をきたす場合があるので注意してほしい。さらに3, 4年次にはゼミナール1～4が必修科目として開講され、学生はいずれかのゼミナールに所属しなければならない。そして、4年次には卒業研究が必修科目として課されている。4年間学んできたことの中で特に関心のある分野やテーマについて、自分なりにまとめることが求められる。卒業研究の形式は論文形式のほか、Power Point を利用した英語によるプレゼンテーション・ホームページ作成、日英通訳のコンテストと日⇄英の翻訳も認められている。詳細については、『文学部時間割』巻末の「卒業研究の手びき」を参照の上、それぞれの「卒業研究」の指導教員の指導に従う必要がある。ゼミナールの履修に当たっては、以下の申合せ事項があるので、注意してもらいたい。

- ① 「ゼミナール1, 2」は同じ名称のゼミナールを複数履修することを認めない。
- ② 「ゼミナール3, 4」は同じ名称のゼミナールを複数履修することを認めない。
- ③ 「ゼミナール1, 2」が未取得の場合、その再履修は4年次で認める。また、卒業研究の履修も認める。同じ教員のゼミナールが原則だが、ただし、「ゼミナール3, 4」が「ゼミナール1, 2」と合併で展開している場合は別の「ゼミナール1, 2」を履修しなくてはならない。
- ④ 「ゼミナール1, 2」と「ゼミナール3, 4」は積み上げを原則とするが、異なる専門領域で卒業研究を行いたい意志がはっきりした学生については、もとのゼミナールの教員と移行するゼミナールの教員の下承を得た上で、学科会議に諮って認められる。
- ⑤ 「英語英米文学概論1, 2」を修得していることを「ゼミナール1, 2, 3, 4」, 「卒業研究」の履修要件とはしない。
- ⑥ 「ゼミナール1」のみ、または「ゼミナール2」のみが未取得の場合も上記③に準ずる。

次に、各コースの履修方法を年次を追って概略説明する。

1年次はコースに分かれていないため、英語英米文学科の全学生共通に、演習科目が10科目10単位、および「英語英米文学概論1, 2」(4単位)が必修科目として指定されている。これらの科目はすべてクラス単位の授業となるので、学生は必ず自分が属するクラスの授業を受講しなければならない。

① 英語コミュニケーションコース

2年次には、演習科目として「英語総合演習1」など4科目、特殊演習科目として「通訳入門1」など4科目が必修科目に指定されている。

選択必修科目に関しては、演習科目として2年次に開講される「Advanced Reading 1」など6科目、2, 3, 4年次に開講されている「中期留学1～4」の4科目、および演習科目として3, 4年次に開講される「Advanced Reading 3」など8科目、これら合計18科目の中から4科目履修しなければならない。更に、特殊演習科目として2年次に開講される「国際理解1」などの6科目、2, 3, 4年次に開講されている「中期留学5～8」の4科目、および特殊演習科

目として3, 4年次に開講される「通訳演習1」など12科目, これら合計22科目の中から8科目履修しなければならない。

3, 4年次には, 「ゼミナール1~4」, および「卒業研究」が必修科目に指定されている。その他, 2, 3, 4年次に開講されている選択必修科目からいずれか10科目20単位を修得しなければならない。

なお, 3, 4年次に開講されている「通訳演習1, 2」と「翻訳演習1~4」は, 2年次に開講されている「通訳入門1, 2」及び「翻訳入門1, 2」の単位をそれぞれ修得していなければ履修することができない。

残り22単位は, 英語英米文学科が開講する選択科目, および, 英語英米文学科の学生に受講が認められているその他の科目の中から自由に選択履修することができる。

② 英語文化コース

2年次には演習科目である「英語総合演習1, 2」および「Oral Communication 5, 6」の4科目が必修科目に指定されている。これらの演習科目もクラスが指定されているので, 自分の属するクラスの授業を受講しなければならない。

また, 2年次に開講される「Advanced Reading 1」など6科目, および3, 4年時に開講される「Advanced Reading 3」など10科目, これら合計16科目の中から4科目履修しなければならない。更に, 2年次に開講される国際理解1など4科目, および3, 4年時に開講される「Business & English 1」など6科目, これら合計10科目の中から2科目履修しなければならない。

3, 4年次にはゼミナール1~4, および卒業研究が必修科目に指定されている。

講義科目については, 2, 3, 4年次に開講される講義科目の中から14科目28単位を履修しなければならない。講義科目の中には隔年開講の科目が多数あるので開講年次に注意して履修してほしい。

残り34単位は, 英語英米文学科が開講する選択科目, および英語英米文学科の学生に受講が認められているその他の科目の中から自由に選択履修することができる。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは, 上記の教養科目および専門科目の卒業要件単位をすべて修得した上で, さらに履修する科目の総称である。したがって自由選択修得要件単位に算入されるのは以下の7つである。

- a. 転換・導入教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 英語英米文学科の各コースで指定された選択必修科目の卒業要件単位を超えて修得した英語英米文学科開講の専門科目の単位。
- d. 英語英米文学科の各コースで指定された専門選択科目の修得単位。
- e. 英語英米文学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
- f. 教職に関する科目ならびに司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし8単位まで。(詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)

g. 英語英米文学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし16単位まで。自由選択修得要件単位となる科目の履修方法は、原則として学生の裁量に任せられている。それぞれの興味と関心に応じ、自由にカリキュラムを組んでほしい。いずれにしても、卒業までに各コースに必要な自由選択修得要件単位数に達するよう注意を払わなければならない。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

何らかの理由で必修科目の単位が修得できなかった学生は、必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修しなければならない。必修科目の再履修はすべての科目に優先して履修しなければならない。なお、前述したように、一度単位を修得した科目の再履修はできない。

② 選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を修得できなかった場合は、必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく、別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能である。

(5) 中期留学をした場合の単位認定について

英語英米文学科においては、本学協定校等で所定の中期留学プログラム（英語）の単位を取得した場合、単位認定は次のように行うものとする。

1. 中期留学の単位認定は、16単位をまとめて行うものとし、一部での単位認定は認めない。
2. 中期留学の単位認定においては、英語英米文学科の専門科目（中期留学1～8）のみを読み替えの対象とする。ただし、2回目の中期留学については、教養科目（海外語学中期研修Ⅰ～Ⅷ）の単位に充当することができる。
3. 中期留学に2回参加する場合、同一国に留学した場合でも単位認定の対象とする。ただし同一の大学に留学した場合は単位認定の対象とはしない。

(6) セメスター、長期留学した場合の単位認定について

英語英米文学科においては、本学協定校等にセメスター、長期留学した場合には、協定校における履修状況（履修した科目及び成績）を検討した上で、英語英米文学科の卒業要件に含まれる単位に読み替えることとする。

英語英米文学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考	
転換専修導入大学基礎科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール			2	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。	
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール			2		
	基礎統計学	データ分析入門					
	キャリア教育関連科目	キャリア入門					
	情報リテラシー関連科目	情報入門Ⅰ 情報入門Ⅱ					
	基礎自然科学	あなたと自然科学				1年次で同一言語の101a・bと102a・bを履修しなければならない。 同一言語の初級科目をすべて(4科目4単位)履修あるいは修得した場合、他の言語の初級科目を履修することはできない。	
	英語	ドイツ語初級101a(1) ドイツ語初級101b(1) ドイツ語初級102a(1) ドイツ語初級102b(1) フランス語初級101a(1) フランス語初級101b(1) フランス語初級102a(1) フランス語初級102b(1) 中国語初級101a(1) 中国語初級101b(1) 中国語初級102a(1) 中国語初級102b(1) スペイン語初級101a(1) スペイン語初級101b(1) スペイン語初級102a(1) スペイン語初級102b(1) ロシア語初級101a(1) ロシア語初級101b(1) ロシア語初級102a(1) ロシア語初級102b(1) インドネシア語初級101a(1) インドネシア語初級101b(1) インドネシア語初級102a(1) インドネシア語初級102b(1) 韓国語初級101a(1) 韓国語初級101b(1) 韓国語初級102a(1) 韓国語初級102b(1)					4
	外国語						
	基礎外国語						
	科目						
スポーツリテラシー	スポーツリテラシー(1)				1		
教養	人文科学基礎関連科目	作品を創る1 作品を創る2 日本の文学 世界の文学を読む 越境する文学 歴史の視点 歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化 基礎心理学入門 応用心理学入門	哲学入門 哲学の歴史 日本思想入門 倫理とは何か 倫理学のあゆみ 論理学入門 ことばと論理 芸術学入門1 芸術学入門2 芸術の歴史1	芸術の歴史2 芸術学を学ぶ 異文化理解の人類学 異文化の現場から 人類の暮らしと自然 人類学から見た近代世界 現代社会と人類学 ジャーナリズムと現代		卒業要件単位8単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 「教養テーマゼミナール論文」は、「教養テーマゼミナール」の単位を修得し、次年度以降に同一教員の「教養テーマゼミナール」を履修する場合に作成(履修)することができる。	
	社会科学基礎関連科目	日本国憲法と社会 政治学入門 経済と社会 地理学への招待 自然環境の地理学 人文・社会環境の地理学	社会学入門 現代の社会学 社会科学の方法 社会思想の歴史 社会思想と現代 教育学入門 学びの場の教育学	教育と社会のダイナミズム 情報社会と人間(環境と認知) 情報社会と人間(情報デザイン) はじめての経営 マーケティングペーシックス			
	自然科学系科目	基礎自然科学実験(1) 基礎自然科学実験 生物学101 生物学102 生物学201 生物学202	生物学301 生物学302 宇宙地球科学101 宇宙地球科学102 宇宙地球科学201 宇宙地球科学202	化学101 化学102 化学201 化学202 化学301 化学302	物理学101 物理学102 物理学201 物理学202 物理学301 物理学302		数理科学101 数理科学102 数理科学201 数理科学202 数理科学301 数理科学302
	融合領域科目		学際科目101 学際科目102 学際科目103 学際科目104	学際科目105 学際科目106 学際科目107 学際科目108	学際科目109 学際科目110 学際科目111(4) 学際科目112(4)	学際科目113(4) 学際科目114(4) 学際科目115(4)	8
			テーマ科目201 テーマ科目202	テーマ科目203 テーマ科目204	テーマ科目205 テーマ科目206	テーマ科目207 テーマ科目208	
			新領域科目301 新領域科目302	新領域科目303 新領域科目304	新領域科目305		
			教養テーマゼミナールⅠ(4)		教養テーマゼミナールⅡ(4)	教養テーマゼミナールⅢ(4)	
	教養育科目	英語	Computer Aided Instruction a(1) Computer Aided Instruction b(1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a(1) Computer Aided Instruction for TOEIC b(1)			修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、それぞれ4単位まで履修することができる。
		基礎	Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b		
		外国語	基礎	ドイツ語中級201a(1) ドイツ語中級201b(1) ドイツ語中級202a(1) ドイツ語中級202b(1) フランス語中級201a(1) フランス語中級201b(1) フランス語中級202a(1) フランス語中級202b(1)	中国語中級201a(1) 中国語中級201b(1) 中国語中級202a(1) 中国語中級202b(1) スペイン語中級201a(1) スペイン語中級201b(1) スペイン語中級202a(1) スペイン語中級202b(1)	ロシア語中級201a(1) ロシア語中級201b(1) ロシア語中級202a(1) ロシア語中級202b(1) インドネシア語中級201a(1) インドネシア語中級201b(1) インドネシア語中級202a(1) インドネシア語中級202b(1)	韓国語中級201a(1) 韓国語中級201b(1) 韓国語中級202a(1) 韓国語中級202b(1)
基礎強化			ドイツ語中級プラス201a ドイツ語中級プラス201b ドイツ語中級プラス202a ドイツ語中級プラス202b フランス語中級プラス201a フランス語中級プラス201b	フランス語中級プラス202a フランス語中級プラス202b 中国語中級プラス201a 中国語中級プラス201b 中国語中級プラス202a 中国語中級プラス202b	スペイン語中級プラス201a スペイン語中級プラス201b スペイン語中級プラス202a スペイン語中級プラス202b 韓国語中級プラス201a 韓国語中級プラス201b	韓国語中級プラス202a 韓国語中級プラス202b	
応用			ドイツ語上級301a ドイツ語上級301b フランス語上級301a フランス語上級301b 中国語上級301a 中国語上級301b スペイン語上級301a スペイン語上級301b		ロシア語上級301a ロシア語上級301b インドネシア語上級301a インドネシア語上級301b 韓国語上級301a 韓国語上級301b		
選択			選択ドイツ語101a(1) 選択ドイツ語101b(1) 選択フランス語101a(1) 選択フランス語101b(1) 選択中国語101a(1) 選択中国語101b(1)	選択スペイン語101a(1) 選択スペイン語101b(1) 選択韓国語101a(1) 選択韓国語101b(1) 選択アラビア語101a(1) 選択アラビア語101b(1)	選択イタリア語101a(1) 選択イタリア語101b(1)		
世界の言語と文化(ドイツ語)			世界の言語と文化(中国語)	世界の言語と文化(ロシア語)	世界の言語と文化(韓国語)		
世界の言語と文化(フランス語)			世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(インドネシア語)			
言語文化研究(ヨーロッパ)1 言語文化研究(ヨーロッパ)2			言語文化研究(アジア)1 言語文化研究(アジア)2	言語文化研究(アメリカ)			
海外語学短期研修1(外国語)			海外語学短期研修2(外国語)				
海外語学中期研修1(外国語)	海外語学中期研修2(外国語)	海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)			
保健体育系科目	スポーツウェルネス アドバンススポーツ スポーツ論	スポーツウェルネス(1) アドバンススポーツ 健康と生涯スポーツ スポーツと発育発達	オリンピックとスポーツ トレーニング科学	スポーツコーチング 人類とスポーツ	1	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 アドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することはできない。	
自由選択修得要件単位					22	英語コミュニケーションコース	
					34	英語文化コース	

英語英米文学科（外国人留学生）転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（ ）内の数字は、単位数を示す（記載のない科目は2単位）。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位数	備考			
転換・導入教育基礎科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール			2	修得した単位は、自由選択修得要件単位数に算入される。			
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール			2				
	基礎統計学	データ分析入門							
	キャリア教育関連科目	キャリア入門							
	情報リテラシー関連科目	情報入門Ⅰ 情報入門Ⅱ							
	基礎自然科学	あなたと自然科学							
	外国語基礎科目	日本語	日本語文章理解1・2(1) 日本語音声理解1・2(1) 日本語口頭表現1・2(1) 日本語文章表現1・2(1)				8	各科目の「1」は前期開講、「2」は後期開講とし、「1」と「2」はセットで履修しなければならない。各科目の前期「1」を単位修得できない場合、後期「2」の履修は削除しなければならない。	
		母語以外の外国語	ドイツ語初級101 a・b(1) ドイツ語初級102 a・b(1) フランス語初級101 a・b(1) フランス語初級102 a・b(1) 中国語初級101 a・b(1) 中国語初級102 a・b(1) スペイン語初級101 a・b(1) スペイン語初級102 a・b(1) ロシア語初級101 a・b(1) ロシア語初級102 a・b(1) インドネシア語初級101 a・b(1) インドネシア語初級102 a・b(1) 韓国語初級101 a・b(1) 韓国語初級102 a・b(1)				13		同一言語の101 a・bと102 a・bを履修しなければならない。 同一言語の初級科目をすべて（4科目4単位）履修あるいは修得した場合、他の言語の初級科目を履修することはできない。
	スポーツリテラシー	スポーツリテラシー(1)					1		
	留学生専修科目	一般日本事情1 一般日本事情2					4	卒業要件単位数4単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位数に算入される。 「教養テーマゼミナール論文」は、「教養テーマゼミナール」の単位を修得し、次年度以降に同一教員の「教養テーマゼミナール」を履修する場合に作成（履修）することができる。	
人文科学基礎関連科目	作品を創る1 作品を創る2 日本の文学 世界の文学を読む 越境する文学 歴史の視点 歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化 基礎心理学入門 応用心理学入門	哲学入門 哲学の歴史 日本思想入門 倫理とは何か 倫理学のあゆみ 論理学入門 ことばと論理 芸術学入門1 芸術学入門2 芸術の歴史1	芸術の歴史2 芸術学を学ぶ 異文化理解の人類学 異文化の現場から 人類の暮らしと自然 人類学から見た近代世界 現代社会と人類学 ジャーナリズムと現代			4			
社会科学基礎関連科目	日本国憲法 法と社会 政治学入門 経済と社会 地理学への招待 自然環境の地理学 人文・社会環境の地理学	社会学入門 現代の社会学 社会科学の方法 社会思想の歴史 社会思想と現代 教育学入門 学びの場の教育学	教育と社会のダイナミズム 情報社会と人間（環境と認知） 情報社会と人間（情報デザイン） はじめての経営 マーケティングベーシックス						
自然科学系科目	基礎自然科学実験(1) 基礎自然科学実験 生物学101 生物学102 生物学201 生物学202	生物科学301 生物科学302 宇宙地球科学101 宇宙地球科学102 宇宙地球科学201 宇宙地球科学202	化学101 化学102 化学201 化学202 化学301 化学302	物理学101 物理学102 物理学201 物理学202 物理学301 物理学302	数理科学101 数理科学102 数理科学201 数理科学202 数理科学301 数理科学302	科学論・科学史101 科学論・科学史102 科学論・科学史201 科学論・科学史202			
融合領域科目		学際科目101 学際科目102 学際科目103 学際科目104	学際科目105 学際科目106 学際科目107 学際科目108	学際科目109 学際科目110 学際科目111(4) 学際科目112(4)	学際科目113(4) 学際科目114(4) 学際科目115(4)				
		テーマ科目201 テーマ科目202	テーマ科目203 テーマ科目204	テーマ科目205 テーマ科目206	テーマ科目207 テーマ科目208				
		新領域科目301 新領域科目302	新領域科目303 新領域科目304	新領域科目305					
		教養テーマゼミナールⅠ(4)		教養テーマゼミナールⅡ(4)	教養テーマゼミナールⅢ(4)	教養テーマゼミナール論文			
教養教育課程	日本語		応用日本語理解1(1) 応用日本語理解2(1) 応用日本語表現1(1) 応用日本語表現2(1)			修得した単位は、自由選択修得要件単位数に算入される。 同一年度に各科目1科目、年度を超えて各科目3科目3単位まで履修できる。			
	英語	Computer Aided Instruction a(1) Computer Aided Instruction b(1)		Computer Aided Instruction for TOEIC a(1) Computer Aided Instruction for TOEIC b(1)		修得した単位は、自由選択修得要件単位数に算入される。 Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、それぞれ4単位まで履修することができる。			
			Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b				
	外国語基礎	基礎	ドイツ語中級201 a(1) ドイツ語中級201 b(1) ドイツ語中級202 a(1) ドイツ語中級202 b(1)	中国語中級201 a(1) 中国語中級201 b(1) 中国語中級202 a(1) 中国語中級202 b(1)	ロシア語中級201 a(1) ロシア語中級201 b(1) ロシア語中級202 a(1) ロシア語中級202 b(1)	韓国語中級201 a(1) 韓国語中級201 b(1) 韓国語中級202 a(1) 韓国語中級202 b(1)	修得した単位は、自由選択修得要件単位数に算入される。 各科目2単位まで履修することができる。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできない。		
			フランス語中級201 a(1) フランス語中級201 b(1) フランス語中級202 a(1) フランス語中級202 b(1)	スペイン語中級201 a(1) スペイン語中級201 b(1) スペイン語中級202 a(1) スペイン語中級202 b(1)	インドネシア語中級201 a(1) インドネシア語中級201 b(1) インドネシア語中級202 a(1) インドネシア語中級202 b(1)	インドネシア語中級201 a(1) インドネシア語中級201 b(1) インドネシア語中級202 a(1) インドネシア語中級202 b(1)			
		基礎強化	ドイツ語中級プラス201 a ドイツ語中級プラス201 b ドイツ語中級プラス202 a ドイツ語中級プラス202 b	フランス語中級プラス201 a フランス語中級プラス201 b 中国語中級プラス201 a 中国語中級プラス201 b	フランス語中級プラス202 a フランス語中級プラス202 b 中国語中級プラス201 a 中国語中級プラス201 b	スペイン語中級プラス201 a スペイン語中級プラス201 b スペイン語中級プラス202 a スペイン語中級プラス202 b		韓国語中級プラス201 a 韓国語中級プラス201 b	修得した単位は、自由選択修得要件単位数に算入される。 各科目4単位まで履修することができる。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできない。
			ドイツ語上級301 a ドイツ語上級301 b フランス語上級301 a フランス語上級301 b 中国語上級301 a 中国語上級301 b スペイン語上級301 a スペイン語上級301 b			ロシア語上級301 a ロシア語上級301 b インドネシア語上級301 a インドネシア語上級301 b 韓国語上級301 a 韓国語上級301 b			
	外国語	応用	選択ドイツ語101 a(1) 選択ドイツ語101 b(1) 選択フランス語101 a(1) 選択フランス語101 b(1) 選択中国語101 a(1) 選択中国語101 b(1)	選択スペイン語101 a(1) 選択スペイン語101 b(1) 選択韓国語101 a(1) 選択韓国語101 b(1) 選択アラビア語101 a(1) 選択アラビア語101 b(1)	選択イタリア語101 a(1) 選択イタリア語101 b(1)		修得した単位は、自由選択修得要件単位数に算入される。 各科目、同一年度に4単位、年度を越えてさらに4単位、合計8単位まで履修することができる。 修得した単位は、自由選択修得要件単位数に算入される。 同一言語の選択101 a・bをセットで履修する。同一言語の初級101 a・b, 102 a・bをすべて（4科目4単位）履修あるいは修得した場合、同一言語の選択101 a・bを履修することはできない。		
			世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(韓国語)			
		言語文化研究(ヨーロッパ)1 言語文化研究(ヨーロッパ)2	言語文化研究(アジア)1 言語文化研究(アジア)2	言語文化研究(アメリカ)					
海外語学短期研修1(外国語)		海外語学短期研修2(外国語)							
海外語学研修	海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)			修得した単位は、自由選択修得要件単位数に算入される。 海外語学短期研修は、夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修1に、春期留学プログラムを修了した場合に短期研修2に認定される。 海外語学中期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定される。			
	保健体育系科目	スポーツウェルネス アドバンスドスポーツ スポーツ論	アドバンスドスポーツ 健康と生涯スポーツ スポーツと発育発達	オリンピックとスポーツ トレーニング科学	スポーツコーチング 人類とスポーツ				
自由選択修得要件単位数					18	英語コミュニケーションコース			
					30	英語文化コース			

哲 学 科

I 哲学科の特色

「美術や音楽をなぜ美しい、快いと感じるのか」「うれしい、悲しい、腹立たしい、ねたましいなどの感情はなぜ生まれるのか」「なぜ人を殺してはいけないのか」「死とはなにか」「人はなぜ生きるのか」「科学はなぜ客観的と言われるのか」「なぜ時間は流れるのか」などの問題は、古来、多くのひとびとの頭を悩ませてた。こうした問題について徹底的に考えるのが哲学である。

哲学と一口にいっても、西洋やインド、中国、日本など地域によって相違があり、古代や中世、近世、近代、現代など時期ごとにもさまざまな哲学がある。また、自然や芸術の美しさを問題にする「美学」「芸術学」、善悪や正義を問う「倫理学」など、主題によっても哲学は区別される。「生死」について考えるためには「神話」「宗教」も参考になり、芸術やアートについて考えるためには、具体的にどのような美術や音楽、芸能、舞踊、映画、写真などがあったのか、おさえておかなければならない。

文学部哲学科の特色の第一は、各地の哲学を広く、深く学ぶための講義群、ならびに、芸術やアート、宗教など文化一般について広く学ぶための講義群が多数、用意されていることである。

そのほか、文学部哲学科における授業や指導の特色として次の2点が挙げられる。

第一に、哲学科学生は全員、「ゼミナール」に所属することができ、また、最低1つは所属しなければならない。ひとびとと議論を深め、先生から直接、個人的指導を受ける場である「ゼミナール」は、哲学や倫理学、芸術学を広く、深く学ぶためにもっとも重要な授業である。2年次からはじまり、たいいていの場合、ゼミナールの先生がそのまま「卒業論文」指導教員となる【詳細は、Ⅱ-2(2)①「必修科目」の項を参照】。

第二に、哲学科学生は、全員、卒業論文を書かなければ卒業することができない。大学生生活とは、卒業論文作成を目標とする4年間であり、そのために、広くさまざまな講義を聴講し、自分の興味や関心がどこにあるのか、なにを主に深く学ぶのか、できるだけ早いうちに決めなければならない【詳細は、Ⅱ-1「卒業要件」の項を参照】。

なお、卒業するためには、卒業論文作成のほか、卒業に必要な124単位を取得しなければならない。履修しなければならない科目としては、大学全体で開講される「転換・導入教育課程」、**「教養教育課程」**【詳細は、Ⅱ-2(1)「転換・導入教育課程、教養教育課程の履修方法」の項を参照】と、文学部哲学科で開講される**「専門科目」**がある**「専門科目」**については、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」というカテゴリーが区別されている【詳細は、Ⅱ-2(2)「専門科目の履修方法」の項を参照】。それぞれのカテゴリーについて卒業に必要な単位数が決まっているので、注意が必要である。

講義やゼミナール、また自分なりの読書や研究会などによって疑問を深め、新たに広く関心、興味を見出し、考えを深め、卒業論文を執筆するのが大学生活である。そのためには4年間をどのように過ごすか、あらかじめ見通しを立てておく必要がある。各年次で履修しなければならない科目、

履修した方がいい科目など、卒業までの標準的な工程表を以下に記しておく。なお、それぞれの科目が具体的にどのような内容をあつかうかは、年度ごと、担当教員ごとに異なる。科目を選択する前に、かならず、その年度の「講義要項」を読む必要がある。

1年次：哲学科1年生がかならず履修しなければならないのは「哲学の手ほどき」だが、そのほか転換・導入教育課程および教養教育課程の科目、また一部の「専門科目」も1年次で履修する。

「哲学の手ほどき」は、哲学科に所属する9名の先生全員がリレー方式でおこなう講義で、名前のとおり、哲学の基本的な考え方を解説する。その他、哲学各分野の全体像を初歩から解説する入門講義である「概論」科目（「哲学概論」「倫理学概論」「論理学概論」「芸術学概論」）、各地域時期の重要な哲学、思想を、その流れに沿って詳しく解説する思想史科目（「西洋哲学史」「日本思想史」「中国思想史」「インド思想史」「イスラム思想史」）も、哲学の勉強研究の基礎をはじめに知っておくために、1年次での履修が推奨される。「音楽論」「美術論」「宗教学」「ポップカルチャー論」「映像文化論」「パフォーマンス論」など、文化一般について広く知識を深める講義、「ギリシア語入門」「ラテン語入門」など、哲学の書物を読むために必要な語学のための授業も、1年次で履修することができる。

2年次：「ゼミナール」に所属する。ゼミナールは最低1つ所属しなければならないが、2つまで重複受講も可能である。講義としては、1年次で履修しきれなかった講義のほか、あらたに、「日本の思想（近現代以前）」「近現代の日本の思想」「日本の伝統芸能」「精神分析学」「心の哲学」「社会哲学」「科学哲学」「倫理の哲学」「ことばの哲学」「フェミニズム思想」「論理の哲学」「文化の哲学」「現代形而上学入門」「現代思想」「生命の哲学」「言語論」など、特定のテーマについて深く掘り下げる概説科目や、各先生の最先端の研究成果をいち早く知るための「特殊講義」が受講可能になる。「ギリシア語文献講読」「ラテン語文献講読」などの古典語講読も2年次から履修が可能になる。ドイツ語やフランス語などの、哲学の書物を読むために必要となる語学も継続することが望ましい。また、「概論」科目は2年次までしか履修はできない（3年次以降は履修不可。ただし再履修を除く）。

3年次：「ゼミナール」の中心学年になる。講義としては、1年次、2年次で履修しきれなかった講義を修得する必要がある。3年次になると、そろそろ就職活動もしなければならないが、同時に、卒業論文のテーマや手法、材料、文献などを固めにかかればならない。また、「思想史」科目は3年次までしか履修できない（4年次では履修不可。ただし再履修を除く）。

4年次：「ゼミナール」の先生を指導教員として、「卒業論文」を作成する。そのほか、3年次までにとりきれなかった講義などを取得して、卒業必要単位を満たす必要がある。

なお、一般的な注意として、(1) 同一科目名の講義は、年度によって担当教員が代わっても重複履修はできない。(2) とくに「特殊講義」は、番号を同じくする場合、年度によって担当教員が代わっても重複履修はできない。(3) 「ゼミナール」は、2年次で「ゼミナール1」、3年次で「ゼミナール2」、4年次で「ゼミナール3」をそれぞれ最低1つ履修しなければならない。履修しなかった場合には「再履修」が必要である【詳細は、Ⅱ-2(2)①「必修科目」の項を参照】。

そのほか「自由選択修得要件単位となる科目」、必修単位の「再履修」については、それぞれ当該箇所を参考にしてほしい。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

以下では、みなさんが大学を卒業するために必要な諸要件と科目の具体的な履修方法について概説する。以下の説明をよく読み、それに沿って履修計画を立ててほしい。

1. 卒業要件

一般に大学を卒業するためにはいくつかの要件が必要であるが（一般的な要件については、p. 31「大学卒業の要件」を参照）、それに加えて、哲学科学生には、以下の表に示した要件を充たすことが要求される。

区 分			卒業要件単位		
転換・導入教育課程	専修大学入門科目		2	13	
	専修大学基礎科目	専門入門ゼミナール	2		
		基礎統計学			
		キャリア教育関連科目			
		情報リテラシー関連科目			
		基礎自然科学			
		外国語基礎科目	英語		4
			英語以外の外国語		4
スポーツリテラシー	1				
教養教育課程	教養科目	人文科学基礎関連科目	8	9	
		社会科学基礎関連科目			
		自然科学系科目			
		融合領域科目			
	外国語系科目	英語	1		
		英語以外の外国語			
		海外語学研修			
	保健体育系科目	スポーツウェルネス	1		
		アドバンススポーツ			
		スポーツ論群			
自由選択修得要件単位			30		
専門教育課程	専門科目	必修科目	24	72	
		選択必修科目	20		
		選択科目	28		

2. 科目の履修方法

履修にあたっては、以下の4点に注意を払う必要がある。

- ① 転換・導入教育課程13単位、教養教育課程9単位、専門教育課程72単位以上、自由選択修得要件単位30単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。
- ② 各年次に修得する単位の目安（1年次38単位、2年次38単位、3年次36単位、4年次12

単位)があるので、この条件も充たすように毎年の履修計画を立てる必要がある。

- ③ 配当年次が指定されている科目については、その年次に履修しなければならない。

また、指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は、それが「選択必修科目」である場合には、なるべく低年次で履修するようにしてほしい。

- ④ 同一名称の科目は、原則として1つしか履修できない。同一名称の科目が複数あることは珍しくないが、一度に同一名称の科目を2つ以上履修することはできないし、一度単位を修得した科目と同一名称の科目をもう一度履修することもできない。

(1) 転換・導入教育課程、教養教育課程の履修方法

転換・導入教育課程、教養教育課程にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので、履修に際しては注意しなければならない。転換教育課程は p.43 に、導入教育課程は pp.44～52 に、教養教育課程については pp.53～71 に詳しい説明があるので、それを参考にして以下を確認してほしい。

1) 転換教育課程(専修大学入門科目)

転換教育課程に配置されている専修大学入門ゼミナールは、1年次に半期2単位を必ず修得しなければならない。

2) 導入教育課程(専修大学基礎科目)

① 専門入門ゼミナール

専門入門ゼミナールは、1年次に半期2単位を必ず修得しなければならない。

② 外国語基礎科目

(i) 英語

1年次で英語4科目を履修し、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。A群の Basics of English (RL) 1a (前期), 1b (後期) または Intermediate English (RL) 1a (前期), 1b (後期) の2科目と、B群の Basics of English (SW) 1a (前期), 1b (後期) または Intermediate English (SW) 1a (前期), 1b (後期) の2科目を履修する。

(ii) 英語以外の外国語

1年次でドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、コリア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。初級101a (前期), 初級101b (後期) の2科目と、初級102a (前期), 初級102b (後期) の2科目を履修する。

③ スポーツリテラシー

スポーツリテラシーは、1年次の前期に1単位を必ず修得しなければならない。

④ 上記以外の科目

上記以外の導入教育科目に配置された科目（データ分析入門，キャリア入門，情報入門Ⅰ，情報入門Ⅱ，あなたと自然科学）は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

3) 教養教育課程（教養科目）

① 人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から8単位履修しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので履修する際には注意しなければならない。人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は1，2年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は3，4年次で再履修することもできない。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講され，融合領域科目は2年次以降に開講される。

② 保健体育系科目

スポーツウェルネスは，1年次の後期に1単位必ず修得しなければならない。

③ 上記以外の教養教育課程科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

(2) 専門科目の履修方法

専門科目の中には，必ず修得しなければならない必修科目（pp.189～200「文学部専門科目一覧」で○印のついた科目），開講された科目の中から指定された数だけ必ず修得しなければならない選択必修科目（◎印のついた科目），多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる選択科目（△印のついた科目）の3通りがある。なお，科目の中には，年間を通して授業を行う通年科目と，半年で完了する半期科目とがある。また，毎年開講する科目と隔年に開講する科目とがある。履修計画を立てる上で，注意する必要がある。

① 必修科目

「哲学の手ほどき」 1年次の必修科目である。「ゼミナール」を担当する9人の教員がリレー式に入門的な授業を行う。

「ゼミナール1～3」 本学科での勉学の中心となる，少人数での討論形式の授業である。「ゼミナール1」は2年生，「ゼミナール2」は3年生，「ゼミナール3」は4年生でそれぞれ必修となる。また，「ゼミナール」は各年次において2つまで履修できる。したがって，継続して2つのゼミを履修し続けることもできる。しかし，ゼミナールは必ず予習を求められるなど相応の負担があるので，3つ以上履修することはできない。もし，2年次においてゼミナール1を修得できなかった場合は，3年次において「ゼミナール1」と「ゼミナール2」を，3年次にゼミナール2を修得できなかった場合は4年次において「ゼミナール2」と「ゼミナール3」を同時に履

修することになる。しかし、3年次までにゼミナールを1つも修得できなかった場合、4年次に「ゼミナール1」「ゼミナール2」「ゼミナール3」の3つを同時に履修することはできない。ゼミは1年に2つまでしか履修できないからである。(4年次に「ゼミナール1」と「ゼミナール2」を履修し、5年次に「ゼミナール3」を履修することになる)。

【卒業論文】 大学での学修の集大成(書かねば卒業できない)で、4年次の必修科目である。テーマは、人間のあり方に関することなら、なんでもかまわない。通常4年次のゼミの先生が、論文の指導教員を兼ねる(しかし、その先生の専門と大きく異なるテーマの場合には、実質的な指導は別の先生にお願いすることもできる)。

先生によって違いはあるが、3年の後期または期末に、ゼミの場(もしくはゼミ合宿)で卒論のテーマと構想について発表を行ない、それから先生の助言を受けながら文献を読み、自分の考えをまとめていく。

また、卒業論文は、上に述べたとおり、ゼミナールを中心とする本学科での勉学の集大成となるものなので、「ゼミナール3」と同時(または「ゼミナール3」を修得した以降)でなければ履修登録することはできない。

② 選択必修科目

哲学科の選択必修科目には次の2種類がある。

概論 その学問のもっとも包括的な入門科目で、「哲学概論1」「哲学概論2」「倫理学概論1」「倫理学概論2」「論理学概論1」「論理学概論2」「芸術学概論1」「芸術学概論2」の中から4科目8単位以上修得しなければならない。配当年次は1～2年である。

思想史 それぞれの哲学・思想の流れを学ぶ科目で、「西洋哲学史(古代)」「西洋哲学史(中世)」「西洋哲学史(近代)1」「西洋哲学史(近代)2」「西洋哲学史(現代)1」「西洋哲学史(現代)2」「日本思想史1」「日本思想史2」「中国思想史」「インド思想史」「イスラム思想史」の中から、6科目12単位以上修得しなければならない。配当年次は1～3年である。

③ 選択科目

哲学科の選択科目として、以下の科目群がある。

概説 哲学・思想の特定の分野に関する講義である。具体的な事象をあつかう概説は1年次から履修できるが、やや理論的な科目は2年次以降になって履修する。哲学系の概説科目として「日本の思想」「心の哲学」「社会哲学」「科学哲学」「倫理の哲学」「ことばの哲学」「文化の哲学」「フェミニズム思想」「現代形而上学入門」「生命の哲学」等、狭義の哲学をこえて広く思想・文化・芸術を扱う概説科目として「精神分析学」「言語論」「宗教学」「音楽論」「美術論」「映像文化論」「パフォーマンス論」等がある。これらの科目が充実していることも本学科の特色なので、多彩な科目のなかから自分独自のカリキュラムを計画的に組み、やがて卒業論文へと結実される栄養を吸収し、自身の考えを構築していったほしい。これらのうち、名前だけからは内容がわかりにくい科目についてだけ簡単に説明する。

【ポップカルチャー論】 アニメ・マンガ・ゲームなどなど、高尚な意味での「文化」とみなされていない文化現象を扱う。

【映像文化論】 映画・演劇のみならず，CGやTVゲームあるいは写真なども含めた映像文化全般について考える。

【パフォーマンス論】 ダンス，バレエ，舞踏，ストリート・パフォーマンスなどを，多角的に分析し，身体アートについて考える。

古典語 「ギリシア語入門1」「ギリシア語入門2」および「ラテン語入門1」「ラテン語入門2」という入門科目を学修したあとは，「ギリシア語文献講読1～6」，「ラテン語文献講読1～6」という，古典哲学の文献を講読する授業を，最大3年間継続して履修することができる。

なお，哲学科では，文学部の他学科の専門科目も自由選択修得要件単位となる科目として学生に受講を認めている。それらの科目についても，可能な範囲で履修し，幅広い学修を通して，総合的な視野を持つようにしてほしい。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは，みなさんが上記の卒業要件単位を修得した上で，さらに履修する科目の総称である。したがって自由選択修得要件単位に算入されるものは以下の6つとなる。

- a. 転換・導入教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した哲学科開講の専門科目の単位。
- d. 哲学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
- e. 教職に関する科目ならびに司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし8単位まで。（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）
- f. 哲学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし30単位まで。

自由選択修得要件単位となる科目は，科目区分にとらわれずに，みなさんが自由に履修する科目である。それぞれの興味と関心に応じ，自由に独創的なカリキュラムを組んでほしい。ただし，卒業までに，哲学科の学生は自由選択修得要件単位数が30単位に達していなければならない。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

哲学科のみなさんに課されている必修科目は，何らかの理由でこれらの単位を修得できなかった場合は，必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修しなければならない。再履修科目はすべてに優先して履修しなければならない。なお，一度単位を修得した科目の再履修はできない。

② 選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を修得できなかった場合は，必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく，別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能である。

哲学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考			
専修大学 入学生 教育基 礎科 課程	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール			2	取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。			
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール			2				
	基礎統計学	データ分析入門							
	キャリア教育関連科目	キャリア入門							
	情報リテラシー関連科目	情報入門Ⅰ 情報入門Ⅱ							
	基礎自然科学	あなたと自然科学				1年次で同一言語の101 a・bと102 a・bを履修しなければならない。 同一言語の初級科目をすべて(4科目4単位)履修あるいは修得した場合、他の言語の初級科目を履修することはできない。			
	英語	A群 Basics of English (RL) 1a(1) Basics of English (RL) 1b(1) または Intermediate English (RL) 1a(1) Intermediate English (RL) 1b(1)	General English 1 (1)				2		
		B群 Basics of English (SW) 1a(1) Basics of English (SW) 1b(1) または Intermediate English (SW) 1a(1) Intermediate English (SW) 1b(1)	General English 1 (1)				2		
	外国語 基礎 科目 の 外 国 語	ドイツ語初級101 a(1) ドイツ語初級101 b(1) ドイツ語初級102 a(1) ドイツ語初級102 b(1) フランス語初級101 a(1) フランス語初級101 b(1) フランス語初級102 a(1) フランス語初級102 b(1) 中国語初級101 a(1) 中国語初級101 b(1) 中国語初級102 a(1) 中国語初級102 b(1) スペイン語初級101 a(1) スペイン語初級101 b(1) スペイン語初級102 a(1) スペイン語初級102 b(1) ロシア語初級101 a(1) ロシア語初級101 b(1) ロシア語初級102 a(1) ロシア語初級102 b(1) インドネシア語初級101 a(1) インドネシア語初級101 b(1) インドネシア語初級102 a(1) インドネシア語初級102 b(1) 韓国語初級101 a(1) 韓国語初級101 b(1) 韓国語初級102 a(1) 韓国語初級102 b(1)					4		
		スポーツリテラシー	スポーツリテラシー(1)				1		
人文科学基礎 関連科目		作品を創る1 作品を創る2 日本の文学を読む 世界を越える文学への招待 英語圏の視点と歴史 歴史と社会・文化	基礎心理学入門 応用心理学入門 哲学の歴史 日本思想入門 倫理と道徳の歴史1 芸術の歴史2	芸術を学ぶ 異文化理解の人類学 異文化の現場から 人類の暮らしと自然 人類学から見た近代世界 現代社会と人類学 ジャーナリズムと現代		8	卒業要件単位8単位を超えて取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 「教養テーマゼミナール論文」は、「教養テーマゼミナール」の単位を修得し、次年度以降に同一教員の「教養テーマゼミナール」を履修する場合に作成(履修)することができる。		
		社会科学基礎 関連科目	日本国憲法と社会 政治学入門 経済と社会 地理学への招待 自然環境の地理学 人文・社会環境の地理学	社会学入門 現代の社会学 社会学の方法 社会学思想の歴史 社会学思想と現代 社会学入門 社会学の場の教育学	教育と社会のダイナミズム 情報社会と人間(環境と認知) 情報社会と人間(情報デザイン) はじめての経営 マーケティングベーシック				
自然科学系科目		基礎自然科学実験(1) 基礎自然科学実験 生物学101 生物学102 生物学201 生物学202	生物学301 生物学302 宇宙地球科学101 宇宙地球科学102 宇宙地球科学201 宇宙地球科学202	化学101 化学102 化学201 化学202 化学301 化学302	物理学101 物理学102 物理学201 物理学202 物理学301 物理学302			数理学101 数理学102 数理学201 数理学202 数理学301 数理学302	科学論・科学史101 科学論・科学史102 科学論・科学史201 科学論・科学史202
融合領域科目		学際科目101 学際科目102 学際科目103 学際科目104	学際科目105 学際科目106 学際科目107 学際科目108	学際科目109 学際科目110 学際科目111(4) 学際科目112(4)	学際科目113(4) 学際科目114(4) 学際科目115(4)				
		テーマ科目201 テーマ科目202	テーマ科目203 テーマ科目204	テーマ科目205 テーマ科目206	テーマ科目207 テーマ科目208				
		新領域科目301 新領域科目302	新領域科目303 新領域科目304	新領域科目305					
		教養テーマゼミナールⅠ(4)		教養テーマゼミナールⅡ(4)	教養テーマゼミナールⅢ(4)			教養テーマゼミナール論文	
教養 育 科 目 程		英語	English Speaking a(1) English Speaking b(1)	Computer Aided Instruction a(1) Computer Aided Instruction b(1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a(1) Computer Aided Instruction for TOEIC b(1)				取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、それぞれ4単位まで履修することができる。
			Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b				
		外国語 基礎 強化 の 外 国 語	基礎	ドイツ語中級201 a(1) ドイツ語中級201 b(1) ドイツ語中級202 a(1) ドイツ語中級202 b(1) フランス語中級201 a(1) フランス語中級201 b(1) フランス語中級202 a(1) フランス語中級202 b(1)	中国語中級201 a(1) 中国語中級201 b(1) 中国語中級202 a(1) 中国語中級202 b(1) スペイン語中級201 a(1) スペイン語中級201 b(1) スペイン語中級202 a(1) スペイン語中級202 b(1)	ロシア語中級201 a(1) ロシア語中級201 b(1) ロシア語中級202 a(1) ロシア語中級202 b(1) インドネシア語中級201 a(1) インドネシア語中級201 b(1) インドネシア語中級202 a(1) インドネシア語中級202 b(1)	韓国語中級201 a(1) 韓国語中級201 b(1) 韓国語中級202 a(1) 韓国語中級202 b(1)	取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目2単位まで履修することができる。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできない。	
				基礎強化	ドイツ語中級プラス201 a ドイツ語中級プラス201 b ドイツ語中級プラス202 a ドイツ語中級プラス202 b フランス語中級プラス201 a フランス語中級プラス201 b	フランス語中級プラス202 a フランス語中級プラス202 b 中国語中級プラス201 a 中国語中級プラス201 b 中国語中級プラス202 a 中国語中級プラス202 b	スペイン語中級プラス201 a スペイン語中級プラス201 b スペイン語中級プラス202 a スペイン語中級プラス202 b 韓国語中級プラス201 a 韓国語中級プラス201 b		ロシア語中級プラス202 a ロシア語中級プラス202 b
			応用	ドイツ語上級301 a ドイツ語上級301 b フランス語上級301 a フランス語上級301 b 中国語上級301 a 中国語上級301 b スペイン語上級301 a スペイン語上級301 b				取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目、同一年度に4単位、年度を越えてさらに4単位、合計8単位まで履修することができる。	
				選択ドイツ語101 a(1) 選択ドイツ語101 b(1) 選択フランス語101 a(1) 選択フランス語101 b(1) 選択中国語101 a(1) 選択中国語101 b(1)	選択スペイン語101 a(1) 選択スペイン語101 b(1) 選択韓国語101 a(1) 選択韓国語101 b(1) 選択アラビア語101 a(1) 選択アラビア語101 b(1)	選択イタリア語101 a(1) 選択イタリア語101 b(1)			
			海外 語学 研修	世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(韓国語) 世界の言語と文化(アラビア語)	取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。	
	言語文化研究(ヨーロッパ)1 言語文化研究(ヨーロッパ)2			言語文化研究(アジア)1 言語文化研究(アジア)2	言語文化研究(アメリカ)				
	保健 体育 系 科 目	スポーツウェルネス アドバンススポーツ スポーツ論	スポーツウェルネス(1) アドバンススポーツ 健康と生涯スポーツ スポーツと発育発達	アドバンススポーツ 健康と生涯スポーツ スポーツと発育発達	オリンピックとスポーツ トレーニング科学	スポーツコーチング 人類とスポーツ	取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 アドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していない場合は、履修することはできない。		
	自由選択修得要件単位					30			



哲学科 (外国人留学生) 転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は、単位数を示す (記載のない科目は2単位)。

Table with columns: 区分, 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 卒業要件単位数, 備考. Rows include categories like 専修大学入門科目, 基礎統計学, 外国語, 自然科学系科目, 人文科学基礎, 社会科学基礎, 自然科学系科目, 融合領域科目, 教養, 外国語, 海外語, 海外語学短期研修, 保健体育系科目.

自由選択修得要件単位数

30

哲学科専門科目一覧

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は配当年次を示す。

凡例：○必修、◎選択必修、△選択

区分	1年次				2年次				3年次				4年次				備考	卒業要件 単位	
	科目名	単 位	必 選		科目名	単 位	必 選		科目名	単 位	必 選		科目名	単 位	必 選				
転換・導入教育課程																	13		
教養教育課程																	9		
専 門 教 育 課 目	必修科目	哲学の手ほどき	4	○	ゼミナール1	4	○	ゼミナール2	4	○	ゼミナール3	4	○	卒業論文	8	○	5科目24単位必修	24	
	選 択 必 修 科 目	哲学概論1 (1・2)			2	◎												4科目8単位選択必修	8
		哲学概論2 (1・2)			2	◎													
		倫理学概論1 (1・2)			2	◎													
		倫理学概論2 (1・2)			2	◎													
		論理学概論1 (1・2)			2	◎													
		論理学概論2 (1・2)			2	◎													
		芸術学概論1 (1・2)			2	◎													
	芸術学概論2 (1・2)			2	◎														
	選 択 必 修 科 目	西洋哲学史 (古代) (1・2・3)			2	◎												6科目12単位選択必修	12
		西洋哲学史 (中世) (1・2・3)			2	◎													
		西洋哲学史 (近代) 1 (1・2・3)			2	◎													
		西洋哲学史 (近代) 2 (1・2・3)			2	◎													
		西洋哲学史 (現代) 1 (1・2・3)			2	◎													
		西洋哲学史 (現代) 2 (1・2・3)			2	◎													
日本思想史1 (1・2・3)				2	◎														
日本思想史2 (1・2・3)				2	◎														
中国思想史 (1・2・3)				2	◎														
インド思想史 (1・2・3)				2	◎														
イスラム思想史 (1・2・3)			2	◎															
選 択 必 修 科 目	音楽論 (1・2・3・4)			2	△												28単位選択 上記専門選択必修科目の超過修得単位は 選択科目の単位に算入される。	28	
	美術論1 (1・2・3・4)			2	△														
	美術論2 (1・2・3・4)			2	△														
	宗教学1 (1・2・3・4)			2	△														
	宗教学2 (1・2・3・4)			2	△														
	映像文化論 (1・2・3・4)			2	△														
	ポップカルチャー論 (1・2・3・4)			2	△														
	パフォーマンス論 (1・2・3・4)			2	△														
	ギリシア語入門1 (1・2・3・4)			2	△														
	ギリシア語入門2 (1・2・3・4)			2	△														
	ラテン語入門1 (1・2・3・4)			2	△														
	ラテン語入門2 (1・2・3・4)			2	△														
	ギリシア語文献講読1			2	△	ギリシア語文献講読3	2	△	ギリシア語文献講読5	2	△								
	ギリシア語文献講読2			2	△	ギリシア語文献講読4	2	△	ギリシア語文献講読6	2	△								
	ラテン語文献講読1			2	△	ラテン語文献講読3	2	△	ラテン語文献講読5	2	△								
ラテン語文献講読2			2	△	ラテン語文献講読4	2	△	ラテン語文献講読6	2	△									
日本の思想 (近現代以前) (2・3・4)			2	△															
近現代の日本の思想 (2・3・4)			2	△															
心の哲学 (2・3・4) 隔年			2	△															
科学哲学 (2・3・4) 隔年			2	△															
倫理の哲学 (2・3・4) 隔年			2	△															
社会哲学 (2・3・4) 隔年			2	△															
論理の哲学 (2・3・4) 隔年			2	△															
ことばの哲学 (2・3・4) 隔年			2	△															
文化の哲学1 (2・3・4) 隔年			2	△															
文化の哲学2 (2・3・4) 隔年			2	△															
現代形而上学入門 (2・3・4) 隔年			2	△															
言語論 (2・3・4) 隔年			2	△															
フェミニズム思想 (2・3・4)			2	△															
日本の伝統芸能 (2・3・4)			2	△															
現代思想 (2・3・4)			2	△															
生命の哲学 (2・3・4) 隔年			2	△															
精神分析学 (2・3・4)			2	△															
アジア思想特殊講義1 (2・3・4)			2	△															
アジア思想特殊講義2 (2・3・4)			2	△															
アジア思想特殊講義3 (2・3・4)			2	△															
哲学特殊講義1 (2・3・4)			2	△															
哲学特殊講義2 (2・3・4)			2	△															
哲学特殊講義3 (2・3・4)			2	△															
哲学特殊講義4 (2・3・4)			2	△															
社会学原論1 (1・2)			2	△															
社会学原論2 (1・2)			2	△															
憲法1 (2・3)			2	△															
憲法2 (2・3)			2	△															
現代社会論1 (2・3・4)			2	△															
現代社会論2 (2・3・4)			2	△															
現代文化論1 (2・3・4)			2	△															
現代文化論2 (2・3・4)			2	△															
家族の社会学1 (2・3・4)			2	△															
家族の社会学2 (2・3・4)			2	△															
自由選択修得要件となる科目	哲学科の学生に受講が認められている転換・導入教育課程、教養教育課程、専門教育課程の科目。教職・司書・司書教諭・学校司書課程の科目の一部(詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)。全学公開科目。															△	30		
年次修得単位の目安	38				38				36				12					124	

歴史学科

I 歴史学科の特色

国際化・情報化の進む現代にあつて、大学教育にはこれまで以上に高度で専門的な、また学際的知識を持った人材の養成が求められている。それには基礎となるべき確かな専門性に裏付けられた論理的思考方法が必要である。専修大学文学部歴史学科のカリキュラムは、こうした観点から深い専門性と同時に、幅広い分野が学べるよう「専門」相互の関連性に留意した編成をこころがけて作成されている。

歴史学科は、日本史・アジア史・欧米史および考古学の諸専門を自由に選択して学ぶことができる。各々の研究を深めるために、それに関連した専門的知識を提供する講義や、実践的演習科目（「ゼミナール」）を配置している。単なる知識の獲得に終わらず、現代社会の様々な問題に自らが考えて対処できる能力獲得のためにも、思考法の修得とトレーニングが必要である。そのために、文献史料・考古資料の解読やそれらの使用法を学ぶ「古文書学実習」や「考古学実習」、そして様々な言語の文献講読・分析を主とした「歴史資料研究法」が開講されている。

しかし、専門の名のもとにいわゆる蜻蛉的研究におちいる弊害を避けるため、各専門を超えた相互比較研究が必要である。各専門に縛られない相互比較研究のための科目として設置されているのは、「総合世界史」である。これはまず①特定のテーマを設定し、それに対して複数の教員がそれぞれの立場からの分析に基づいた講義を行うものや、②文献史学の立場であっても、絵図や考古資料を多く使用してビジュアルな講義を行うことに留意した科目（もちろんその逆＝考古学側からのアプローチもある）、③時代や地域を限定せず、特定の現象について（例えば「平和と戦争」など）、通時的・汎世界的なアプローチをオムニバス方式で実施するものである。これらによって、各専門における深い知識の学修を前提としながら、それに縛られない柔軟な思考法の修得をも目指す。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

以下では、みなさんが大学を卒業するために必要な諸要件と、科目の具体的な履修方法について概説する。以下の説明をよく読み、それに沿って履修計画を立ててほしい。

1. 卒業要件

大学を卒業するためにはいくつかの要件が必要であるが（一般的な要件については、p.31「大学卒業の要件」を参照）、歴史学科の学生には、単位に関して、以下の表に示した要件を充たすことが要求される。次項「科目の履修方法」を読み、具体的な履修方法を理解した上でこの表を改めて見直し、要求されるものが何であるかを確認してほしい。

		区 分	卒業要件単位		
転換・導入教育課程	専修大学基礎科目	専修大学入門科目	2	13	
		専門入門ゼミナール	2		
		基礎統計学			
		キャリア教育関連科目			
		情報リテラシー関連科目			
		基礎自然科学			
		外国語基礎科目	英語		4
			英語以外の外国語		4
	スポーツリテラシー	1			
教養教育課程	教養科目	人文科学基礎関連科目	8	9	
		社会科学基礎関連科目			
		自然科学系科目			
		融合領域科目			
		外国語系科目	英語		
			英語以外の外国語		
			海外語学研修		
		保健体育系科目	スポーツウェルネス		1
			アドバンススポーツ		
			スポーツ論群		
自由選択修得要件単位			28		
専門教育課程	専門科目	必修科目	20	74	
		選択必修科目	12		
		選択科目	42		

2. 科目の履修方法

履修にあたっては、以下の3点に注意する必要がある。

- ① 卒業までに、「転換・導入教育課程」の中の科目を13単位以上、「教養科目」9単位以上、「専門科目」74単位以上、「自由選択修得要件単位」28単位以上、合計124単位を修得しなければならない。これに関し、各年次において修得する単位の目安（1年次38単位、2年次38単位、3年次36単位、4年次12単位）があるので、この条件も満たすように毎年の履修計画を立てることが望ましい。
- ② 配当年次が指定されている科目については、その年次に履修しなければならない。
また、指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は、それが「選択必修科目」である場合には、なるべく低年次で履修しておくことが望ましい。
- ③ 転換・導入教育課程中の、専修大学入門ゼミナール2単位と専門入門ゼミナール2単位は、必修科目であり、かつ大学生としての学修方法の基礎を学ぶと同時に、専門科目への橋渡しともなる重要な課目であるので、1年次で必ず修得しなければならない。

(1) 転換・導入教育課程、教養教育課程の履修方法

転換・導入教育課程、教養教育課程にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので、履修に際しては注意しなければならない。転換教育課程はp.43に、導入教育課程はpp.44～52に、教養教育課程についてはpp.53～71に詳しい説明があるので、それを参考にして以下を確認してほしい。

1) 転換教育課程（専修大学入門科目）

転換教育課程に配置されている専修大学入門ゼミナールは、1年次に半期2単位を必ず修得しなければならない。

2) 導入教育課程（専修大学基礎科目）

① 専門入門ゼミナール

専門入門ゼミナールは、1年次に半期2単位を必ず修得しなければならない。

② 外国語基礎科目

(i) 英語

1年次で英語4科目を履修し、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。A群のBasics of English (RL) 1a（前期）、1b（後期）またはIntermediate English (RL) 1a（前期）、1b（後期）の2科目と、B群のBasics of English (SW) 1a（前期）、1b（後期）またはIntermediate English (SW) 1a（前期）、1b（後期）の2科目を履修する。

(ii) 英語以外の外国語

1年次でドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、コリア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。初級101a(前期)、初級101b(後期)の2科目と、初級102a(前期)、初級102b(後期)の2科目を履修する。

③ スポーツリテラシー

スポーツリテラシーは、1年次の前期に1単位を必ず修得しなければならない。

④ 上記以外の科目

上記以外の導入教育科目に配置された科目(データ分析入門、キャリア入門、情報入門Ⅰ、情報入門Ⅱ、あなたと自然科学)は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

3) 教養教育課程(教養科目)

① 人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から8単位履修しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので履修する際には注意しなければならない。人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は1、2年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は3、4年次で再履修することはできない。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されている。融合領域科目は2年次以降に開講される。

② 保健体育系科目

スポーツウェルネスは、1年次の後期に1単位必ず修得しなければならない。

③ 上記以外の教養教育課程科目は選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

(2) 専門科目の履修方法

卒業までに「専門科目」から74単位以上を修得しなければならない。専門科目については、pp.151～152の「歴史学科専門科目一覧」に記載されているので、それを参照しつつ、説明を読んでもらいたい。

専門科目は、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」の3通りの科目群からなっている。「必修科目」(「歴史学科専門科目一覧」で○印のついた科目)は必ず単位を修得しなければならない科目、「選択必修科目」(◎印のついた科目)は開講された科目中から指定された数だけ必ず単位を修得しなければならない科目、「選択科目」(△印のついた科目)は多くの科目の中から自分の学びたいも

のを自由を選べる科目である。歴史学科では、みなさんが幅広く科目の選択ができるように、必修科目および選択必修科目の数を少なくしてある。

なお、科目の中には、半年で完了する半期科目（2単位科目）のほかに、年間を通して授業を行う通年科目（4単位科目）があるので、履修計画を立てる上で注意して欲しい。

① 必修科目

必修科目として、以下の科目を履修し、20単位を修得しなければならない。

「ゼミナール1」・「ゼミナール2」・「ゼミナール3」は、2年次以上の学生を対象にした少人数形式の授業で、それぞれ通年4単位。歴史学科の教員がそれぞれの専門領域（考古学・日本史・アジア史・欧米史）に即したテーマを取り上げる、専門性の高い授業である。「ゼミナール1」は2年次、「ゼミナール2」は3年次、「ゼミナール3」は4年次で履修する（ゼミナール1・2は、合併して行われる）。

2年次においては、各自が選択したゼミナールの対象地域・時代についての基礎的知識・研究能力を、史資料や論文の解説を通じて修得する。3年次においては、各ゼミナールのテーマを推進させる主力としての活動が期待される。同時に3年次は、基礎的な研究能力を発展させ、自らの研究課題を発見し、課題解明のために必要な「もの」（史資料・関連論文）を探す一年でもある。4年次は、各ゼミナールのテーマの推進の主力としての役割を果たしつつ、自ら設定した研究課題を卒業論文としてまとめあげる一年となる。

「卒業論文」（8単位）は、大学で学んだ4年間の集大成ともいえるもので、4年次において、自らの立てた研究課題について、史資料・関連論文を収集し、その批判的検討を経て、「論文」として完成させる。

なお、履修できるゼミナールは、一つの学年において一つのみである（再履修の場合のみ特例あり。「(4)再履修について」を参照）。また2年次の「ゼミナール1」から4年次の「ゼミナール3」まで、同じ教員のゼミナールを履修し、その教員が「卒業論文」の指導教員になる。したがって、ゼミナールの選択にあたっては十分な考慮が必要となる。

また「卒業論文」は、ゼミナールを通じて修得された研究能力をもとに作成されるものである。これにより、「卒業論文」を提出する時点で、ゼミナールの単位についてはすべて修得済みか修得見込みであることが求められる。このため「卒業論文」の履修登録は、「ゼミナール3」の履修登録と同時（または「ゼミナール3」の単位修得後）でなければならないものとする。

② 選択必修科目

選択必修科目としては、概説と歴史資料研究法の2つの科目グループから、それぞれ8単位と4単位、あわせて12単位を修得しなければならない。

「日本史概説1・2」・「アジア史概説1・2」・「欧米史概説1・2」は、1・2年次を対象とした講義形式の授業で、各領域の基本的な問題を学び考えていく授業である。これらの授業の中から、少なくとも4科目（8単位）を選択し、履修しなければならない。

「歴史資料研究法1～20」は、2年次を対象とした少人数の実習形式の授業である。これらの授業は、歴史研究のもととなる史資料を収集するための技術や、資料を読みこなす力など、歴史研究に必要な基本的能力を身につけることを目的としている。考古学を学ぶための発掘および

実測の練習，日本史を学ぶための日本漢文・古文書の解読，アジア史・欧米史を学ぶためのコリア語・中国語・ヒンディー語・英語・フランス語・ドイツ語などの一次文献の解読など，史資料の多様性にあわせて，20科目が開講されている。これらの授業の中から，少なくとも2科目（4単位）を選択し，履修しなければならない。

③ 選択科目

上記の必修科目，選択必修科目のほかに，選択科目として，42単位を修得しなければならない（なお，12単位をこえて選択必修科目の単位を修得した場合，12単位をこえた分は，選択科目に算入される）。

「日本文化史1・2」・「アジア文化史1・2」・「欧米文化史1・2」は，それぞれの地域が生んだ文化の特色について，テーマを絞って講義するものである。

pp.179～180の「歴史学専門科目一覧」に記載された科目のうち，「古墳からみた国家形成1・2」から「日本の宗教と社会」までの授業は，歴史学科の教員が，それぞれの専門とする分野について講義する授業である。考古学の分野や，インド・中国・朝鮮・日本・アメリカ・ドイツ・フランスなどの地域の歴史など，さまざまな分野の最先端の研究の現状とその課題を講義する。

「世界史講義1～8」，「イスラーム史1・2」，「ジェンダー史1・2」は，地域や時代を超えた，また最新の歴史学のテーマについて講義するものである。

上記の科目は，いずれも2・3・4年次を対象とした講義形式の授業である。

「総合世界史1～6」は，1・2年次を対象とした授業である。複数の教員が共通の題材（テーマ）に沿って，時代や地域，学問の固有の性格をこえて，広く研究を紹介し，世界史的視野から歴史研究の多様性・共通性を考えさせることを目的としている。特に総合世界史1・2は，専任教員全員がオムニバス形式で講義を担当し，各自が専門とする分野の最先端の研究状況と歴史研究のための資料について解説するので，選択科目であるが，1年次での修得が強く望まれる。

「古文書学概論1・2」・「考古学概論1・2」は，1・2年次を対象とした講義形式の授業で，それぞれの学問の基本を学ぶ。

「古文書学実習」「考古学実習」は，3・4年次を対象とした実習形式の授業（通年4単位）で，古文書の取り扱い方法・解読や考古学的調査に必要な基本的技術を学ぶ。「考古学実習」の場合は，実際の発掘調査に参加して，考古学を学ぶことになる。これらの科目を履修するためには，2年次において選択必修科目の「歴史資料研究法」のうち，それぞれに対応する科目（日本漢文・古文書または考古学）の単位を修得しておくことが望ましい。

なお，歴史学科では文学部の他学科開講の多数の専門科目を，自由選択修得要件単位となる科目として受講を認めている。それらの科目についても，可能な範囲で出来るだけ多く履修し，幅広い学修を通して，総合的な視野を持つようにして欲しい（pp.189～200「文学部専門科目一覧」参照）。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

卒業までに自由選択修得要件単位となる科目から28単位以上を修得しなければならない。自由選択単位となる科目とは、「転換・導入教育課程」中の科目から13単位、「教養教育科目」9単位および歴史学科の専門科目修得要件単位(74単位)を修得した上で、さらに履修する科目の総称である。この自由選択修得要件単位に算入されるものは以下の6つである。

- a. 転換・導入教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した歴史学科開講の専門科目の単位。
- d. 歴史学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
- e. 教職に関する科目ならびに司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし8単位まで。(詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)
- f. 歴史学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし28単位まで。

自由選択修得要件単位となる科目は、科目区分にとらわれずに、自由に履修する科目である。みなさんには、それぞれの興味と関心に応じ、自由に独創的なカリキュラムを組んでもらいたい。ただし、卒業までに、自由選択修得要件単位数が28単位に達していなければならないことを忘れないで欲しい。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

何らかの理由で、必修科目の単位を修得できなかった場合は、必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修しなければならない。再履修科目はすべてに優先して履修しなければならない。

② ゼミナールの再履修

必修科目のうち「ゼミナール」の再履修については、以下のような条件を満たす必要がある。

2年次において「ゼミナール1」の単位が修得できなかった場合、歴史学科の教員の会議で調整のうえ、3年次で再履修を認める。ただし近接分野を担当する教員の「ゼミナール1」を履修するものとする。「ゼミナール2」については指導教員のゼミナールを履修する。

3年次末までに、「ゼミナール1」または「ゼミナール2」のいずれかの単位が修得できなかった場合、歴史学科の教員の会議で調整のうえ、4年次で再履修を認める。この場合、「ゼミナール3」の履修および卒業論文の提出も4年次で認めることとする。

3年次末までに、「ゼミナール1」と「ゼミナール2」の両方の単位を取得できなかった場合は、歴史学科の教員の会議で調整のうえ、4年次において、それぞれの再履修を認める。ただし、「ゼミナール1」については近接分野を担当する教員のゼミナールを、「ゼミナール2」については指導教員のゼミナールを履修する。この場合、「ゼミナール3」の履修および卒業論文の提出は次の年度とする。

なお、3年次で協定校に留学した場合には、4年次での「ゼミナール2」「ゼミナール3」の履修および卒業論文の提出を認める。

③ 選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を修得できなかった場合は、必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく、別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能である。

歴史学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考		
専修大学 入学 教育 基礎 科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール			2	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。		
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール			2			
	基礎統計学	データ分析入門						
	キャリア教育関連科目	キャリア入門						
	情報リテラシー関連科目	情報入門Ⅰ 情報入門Ⅱ						
	基礎自然科学	あなたと自然科学				1年次で同一言語の101 a・bと102 a・bを履修しなければならない。		
	英語	A 群 Basics of English (RL) 1a(1) Basics of English (RL) 1b(1) または Intermediate English (RL) 1a(1) Intermediate English (RL) 1b(1)	General English 1 (1)				2	
		B 群 Basics of English (SW) 1a(1) Basics of English (SW) 1b(1) または Intermediate English (SW) 1a(1) Intermediate English (SW) 1b(1)	General English 1 (1)				2	
	外国語 基礎 科目 の 外 国 語	ドイツ語初級101 a(1) ドイツ語初級101 b(1) ドイツ語初級102 a(1) ドイツ語初級102 b(1) フランス語初級101 a(1) フランス語初級101 b(1) フランス語初級102 a(1) フランス語初級102 b(1) 中国語初級101 a(1) 中国語初級101 b(1) 中国語初級102 a(1) 中国語初級102 b(1) スペイン語初級101 a(1) スペイン語初級101 b(1) スペイン語初級102 a(1) スペイン語初級102 b(1) ロシア語初級101 a(1) ロシア語初級101 b(1) ロシア語初級102 a(1) ロシア語初級102 b(1) インドネシア語初級101 a(1) インドネシア語初級101 b(1) インドネシア語初級102 a(1) インドネシア語初級102 b(1) 韓国語初級101 a(1) 韓国語初級101 b(1) 韓国語初級102 a(1) 韓国語初級102 b(1)					4	同一言語の初級科目をすべて(4科目4単位)履修あるいは修得した場合、他の言語の初級科目を履修することはできない。
		スポーツリテラシー	スポーツリテラシー(1)					
人文科学基礎 関連科目		作品を創る1 作品を創る2 日本の文学を読む 越境する文学への招待 英語圏と文化・市民文化 歴史と地理・社会・文化 基礎心理学入門	哲学入門 歴史入門 思想のあゆみ 倫理と政治学入門 論議と芸術学入門	芸術の歴史1 芸術の歴史2 異文化理解の人類学 異文化の現場から 人類の暮らしと近代世界 現代社会と人類学 ジャーナリズムと現代			卒業要件単位8単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 「教養テーマゼミナール論文」は、「教養テーマゼミナール」の単位を修得し、次年度以降に同一教員の「教養テーマゼミナール」を履修する場合に作成(履修)することができる。	
社会科学基礎 関連科目		日本国憲法 社会学入門 政治学入門 経済学入門 地理学入門 自然環境の地理学 人文・社会環境の地理学	社会学入門 現代社会学 社会学の歴史 社会学思想と現代 社会学の場の教育学	教育と社会のダイナミズム 情報社会と人間(環境と認知) 情報社会と人間(情報デザイン) はじめての経営 マーケティングベーシックス				
自然科学系科目		基礎自然科学実験(1) 基礎自然科学実験 生物学101 生物学102 生物学201 生物学202	生物学301 生物学302 宇宙地球科学101 宇宙地球科学102 宇宙地球科学201 宇宙地球科学202	化学101 化学102 化学201 化学202 化学301 化学302	物理学101 物理学102 物理学201 物理学202 物理学301 物理学302	数理学101 数理学102 数理学201 数理学202 数理学301 数理学302		
融合領域科目			国際科目101 国際科目102 国際科目103 国際科目104	国際科目105 国際科目106 国際科目107 国際科目108	国際科目109 国際科目110 国際科目111(4) 国際科目112(4)	国際科目113(4) 国際科目114(4) 国際科目115(4)		
			テーマ科目201 テーマ科目202	テーマ科目203 テーマ科目204	テーマ科目205 テーマ科目206	テーマ科目207 テーマ科目208		
			新領域科目301 新領域科目302	新領域科目303 新領域科目304	新領域科目305			
			教養テーマゼミナールⅠ(4)		教養テーマゼミナールⅡ(4)	教養テーマゼミナールⅢ(4)	教養テーマゼミナール論文	
教養 育 科 目 系 外 国 語 の 外 国 語 の 外 国 語 の 外 国 語		英語	English Speaking a(1) English Speaking b(1)	Computer Aided Instruction a(1) Computer Aided Instruction b(1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a(1) Computer Aided Instruction for TOEIC b(1)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、それぞれ4単位まで履修することができる。	
	英語	Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b				
	基礎	ドイツ語中級201 a(1) ドイツ語中級201 b(1) ドイツ語中級202 a(1) ドイツ語中級202 b(1) フランス語中級201 a(1) フランス語中級201 b(1) フランス語中級202 a(1) フランス語中級202 b(1)	中国語中級201 a(1) 中国語中級201 b(1) 中国語中級202 a(1) 中国語中級202 b(1) スペイン語中級201 a(1) スペイン語中級201 b(1) スペイン語中級202 a(1) スペイン語中級202 b(1)	ロシア語中級201 a(1) ロシア語中級201 b(1) ロシア語中級202 a(1) ロシア語中級202 b(1) インドネシア語中級201 a(1) インドネシア語中級201 b(1) インドネシア語中級202 a(1) インドネシア語中級202 b(1)	韓国語中級201 a(1) 韓国語中級201 b(1) 韓国語中級202 a(1) 韓国語中級202 b(1)	韓国語中級201 a(1) 韓国語中級201 b(1) 韓国語中級202 a(1) 韓国語中級202 b(1)	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目2単位まで履修することができる。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできない。	
		基礎強化	ドイツ語中級プラス201 a ドイツ語中級プラス201 b ドイツ語中級プラス202 a ドイツ語中級プラス202 b フランス語中級プラス201 a フランス語中級プラス201 b	中国語中級プラス201 a 中国語中級プラス201 b 中国語中級プラス202 a 中国語中級プラス202 b	スペイン語中級プラス201 a スペイン語中級プラス201 b スペイン語中級プラス202 a スペイン語中級プラス202 b	韓国語中級プラス201 a 韓国語中級プラス201 b		韓国語中級プラス201 a 韓国語中級プラス201 b
	応用	ドイツ語上級301 a ドイツ語上級301 b フランス語上級301 a フランス語上級301 b 中国語上級301 a 中国語上級301 b スペイン語上級301 a スペイン語上級301 b			ロシア語上級301 a ロシア語上級301 b インドネシア語上級301 a インドネシア語上級301 b 韓国語上級301 a 韓国語上級301 b		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目、同一年度に4単位、年度を越えてさらに4単位、合計8単位まで履修することができる。	
		選択ドイツ語101 a(1) 選択ドイツ語101 b(1) 選択フランス語101 a(1) 選択フランス語101 b(1) 選択中国語101 a(1) 選択中国語101 b(1)	選択スペイン語101 a(1) 選択スペイン語101 b(1) 選択韓国語101 a(1) 選択韓国語101 b(1) 選択アラビア語101 a(1) 選択アラビア語101 b(1)	選択イタリア語101 a(1) 選択イタリア語101 b(1)				
	世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(韓国語)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。		
	言語文化研究(ヨーロッパ)1 言語文化研究(ヨーロッパ)2	言語文化研究(アジア)1 言語文化研究(アジア)2	言語文化研究(アメリカ)					
	海外語学 研修	海外語学短期研修1(外国語) 海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学短期研修2(外国語) 海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 海外語学短期研修は、夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修1に、春期留学プログラムを修了した場合に短期研修2に認定される。 海外語学中期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定される。		
	保健 体育 系 科目	スポーツ ウェルネス	スポーツウェルネス(1)			1	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 アドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することはできない。	
アドバンス スポーツ		アドバンススポーツ						
スポーツ 論	健康と生涯スポーツ スポーツと発育発達		オリンピックとスポーツ トレーニング科学	スポーツコーチング 人類とスポーツ				
自由選択修得要件単位					28			

歴史学科 (外国人留学生) 転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は、単位数を示す (記載のない科目は2単位)。

区分	1 年 次	2 年 次	3 年 次	4 年 次	卒業要件単位	備 考	
転換・導入教育基礎科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール			2		
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール			2		
	基礎統計学	データ分析入門					
	キャリア教育関連科目	キャリア入門					
	情報リテラシー関連科目	情報入門 I 情報入門 II					
	基礎自然科学	あなたと自然科学					
	外国語	日本語	日本語文章理解 1・2 (1) 日本語音声理解 1・2 (1) 日本語口頭表現 1・2 (1) 日本語文章表現 1・2 (1)			8	各科目の「1」は前期開講、「2」は後期開講とし、「1」と「2」はセットで履修しなければならない。各科目の前期「1」を単位修得できない場合、後期「2」の履修は削除しなければならない。
		英語	A Basics of English (RL) 1a(1) Basics of English (RL) 1b(1) または Intermediate English (RL) 1a(1) Intermediate English (RL) 1b(1) B Basics of English (SW) 1a(1) Basics of English (SW) 1b(1) または Intermediate English (SW) 1a(1) Intermediate English (SW) 1b(1)	General English 1 (1)	General English 1 (1)		General English 1は、英語 A・B 群の単位を修得できなかった場合に履修する科目。
	基礎以外の外国語	導入	ドイツ語初級 101 a・b (1) ドイツ語初級 102 a・b (1) フランス語初級 101 a・b (1) フランス語初級 102 a・b (1) 中国語初級 101 a・b (1) 中国語初級 102 a・b (1) スペイン語初級 101 a・b (1) スペイン語初級 102 a・b (1) ロシア語初級 101 a・b (1) ロシア語初級 102 a・b (1) インドネシア語初級 101 a・b (1) インドネシア語初級 102 a・b (1) 韓国語初級 101 a・b (1) 韓国語初級 102 a・b (1)				同一言語の 101 a・b と 102 a・b を履修しなければならない。 同一言語の初級科目をすべて (4 科目 4 単位) 履修あるいは修得した場合、他の言語の初級科目を履修することはできない。
			スポーツリテラシー	スポーツリテラシー (1)			1
	教養	留学生専修科目	一般日本事情 1 一般日本事情 2			4	
		人文科学基礎関連科目	作品を創る 1 作品を創る 2 日本の文学を読む 越境する文学への招待 英語圏と地域・民衆文化 歴史と社会・文化 基礎心理学入門 哲学入門 史学入門 日本思想のあゆみ 倫理学入門 論理と論理 芸術学入門 1 芸術学入門 2	芸術の歴史 1 芸術の歴史 2 芸術学 異文化理解の人類学 異文化の現場から 人類の暮らしと自然 人類学から見た近代世界 現代社会と人類学 ジャーナリズムと現代			卒業要件単位4単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 「教養テーマゼミナール論文」は、「教養テーマゼミナール」の単位を修得し、次年度以降に同一教員の「教養テーマゼミナール」を履修する場合に作成 (履修) することができる。
		社会科学基礎関連科目	日本国憲法 政治学入門 経済学入門 社会学入門 自然環境の地理学 人文・社会環境の地理学	現代社会学 社会学の歴史 社会学思想と現代社会学入門 社会学の教育学	教育と社会のダイナミズム 情報社会と人間 (環境と認知) 情報社会と人間 (情報デザイン) はじめての経営 マーケティングベーシック		
自然科学系科目		基礎自然科学実験 (1) 基礎生物学実験 生物学 101 生物学 102 生物学 201 生物学 202	生物学 301 生物学 302 宇宙地球科学 101 宇宙地球科学 102 宇宙地球科学 201 宇宙地球科学 202	化学 101 化学 102 化学 201 化学 202 化学 301 化学 302	物理学 101 物理学 102 物理学 201 物理学 202 物理学 301 物理学 302	数理学 101 数理学 102 数理学 201 数理学 202 数理学 301 数理学 302	科学論・科学史 101 科学論・科学史 102 科学論・科学史 201 科学論・科学史 202
融合領域科目		学際科目 101 学際科目 102 学際科目 103 学際科目 104	学際科目 105 学際科目 106 学際科目 107 学際科目 108	学際科目 109 学際科目 110 学際科目 111 (4) 学際科目 112 (4)	学際科目 113 (4) 学際科目 114 (4) 学際科目 115 (4)		
		テーマ科目 201 テーマ科目 202	テーマ科目 203 テーマ科目 204	テーマ科目 205 テーマ科目 206	テーマ科目 207 テーマ科目 208		
		新領域科目 301 新領域科目 302	新領域科目 303 新領域科目 304	新領域科目 305			
		教養テーマゼミナール I (4)	教養テーマゼミナール II (4)	教養テーマゼミナール III (4)	教養テーマゼミナール論文		
教育課程	日本語	日本語	応用日本語理解 1 (1) 応用日本語理解 2 (1) 応用日本語表現 1 (1) 応用日本語表現 2 (1)			修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 同一年度に各科目 1 科目、年度を超えて各科目 3 科目 3 単位まで履修できる。	
		英語	English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・b は、それぞれ 4 単位まで履修することができる。
	基礎	基礎	ドイツ語中級 201 a (1) ドイツ語中級 201 b (1) ドイツ語中級 202 a (1) ドイツ語中級 202 b (1) フランス語中級 201 a (1) フランス語中級 201 b (1) フランス語中級 202 a (1) フランス語中級 202 b (1)	中国語中級 201 a (1) 中国語中級 201 b (1) 中国語中級 202 a (1) 中国語中級 202 b (1)	ロシア語中級 201 a (1) ロシア語中級 201 b (1) ロシア語中級 202 a (1) ロシア語中級 202 b (1)	韓国語中級 201 a (1) 韓国語中級 201 b (1) 韓国語中級 202 a (1) 韓国語中級 202 b (1)	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。
		基礎強化	ドイツ語中級プラス 201 a ドイツ語中級プラス 201 b ドイツ語中級プラス 202 a ドイツ語中級プラス 202 b フランス語中級プラス 201 a フランス語中級プラス 201 b	フランス語中級プラス 202 a フランス語中級プラス 202 b 中国語中級プラス 201 a 中国語中級プラス 201 b 中国語中級プラス 202 a 中国語中級プラス 202 b	スペイン語中級プラス 201 a スペイン語中級プラス 201 b スペイン語中級プラス 202 a スペイン語中級プラス 202 b 韓国語中級プラス 201 a 韓国語中級プラス 201 b	韓国語中級プラス 202 a 韓国語中級プラス 202 b	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目 4 単位まで履修することができる。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできない。
	応用	応用	ドイツ語上級 301 a ドイツ語上級 301 b フランス語上級 301 a フランス語上級 301 b 中国語上級 301 a 中国語上級 301 b スペイン語上級 301 a スペイン語上級 301 b		ロシア語上級 301 a ロシア語上級 301 b インドネシア語上級 301 a インドネシア語上級 301 b 韓国語上級 301 a 韓国語上級 301 b		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目、同一年度に 4 単位、年度を越えてさらに 4 単位、合計 8 単位まで履修することができる。
		選択	選択ドイツ語 101 a (1) 選択ドイツ語 101 b (1) 選択フランス語 101 a (1) 選択フランス語 101 b (1) 選択中国語 101 a (1) 選択中国語 101 b (1)	選択スペイン語 101 a (1) 選択スペイン語 101 b (1) 選択韓国語 101 a (1) 選択韓国語 101 b (1) 選択アラビア語 101 a (1) 選択アラビア語 101 b (1)	選択イタリア語 101 a (1) 選択イタリア語 101 b (1)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 同一言語の選択 101 a・b をセットで履修する。 同一言語の初級 101 a・b, 102 a・b をすべて (4 科目 4 単位) 履修あるいは修得した場合、同一言語の選択 101 a・b を履修することはできない。
	海外語学	世界の言語と文化 (ドイツ語) 世界の言語と文化 (フランス語)	世界の言語と文化 (中国語) 世界の言語と文化 (スペイン語)	世界の言語と文化 (ロシア語) 世界の言語と文化 (インドネシア語)	世界の言語と文化 (韓国語)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。
		言語文化研究 (ヨーロッパ) 1 言語文化研究 (ヨーロッパ) 2	言語文化研究 (アジア) 1 言語文化研究 (アジア) 2	言語文化研究 (アメリカ)			
	海外語学研修	海外語学短期研修 1 (外国語)	海外語学短期研修 2 (外国語)				修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 海外語学短期研修は、夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修 1 に、春期留学プログラムを修了した場合に短期研修 2 に認定される。 海外語学中期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定される。
		海外語学中期研修 1 (外国語) 海外語学中期研修 2 (外国語) 海外語学中期研修 3 (外国語)	海外語学中期研修 4 (外国語) 海外語学中期研修 5 (外国語) 海外語学中期研修 6 (外国語)	海外語学中期研修 7 (外国語) 海外語学中期研修 8 (外国語)			
	保健体育系科目	スポーツウェルネス	スポーツウェルネス (1)			1	
		アドバンストスポーツ スポーツ論	アドバンストスポーツ 健康と生涯スポーツ スポーツと発育発達	オリンピックとスポーツ トレーニング科学	スポーツコーチング 人類とスポーツ		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 アドバンストスポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することはできない。
	自由選択修得要件単位					28	

環境地理学科

I 学科の目的・課題・方法

近代以降、地理学は、地圏と大気圏・水圏の自然環境および自然と人間との関係の法則性の追求、世界各地の地域・景観がもつ地域的差異の分析と諸要因が形成する地域の理解、地表で展開する諸現象・諸活動の空間法則の分析の3大関心領域をゆるやかに統合した研究分野として成立し、今日に至っている。

その土台のもと、環境地理学科は、フィールドワークおよび空間情報分析の双方に重点を置いた地理学の体系的な学修を通じて、地域や環境をめぐる現代の諸課題を的確に理解してその解決法を探求するための分析力・思考力を養い、地域・環境分析に携わる専門職業人、環境地理学の研究者・教員、環境地理学の修得内容を広く社会に還元できる人材の育成を目的とする。

我々の生存を脅かす環境問題、地域間相互作用の加速化を前にして、環境現象のメカニズム・構造の追究、資源や社会集団の存在形態の解明、地域知の体系的・操作的な理解、地域・地球情報の空間分析と地図化による発信などを主たる研究課題とする。換言すれば、有限地球が有する“one earth with many worlds”としての特性を正しく理解して発信することによって、地域・地球の持続可能性に貢献する。

上記のことから明らかなように、環境地理学科は人文科学・社会科学・自然科学にまたがる複合的分野である。そのすべてに精通することが望ましいが、包括的な方法論と分析手法の修得は大変高いハードルの到達目標である。しかし、その目標を放棄することなく学科全体で協力し、上記の目的と課題に対して意味のある貢献ができる能力を学生に身につけさせることが学科としての責務である。そのため、次の教育方法を採用している。

- ・広範な学問領域の根幹をできる限りカバーできるように、1学年約50名の学生に対して9名の専任教員を配置している。
- ・専任教員の専門分野について、講義科目と実験実習科目を対にして設けている。まず9名全員が分担する科目で各教員の専門分野が占める位相を明らかにし、ついで各専任教員の講義科目で各分野の基本知識と具体的研究課題を明示し、同じく実験実習科目でその領域の研究に要する基本的分析方法を習得させる。
- ・地理学に共通の分析ツールである、地図・景観分析、測量・地理（空間）情報処理について、1年次から3年次まで時間をかけて教授し、かつこれらを修得・活用することによって、卒業時に手続きをすれば、資格を取得できるようにしている。具体的には国家（国土交通省）認定資格の「測量士補」、および公益社団法人日本地理学会認定資格の「GIS学術士」や「地域調査士」がある。
- ・現地調査を実践して、生きた地域や現実の環境現象などを対象にして、観測・観察などのフィールドワーク、定量的・定性的分析、変化や構造の把握方法を学修する。関係機関への調査協力依頼、調査報告のとりまとめ、プレゼンテーションなどを通じて文章作成とコミュニケーションの能力も涵養する。これらを2年次（必修）、3・4年次（選択必修）、4年次（卒業論文）

必修)と、対象地域を変えて3度現地調査を実践することで、観測・観察手法と分析手法、論理的組み立てなどを、徐々に深く確実に修得させる。

- ・4年間の学修の集大成といえる卒業論文の作成に対して、各ゼミの授業とは別に、学科全体で中間発表会2回、本発表会(口頭試問)1回を開催する。全専任教員と4年生の参加はもちろん、3年生以下の学部生にも、この機会を活かして多様な研究テーマへの取り組みを学修させる。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

1. 卒業要件

卒業に必要な単位は124単位である。その内訳は、専修大学入門科目2単位、専修大学基礎科目11単位以上、教養科目9単位以上、専門科目78単位以上、自由選択修得要件単位となる科目24単位以上である(表1)。教養科目と専門科目の科目群はいずれも、必修科目、選択必修科目、選択科目に三分される。

2. 科目の履修方法

表1

		区 分		卒業要件単位	
転換・導入教育課程	専修大学基礎科目	専修大学入門科目		2	13
		専門入門ゼミナール		2	
		基礎統計学			
		キャリア教育関連科目			
		情報リテラシー関連科目			
		基礎自然科学			
		外国語基礎科目	英語	4	
			英語以外の外国語	4	
スポーツリテラシー		1			
教養教育課程	教養科目	人文科学基礎関連科目		8	9
		社会科学基礎関連科目			
		自然科学系科目			
		融合領域科目			
		外国語系科目	英語		
			英語以外の外国語		
			海外語学研修		
		保健体育系科目	スポーツウェルネス	1	
			アドバンストスポーツ		
			スポーツ論群		
自由選択修得要件単位				24	
専門教育課程	専門科目	必修科目		24	78
		選択必修科目		24	
		選択科目		30	

履修全般について、まず、次の諸点に注意を払ってほしい。

- ① 1年次に40単位、2年次に40単位、3年次に32単位、4年次に12単位を修得することを目安にして毎年の履修計画をたててもらいたい。4年次ではゼミナール2と卒業論文の作成にできるだけ時間を割いて取り組んでもらいたい。
- ② 配当年次指定科目は、その年次に履修しなければならない。必修科目および卒業要件単位を満たしていない科目について未修得の場合のみ、上位の年次で履修することが許される。
- ③ 同一名称の科目は原則として1つしか履修できない。(一部の教養科目を除く)

(1) 転換・導入教育課程

転換・導入教育課程は専修大学入門科目および専修大学基礎科目からなる。これらの科目の単位は、1年次に確実に修得することが望ましい。

専修大学入門科目として、専修大学入門ゼミナール(2単位)が開講される。これは環境地理学科の教員が担当する科目であり、1年次前期に必ず履修する。本学科1年次生を3クラスに分けて演習形式の授業を行い、文献の入手方法、文献の読み方、レポートの書き方、発表の仕方など、基本的な学修方法を身につけてもらう。

専修大学基礎科目は専門入門ゼミナール、基礎統計学、キャリア教育関連科目、情報リテラシー関連科目、基礎自然科学関連科目、外国語基礎科目、スポーツリテラシーからなる。これらのうち、専門入門ゼミナール(2単位)は環境地理学科の教員が担当する科目であり、1年次後期に必ず履修する。前期開講の専修大学入門ゼミナールと同じクラス分けて授業が行われ、基礎的な地図情報の扱いやフィールドワークに関する入門的な学修を含めたかたちで、演習形式の授業を行う。

専修大学基礎科目は、上記の他に、外国語基礎科目の中から英語4単位、英語以外の外国語4単位、スポーツリテラシー科目1単位が必修である。基礎統計学や情報リテラシー関連科目は必修ではないが、環境地理学科では数量的な分析能力や情報処理能力を育成する観点から、これらの科目の履修を推奨している。

(2) 教養教育課程

教養教育課程の教養科目は、人文科学基礎関連科目、社会科学基礎関連科目、自然科学系科目、融合領域科目、外国語系科目、保健体育系科目からなる。これらのうち、人文科学基礎関連科目、社会科学基礎関連科目、自然科学系科目、融合領域科目に該当する科目を合計8単位と、保健体育系科目のスポーツウェルネス1単位を含む、合計9単位以上を修得しなければならない。前者の8単位には人文、社会、自然の各分野のしぼりはなく任意に修得できるが、特定の分野に偏らず幅広く科目を選択して、教養を広げてほしい。

外国語系科目は必修ではないが、環境地理学科では卒業論文で海外研究に取り組むことも期待しているので、積極的に履修して継続的な学修に努めてほしい。

なお、教養科目には1年次向けのみ、あるいは1・2年次向けのみが開講される科目が含まれるので、計画的な履修と単位修得を心がけること。

(3) 専門教育課程

専門科目は後掲の表2に示すように、必修科目(表中○で示した科目)、選択必修科目(表中◎で示した科目)は学年進行形式で開講しているので、必ず配当年次に履修して単位を修得してもらいたい。

履修に関して、特に次の2点に注意してもらいたい。まず、1年次の通年必修科目「環境地理学

概論及び調査法」を1年次で必ず修得し、1年次から規則正しく学修する習慣をつけることが重要である。

第二に、環境地理学科では卒業論文が必修であり、ほぼ全員がフィールドワークを積み重ねて卒業論文を作成する。そのための実践的な調査の訓練を行うのが、2年次の通年必修科目「野外調査法1」と3・4年次の通年選択必修科目「野外調査法2」である。両方の科目を履修して、調査テーマの設定、研究史の整理、現地調査（聞き取り調査など）、収集データの整理分析、論理的考察、文章作成、プレゼンテーション、討議にわたる総合的な能力を涵養してもらいたい。

カリキュラム編成全般に関しては、次の教育方針を重視している。

- (a) 学年進行に合わせて基礎的内容から専門深化した内容・応用的な内容へと科目群を配列する。
- (b) 分野別の系統的学修・研究と総合的な地誌的学修・研究とを科目群として併置する。
- (c) 講義科目と実験・実習科目を併置して、分析技術を用いてデータを取得・分析し、データに基づいて考察することを可能にする。また演習科目としてゼミナールを3・4年次に配し、研究テーマの設定とそのため研究史の整理（文献の読解と整理）、論理的考察、文章作成とコミュニケーション、パワーポイント等での発表やレジュメ作成などの訓練を行う。

開講科目群を、教育方針に沿って模式的に示せば、表2のようになる。じっくり時間をかけて学ぶべき科目は通年科目とする一方で、多くの講義科目と実験・実習科目は半期科目とし、履修モデルや関心に沿った弾力的な科目選択が可能のように心がけ、機動的に実験・実習の成果を活用できるように配慮した。必修科目と選択必修科目は大半を専任教員が担当する。

以下に、必修科目、選択必修科目、および選択科目のそれぞれについて履修に際しての注意点等を挙げておく。

① 必修科目

「環境地理学概論及び調査法」：1年次生を対象にした、環境地理学の入門的内容。全教員が分担して地理学の基礎概念や環境地理学科における各教員の専門テーマをわかりやすく解説し、研究上の話題提供も行う。また、読図・空中写真判読・統計資料の利用法などの基礎的実習を行う科目である。

「野外調査法1」：2泊3日程度の野外調査を核に、その前後の準備と取りまとめの作業を通じて実態把握に基づく環境地理学の調査方法の基礎を身につけることが目的の科目である。なお、各自現地調査を行うための交通費・宿泊費等の負担が必要である。

「ゼミナール1・2」：ゼミナール1は3年次生を対象とする。9人の専任教員がそれぞれ開くゼミナールのいずれかに学生個人が選択して分属し、関心を持つ領域・分野を専門的に研究していく。ゼミナール2は4年次生を対象とし、卒業論文作成を主な目的とする。ゼミナール1・2は合同で行われ、原則として学生は3年次から4年次にかけて同一教員のゼミナールを選択する。ゼミナール1の選択のためのガイダンスは2年次の10～11月頃に行われる。

ゼミナール1とゼミナール2はいずれも必修科目である。環境地理学科では、その履修と単位修得について、次のルールを設けている。卒業要件に関わる重要な点なので、注意すること。

- ・「ゼミナール1・2」の各配当年次では、複数履修を認めない。すなわち、3年次生がゼミナール1を履修する場合、および4年次生がゼミナール2を履修する場合、いずれの場合も、ひとつのゼミナールしか履修することができない。
- ・ゼミナールは積み上げ方式のため、3年次でゼミナール1の単位が未修得の場合には、4年次

でゼミナール1を再履修し、5年次以上でゼミナール2を履修する。

- ・特例として、協定校に留学した場合、4年次でのゼミナール1と2の複数履修を認める。すなわち、異なる教員が異なる時間帯に開講しているゼミナール1とゼミナール2とをそれぞれひとつずつ履修することを認める。ゼミナール2の担当者が卒業論文の指導を担当する。
- ・卒業論文の作成にあたっては、学科として開催する2回の中間発表会と1回の本発表会（口頭試問）において、資料を配布して口答発表することを該当する全学生に義務づけている。これら3回の発表を行い、かつ提出論文が形式・内容両面で妥当な場合に卒業論文の単位が修得できる。

表2

履修年次	基礎的内容の科目		区分	基礎・専門深化の両方にまたがる内容		区分	専門深化・応用的内容の科目		区分
	系人	系自		系人	系自		系人	系自	
1	講	環境地理学概論及び調査法	○通						
1・2	講	人文地理学概論1	○						
1・2	講	人文地理学概論2	○						
1・2	講	自然地理学概論1	○						
1・2	講	自然地理学概論2	○						
1・2	講	地誌学概論	○						
2				演	野外調査法1	○通			
2・3				系人	都市環境学1	○			
2・3				系人	農村環境学1	○			
2・3				系人	歴史環境学1	○			
2・3				系人	社会環境学1	○			
2・3				系自	地誌学1	○			
2・3				系自	地形環境学1	○			
2・3				系自	気候環境学1	○			
2・3				系自	地域生態学1	○			
2・3				系自	環境図学1	○			
2・3				系自	空間情報学1	○			
2・3				系人	人文環境学調査法1	○			
2・3				系人	人文環境学調査法2	○			
2・3				系人	人文環境学調査法3	○			
2・3				系人	人文環境学調査法4	○			
2・3				系人	人文環境学調査法5	○			
2・3				系自	自然環境学調査法1	○			
2・3				系自	自然環境学調査法2	○			
2・3				系自	自然環境学調査法3	○			
2・3・4				系自	地理情報システム実習1	△△			
2・3・4							講	都市環境学2	△
2・3・4							系人	農村環境学2	△
2・3・4							系人	歴史環境学2	△
2・3・4							系人	社会環境学2	△
2・3・4							系自	地誌学2	△
2・3・4							系自	地形環境学2	△
2・3・4							系自	気候環境学2	△
2・3・4							系自	地域生態学2	△
2・3・4							系自	環境図学2	△
2・3・4							系自	空間情報学2	△
2・3・4							系人	地域研究1	△
2・3・4							系人	地域研究2	△
2・3・4							系人	地域研究3	△
2・3・4							系人	地域研究4	△
2・3・4							系人	地域研究5	△
2・3・4							系自	文化地理学	△
2・3・4							系自	陸水学	△
2・3・4							系自	測量学	△
2・3・4							系自	応用測量学	△
2・3・4							系自	測量学実習	△半連
2・3・4							系自	地理情報システム実習2	△
2・3・4							系自	リモートセンシング実習2	△
2・3・4							系自	環境地理学特殊講義A	△
2・3・4							系自	環境地理学特殊講義B	△
2・3・4							系自	環境地理学特殊講義C	△
2・3・4							系自	環境地理学特殊講義D	△
3				演	ゼミナール1	○通			
3・4							演	野外調査法2	○通
4							演	ゼミナール2	○通
4								卒業論文	○

注) 「講」「演」「実」は、それぞれ「講義を主とする科目」「演習を主とする科目」「実験実習を主とする科目」を指す。
「系人」「系自」「地」は、それぞれ「系統的人文地理」「系統的自然地理」「地誌地域研究」を指す。
○は必修科目、◎は選択必修科目、△は選択科目を指す。付記されている「通」は通年科目を、「半連」は半期2時限連続の科目を表し、その他は半期科目である。

② 選択必修科目

ここに含まれる科目は、環境地理学の中のさまざまな分野の専門的知識を身につけるための大切な科目である。表2中の「都市環境学1」「同2」から「空間情報学1」「同2」までの履修科目の中では、1でより基礎的な内容、2でより専門的・応用的な内容にしている場合もある。その場合、その分野の専門的知識の修得のためには、1を履修したのち、または1の履修と同時に、2を履修することが望ましい。

野外調査法2は、ぜひとも履修してもらいたい。教室で修得した知識や技術を現実世界の中で確認し、考察するための絶好の機会であり、卒業論文の研究を進める上でも大きな力・訓練となる。学生の多様な履修を保障するために本科目を必修科目にしていないが、できる限り多くの学生に積極的に履修してもらいたい。

③ 選択科目

選択科目は大きく次の3種類からなる。第一は「都市環境学2」から「空間情報学2」までの10科目で、これらは選択必修科目である「都市環境学1」～「空間情報学1」の科目とペアをなし、多くがより専門的に、あるいは応用的に学ぶ科目である。第二は、世界各地の地誌学・地域研究をめざす学生、地理学的環境の応用的研究の諸相を知りたい学生、環境地理学の全分野をカバーした上で卒論テーマ選択を行う学生のために設けられた科目で、「地域研究1」～「同5」、「環境地理学特殊講義A」～「同D」、「文化地理学」「陸水学」がこれにあたる。計画的に主に3年次に履修することが望ましい。第三は「測量学」「応用測量学」「測量学実習」「地理情報システム実習1」「同2」「リモートセンシング実習1」「同2」といった地理空間の情報を扱う技術的な科目であり、これらの技術を卒業論文作成に利用しようとする場合は、3年次までに履修しておくことが望ましい。

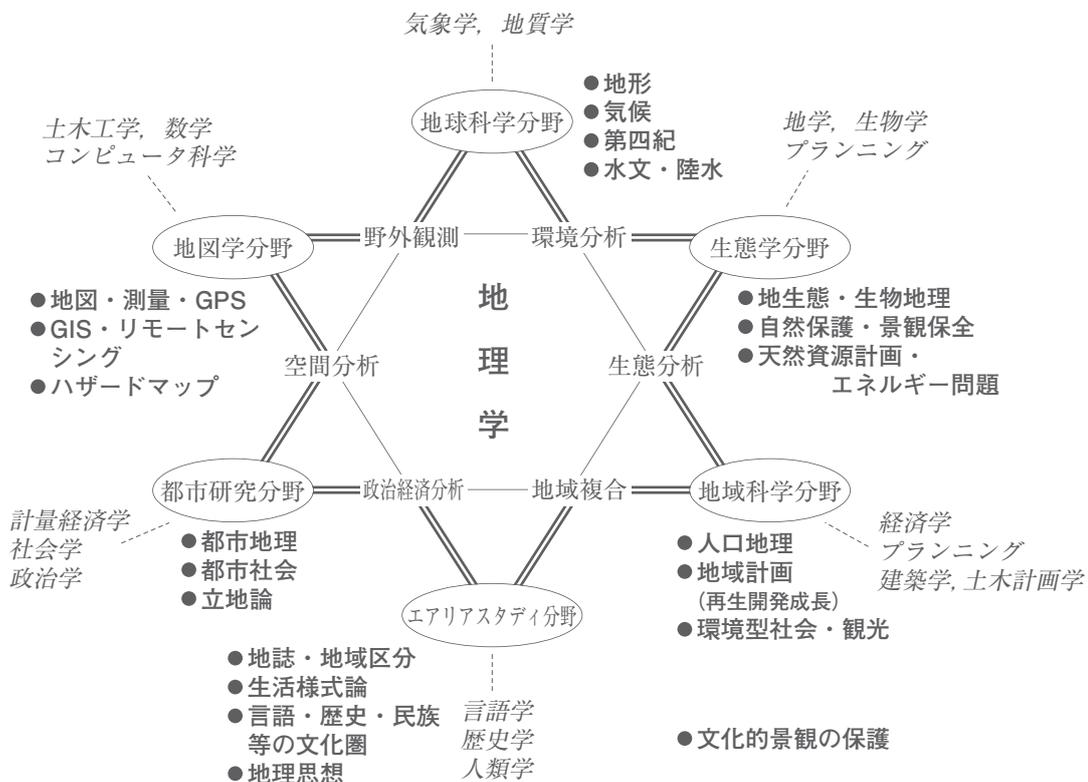


図1

国家資格「測量士補」は、「測量学」「測量学実習」等の単位を取得のうえ本学科を卒業し、各自が申請手続きして取得することができる。さらに、卒業後1年間測量の実務経験を加えると、上級の「測量士」資格も取得可能となる。(公社)日本地理学会の認定資格「GIS学術士」は、空間情報学・GIS等に関する所定の科目の単位を一定以上の成績で取得し、卒業論文でもGISを用いるなどの条件を満たした場合に取得することができる。GISの学修に各自が取り組めるよう、2号館2階に「地理学空間情報処理室」を設けている。テクニカルスタッフにも必要最小限教えを願い出て、ひとりひとり努力してもらいたい。これらの資格は、測量・地図、各種の調査コンサルタントなどの分野で働くうえで活かされると考えられる。

(4) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位とは、転換・導入教育課程、教養教育課程、専門教育課程で定められた卒業要件単位以外に、卒業までに修得しなければならない単位の総称である。

自由選択修得要件単位に算入されるものは以下の6つである。

- a. 転換・導入教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した環境地理学科開講の専門科目の単位。
- d. 環境地理学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
- e. 教職に関する科目ならびに司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし8単位まで。(詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照)
- f. 環境地理学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし24単位まで。

自由選択修得要件単位となる科目の履修方法は、原則として完全に学生各自の裁量に委ねられる。本学科は人文科学・社会科学・自然科学にまたがる非常に多くの学問分野と関連を有しており、P. ハゲットの『地理学：今日的な総合』等を参考にその内包と外延を示すと図1のようになる。それぞれの興味と関心に応じ、自由に独創的な時間割を組んでもらいたい。ただし、卒業までに自由選択修得要件単位数が24単位に達していなければならないことを忘れないでほしい。

(5) 再履修について

① 必修科目の再履修

必修科目の単位取得ができなかった場合は、必ず次の年次に、同一名称の科目を再度履修しなければならない。再履修科目は、原則として、すべてに優先して履修しなければいけない。一度単位を修得した科目は、成績の如何にかかわらず再履修できない。

② 選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を取得できなかった場合は、必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はない。他の科目の単位を取得して卒業要件を満たすことが可能である。

Ⅲ 履修モデルと資格認定手続き

1. 履修モデル

環境地理学科を構成する諸分野を踏まえて、次の4つの履修モデルを提示した。カリキュラムを組む際に参考にしてもらいたい。

① 人文・社会環境地理領域を主に学ぼうとする場合

必修科目群と選択必修科目の「野外調査法2」を履修するとともに、表2で「系統的人文地理」の講義・実習科目を主とし、それ以外の講義・実習科目を従として、選択して履修する。自分の関心テーマに対応した科目群やゼミを選択して、専門的知識・技能を高め、研究能力を育成してほしい。

② 自然環境地理領域を主に学ぼうとする場合

必修科目群と選択必修科目の「野外調査法2」を履修するとともに、表2で「系統的自然地理」の講義・実習科目を主とし、それ以外は上記に準じて、専門的知識・技能を高め、研究能力を育成してほしい。

③ 地誌・地域研究領域を主に学ぼうとする場合

必修科目群と選択必修科目の「野外調査法2」を履修するとともに、「地誌・地域研究」の講義・実習科目を主とし、それ以外の講義・実習科目を従として、選択して履修する。自然・人文を総合する専門的知識・技能を高め、研究能力を育成してほしい。

④ 空間情報領域をさらに学ぼうとする場合

①～③のいずれかの学修に努めるとともに、空間情報領域をさらに学ぼうとする場合は、次の履修を心がけてほしい。必修科目群と選択必修科目の「野外調査法2」を履修するとともに、「環境地図学1」「同2」「空間情報学1」「同2」「測量学」「応用測量学」「測量学実習」「地理情報システム実習1」「同2」「リモートセンシング実習1」「同2」を履修する。これらを通じて、卒業要件単位を満たす選択必修科目の講義や実習科目を選択して履修する。その上で、GISを活用して卒業論文を作成する。

なお、上に述べた履修モデルの如何にかかわらず、卒業要件は学科全体で同一である。

2. 資格の取得のための条件と手続き

以下に、国家資格である測量士補と、(公社)日本地理学会が認定するGIS学術士や地域調査士の資格を取得するのに必要な条件と手続き方法について、2017年12月現在の状況を示す。手続き方法や申請に必要な費用については今後変更される可能性もあるので、これらの資格を取得しようとするときは、改めて確認してもらいたい。

(1) 測量士補

その際「測量学」「測量学実習」を含め、選択必修科目および選択科目の中から測量関連科目を28単位以上取得していることが望ましい。環境地理学科を卒業すれば、卒業とともに測量士補の登録申請を行うことができる。

「測量学」「測量学実習」以外の測量関連科目は次の通り。

「概論」および「調査法」の科目、歴史環境学、地誌学、地形環境学、気候環境学、環境地図学、空間情報学、地理情報システム実習、リモートセンシング実習(いずれも1および2)、応用測量学、陸水学。

測量士補の資格登録は、各自が卒業後に申請する必要がある。登録申請書用紙を国土地理院ホームページからダウンロードし、必要事項を記入の上、大学の卒業証明書、成績証明書、登録通知書送付用封筒（宛先を記入し所要の切手を添付したもの）とともに国土地理院に簡易書留で郵送するか持参して提出する。登録には登録免許税 15,000 円が課せられており、その金額の収入印紙または国税収納金整理資金領収証書（正本）を登録申請書の所定欄に添付することが必要である。申請後、登録までに通常 50 日程度を要する。国土地理院の住所等は次のとおり。

国土地理院

〒305-0811 茨城県つくば市北郷 1 番 国土交通省 国土地理院 総務課試験登録係

<http://www.gsi.go.jp/>

(2) GIS 学術士

GIS 学術士の資格を取得するための要件は、原則として次の①～④をすべて満たして卒業することである。

- ① 「専門入門ゼミナール」「情報入門Ⅰ」「情報入門Ⅱ」のうち、少なくとも 1 科目の単位を取得していること。
- ② 「空間情報学Ⅰ」「空間情報学Ⅱ」のいずれか一方または両方の単位を取得していること。
- ③ 「地理情報システム実習Ⅰ」「地理情報システム実習Ⅱ」の両方の単位を取得していること。
- ④ 卒業論文が、「GIS を利用して、複数の主題図を作成するとともに、1 つ以上の手法の空間分析を実行したもの」であること。

GIS 学術士の認定手続きは、(公社)日本地理学会のホームページに掲載されており、申請書もダウンロードできる。卒業してから申請手続きをする場合は、認定審査手数料 10,800 円を郵便局を通じて払い込んだ上で、必要書類を(公社)日本地理学会に提出する。また、3 年次を終えた段階で就職活動用にあらず「GIS 学術士(見込み)認定証」を取得し、卒業後に「GIS 学術士資格認定証」を取得するという 2 段階の手続きをとることもできる。この場合は、それぞれの段階で各 5,400 円の手数料を払い込む必要がある。認定審査は年 3 回のみである点に留意すること。

(3) 地域調査士

地域調査士の標準カリキュラムに認定された科目(認定科目)を履修して卒業し、かつ「地域調査士講習」を受講することが、資格の取得に必要なことである。認定科目の一覧は(公社)日本地理学会の資格専門委員会のホームページに掲載されている。申請を行おうとする者は、上記のホームページから申請書をダウンロードし、(公社)日本地理学会事務局へ提出する。地域調査士の認定には手数料(5,400 円)が必要となる。資格の取得を希望する者は、3・4 年次に地域調査士講習を受講しておくとい(受講料 10,800 円)。申請の方法や講習会の日時・会場などの情報は上記のホームページに掲載されている。なお、一定の条件で単位を取得し、地域調査士講習を受講済みの場合は、在学中に「地域調査士取得見込み証明書」の発行を受けることができる。

環境地理学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている()内の数字は、単位数を示す(記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考		
専修大学 入学 教育 基礎 科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール			2	取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。		
	専門入門ゼミナール	専門入門ゼミナール			2			
	基礎統計学	データ分析入門						
	キャリア教育関連科目	キャリア入門						
	情報リテラシー関連科目	情報入門 I 情報入門 II						
	基礎自然科学	あなたと自然科学				13 同一言語の初級科目をすべて(4科目4単位)履修あるいは修得した場合、他の言語の初級科目を履修することはできない。		
	英語	A 群 Basics of English (RL) 1a(1) Basics of English (RL) 1b(1) または Intermediate English (RL) 1a(1) Intermediate English (RL) 1b(1)	General English 1 (1)				2	
		B 群 Basics of English (SW) 1a(1) Basics of English (SW) 1b(1) または Intermediate English (SW) 1a(1) Intermediate English (SW) 1b(1)		General English 1 (1)			2	
	外国語 基礎 科目 の 外 国 語	ドイツ語初級 101 a (1) ドイツ語初級 101 b (1) ドイツ語初級 102 a (1) ドイツ語初級 102 b (1) フランス語初級 101 a (1) フランス語初級 101 b (1) フランス語初級 102 a (1) フランス語初級 102 b (1) 中国語初級 101 a (1) 中国語初級 101 b (1) 中国語初級 102 a (1) 中国語初級 102 b (1) スペイン語初級 101 a (1) スペイン語初級 101 b (1) スペイン語初級 102 a (1) スペイン語初級 102 b (1) ロシア語初級 101 a (1) ロシア語初級 101 b (1) ロシア語初級 102 a (1) ロシア語初級 102 b (1) インドネシア語初級 101 a (1) インドネシア語初級 101 b (1) インドネシア語初級 102 a (1) インドネシア語初級 102 b (1) 韓国語初級 101 a (1) 韓国語初級 101 b (1) 韓国語初級 102 a (1) 韓国語初級 102 b (1)					4	
		スポーツリテラシー	スポーツリテラシー(1)					1
人文科学基礎 関連科目		作品を創る 1 作品を創る 2 日本の文学を読む 世界を越える文学への招待 英語圏の視点から歴史と文化 歴史と文化の基礎	応用心理学入門 哲学入門 日本思想入門 倫理学入門 倫理学と文化	芸術の歴史 1 芸術の歴史 2 芸術と文化 異文化理解の現場から 異文化の暮らしと近代世界 人類学から見た近代世界 現代社会と人類学 ジャーナリズムと現代				卒業要件単位8単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 「教養テーマゼミナール論文」は、「教養テーマゼミナール」の単位を修得し、次年度以降に同一教員の「教養テーマゼミナール」を履修する場合に作成(履修)することができる。
		社会科学基礎 関連科目	日本国憲法 社会学入門 政治学入門 経済学入門 環境学入門 人文・社会環境の地理学	社会学入門 現代社会学 社会学の歴史 社会学の思想と現代 社会学入門	学びの場の教育学 教育と社会のダイナミズム 情報社会と人間(環境と認知) 情報社会と人間(情報デザイン) はじめての経営 マーケティングベーシックス			
		自然科学系科目	基礎自然科学実験(1) 基礎自然科学実験 生物学101 生物学102 生物学201 生物学202	生物学301 生物学302 宇宙地球科学101 宇宙地球科学102 宇宙地球科学201 宇宙地球科学202	化学101 化学102 化学201 化学202 化学301 化学302		物理学101 物理学102 物理学201 物理学202 物理学301 物理学302	
融合領域科目		国際科目101 国際科目102 国際科目103 国際科目104	国際科目105 国際科目106 国際科目107 国際科目108	国際科目109 国際科目110 国際科目111(4) 国際科目112(4)	国際科目113(4) 国際科目114(4) 国際科目115(4)			
		テーマ科目201 テーマ科目202	テーマ科目203 テーマ科目204	テーマ科目205 テーマ科目206	テーマ科目207 テーマ科目208			
		新領域科目301 新領域科目302	新領域科目303 新領域科目304	新領域科目305				
		教養テーマゼミナール I (4)	教養テーマゼミナール II (4)	教養テーマゼミナール III (4)	教養テーマゼミナール論文			
英語		English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)			9 取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、それぞれ4単位まで履修することができる。 取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目2単位まで履修することができる。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできない。 取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目4単位まで履修することができる。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできない。 取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目、同一年度に4単位、年度を越えてさらに4単位、合計8単位まで履修することができる。 取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 同一言語の選択101 a・bをセットで履修する。同一言語の初級101 a・b, 102 a・bをすべて(4科目4単位)履修あるいは修得した場合、同一言語の選択101 a・bを履修することはできない。 取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 海外語学短期研修1は、夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修1に、春期留学プログラムを修了した場合に短期研修2に認定される。海外語学中期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定される。 取得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 アドバンストスポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することはできない。	
		基礎	Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b			
			ドイツ語中級 201 a (1) ドイツ語中級 201 b (1) ドイツ語中級 202 a (1) ドイツ語中級 202 b (1) フランス語中級 201 a (1) フランス語中級 201 b (1) フランス語中級 202 a (1) フランス語中級 202 b (1) 中国語中級 201 a (1) 中国語中級 201 b (1) 中国語中級 202 a (1) 中国語中級 202 b (1) インドネシア語中級 201 a (1) インドネシア語中級 201 b (1) インドネシア語中級 202 a (1) インドネシア語中級 202 b (1) 韓国語中級 201 a (1) 韓国語中級 201 b (1) 韓国語中級 202 a (1) 韓国語中級 202 b (1)	ドイツ語中級 201 a (1) ドイツ語中級 201 b (1) ドイツ語中級 202 a (1) ドイツ語中級 202 b (1) フランス語中級 201 a (1) フランス語中級 201 b (1) フランス語中級 202 a (1) フランス語中級 202 b (1) 中国語中級 201 a (1) 中国語中級 201 b (1) 中国語中級 202 a (1) 中国語中級 202 b (1) インドネシア語中級 201 a (1) インドネシア語中級 201 b (1) インドネシア語中級 202 a (1) インドネシア語中級 202 b (1) 韓国語中級 201 a (1) 韓国語中級 201 b (1) 韓国語中級 202 a (1) 韓国語中級 202 b (1)	ロシア語中級 201 a (1) ロシア語中級 201 b (1) ロシア語中級 202 a (1) ロシア語中級 202 b (1) インドネシア語中級 201 a (1) インドネシア語中級 201 b (1) インドネシア語中級 202 a (1) インドネシア語中級 202 b (1) 韓国語中級 201 a (1) 韓国語中級 201 b (1) 韓国語中級 202 a (1) 韓国語中級 202 b (1)	ロシア語中級 201 a (1) ロシア語中級 201 b (1) ロシア語中級 202 a (1) ロシア語中級 202 b (1) インドネシア語中級 201 a (1) インドネシア語中級 201 b (1) インドネシア語中級 202 a (1) インドネシア語中級 202 b (1) 韓国語中級 201 a (1) 韓国語中級 201 b (1) 韓国語中級 202 a (1) 韓国語中級 202 b (1)		
		基礎 強化	ドイツ語中級プラス 201 a ドイツ語中級プラス 201 b ドイツ語中級プラス 202 a ドイツ語中級プラス 202 b フランス語中級プラス 201 a フランス語中級プラス 201 b 中国語中級プラス 201 a 中国語中級プラス 201 b	フランス語中級プラス 202 a フランス語中級プラス 202 b 中国語中級プラス 201 a 中国語中級プラス 201 b 中国語中級プラス 202 a 中国語中級プラス 202 b	スペイン語中級プラス 201 a スペイン語中級プラス 201 b スペイン語中級プラス 202 a スペイン語中級プラス 202 b 韓国語中級プラス 201 a 韓国語中級プラス 201 b	ロシア語中級プラス 201 a ロシア語中級プラス 201 b ロシア語中級プラス 202 a ロシア語中級プラス 202 b インドネシア語中級プラス 201 a インドネシア語中級プラス 201 b		
			ドイツ語上級 301 a ドイツ語上級 301 b フランス語上級 301 a フランス語上級 301 b 中国語上級 301 a 中国語上級 301 b スペイン語上級 301 a スペイン語上級 301 b			ロシア語上級 301 a ロシア語上級 301 b インドネシア語上級 301 a インドネシア語上級 301 b 韓国語上級 301 a 韓国語上級 301 b		
		外国語 科目	選択ドイツ語 101 a (1) 選択ドイツ語 101 b (1) 選択フランス語 101 a (1) 選択フランス語 101 b (1) 選択中国語 101 a (1) 選択中国語 101 b (1)	選択スペイン語 101 a (1) 選択スペイン語 101 b (1) 選択ロシア語 101 a (1) 選択ロシア語 101 b (1) 選択韓国語 101 a (1) 選択韓国語 101 b (1)	選択イタリア語 101 a (1) 選択イタリア語 101 b (1)			
			世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(韓国語)		
		海外 語学 研修	言語文化研究(ヨーロッパ) 1 言語文化研究(ヨーロッパ) 2	言語文化研究(アジア) 1 言語文化研究(アジア) 2	言語文化研究(アメリカ)			
			海外語学短期研修1(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)				
	保健 体育 系 科目	スポーツウェルネス	スポーツウェルネス(1)			1		
アドバンストスポーツ		アドバンストスポーツ						
スポーツ論		健康と生涯スポーツ スポーツと発育発達	オリンピックとスポーツ トレーニング科学	スポーツコーチング 人類とスポーツ				
自由選択修得要件単位					24			

環境地理学科 (外国人留学生) 転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は、単位数を示す (記載のない科目は2単位)。

Table with columns: 区分, 1年次, 2年次, 3年次, 4年次, 卒業要件単位数, 備考. Rows include: 専修大学入門科目, 基礎統計学, 基礎自然科学, 外国語, 留学生専修科目, 人文科学基礎, 社会科学基礎, 自然科学系科目, 融合領域科目, 教養, 外国語, 海外語学研修, 保健体育系科目.

自由選択修得要件単位数

24

人文・ジャーナリズム学科

I 人文・ジャーナリズム学科の学生のために

1. 人文・ジャーナリズム学科の特色

日本で初めて「ジャーナリズム」を学科名に冠した本学科は、学生がコミュニケーション能力をつちかい、現場の課題を発見し、解決していく力を身につけることを目指して、2010年4月に発足した。

今まさに、地球規模で進む情報化社会にあって、また少子高齢化や格差拡大が急速に進む現代の日本社会において、異なる国や地域の言語と文化を正しく理解し、生涯を通じて健康で生きがいのある社会の創造を担い、かつ氾濫する情報のなかに真実を見抜く目を養うことが必要とされている。このために本学科は、これまでの文学部が大切にしてきたリベラルアーツの伝統を踏まえつつ、各分野の研究の深化と連携を通じて今日的な課題を乗り越えるために、「東西文化」「生涯学習」「ジャーナリズム」の3コースを設定した。

東西文化コースは、語学力を基礎として、世界の多様な文化の由来とあり方、またそれらの相互交流の諸相を正確に理解することを目指している。そして、それらの地域の人々と能動的に対応できる柔軟な思考力を持つ人材を育てようとしている。このコースが設定する各授業科目は、アジア及び大陸ヨーロッパを主要な教育・研究領域として見据えつつも、従来のアジア・ヨーロッパの対立的枠組みにとらわれることなく、新興著しい中南米地域を視野に収めたことが大きな特色である。人文・ジャーナリズム学科において正規科目となっている海外語学留学（中期留学プログラム）を積極的に位置づけ、多言語の習得と異文化との積極的な触れ合いを学修の柱としている。

生涯学習コースは、少子化、長寿社会化、格差社会化という目下の日本の社会的問題と正面から向き合い、問題解決の重要な方向性である生涯学習社会の形成と、その内実をなす個人のライフサイクルに合わせた学修やスポーツ・レクリエーション活動のあり方について、理論的・実践的に取り組むことを目指している。そして、生涯学習の視点から学校教育を考えられる教員、生涯学習・スポーツ分野の指導者や行政担当者になるべき人材の育成を企図している。このコースの授業科目では、スポーツ施設や生涯学習施設、地域社会の子育て・教育支援の現場などでの実習、ワークショップ実習、具体的な種目の実践を通じたスポーツ学習、生涯学習調査を含め、社会において役立ち応用が利く能力が身に付くよう工夫されている。

ジャーナリズムコースは、好奇心、行動力、想像力豊かで、氾濫する情報のなかに真実を見抜く目を持った学生を育てる。カリキュラムは、日々の出来事に強い好奇心と探究心をもって臨み、多様な価値観を学べるよう工夫されている。たとえば、戦争、沖縄、報道写真といった個別のジャーナリズム領域における課題と向き合う講座がある。メディアや情報ツールを使いこなして正確に情報収集・分析・加工し、それを社会に対して的確に伝えることができる人材の育成を目指している。そして、ジャーナリスト、アーキビスト、司書、学芸員などとして活躍するための基礎力を養成するとともに、一般企業やNPOのスタッフとして高度でユニークな情報リテラシーの習得を目指す。

また各コースを横断する科目群として、MLA（ミュージアム、ライブラリー、アーカイブ）の役割を深く学び、実践する力を養う「アーカイブ関連科目群」を置いている。本学科では、これらの専門職員としての資格取得を積極的に目指す学生のため、司書課程、学芸員課程の必修科目である「図書館概論」「博物館概論」を文学部専門科目として位置づけており、卒業の単位に加えることができる。

2. 1年次の学修とコース分け

人文・ジャーナリズム学科の1年次生は、転換・導入教育課程、教養教育課程の科目の他に、学科の専門科目として、各コースの研究領域に関する3種類の概論科目、「東西文化論」「生涯学習論」「マス・コミュニケーション概論」のうち前期に2科目を選んで受講しなければならない。概論科目では、それぞれの研究領域の学問的・実践的特質を理解してもらおうと共に、みなさん自身の問題関心と勉学への志向性を見つめなおし、2年次からのコース選択を誤りなくできるようになってほしい。

人文・ジャーナリズム学科の学生は、1年次から2年次に進級する時に、「東西文化」「生涯学習」「ジャーナリズム」の3コースおよび「ゼミナール」の所属を決定する。自らの将来の進路等に合わせ、学生は自由にコース選択をすることができる。各コースの定員は特段定めていないが、「ゼミナール」は少人数で専門的なテーマに関する学生の発表と、それをめぐる議論を中心に運営される授業であることから、定員を設けている。これらは秋に行われるガイダンスを受けた後に、「希望届」を提出してもらい、決定していくので、問題意識を持って、1年次前期から過ごしてほしい。

また1年次後期には、各コース1年次から配当されている選択必修の専門科目群も、履修することができる。2年次以降については、各コースによって履修すべき科目（選択必修科目）は大きく異なるので、コース選択の際には十分に考えて決定することを望みたい。なお3年次以降のコースの再変更に関しては、原則として認められない。

なお「アーカイブ関連科目群」の1年次から配当の選択科目に関しては、1年次前期から履修することができる。

Ⅱ 卒業要件と科目の履修方法

人文・ジャーナリズム学科の学生として、大学を卒業するために必要な諸要件と、科目の具体的な履修方法について概説する。以下の説明をよく読み、それに沿って履修計画を立ててほしい。

1. 卒業要件

一般に大学を卒業するためにはいくつもの要件が必要であるが（一般的な要件については、p.31「大学卒業の要件」を参照）、それに加えて、人文・ジャーナリズム学科の学生には、次頁の表に示した要件を充たすことが要求される。すなわち、大学においては半年の講義・演習等を履修し終えると、所定の単位が修得できる。その積み重ねで、4年間で少なくとも「124単位」を修得しないと卒業はできない。また、修得すべき単位は、決められたルールを守っている限り、自分の興味がある科目を自由に選択することが可能である。まさに自分色の「マイ・カリキュラム」を作

ることができるのである。次項「科目の履修方法」を読み、具体的な履修方法を理解した上でこの表を改めて見直し、要求されているものが何であるかを確認してほしい。

		区 分		卒業要件単位	
転換・導入教育課程	専修大学基礎科目	専修大学入門科目		2	11
		基礎統計学			
		キャリア教育関連科目			
		情報リテラシー関連科目			
		基礎自然科学			
		外国語基礎科目	英語	4	
			英語以外の外国語	4	
スポーツリテラシー		1			
教養教育課程	教養科目	人文科学基礎関連科目		8	9
		社会科学基礎関連科目			
		自然科学系科目			
		融合領域科目			
		外国語系科目	英語		
			英語以外の外国語		
			海外語学研修		
		保健体育系科目	スポーツウェルネス	1	
			アドバンススポーツ		
			スポーツ論群		
自由選択修得要件単位				32	
専門教育課程	専門科目	必修科目		20	72
		選択必修科目		36	
		選択科目		16	

2. 科目の履修方法

履修にあたっては、以下の4点に注意を払ってほしい。

- ① 「転換教育課程（専修大学入門科目）」、「導入教育課程（専修大学基礎科目）」、「教養教育課程（教養科目）」20単位以上、「専門教育課程（専門科目）」72単位以上、「自由選択修得要件単位となる科目」32単位以上、合計124単位以上を修得しなければならない。
- ② 各年次に修得する単位の目安（1年次34単位、2年次36単位、3年次36単位、4年次18単位）があるので、この条件も充たすように毎年の履修計画を立ててほしい（1年間で修得できる単位数には別途の限度が設けられている）。
- ③ 配当年次が指定されている科目については、その年次に履修しなければならない。
また、指定された配当年次が複数の年次にわたる科目は、それが「選択必修科目」である場合には、なるべく低年次で履修しておく方が望ましい。
- ④ 同一名称の科目は、原則として1つしか履修できない。一度に同一名称の科目を2つ以上履

修することはできないし、一度単位を修得した科目と同一名称の科目をもう一度履修することもできない。

(1) 転換・導入教育課程、教養教育課程の履修方法

転換・導入教育課程、教養教育課程にはそれぞれ必修科目として指定されている科目があるので、履修に際しては注意しなければならない。転換教育課程は p.43 に、導入教育課程は pp.44～52 に、教養教育課程については pp.53～71 に詳しい説明があるので、それを参考にして以下を確認してほしい。

1) 転換教育課程（専修大学入門科目）

人文・ジャーナリズム学科の学生は、転換教育課程に配置されている「専修大学入門ゼミナール」を、1年次に半期2単位を必ず修得しなければならない。

2) 導入教育課程（専修大学基礎科目）

① 外国語基礎科目

(i) 英語

人文・ジャーナリズム学科の学生は、1年次で英語4科目を履修し、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。A群の Basics of English (RL) 1a (前期), 1b (後期) または Intermediate English (RL) 1a (前期), 1b (後期) の2科目と、B群の Basics of English (SW) 1a (前期), 1b (後期) または Intermediate English (SW) 1a (前期), 1b (後期) の2科目を履修する。

(ii) 英語以外の外国語

人文・ジャーナリズム学科の学生は、1年次でドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、コリア語の7ヶ国語の中から1ヶ国語を選択して、前期2単位・後期2単位の計4単位を必ず修得しなければならない。初級101a (前期), 初級101b (後期) の2科目と、初級102a (前期), 初級102b (後期) の2科目を履修する。

なお人文・ジャーナリズム学科では、英語・英語以外の外国語の継続学修、これを活かしての留学を推奨している。2年次以上の外国語科目は教養教育課程の中の外国語系科目として開講されている。

② スポーツリテラシー

「スポーツリテラシー」は、1年次の前期に1単位必ず修得しなければならない。

③ 上記以外の科目

上記以外の導入教育科目に配置された科目（「データ分析入門」、「キャリア入門」、「情報入門Ⅰ」、「情報入門Ⅱ」、「あなたと自然科学」）は、選択科目として履修することができる。修得した単位は自由選択修得要件単位として算入することができる。

3) 教養教育課程（教養科目）

① 人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目

人文・ジャーナリズム学科の学生は、人文科学基礎関連科目・社会科学基礎関連科目・自然科学系科目・融合領域科目の中から8単位履修しなければならない。ただし各科目群の配当年次はそれぞれ異なるので、履修する際には注意しなければならない。人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は1，2年次にしか開講されていない。したがって人文科学基礎関連科目と社会科学基礎関連科目は3，4年次で再履修することはできない。自然科学系科目は1年次から4年次まで開講されている。融合領域科目は2年次以降に開講される。

② 保健体育系科目

「スポーツウェルネス」は、1年次の後期に1単位必ず修得しなければならない。

③ 上記以外の教養教育課程科目は選択科目として履修することができる。なお、人文・ジャーナリズム学科では、この課程での2年次以降の外国語系科目の履修を推奨している。修得した単位は自由選択修得要件単位に算入することができる。

(2) 専門教育課程（専門科目）の履修方法

専門教育課程（専門科目）の中には必ず修得しなければならない必修科目（pp.189～200「文学部専門科目一覧」で○印のついた科目）、開講された科目中から指定された科目数・単位数だけ必ず修得しなければならない選択必修科目（◎印のついた科目）、多くの科目の中から自分の学びたいものを自由に選べる選択科目（△印のついた科目）の3通りがある。必修科目は、2年次配当の「ゼミナール1・2」3年次配当の「ゼミナール3・4」、4年次配当の「ゼミナール5・6」「卒業論文」の7科目であり、いずれの単位が欠けても卒業できない。「ゼミナール1・2・3・4・5・6」は少人数で専門的なテーマに関する学生の発表とそれをめぐる議論を中心に運営される授業、卒業論文は自らが選んだテーマについての深い研究の結果を論文に仕上げるもので、いずれも文学部での学びの中核であるので、積極的に取り組んでほしい。

ゼミナール及び卒業論文の履修については、次のような制約があるので気をつけてほしい。

- ① ゼミナール1・2は複数（並行）履修を認めない。
- ② ゼミナール3・4は複数（並行）履修を認めない。
- ③ ゼミナール5・6は複数（並行）履修を認めない。
- ④ ゼミナール1・2・3・4・5・6及び卒業論文は積み上げ方式のため、原則として同一教員のゼミナールを履修し、そこで卒業論文指導を受ける（ゼミナール6履修者もしくは修得後のみ卒業論文の履修登録を認める）。
- ⑤ 2年次にゼミナール1・2が未取得の場合（協定校留学含む）、学科会議承認の下に、3年次でのゼミナール1・2と3・4との複数（直列）履修を認める。3年次にゼミナール3・4が未取得の場合（協定校留学含む）、学科会議承認の下に、4年次でのゼミナール3・4と5・6との複数（直列）履修と卒業論文の提出を認める。同じ教員のゼミナールが原則だが、ゼミナール3・4がゼミナール1・2と合併で展開している場合は、別のゼミナールを履修し

なくてはならない。ゼミナール3・4がゼミナール5・6と合併で展開している場合の履修についても、同様とする。

選択必修科目には学科共通のものと、コース独自のものとがある。学科共通の選択必修科目は、1年次前期に2科目履修することが義務づけられている「東西文化論」「生涯学習論」「マス・コミュニケーション概論」の3科目である。1年次秋には、コース及びゼミナールの希望届を提出し、2年次からは、各コースに所属しながら学んでいく。コース独自の選択必修科目は、言うまでもなく所属するコースによって指定が異なるので、特に注意してほしい。ただし1年次後期には、各コースに置かれた専門科目のうち、1年次から配当の選択必修科目について、自由に履修できる。将来の進路を見据えながら積極的に履修してほしい。選択必修科目は、合計で16科目が義務づけられており、そのうち4科目は所属コース以外の科目を履修しなければならない。

選択科目には、各コースの専門領域にかかわる多様な科目が置かれており、その中には他学部や文学部の他学科と合併開講している科目もある。また、各コースを横断する科目群として、MLA（ミュージアム、ライブラリー、アーカイブ）の役割を深く学び、実践する力を養う「アーカイブ関連科目群」を置いている。自分は特定の領域について深く学びたいのか、それとも多様な領域について幅広く学びたいのかをよく考え、自分に合った履修計画を立ててほしい。他コースの選択必修科目を履修した場合は、選択科目として扱われる。

なお、人文・ジャーナリズム学科では、文学部の他学科開講の多数の専門科目を、自由選択修得要件単位となる科目として学生に受講を認めている。それらの科目についても、可能な範囲でできるだけ多く履修し、幅広い学修を通して、総合的な視野を持つようにしてほしい。

(3) 自由選択修得要件単位となる科目の履修方法

自由選択修得要件単位となる科目とは、「転換教育課程（専修大学入門科目）」、「導入教育課程（専修大学基礎科目）」、「教養教育課程（教養科目）」の修得要件単位（20単位）、および「専門教育課程（専門科目）」の修得要件単位（72単位）を修得したうえで、さらに履修する科目の総称である。したがって自由選択修得要件単位に算入されるものは以下の6つである。

- a. 転換・導入教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- b. 教養教育課程に配置された科目のうち卒業要件単位を超えて修得した科目の単位。
- c. 選択必修科目および選択科目の卒業要件単位を超えて修得した人文・ジャーナリズム学科開講の専門科目の単位。
- d. 人文・ジャーナリズム学科の学生に受講が認められている文学部他学科開講の専門科目の単位。
- e. 教職に関する科目ならびに司書・司書教諭・学校司書課程科目の単位。ただし8単位まで。（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』参照）
- f. 人文・ジャーナリズム学科の学生に受講が認められている全学公開科目の単位。ただし32単位まで。

自由選択修得要件単位となる科目は、科目・区分にとらわれずに、自由に履修する科目である。それぞれの興味と関心に応じ、自由に独創的なカリキュラムを組んでもらいたい。ただし、人文・

ジャーナリズム学科の学生は、自由選択修得要件単位が卒業までに32単位に達していなければならないことを忘れないでほしい。

(4) 再履修について

① 必修科目の再履修

人文・ジャーナリズム学科の学生に課されている必修科目の単位を、何らかの理由で修得できなかった場合は、必ず次の年次で同一名称の科目を再度履修しなければならない。再履修科目は、すべてに優先して履修しなければならない点を銘記しておいてほしい。なお、一度単位を修得した科目の再履修はできないことを付記しておく。

② 選択必修科目および選択科目の再履修

選択必修科目および選択科目の単位を修得できなかった場合は、必ずしも同一名称の科目を再履修する必要はなく、別の科目の単位を修得して卒業要件を充たすことも可能である。

(5) 中期留学をした場合の単位認定について

人文・ジャーナリズム学科においては、海外に留学し研鑽を積むことを強く推奨する。本学には、正規の留学プログラムとして、短期、中期、 Semester、長期の4種類がある。ここで対象とするのは、半年間の海外の協定校等への留学である、「中期留学」プログラムである。

コースに関わらず本学協定校等で所定の中期留学プログラムの単位を取得した場合、単位認定は次のように行うものとする。

1. 学科所定の専門科目「中期留学プログラム1～8」の単位が認定される。この単位認定は16単位をまとめて行うものとし、一部での単位認定は認めない。
2. 本人の希望に応じ、教養科目の「海外語学中期研修」として認定することもできる。したがって、留学を複数回行うことは可能であり、その場合は、専門科目として1回、教養科目として1回認定される。ただし、同一の大学に留学した場合は、単位認定の対象とはしない。

人文・ジャーナリズム学科転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は、単位数を示す (記載のない科目は2単位)。

区分	1年次	2年次	3年次	4年次	卒業要件単位	備考		
専修大学 入学 教育 基礎 課程 科目	専修大学入門科目	専修大学入門ゼミナール			2	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。		
	基礎統計学	データ分析入門						
	キャリア教育関連科目	キャリア入門						
	情報リテラシー関連科目	情報入門Ⅰ 情報入門Ⅱ						
	基礎自然科学	あなたと自然科学				11 1年次で同一言語の101 a・bと102 a・bを履修しなければならない。 同一言語の初級科目をすべて(4科目4単位)履修あるいは修得した場合、他の言語の初級科目を履修することはできない。		
	英語	A群 Basics of English (RL) 1a(1) Basics of English (RL) 1b(1) または Intermediate English (RL) 1a(1) Intermediate English (RL) 1b(1)	General English 1 (1)				2	
		B群 Basics of English (SW) 1a(1) Basics of English (SW) 1b(1) または Intermediate English (SW) 1a(1) Intermediate English (SW) 1b(1)		General English 1 (1)			2	
	外国語 基礎 の 外国語	ドイツ語初級101 a(1) ドイツ語初級101 b(1) ドイツ語初級102 a(1) ドイツ語初級102 b(1) フランス語初級101 a(1) フランス語初級101 b(1) フランス語初級102 a(1) フランス語初級102 b(1) 中国語初級101 a(1) 中国語初級101 b(1) 中国語初級102 a(1) 中国語初級102 b(1) スペイン語初級101 a(1) スペイン語初級101 b(1) スペイン語初級102 a(1) スペイン語初級102 b(1) ロシア語初級101 a(1) ロシア語初級101 b(1) ロシア語初級102 a(1) ロシア語初級102 b(1) インドネシア語初級101 a(1) インドネシア語初級101 b(1) インドネシア語初級102 a(1) インドネシア語初級102 b(1) 韓国語初級101 a(1) 韓国語初級101 b(1) 韓国語初級102 a(1) 韓国語初級102 b(1)					4	
		スポーツリテラシー	スポーツリテラシー(1)					1
		人文科学基礎 関連科目	作品を創る1 作品を創る2 日本の文学を読む 世界を巡る文学への招待 英語圏の文学と文化 英語圏の歴史と文化 英語圏の社会と文化	基礎心理学入門 応用心理学入門 哲学の歴史 日本思想のあゆみ 倫理学入門 倫理と政治	芸術学入門1 芸術学入門2 芸術の歴史1 芸術の歴史2 芸術学を学ぶ 異文化理解の人類学 異文化の現場から 人類の暮らしと自然 現代社会と人類学			
社会科学基礎 関連科目		日本国憲法 社会学入門 現代社会学 社会学の歴史 社会学の発展 社会学の未来	人文・社会環境の地理学 社会学入門 現代社会学 社会学の方法 社会学の歴史 社会学の発展 社会学の未来	学びの場の教育学 教育と社会のダイナミクス 情報社会と人間(環境と認知) 情報社会と人間(情報デザイン) はじめての経営 マーケティングベジックス				
自然科学系科目		基礎自然科学実験(1) 基礎自然科学実験(2) 基礎自然科学実験(3) 基礎自然科学実験(4) 基礎自然科学実験(5) 基礎自然科学実験(6) 基礎自然科学実験(7) 基礎自然科学実験(8)	生物学301 生物学302 宇宙地球科学101 宇宙地球科学102 宇宙地球科学201 宇宙地球科学202	化学101 化学102 化学201 化学202 化学301 化学302	物理学101 物理学102 物理学201 物理学202 物理学301 物理学302	数理学101 数理学102 数理学201 数理学202 数理学301 数理学302	科学論・科学史101 科学論・科学史102 科学論・科学史201 科学論・科学史202	
融合領域科目		国際科目101 国際科目102 国際科目103 国際科目104	国際科目105 国際科目106 国際科目107 国際科目108	国際科目109 国際科目110 国際科目111(4) 国際科目112(4)	国際科目113(4) 国際科目114(4) 国際科目115(4)			
		テーマ科目201 テーマ科目202	テーマ科目203 テーマ科目204	テーマ科目205 テーマ科目206	テーマ科目207 テーマ科目208			
		新領域科目301 新領域科目302	新領域科目303 新領域科目304	新領域科目305				
		教養テーマゼミナールⅠ(4)	教養テーマゼミナールⅡ(4)	教養テーマゼミナールⅢ(4)	教養テーマゼミナール論文			
教養 育 科 目		英語	English Speaking a(1) English Speaking b(1)	Computer Aided Instruction a(1) Computer Aided Instruction b(1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a(1) Computer Aided Instruction for TOEIC b(1)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・bは、それぞれ4単位まで履修することができる。	
	Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b		English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b				
	外国語 基礎 強化	ドイツ語中級201 a(1) ドイツ語中級201 b(1) ドイツ語中級202 a(1) ドイツ語中級202 b(1) フランス語中級201 a(1) フランス語中級201 b(1) フランス語中級202 a(1) フランス語中級202 b(1)	中国語中級201 a(1) 中国語中級201 b(1) 中国語中級202 a(1) 中国語中級202 b(1) スペイン語中級201 a(1) スペイン語中級201 b(1) スペイン語中級202 a(1) スペイン語中級202 b(1)	ロシア語中級201 a(1) ロシア語中級201 b(1) ロシア語中級202 a(1) ロシア語中級202 b(1) インドネシア語中級201 a(1) インドネシア語中級201 b(1) インドネシア語中級202 a(1) インドネシア語中級202 b(1)	韓国語中級201 a(1) 韓国語中級201 b(1) 韓国語中級202 a(1) 韓国語中級202 b(1)		9 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目2単位まで履修することができる。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできない。 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目4単位まで履修することができる。ただし、同一年度に同一科目を履修することはできない。 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 各科目、同一年度に4単位、年度を越えてさらに4単位、合計8単位まで履修することができる。 修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 同一言語の選択101 a・bをセットで履修する。同一言語の初級101 a・b, 102 a・bをすべて(4科目4単位)履修あるいは修得した場合、同一言語の選択101 a・bを履修することはできない。	
		ドイツ語中級プラス201 a ドイツ語中級プラス201 b ドイツ語中級プラス202 a ドイツ語中級プラス202 b フランス語中級プラス201 a フランス語中級プラス201 b	フランス語中級プラス202 a フランス語中級プラス202 b 中国語中級プラス201 a 中国語中級プラス201 b 中国語中級プラス202 a 中国語中級プラス202 b	スペイン語中級プラス201 a スペイン語中級プラス201 b スペイン語中級プラス202 a スペイン語中級プラス202 b 韓国語中級プラス201 a 韓国語中級プラス201 b	韓国語中級プラス202 a 韓国語中級プラス202 b			
		ドイツ語上級301 a ドイツ語上級301 b フランス語上級301 a フランス語上級301 b 中国語上級301 a 中国語上級301 b スペイン語上級301 a スペイン語上級301 b		ロシア語上級301 a ロシア語上級301 b インドネシア語上級301 a インドネシア語上級301 b 韓国語上級301 a 韓国語上級301 b				
		選択ドイツ語101 a(1) 選択ドイツ語101 b(1) 選択フランス語101 a(1) 選択フランス語101 b(1) 選択中国語101 a(1) 選択中国語101 b(1)	選択スペイン語101 a(1) 選択スペイン語101 b(1) 選択韓国語101 a(1) 選択韓国語101 b(1) 選択アラビア語101 a(1) 選択アラビア語101 b(1)	選択イタリア語101 a(1) 選択イタリア語101 b(1)				
	世界の言語と文化(ドイツ語) 世界の言語と文化(フランス語)	世界の言語と文化(中国語) 世界の言語と文化(スペイン語)	世界の言語と文化(ロシア語) 世界の言語と文化(インドネシア語)	世界の言語と文化(韓国語)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。		
	言語文化研究(ヨーロッパ)1 言語文化研究(ヨーロッパ)2	言語文化研究(アジア)1 言語文化研究(アジア)2	言語文化研究(アメリカ)					
	海外語学短期研修1(外国語)	海外語学短期研修2(外国語)				修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 海外語学短期研修は、夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修1に、春期留学プログラムを修了した場合に短期研修2に認定される。 海外語学中期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定される。		
	海外語学研修	海外語学中期研修1(外国語) 海外語学中期研修2(外国語) 海外語学中期研修3(外国語)	海外語学中期研修4(外国語) 海外語学中期研修5(外国語) 海外語学中期研修6(外国語)	海外語学中期研修7(外国語) 海外語学中期研修8(外国語)				
保健 体育 系 科目	スポーツウェルネス	スポーツウェルネス(1)			1	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 アドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を履修していない場合は、履修することはできない。		
	アドバンススポーツ	アドバンススポーツ						
	スポーツ論	健康と生涯スポーツ スポーツと発育発達	オリンピックとスポーツ トレーニング科学	スポーツコーチング 人類とスポーツ				
自由選択修得要件単位					32			

人文・ジャーナリズム学科 (外国人留学生) 転換・導入教育課程、教養教育課程科目一覧

※科目名の後ろに記載されている () 内の数字は、単位数を示す (記載のない科目は2単位)。

区分	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	卒業要件単位	備 考	
転換・導入教育基礎科目	専修大学入門科目	専修大学入門セミナー			2		
	基礎統計学	データ分析入門				修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。	
	キャリア教育関連科目	キャリア入門					
	情報リテラシー関連科目	情報入門 I 情報入門 II					
	基礎自然科学	あなたと自然科学					
	外国語以外の基礎外国語	日本語	日本語文章理解 1・2 (1) 日本語音声理解 1・2 (1) 日本語口頭表現 1・2 (1) 日本語文章表現 1・2 (1)			8	各科目の「1」は前期開講、「2」は後期開講とし、「1」と「2」はセットで履修しなければならない。各科目の前期「1」を単位修得できない場合、後期「2」の履修は削除しなければならない。
		英語	A Basics of English (RL) 1a(1) Basics of English (RL) 1b(1) または Intermediate English (RL) 1a(1) Intermediate English (RL) 1b(1) B Basics of English (SW) 1a(1) Basics of English (SW) 1b(1) または Intermediate English (SW) 1a(1) Intermediate English (SW) 1b(1)	General English 1 (1)		11	
	導入	ドイツ語初級 101 a・b (1) ドイツ語初級 102 a・b (1) フランス語初級 101 a・b (1) フランス語初級 102 a・b (1) 中国語初級 101 a・b (1) 中国語初級 102 a・b (1) スペイン語初級 101 a・b (1) スペイン語初級 102 a・b (1) ロシア語初級 101 a・b (1) ロシア語初級 102 a・b (1) インドネシア語初級 101 a・b (1) インドネシア語初級 102 a・b (1) 韓国語初級 101 a・b (1) 韓国語初級 102 a・b (1)					同一言語の初級科目をすべて (4科目4単位) 履修あるいは修得した場合、他の言語の初級科目を履修することはできない。
		スポーツリテラシー	スポーツリテラシー (1)			1	
	教養	留学生専修科目	一般日本事情 1 一般日本事情 2			4	卒業要件単位4単位を超えて修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 「教養テーマゼミナール論文」は、「教養テーマゼミナール」の単位を修得し、次年度以降に同一教員の「教養テーマゼミナール」を履修する場合に作成 (履修) することができる。
人文科学基礎関連科目		作品を創る 1 作品を創る 2 日本の文学を読む 越境する文学への招待 英語圏文学の視点 歴史と地域・民衆 歴史と社会・文化	基礎心理学入門 応用心理学入門 哲学者の歴史 日本の思想と倫理 倫理学とことばと論理	芸術学入門 1 芸術学入門 2 芸術学入門 3 芸術学入門 4 異文化理解の人類学 異文化の現場から 人類の暮らしと自然 現代社会と人類学			
社会科学基礎関連科目		日本国憲法と社会 政治と社会 経済と社会 地理学への招待 自然環境の地理学	人文・社会環境の地理学 社会学入門 現代社会学 社会学の方法 社会学の歴史 社会学思想と現代	学びの場の教育学 教育と社会のダイナミクス 情報社会と人間 (環境と認知) 情報社会と人間 (情報デザイン) はじめての経営 マーケティングベーシック			
自然科学系科目		基礎自然科学実験 (1) 基礎自然科学実験 生物学 101 生物学 102 生物学 201 生物学 202	生物学 301 生物学 302 宇宙地球科学 101 宇宙地球科学 102 宇宙地球科学 201 宇宙地球科学 202	化学 101 化学 102 化学 201 化学 202 化学 301 化学 302	物理学 101 物理学 102 物理学 201 物理学 202 物理学 301 物理学 302	数理学 101 数理学 102 数理学 201 数理学 202 数理学 301 数理学 302	
融合領域科目		国際科目 101 国際科目 102 国際科目 103 国際科目 104	国際科目 105 国際科目 106 国際科目 107 国際科目 108	国際科目 109 国際科目 110 国際科目 111 (4) 国際科目 112 (4)		国際科目 113 (4) 国際科目 114 (4) 国際科目 115 (4)	
		テーマ科目 201 テーマ科目 202	テーマ科目 203 テーマ科目 204	テーマ科目 205 テーマ科目 206		テーマ科目 207 テーマ科目 208	
		新領域科目 301 新領域科目 302	新領域科目 303 新領域科目 304	新領域科目 305			
		教養テーマゼミナール I (4)	教養テーマゼミナール II (4)	教養テーマゼミナール III (4)		教養テーマゼミナール論文	
教養育科目	日本語	応用日本語理解 1 (1) 応用日本語理解 2 (1) 応用日本語表現 1 (1) 応用日本語表現 2 (1)				修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 同一年度に各科目 1 科目、年度を超えて各科目 3 科目 3 単位まで履修できる。	
	英語	English Speaking a (1) English Speaking b (1)	Computer Aided Instruction a (1) Computer Aided Instruction b (1)	Computer Aided Instruction for TOEIC a (1) Computer Aided Instruction for TOEIC b (1)			修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。
	基礎	英語	Advanced English a Advanced English b English Language and Cultures a English Language and Cultures b	English Presentation a English Presentation b English Writing a English Writing b	Screen English a Screen English b		English Speaking a・b, Advanced English a・b, English Language and Cultures a・b は、それぞれ 4 単位まで履修することができる。
		基礎	ドイツ語中級 201 a (1) ドイツ語中級 201 b (1) ドイツ語中級 202 a (1) ドイツ語中級 202 b (1) フランス語中級 201 a (1) フランス語中級 201 b (1) フランス語中級 202 a (1) フランス語中級 202 b (1) 中国語中級 201 a (1) 中国語中級 201 b (1) 中国語中級 202 a (1) 中国語中級 202 b (1) スペイン語中級 201 a (1) スペイン語中級 201 b (1) スペイン語中級 202 a (1) スペイン語中級 202 b (1)	中国語中級 201 a (1) 中国語中級 201 b (1) 中国語中級 202 a (1) 中国語中級 202 b (1) インドネシア語中級 201 a (1) インドネシア語中級 201 b (1) インドネシア語中級 202 a (1) インドネシア語中級 202 b (1)	ロシア語中級 201 a (1) ロシア語中級 201 b (1) ロシア語中級 202 a (1) ロシア語中級 202 b (1) インドネシア語中級 201 a (1) インドネシア語中級 201 b (1) インドネシア語中級 202 a (1) インドネシア語中級 202 b (1)	韓国語中級 201 a (1) 韓国語中級 201 b (1) 韓国語中級 202 a (1) 韓国語中級 202 b (1)	
	基礎強化	英語	ドイツ語中級プラス 201 a ドイツ語中級プラス 201 b ドイツ語中級プラス 202 a ドイツ語中級プラス 202 b フランス語中級プラス 201 a フランス語中級プラス 201 b 中国語中級プラス 201 a 中国語中級プラス 201 b 中国語中級プラス 202 a 中国語中級プラス 202 b	フランス語中級プラス 202 a フランス語中級プラス 202 b 中国語中級プラス 201 a 中国語中級プラス 201 b 中国語中級プラス 202 a 中国語中級プラス 202 b	スペイン語中級プラス 201 a スペイン語中級プラス 201 b スペイン語中級プラス 202 a スペイン語中級プラス 202 b 韓国語中級プラス 201 a 韓国語中級プラス 201 b	ロシア語中級プラス 202 a ロシア語中級プラス 202 b 韓国語中級プラス 202 a 韓国語中級プラス 202 b	
		応用	ドイツ語上級 301 a ドイツ語上級 301 b フランス語上級 301 a フランス語上級 301 b 中国語上級 301 a 中国語上級 301 b スペイン語上級 301 a スペイン語上級 301 b		ロシア語上級 301 a ロシア語上級 301 b インドネシア語上級 301 a インドネシア語上級 301 b 韓国語上級 301 a 韓国語上級 301 b		
	外国語	基礎	選択ドイツ語 101 a (1) 選択ドイツ語 101 b (1) 選択フランス語 101 a (1) 選択フランス語 101 b (1) 選択中国語 101 a (1) 選択中国語 101 b (1)	選択スペイン語 101 a (1) 選択スペイン語 101 b (1) 選択ロシア語 101 a (1) 選択ロシア語 101 b (1) 選択韓国語 101 a (1) 選択韓国語 101 b (1)	選択イタリア語 101 a (1) 選択イタリア語 101 b (1)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 同一言語の選択 101 a・b をセットで履修する。 同一言語の初級 101 a・b, 102 a・b をすべて (4 科目 4 単位) 履修あるいは修得した場合、同一言語の選択 101 a・b を履修することはできない。
		応用	世界の言語と文化 (ドイツ語) 世界の言語と文化 (フランス語)	世界の言語と文化 (中国語) 世界の言語と文化 (スペイン語)	世界の言語と文化 (ロシア語) 世界の言語と文化 (インドネシア語)		世界の言語と文化 (韓国語)
	言語文化研究		言語文化研究 (ヨーロッパ) 1 言語文化研究 (ヨーロッパ) 2	言語文化研究 (アジア) 1 言語文化研究 (アジア) 2	言語文化研究 (アメリカ)		修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。
		海外語学短期研修	海外語学短期研修 1 (外国語)	海外語学短期研修 2 (外国語)			修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 海外語学短期研修は、夏期留学プログラムを修了した場合に短期研修 1 に、春期留学プログラムを修了した場合に短期研修 2 に認定される。 海外語学短期研修は、中期留学プログラムを修了した場合に認定される。
保健体育系科目	スポーツウェルネス	スポーツウェルネス (1)			1	修得した単位は、自由選択修得要件単位に算入される。 アドバンススポーツは、スポーツリテラシーとスポーツウェルネスの単位を修得していなければ、履修することはできない。	
	アドバンススポーツ	アドバンススポーツ					
	スポーツ論	健康と生涯スポーツ スポーツと発育発達		オリンピックとスポーツ トレーニング科学	スポーツコーチング 人類とスポーツ		
自由選択修得要件単位					32		

人文・ジャーナリズム学科専門科目一覧

※科目名の後ろに記載されている（ ）内の数字は配当年次を示す。

区分	1年次			2年次			3年次			4年次			備考	卒業要件単位				
	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選	科目名	単位	必選						
転換・導入教育課程														11				
教養教育課程														9				
専門科目	必修科目			ゼミナール1 ゼミナール2	2 2	○ ○	ゼミナール3 ゼミナール4	2 2	○ ○	ゼミナール5 卒業論文	2 8	○ ○	7科目20単位必修	20				
	コース共通	東西文化論 (1・2・3・4) 生涯学習論 (1・2・3・4) マス・コミュニケーション概論 (1・2・3・4)									2 2 2	○ ○ ○	2科目4単位選択必修 ※3コース共通	4				
	選択必修科目	東西文化コース	多文化社会と共生 (1・2・3・4) 日本の中の世界 (1・2・3・4) 文化の衝突と融合1 (1・2・3・4) 文化の衝突と融合2 (1・2・3・4)					中国の文化と歴史 (2・3・4) アジアの文化と歴史 (2・3・4) ヨーロッパの文化と歴史 (2・3・4) 中米の文化と歴史 (2・3・4) 世界の文化と歴史 (2・3・4) 「交易の文化・文化の交易」論1 (2・3・4) 「交易の文化・文化の交易」論2 (2・3・4) アジア文化論1 (2・3・4) アジア文化論2 (2・3・4) 中国語文化論 (2・3・4) 韓国語文化論 (2・3・4) 西語文化論1 (2・3・4) 西語文化論2 (2・3・4) 中・東欧文化論1 (2・3・4) 中・東欧文化論2 (2・3・4) ラテンアメリカ文化論1 (2・3・4) イスラームの歴史 (2・3・4)										
		生涯学習コース	生涯教育・学習思想 (1・2・3・4) 学習ファシリテーション論 (1・2・3・4) ジェンダー教育論 (1・2・3・4) 生涯スポーツ学 (1・2・3・4)					生涯学習調査実習1 (2・3・4) 生涯学習調査実習2 (2・3・4) 生涯スポーツ実習1 (2・3・4) 生涯スポーツ実習2 (2・3・4)			2科目4単位選択必修							
		スポーツの心理学 (2・3・4) 生涯学習心理学 (2・3・4) 生涯学習政策論 (2・3・4) 生涯学習施設論 (2・3・4) ワークショップ演習ベーシック (2・3・4) ワークショップ演習アドバンス (2・3・4) スポーツ政策論 (2・3・4) スポーツサイエンス論 (2・3・4) スポーツの社会学 (2・3・4) スポーツビジネス (2・3・4) 教育史1 (2・3・4) 教育史2 (2・3・4) スポーツメンタルトレーニング演習 (2・3・4) スポーツ情報戦略論 (2・3・4) スポーツライフマネジメント論 (2・3・4) 子ども・若者支援演習 (2・3・4) 人権教育・学習支援NPO論 (2・3・4)																
		ジャーナリズムコース	ジャーナリズム論 (1・2・3・4) 国際ジャーナリズム論 (1・2・3・4) 政治ジャーナリズム論 (1・2・3・4) スポーツジャーナリズム論 (1・2・3・4)					放送学1 (2・3・4) 放送学2 (2・3・4) 新聞学1 (2・3・4) 新聞学2 (2・3・4) 出版学1 (2・3・4) 出版学2 (2・3・4) 広告学1 (2・3・4) 広告学2 (2・3・4) 言論法1 (2・3・4) 言論法2 (2・3・4) メディアと社会 (2・3・4) メディアと教育 (2・3・4) メディアと文化 (2・3・4) メディアと経済 (2・3・4) メディアと政治 (2・3・4) メディアと国際関係 (2・3・4) ジャーナリズム研究1 (2・3・4) ジャーナリズム研究2 (2・3・4) 報道写真論 (2・3・4) 戦争ジャーナリズム論 (2・3・4) メディアビジネス論 (2・3・4)										
		アーカイブ系	アーカイブ論1 (1・2・3・4) アーカイブ論2 (1・2・3・4) 図書館概論 (1・2・3・4) 博物館概論 (1・2・3・4)					情報メディア発達史 (2・3・4) 情報学情報源論 (2・3・4) 博物館資料調査法 (2・3・4) 情報アクセスビリティ論 (2・3・4)			アーカイブ特講 (3・4)							
		外国語系						中期留学プログラム1 (2・3・4) 中期留学プログラム2 (2・3・4) 中期留学プログラム3 (2・3・4) 中期留学プログラム4 (2・3・4) 中期留学プログラム5 (2・3・4) 中期留学プログラム6 (2・3・4) 中期留学プログラム7 (2・3・4) 中期留学プログラム8 (2・3・4)			中国語文化演習1 (3・4) 中国語文化演習2 (3・4) 韓国語文化演習1 (3・4) 韓国語文化演習2 (3・4) フランス語文化演習1 (3・4) フランス語文化演習2 (3・4) ドイツ語文化演習1 (3・4) ドイツ語文化演習2 (3・4) スペイン語文化演習1 (3・4) スペイン語文化演習2 (3・4)			8科目16単位選択 上記専門選択必修科目の超過修得単位は選択科目の単位に算入される。	16			
		社会学系	社会学原論1 (1) 社会学原論2 (1)	2 2	△ △				現代社会学論1 (2・3・4) 現代社会学論2 (2・3・4) 現代文化論1 (2・3・4) 現代文化論2 (2・3・4) 現代家族社会学1 (2・3・4) 現代家族社会学2 (2・3・4) 経済学概論1 (2・3) 経済学概論2 (2・3) 憲法1 (2・3) 憲法2 (2・3) 民法1 (2・3) 民法2 (2・3)									
		自由選択修得要件単位となる科目	人文・ジャーナリズム学科の学生に受講が認められている転換・導入教育課程、教養教育課程、専門教育課程の科目。教職・司書・司書教諭・学校司書課程の科目の一部（詳しくは『教職・司書・司書教諭・学校司書・学会員課程学修ガイドブック』参照）。全学公開科目。											転換・導入教育課程、教養教育課程、専門教育課程の超過修得単位は自由選択修得要件単位に算入される。	32			
年次修得単位の目安	34			36			36			18				124				

文学部専門科目一覧

日本語学科専門科目一覧

日本文学文化学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	日本語	日本文学文化	英語英米文	哲学	歴史	環境地理	人文ジャーナリズム
日本語の文法 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語の文法 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語情報処理 1	2	1	○	△	△	△	△	△	△
日本語情報処理 2	2	1	△	△	△	△	△	△	△
日本語情報処理応用 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語情報処理応用 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語の資料研究 A-1	2	1・2	△	△	△	△	△	△	△
日本語の資料研究 A-2	2	1・2	△	△	△	△	△	△	△
日本語の資料研究 B-1	2	1・2	△	△	△	△	△	△	△
日本語の資料研究 B-2	2	1・2	△	△	△	△	△	△	△
日本語学入門 1	2	1	△	△	△	△	△	△	△
日本語学入門 2	2	1	△	△	△	△	△	△	△
日本語の歴史 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語の歴史 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
ことばと社会 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
ことばと社会 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語の諸問題 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語の諸問題 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語の語彙・意味 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語の語彙・意味 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語の音声・音韻 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語の音声・音韻 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
現代日本語の研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
現代日本語の研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語学総合	2	1	△	△	△	△	△	△	△
日本語教授法 A-1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語教授法 A-2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語教授法 B-1	2	3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語教授法 B-2	2	3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語教材研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語教材研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語教育実習 A	4	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語教育実習 B	4	3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語教育実習 C	2	2・3	△	△	△	△	△	△	△
発達言語学 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
発達言語学 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
認知言語学 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
認知言語学 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語の資料研究 C-1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語の資料研究 C-2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
第二言語習得研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
第二言語習得研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
文化とコミュニケーション1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
文化とコミュニケーション2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語の文字・表記 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語の文字・表記 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本語統計・情報処理	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
ゼミナール 1	4	2	○	△	△	△	△	△	△
ゼミナール 2	4	3	○	△	△	△	△	△	△
ゼミナール 3	4	4	○	△	△	△	△	△	△
卒業論文	8	4	○	△	△	△	△	△	△

科目名	単位	配当年次	日本文学文化	日本語	英語英米文	哲学	歴史	環境地理	人文ジャーナリズム
日本文学概論 1	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学概論 2	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学講義 1	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学講義 2	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学講義 3	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学講義 4	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学講義 5	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学講義 6	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学講義 7	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学講義 8	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学講義 9	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学講義 10	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学講義 11	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学講義 12	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
中国文学講義 1	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
中国文学講義 2	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
出版文化論 1	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
出版文化論 2	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
ビジュアル文化論	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
児童文学研究	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学実地研究	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
民俗文化論 1	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
民俗文化論 2	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学研究 3	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学研究 4	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学研究 5	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学研究 6	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学研究 7	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学研究 8	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
現代文学研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
現代文学研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
中国文学研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
中国文学研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
比較文学研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
比較文学研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
文藝創作 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
文藝創作 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学通史 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文学通史 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
中国文学史 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
中国文学史 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文化研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文化研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文化研究 3	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文化研究 4	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文化研究 5	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文化研究 6	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文化研究 7	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文化研究 8	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
アジア文化研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
アジア文化研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
マンガ研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
マンガ研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
比較文化研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
比較文化研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
伝統文化研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
伝統文化研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
演劇研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
演劇研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
現代文化研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
現代文化研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
映画研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
映画研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
書道 1	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
書道 2	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
書道 3	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
書道 4	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
書道 5	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
書道 6	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
書道史	2	2・3	△	△	△	△	△	△	△
書道美学論	2	2・3	△	△	△	△	△	△	△
ゼミナール 1	4	2	○	△	△	△	△	△	△
ゼミナール 2	4	3	○	△	△	△	△	△	△
ゼミナール 3	4	4	○	△	△	△	△	△	△
卒業論文	8	4	○	△	△	△	△	△	△

英語英米文学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	英米英語	米英語文化	語文英語文化	日本語	日本文学文化	哲学	歴史	環境地理	人文ジャーナリズム
Reading 1	1	1	○	○							
Reading 2	1	1	○	○							
Composition 1	1	1	○	○							
Composition 2	1	1	○	○							
Oral Communication 1	1	1	○	○							
Oral Communication 2	1	1	○	○							
Oral Communication 3	1	1	○	○							
Oral Communication 4	1	1	○	○							
Listening 1	1	1	○	○							
Listening 2	1	1	○	○							
英語総合演習 1	2	2	○	○							
英語総合演習 2	2	2	○	○							
Oral Communication 5	1	2	○	○							
Oral Communication 6	1	2	○	○							
Advanced Reading 1	2	2	◎	◎							
Advanced Reading 2	2	2	◎	◎							
Advanced Reading 3	2	3・4	◎	◎							
Advanced Reading 4	2	3・4	◎	◎							
Advanced Composition 1	2	2	◎	◎							
Advanced Composition 2	2	2	◎	◎							
Advanced Composition 3	2	3・4	◎	◎							
Advanced Composition 4	2	3・4	◎	◎							
Advanced Oral Communication 1	2	3・4	◎	◎							
Advanced Oral Communication 2	2	3・4	◎	◎							
Advanced Listening 1	2	2	◎	◎							
Advanced Listening 2	2	2	◎	◎							
Advanced Listening 3	2	3・4	◎	◎							
Advanced Listening 4	2	3・4	◎	◎							
上級英語総合演習 1	2	3・4		◎							
上級英語総合演習 2	2	3・4		◎							
国際理解 1	2	2	◎	◎							
国際理解 2	2	2	◎	◎							
英語圏事情 1	2	2	◎	◎							
英語圏事情 2	2	2	◎	◎							
英語プレゼンテーション 1	2	2	◎								
英語プレゼンテーション 2	2	2	◎								
通訳入門 1	2	2	○	△							
通訳入門 2	2	2	○	△							
翻訳入門 1	2	2	○	△							
翻訳入門 2	2	2	○	△							
通訳演習 1	2	3・4	◎								
通訳演習 2	2	3・4	◎								
翻訳演習 1	2	3・4	◎	△							
翻訳演習 2	2	3・4	◎	△							
翻訳演習 3	2	3・4	◎	△							
翻訳演習 4	2	3・4	◎	△							
Business & English 1	2	3・4	◎	◎							
Business & English 2	2	3・4	◎	◎							
Media English 1	2	3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
Media English 2	2	3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
Japan & the World 1	2	3・4	◎	◎							
Japan & the World 2	2	3・4	◎	◎							
イギリス文学の世界 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
イギリス文学の世界 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
アメリカ文学の世界 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
アメリカ文学の世界 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△

科目名	単位	配当年次	英米英語	米英語文化	語文英語文化	日本語	日本文学文化	哲学	歴史	環境地理	人文ジャーナリズム
英米の小説 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米の小説 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米の詩・演劇 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米の詩・演劇 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
キリスト教文化論 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
キリスト教文化論 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英語学概論 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英語学概論 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英語の音声と歴史 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英語の音声と歴史 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
イギリスの歴史と文化 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
イギリスの歴史と文化 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
アメリカの歴史と文化 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
アメリカの歴史と文化 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英語教育の研究と実践 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英語教育の研究と実践 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
言語と社会 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
言語と社会 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
言語とコミュニケーション 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
言語とコミュニケーション 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米映画論 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米映画論 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米文学文化特殊講義 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米文学文化特殊講義 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米文学文化特殊講義 3	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米文学文化特殊講義 4	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米文学文化特殊講義 5	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米文学文化特殊講義 6	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英語学特殊講義 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英語学特殊講義 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英語学特殊講義 3	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英語学特殊講義 4	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英語学特殊講義 5	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英語学特殊講義 6	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米研究特殊講義 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米研究特殊講義 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米研究特殊講義 3	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
英米研究特殊講義 4	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
応用言語学特殊講義 1	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
応用言語学特殊講義 2	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
応用言語学特殊講義 3	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
応用言語学特殊講義 4	2	2・3・4	◎	◎	△	△	△	△	△	△	△
特別総合講義 1	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△	△	△
特別総合講義 2	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△	△	△
中期留学 1-8	各2	2・3・4	◎	△							
Special Seminar	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△	△	△
英語英米文学概論 1	2	1	○	○							
英語英米文学概論 2	2	1	○	○							
ゼミナール 1	2	3	○	○							
ゼミナール 2	2	3	○	○							
ゼミナール 3	2	4	○	○							
ゼミナール 4	2	4	○	○							
卒業研究	4	4	○	○							

哲学科専門科目一覧

科目名	単 位	配 当 年 次	○：必修，◎選択必修，△：選択 #：自由選択修得要件単位										
			日 本 語	日 本 文 学 文 化	英語英米文 ケ ー シ ョ ン		哲 学	歴 史	環 境 地 理	人文・ジャ ム ナ リ ズ ム			
					英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	英 語 文 化				東 西 文 化	生 涯 学 習	ジ ャ ー ナ リ ズ ム	
哲学概論 1	2	12	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
哲学概論 2	2	12	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
倫理学概論 1	2	12	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
倫理学概論 2	2	12	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
論理学概論 1	2	12	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
論理学概論 2	2	12	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
芸術学概論 1	2	12	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
芸術学概論 2	2	12	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
西洋哲学史（古代）	2	123	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
西洋哲学史（中世）	2	123	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
西洋哲学史（近代）1	2	123	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
西洋哲学史（近代）2	2	123	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
西洋哲学史（現代）1	2	123	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
西洋哲学史（現代）2	2	123	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
日本思想史 1	2	123	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
日本思想史 2	2	123	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
中国思想史	2	123	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
アジア思想特殊講義 1	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
インド思想史	2	123	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
アジア思想特殊講義 2	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
イスラム思想史	2	123	△	△	△	△	◎	△	△	△	△	△	△
アジア思想特殊講義 3	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
日本の思想（近現代以前）	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
近現代の日本の思想	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
日本の伝統芸能	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
精神分析学	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
言語論	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
宗教学 1	2	1234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
宗教学 2	2	1234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
心の哲学	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
科学哲学	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
社会哲学	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
倫理の哲学	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
音楽論	2	1234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
美術論 1	2	1234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
美術論 2	2	1234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ギリシア語入門 1	2	1234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ギリシア語入門 2	2	1234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ラテン語入門 1	2	1234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ラテン語入門 2	2	1234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ギリシア語文献講読 1	2	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

科目名	単 位	配 当 年 次	○：必修，◎選択必修，△：選択 #：自由選択修得要件単位										
			日 本 語	日 本 文 学 文 化	英語英米文 ケ ー シ ョ ン		哲 学	歴 史	環 境 地 理	人文・ジャ ム ナ リ ズ ム			
					英 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	英 語 文 化				東 西 文 化	生 涯 学 習	ジ ャ ー ナ リ ズ ム	
ギリシア語文献講読 2	2	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ギリシア語文献講読 3	2	3	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ギリシア語文献講読 4	2	3	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ギリシア語文献講読 5	2	4	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ギリシア語文献講読 6	2	4	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ラテン語文献講読 1	2	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ラテン語文献講読 2	2	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ラテン語文献講読 3	2	3	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ラテン語文献講読 4	2	3	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ラテン語文献講読 5	2	4	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ラテン語文献講読 6	2	4	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ポップカルチャー論	2	1234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
映像文化論	2	1234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
パフォーマンス論	2	1234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
哲学特殊講義 1	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
哲学特殊講義 2	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
哲学特殊講義 3	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
哲学特殊講義 4	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
哲学の手ほどき	4	1	△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	△
ことばの哲学	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
論理の哲学	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
文化の哲学 1	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
文化の哲学 2	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
フェミニズム思想	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
現代形而上学入門	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
現代思想	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
生命の哲学	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
社会学原論 1	2	12	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
社会学原論 2	2	12	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
憲法 1	2	23	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
憲法 2	2	23	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
現代社会論 1	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
現代社会論 2	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
現代文化論 1	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
現代文化論 2	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
家族の社会学 1	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
家族の社会学 2	2	234	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ゼミナール 1	4	2	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ゼミナール 2	4	3	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
ゼミナール 3	4	4	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
卒業論文	8	4	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△

歴史学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	歴史	日本語	日本文学文化	英語英米文	哲学	環境地理	人文ジャーナリズム
日本史概説 1	2	1・2	◎	△	△	△	△	△	△
日本史概説 2	2	1・2	◎	△	△	△	△	△	△
アジア史概説 1	2	1・2	◎	△	△	△	△	△	△
アジア史概説 2	2	1・2	◎	△	△	△	△	△	△
欧米史概説 1	2	1・2	◎	△	△	△	△	△	△
欧米史概説 2	2	1・2	◎	△	△	△	△	△	△
歴史資料研究法 1	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 2	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 3	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 4	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 5	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 6	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 7	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 8	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 9	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 10	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 11	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 12	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 13	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 14	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 15	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 16	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 17	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 18	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 19	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
歴史資料研究法 20	2	2	◎	/	/	/	/	/	/
日本文化史 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本文化史 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
アジア文化史 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
アジア文化史 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
欧米文化史 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
欧米文化史 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
古墳からみた国家形成 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
古墳からみた国家形成 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本古代の王権と国家 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本古代の王権と国家 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本古代の国家と宗教 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本古代の国家と宗教 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本中世の法と政治 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本中世の法と政治 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本近世の政治と社会 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本近世の政治と社会 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本近代民衆史 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本近代民衆史 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本近代の政治と社会 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本近代の政治と社会 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△

科目名	単位	配当年次	歴史	日本語	日本文学文化	英語英米文	哲学	環境地理	人文ジャーナリズム
中国古代の国家と家族 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
中国古代の国家と家族 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
東アジア関係論 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
東アジア関係論 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
南アジア関係論 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
南アジア関係論 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
ヨーロッパの国家と民衆 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
ヨーロッパの国家と民衆 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
近代ヨーロッパ政治史 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
近代ヨーロッパ政治史 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
アメリカの人種と政治 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
アメリカの人種と政治 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
東アジア考古学 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
東アジア考古学 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
日本の宗教と社会	2	3・4	△	△	△	△	△	△	△
世界史講義 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
世界史講義 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
世界史講義 3	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
世界史講義 4	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
世界史講義 5	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
世界史講義 6	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
世界史講義 7	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
世界史講義 8	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
イスラーム史 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	/
イスラーム史 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	/
ジェンダー史 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
ジェンダー史 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
古文書学概論 1	2	1・2	△	△	△	△	△	△	△
古文書学概論 2	2	1・2	△	△	△	△	△	△	△
考古学概論 1	2	1・2	△	△	△	△	△	△	△
考古学概論 2	2	1・2	△	△	△	△	△	△	△
総合世界史 1	2	1・2	△	/	/	/	/	/	/
総合世界史 2	2	1・2	△	/	/	/	/	/	/
総合世界史 3	2	1・2	△	/	/	/	/	/	/
総合世界史 4	2	1・2	△	/	/	/	/	/	/
総合世界史 5	2	1・2	△	/	/	/	/	/	/
総合世界史 6	2	1・2	△	/	/	/	/	/	/
古文書学実習	4	3・4	△	/	/	/	/	/	/
考古学実習	4	3・4	△	/	/	/	/	/	/
ゼミナール 1	4	2	○	/	/	/	/	/	/
ゼミナール 2	4	3	○	/	/	/	/	/	/
ゼミナール 3	4	4	○	/	/	/	/	/	/
卒業論文	8	4	○	/	/	/	/	/	/

環境地理学科専門科目一覧

科目名	単位	配当年次	環境地理	日本語	日本文学文化	英語英米文	哲学	歴史	人文ジャーナリズム
環境地理学概論及び調査法	4	1	○	△	△	△	△	△	△
野外調査法 1	4	2	○	△	△	△	△	△	△
人文地理学概論 1	2	1・2	◎	△	△	△	△	△	△
人文地理学概論 2	2	1・2	◎	△	△	△	△	△	△
自然地理学概論 1	2	1・2	◎	△	△	△	△	△	△
自然地理学概論 2	2	1・2	◎	△	△	△	△	△	△
地誌学概論	2	1・2	◎	△	△	△	△	△	△
人文環境学調査法 1	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
人文環境学調査法 2	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
人文環境学調査法 3	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
人文環境学調査法 4	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
人文環境学調査法 5	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
自然環境学調査法 1	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
自然環境学調査法 2	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
自然環境学調査法 3	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
野外調査法 2	4	3・4	◎	△	△	△	△	△	△
都市環境学 1	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
都市環境学 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
農村環境学 1	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
農村環境学 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
歴史環境学 1	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
歴史環境学 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
社会環境学 1	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
社会環境学 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
地誌学 1	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
地誌学 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
地形環境学 1	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
地形環境学 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
気候環境学 1	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
気候環境学 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△

科目名	単位	配当年次	環境地理	日本語	日本文学文化	英語英米文	哲学	歴史	人文ジャーナリズム
地域生態学 1	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
地域生態学 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
環境地図学 1	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
環境地図学 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
空間情報学 1	2	2・3	◎	△	△	△	△	△	△
空間情報学 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
地域研究 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
地域研究 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
地域研究 3	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
地域研究 4	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
地域研究 5	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
文化地理学	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
陸水学	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
地理情報システム実習 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
地理情報システム実習 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
リモートセンシング実習 1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
リモートセンシング実習 2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
測量学	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
応用測量学	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
測量学実習	4	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
環境地理学特殊講義 A	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
環境地理学特殊講義 B	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
環境地理学特殊講義 C	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
環境地理学特殊講義 D	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
ゼミナール 1	4	3	○	△	△	△	△	△	△
ゼミナール 2	4	4	○	△	△	△	△	△	△
卒業論文	8	4	○	△	△	△	△	△	△

人文・ジャーナリズム学科専門科目一覧

科目名	単 位	配 当 年 次	人 文 ジ ャ ー ナ リ ズ ム	日 本 語	日 本 文 学 文 化	英 語 英 米 文 学	哲 学	歴 史	環 境 地 理
東西文化論	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
海が結ぶ世界	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
生涯学習論	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
マス・コミュニケーション概論	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
ジャーナリズム論	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
日本の中の世界	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
多文化社会と共生	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
文化の衝突と融合1	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
文化の衝突と融合2	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
中国の文化と歴史	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
コリアの文化と歴史	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
ヨーロッパの文化と歴史	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
中南米の文化と歴史	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
世界から見た日本1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
世界から見た日本2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
「交易の文化・文化の交易」論1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
「交易の文化・文化の交易」論2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
中国文化論	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
アジア文化論1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
アジア文化論2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
アジア文化論3	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
西欧文化論1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
西欧文化論2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
中・東欧文化論1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
中・東欧文化論2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
ラテンアメリカ文化論1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
ラテンアメリカ文化論2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
イスラムの歴史1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
イスラムの歴史2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
生涯教育・学習思想	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
学習ファシリテーション論	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
ジェンダー教育論	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
生涯スポーツ学	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
生涯学習調査実習1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
生涯学習調査実習2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
生涯スポーツ演習1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
生涯スポーツ演習2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
スポーツの心理学	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
生涯学習心理学	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
生涯学習政策論	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
生涯学習施設論	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
ワークショップ演習ベーシック	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
ワークショップ演習アドバンス	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
スポーツ政策	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
ライフサイクル論	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
スポーツサイエンス論	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
スポーツの社会学	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
スポーツビジネス	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
教育史1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
教育史2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
スポーツメンタルトレーニング演習	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
スポーツ情報戦略論	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
スポーツライフマネジメント論	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
子ども・若者支援演習	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
人権学習論	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
世代育成のポリティクス	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
教育・学習支援NPO論	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
国際ジャーナリズム論	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
政治ジャーナリズム論	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
スポーツジャーナリズム論	2	1・2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
放送学1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
放送学2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
新聞学1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
新聞学2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
出版学1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
出版学2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△

科目名	単 位	配 当 年 次	人 文 ジ ャ ー ナ リ ズ ム	日 本 語	日 本 文 学 文 化	英 語 英 米 文 学	哲 学	歴 史	環 境 地 理
広告学1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
広告学2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
言論法1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
言論法2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
言葉とメディア	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
教育とメディア	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
技術とメディア	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
市民とメディア	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
科学とメディア	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
娯楽とメディア	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
ジャーナリズム研究1	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
ジャーナリズム研究2	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
報道写真論	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
戦争ジャーナリズム論	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
沖縄ジャーナリズム論	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
メディアビジネス論	2	2・3・4	◎	△	△	△	△	△	△
メディア批評特講	2	3・4	◎	△	△	△	△	△	△
インターンシップ	2	3・4	◎	△	△	△	△	△	△
アーカイブ論1	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
アーカイブ論2	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
図書館概論	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
博物館概論	2	1・2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
情報メディア発達史	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
学習情報資源論	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
博物館資料調査法	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
情報アクセシビリティ論	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
アーカイブ特講	2	3・4	△	△	△	△	△	△	△
中国語文化演習1	2	3・4	△	△	△	△	△	△	△
中国語文化演習2	2	3・4	△	△	△	△	△	△	△
コリア語文化演習1	2	3・4	△	△	△	△	△	△	△
コリア語文化演習2	2	3・4	△	△	△	△	△	△	△
フランス語文化演習1	2	3・4	△	△	△	△	△	△	△
フランス語文化演習2	2	3・4	△	△	△	△	△	△	△
ドイツ語文化演習1	2	3・4	△	△	△	△	△	△	△
ドイツ語文化演習2	2	3・4	△	△	△	△	△	△	△
スペイン語文化演習1	2	3・4	△	△	△	△	△	△	△
スペイン語文化演習2	2	3・4	△	△	△	△	△	△	△
中期留学プログラム1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
中期留学プログラム2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
中期留学プログラム3	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
中期留学プログラム4	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
中期留学プログラム5	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
中期留学プログラム6	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
中期留学プログラム7	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
中期留学プログラム8	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
社会学原論1	2	1	△	△	△	△	△	△	△
社会学原論2	2	1	△	△	△	△	△	△	△
現代社会学論1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
現代社会学論2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
現代文化論1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
現代文化論2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
家族の社会学1	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
家族の社会学2	2	2・3・4	△	△	△	△	△	△	△
経済学概論1	2	2・3	△	△	△	△	△	△	△
経済学概論2	2	2・3	△	△	△	△	△	△	△
憲法1	2	2・3	△	△	△	△	△	△	△
憲法2	2	2・3	△	△	△	△	△	△	△
民法1	2	2・3	△	△	△	△	△	△	△
民法2	2	2・3	△	△	△	△	△	△	△
ゼミナール1	2	2	○	△	△	△	△	△	△
ゼミナール2	2	2	○	△	△	△	△	△	△
ゼミナール3	2	3	○	△	△	△	△	△	△
ゼミナール4	2	3	○	△	△	△	△	△	△
ゼミナール5	2	4	○	△	△	△	△	△	△
ゼミナール6	2	4	○	△	△	△	△	△	△
卒業論文	8	4	○	△	△	△	△	△	△

第4章

教職, 司書, 司書教諭, 学校司書, 学芸員課程について

- I 教 職 課 程
- II 司書・司書教諭・学校司書課程
- III 学 芸 員 課 程
- IV 大学院教職課程
- V 科目等履修生

I 教 職 課 程

1. 教職課程とは

本学では、中学校および高等学校の教育職員免許状を取得させることを目的として教職課程を設置している。

現在の法律では、原則として教育職員免許状を取得していないものは教職につくことが出来ない。ので、将来教職につく意思のあるものは、教職課程を履修し教育職員免許状を取得しなければならない。

本学で教育職員免許状を取得するためには原則として3年間以上教職課程の授業を履修し、学部の卒業単位の他に教職に関する科目と教科に関する科目の単位を修得しなければならない。なお、教職課程の履修者は受講料として履修初年度に25,000円を納入しなければならない。

2. 免許状の種類と取得所要資格

教育職員免許法（以下「免許法」という）に定められた教職ならびに教科に関する科目の単位を修得すれば、文学部にあっては、次の教育職員免許状（以下「免許状」という）が取得できる。

※中学校の免許状を取得する場合、7日間の介護等の体験が義務付けられている。詳細については4月に行われる教職課程ガイダンス時に説明を受けること。

学 部	学 科	種 類 ・ 教 科	
		中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状
文 学 部	日 本 語 学 科	国語	国語
	日 本 文 学 文 化 学 科	国語	国語・書道
	英 語 英 米 文 学 科	英語	英語
	哲 学 学 科	社会	地理歴史・公民
	歴 史 学 科	社会	地理歴史・公民
	環 境 地 理 学 科	社会	地理歴史・公民
	人 文 ・ ジ ャ ー ナ リ ズ ム 学 科	社会	地理歴史・公民

免許法の定めるところにより、上記免許状は、次表に定める基礎資格を有し、かつ大学において次表の所定単位を修得した者に授与される。

所要資格 免許状の種類	基礎資格	教育職員免許法及び免許法施行規則に定める最低修得単位数						
		免許法施行規則 第66条の6に定める科目				専 門 科 目		
		日 本 国 憲 法	体 育	外 国 語 コ ミ ュ ニ ケー ション	情 報 機 器 の 操 作	教職に 関する 科目	教科に 関する 科目	教科又は 教職に 関する 科目
中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	学士の学位を 有すること	2	2	2	2	31	20	8
高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	学士の学位を 有すること	2	2	2	2	23	20	16

学科により修得科目，修得単位が異なる。詳しくは「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」を参照すること。

※ 改正教育職員免許法（平成19年改正法，以下「新免許法」）の施行に伴う教員免許更新制（免許状更新講習）の実施について

平成21年4月の新免許法の施行に伴い，免許状には最長10年間の有効期限が設けられ，免許状を失効させないためには免許状取得要件を満たしてから10年毎に免許状更新講習を受講して，免許状の更新を行うことが義務付けられました。更新講習を受講しなかったり，講習終了時の試験に合格しなかった場合や受講後の更新手続きをしなかった場合は，免許状が失効することになります。

また，免許状更新講習の受講資格は現職教員の他，教壇に立つ予定にある者のみが持ちます。

3. 教職課程の履修について

教職課程の履修方法等詳細については，4月に行われる教職課程ガイダンスに出席し説明を受けること。また，履修初年度のガイダンス時に『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』を配付する。

II 司書・司書教諭・学校司書課程

1. 司書・司書教諭・学校司書課程とは

司書課程とは，公共図書館，大学図書館，研究機関や企業の資料室などで，資料（図書，雑誌，CD，DVD，官庁出版物，その他）を収集・整理し，これら資料を利用者に対し適切に提供する専門職（司書）を養成することを目的としている。

司書教諭課程とは、初等・中等教育の基礎をなす学校図書館の専門職員（司書教諭）を養成することを目的としている。したがって、司書教諭課程を履修するときは、教職課程も履修し、教育職員免許状を取得しなければならない。

学校司書課程とは、学校および学校図書館において、図書館資料の管理や提供、および、授業の支援や情報活用能力の育成などの職務について、司書教諭と協働しながら従事する職員である学校司書の養成を目的としている。

いずれの資格も現在有資格者はあふれている。したがって、単に資格の数をふやすための安易な履修は何の役にも立たない。各図書館から要求される人材は「実力のある人」「専門知識に強い人」であって、単なる有資格者はむしろ敬遠されるといっても過言ではない。

この課程を履修するものは、旺盛な知識欲と広い読書、それに専門分野についての十分な研鑽とが必要である。なお最近、各図書館の充実・拡充に伴って実力のある有資格者への要求が高まっていることを付言しておく。

本学で司書の資格を取得するためには原則として3年間以上、司書課程の授業を履修し、学部の卒業単位の他に15科目30単位以上を修得しなければならない。また、司書教諭については5科目10単位以上、学校司書については13科目26単位を修得しなければならない。なお、司書課程の履修者は受講料として25,000円、司書教諭課程の履修者は受講料として10,000円、学校司書課程の履修者は受講料として25,000円、司書課程と学校司書課程の両方の課程を履修する場合は35,000円を履修初年度に納入する必要がある。

2. 資格取得証明書について

司書課程を履修し、本学所定の単位を修得しかつ、学士の学位を取得した者は、本学発行の「司書資格取得証明書」が資格証明書となる。

司書教諭については、本学所定の単位を修得し、さらに教育職員免許状を取得した者に対して申請により文部科学省から「学校図書館司書教諭講習修了証書」が授与される。

学校司書課程を履修し、本学所定の単位を修得しかつ、学士の学位を取得した者は、本学発行の「学校司書課程修了証明書」が修了証明書となる。

3. 司書・司書教諭・学校司書課程の履修について

司書・司書教諭・学校司書課程の履修方法等詳細については、4月に行われる司書・司書教諭・学校司書課程ガイダンスに出席し説明を受けること。また、履修初年度のガイダンス時に『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』を配付する。

Ⅲ 学芸員課程

1. 学芸員課程とは

学芸員とは、博物館・美術館・歴史資料館・考古資料館・民俗資料館・民芸館・文学館・文書館・動植物園・水族館・科学館等に勤務し、その事業の目的を達成するために、資料の収集、保管、展示および調査研究、その他、これと関連する事業についての専門的事項を司る専門職員である。本課程では、その養成を目的としている。

学芸員の資格は、博物館法第5条で「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」と規定されている。

学芸員課程を履修し、本学所定の単位を修得しかつ、学士の学位を取得した者は、本学発行の「学芸員資格取得証明書」が資格証明書となる。

本学の学芸員課程は人文系の歴史・考古・民俗・美術史を専門とする学芸員を養成することを特色とするが、同時に社会教育に対するよき理解と学習意欲をもつ市民の養成も一つの目的である。

本学で学芸員の資格を取得するためには原則として2年間以上学芸員課程の授業を履修し、13科目27単位以上の単位を修得しなければならない。なお、学芸員課程の履修者は受講料として履修初年度に15,000円を納入しなければならない。

2. 学芸員課程の履修について

学芸員課程の履修方法等詳細については、4月に行われる学芸員課程ガイダンスに出席し説明を受けること。また、履修初年度のガイダンス時に『教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック』を配付する。

Ⅳ 大学院教職課程

大学院教職課程について

大学において教育職員免許法に定める所定単位を修得し、中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状の授与を受けた者が、大学院修士課程で本学所定の単位を修得し修了した場合、中学校教諭専修免許状・高等学校教諭専修免許状を取得することができる。

V 科目等履修生

科目等履修生について

在学中の単位不足等により本学卒業後、教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程の履修を希望する者は、科目等履修生として必要な単位を修得できる制度がある。ただし、科目等履修生となるためには、前年度の2月中旬～下旬に出願し、面接選考の上、合格した場合許可される。詳細については二部事務課窓口（神田校舎）で確認すること。

付 録

- I 専修大学履修規程
- II 専修大学定期試験規程
- III 定期試験における不正行為者処分規程

I 専修大学履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、専修大学学則第16条第1項の規定に基づき、専修大学(以下「本学」という。)における授業科目の履修方法及び修得すべき単位に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業科目の種類)

第2条 授業科目の種類は、次のとおりとする。

- (1) 必修科目 当該学部・学科の教育目的を達成するため、卒業要件として修得を必要とする授業科目をいう。
- (2) 選択科目 学生の履修目的に応じて選択し、修得単位を卒業要件に算入する授業科目(選択必修科目及び必修履修科目を含む。)をいう。
- (3) 自由科目 履修することはできるが、修得単位を卒業要件に算入しない授業科目をいう。

(履修方法)

第3条 各学部・学科並びに教職課程、司書課程、司書教諭課程、学校司書課程及び学芸員課程(以下「資格課程」という。)において履修する授業科目は、入学した年次に適用される学修ガイドブック及びこの規程に従い、学生本人が決定するものとする。

(単位数及び授業科目)

第4条 各学部・学科の卒業要件単位数及び授業科目並びに資格課程の取得等要件単位数及び授業科目は、別表第1から別表第3まで及び前条の学修ガイドブックに定めるところによる。

(履修登録)

第5条 授業科目の履修は、当該年度に履修する授業科目について、毎学年始めの履修科目登録期間に履修登録することにより行うものとする。

- 2 後期に履修する授業科目についても、原則として、前項の履修科目登録期間に履修登録するものとする。

(スポーツ・ウェルネス・プログラムの履修登録)

第6条 スポーツ・ウェルネス・プログラムの履修登録に関し必要な事項は、入学した年次に適用される「SWP学修ガイドブック」に定めるところによる。

(資格課程科目の履修登録)

第7条 教職課程科目は、教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料、実習料等を納入することにより履修することができる。

- 2 司書課程科目及び司書教諭課程科目は、司書又は司書教諭の資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料を納入することにより履修することができる。
- 3 学校司書課程科目は、学校司書課程を修了しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料を納入することにより履修することができる。
- 4 学芸員課程科目は、学芸員の資格を取得しようとする者が、所定の期日までに、所定の受講料及び実習料を納入することにより履修することができる。
- 5 資格課程科目の履修登録に関し必要な事項は、入学した年次に適用される「教職・司書・司書教諭・学校司書・学芸員課程学修ガイドブック」に定めるところによる。

(履修上限単位数)

第8条 1年間に履修登録することができる履修上限単位数は、各学部・学科が別に定めるところによる。

2 履修上限単位数には、再履修科目の単位を含めるものとし、次に掲げる単位を含めないものとする。

(1) 海外語学短期研修に参加したことにより認定される単位

(2) 資格試験により認定される単位

(3) 専修大学科目等履修生(付属高等学校生徒)として履修し、本学に入学した後、単位認定される授業科目の単位

(4) 資格課程科目として履修する授業科目の単位

(履修登録することができない授業科目)

第9条 転換教育課程、導入教育課程及び教養教育課程の授業科目のうち外国人留学生のために開講する授業科目は、外国人留学生以外の学生は、履修登録することができない。

2 前項の授業科目を履修登録した場合は、当該授業科目の履修登録を無効とする。

(再度の履修登録の禁止)

第10条 既に単位を修得した授業科目と同一名称の授業科目は、各学部・学科が指定する授業科目を除き、再び履修登録することができない。

2 再び履修登録した場合は、当該授業科目の履修登録を無効とする。

(重複した履修登録の禁止)

第11条 履修する年度において、同一の履修期間、曜日及び時限に行われる授業科目は、重複して履修登録してはならない。

2 重複して履修登録した場合は、いずれの授業科目の履修登録も無効とする。

(履修登録の修正、削除、追加及び変更)

第12条 履修登録の修正、削除、追加及び変更は、次に掲げる期間及び授業科目(各学部・学科が指定する授業科目を除く。)に限り認めるものとし、当該期間以外の期間については、特別の理由があると認められる場合を除き、履修登録の修正、削除、追加及び変更は認めないものとする。

(1) 履修科目登録期間又は前期履修修正期間 全ての授業科目

(2) 後期履修修正期間 後期のみ開講する授業科目

2 あらかじめ履修クラスが指定されている授業科目については、原則として、履修クラスの変更を認めないものとする。

3 履修者制限が行われた授業科目で、一旦履修を許可されたものについては、原則として、その削除及び変更を認めないものとする。

(履修の中止)

第13条 履修を継続する意思のない授業科目は、各学部・学科が指定する授業科目を除き、所定の履修中止申請期間に、所定の手続を行うことにより履修を中止することができる。

2 履修の中止については、次に定めるところにより取り扱うものとする。

(1) 履修を中止した授業科目は、授業への出席、定期試験の受験及び単位の修得をすることができない。

(2) 履修を中止した授業科目の単位は、当該年度の履修上限単位数に含める。

(3) 履修を中止した授業科目の単位数分の新たな履修登録は認めない。

- (4) 履修を中止した授業科目は、GPA及び平均点に算入しない。
- (5) 履修の中止により当該年度に履修登録した授業科目が無くなる場合は、履修中止申請を認めない。
- (6) 履修中止申請は、取り下げることができない。

(単位の修得)

第14条 履修登録を行わない授業科目については、単位を修得することができない。ただし、履修登録を行わない授業科目であっても本学が認定する単位については、この限りでない。

(事務所管)

第15条 この規程に関する事務は、教務部教務課の所管とする。

(規程の改廃)

第16条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

別表第1（第4条関係） 略

別表第2（第4条関係） 略

別表第3（第4条関係） 略

Ⅱ 専修大学定期試験規程

(趣旨)

第1条 この規程は、専修大学学則第17条の規定に基づき実施する試験に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第1条の2 この規程において「試験」とは、学事暦により期間を定めて実施する定期試験をいう。

(種類)

第2条 試験の種類は、次の各号に定めるとおりとする。

- (1) 前期試験 前期で終了する授業科目について実施する試験をいう。
- (2) 後期試験 後期で終了する授業科目及び通年で終了する授業科目について実施する試験をいう。
- (3) 前期追試験 第1号の試験を受験できなかった者に対し、当該授業科目について実施する試験をいう。
- (4) 後期追試験 第2号の試験を受験できなかった者に対し、当該授業科目について実施する試験をいう。

(時期)

第3条 試験の実施の時期は、次の各号に定めるとおりとする。ただし、実施の時期を変更することがある。

- (1) 前期試験 7月～8月
- (2) 後期試験 1月～2月
- (3) 前期追試験 8月
- (4) 後期追試験 2月～3月

(試験方法)

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によるものとする。ただし、レポートをもってこれに替えることができる。

(試験時間)

第5条 試験時間は、原則として60分とする。

(試験監督)

第6条 試験監督は、当該授業科目担当教員が行う。ただし、必要に応じて補助者を加えることがある。

2 試験監督者は、試験場において試験を厳正かつ円滑に実施する義務とこれに伴う権限を有する。

(試験委員)

第7条 試験の実施に際し、試験委員を置く。

- 2 試験委員は、試験の実施を統轄する義務と権限を有する。
- 3 試験委員は、教授会の承認を得て、学長が委嘱する。
- 4 試験委員は、試験の実施結果を学長に報告しなければならない。

(受験資格の取得)

第8条 受験資格は、次の各号の所定の手続を完了することにより取得する。

- (1) 履修科目登録の手続
 - (2) 学費の納入手続
 - (3) その他所定の手続
- 2 前項の規定にかかわらず、試験時において休学又は停学中の者は、受験資格を有しない。

(受験資格の喪失)

第9条 次の各号の一に該当する者は、当該授業科目の受験資格を失う。ただし、第4号については、別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

- (1) 学生証を携帯していない者
 - (2) 試験開始後20分を超えて、遅刻した者
 - (3) 試験監督者の指示に従わない者
 - (4) 試験において不正行為を行った者
- 2 前項第1号に該当する者に対して、当日のみ有効とする臨時学生証による受験を認める。
- 3 臨時学生証の交付を受けようとする者は、当該試験開始時刻までに、一部の試験については教務課窓口、二部の試験については二部事務課窓口に申し出なければならない。
- 4 前項の規定にかかわらず、同項の規定による申出をしなかった場合であっても、その者が試験教室において、当該試験開始時刻までに試験監督者に対し、学生証不携帯の旨を申し出たときは、臨時学生証の交付を認めることができる。
- 5 前2項の規定による臨時学生証の交付に当たっては、所定の交付手数料を徴収するものとする。

(受験手続)

第10条 第2条第1号及び第2号による受験者は、試験前に公示する「定期試験実施要領」により、所定の手続を完了しなければならない。

- 2 第2条第3号及び第4号による受験者は、所定の期日までに追試験受験願及び次の各号に定める試験欠席理由を証明する書類を提出し、受験許可を得なければならない。
- | | |
|---------------------|---------------|
| (1) 教育実習 | 教育実習参加を証明するもの |
| (2) 就職試験 | 就職試験受験を証明するもの |
| (3) 業務命令による出張又は超過勤務 | 所属長による証明書 |
| (4) 公式試合 | 公式試合参加を証明するもの |

- | | |
|---------------------------------------|-------------------|
| (5) 天災その他の災害 | 被災を証明するもの |
| (6) 二親等以内の危篤又は死亡 | 危篤又は死亡を証明するもの |
| (7) 本人の病気又は怪我 | 医師の診断書 |
| (8) 交通機関の事故 | 遅延又は事故を証明するもの |
| (9) その他当該学部長がやむを得ない理由と認めた事項
(成績評価) | 学部長の承認を得た本人記載の理由書 |

第11条 成績評価は、100点を満点とし、60点以上を合格とし、60点未満を不合格とする。

2 前項の場合において、成績評価の区分は、90点以上をS、85点以上90点未満をA+、80点以上85点未満をA、75点以上80点未満をB+、70点以上75点未満をB、65点以上70点未満をC+、60点以上65点未満をC、60点未満をFとする。

3 前項の成績評価の区分に応じてグレード・ポイントを付与し、グレード・ポイント・アベレージ(GPA)を算出する。この場合において、グレード・ポイントは、Sを4.0、A+を3.5、Aを3.0、B+を2.5、Bを2.0、C+を1.5、Cを1.0、Fを0.0とする。

(成績発表)

第12条 試験の成績結果は、9月及び3月に本人に通知する。

(受験者の義務)

第13条 受験者は、次の各号に定める事項を厳守しなければならない。

- (1) 試験場においては、試験監督者の指示に従うこと。
- (2) 試験開始後20分以内の遅刻者は、試験監督者の入室許可を得ること。
- (3) 学生証を机上に提出すること。
- (4) 解答にさきだつて、学籍番号及び氏名を記入すること。
- (5) 学籍番号及び氏名の記入は、ペン又はボールペンを使用すること。
- (6) 試験開始後30分以内は、退場しないこと。
- (7) 配付された答案用紙は、必ず提出すること。
- (8) 試験場においては、物品の貸借をしないこと。

(無効答案)

第14条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 第8条に定める受験資格を有していない者の答案
- (2) 第9条に該当する者の答案
- (3) 学籍番号及び氏名が記入されていない答案
- (4) 不正行為に該当する者の答案
- (5) 授業科目の担当者、曜日又は時限を間違えて受験した者の答案

(不正行為)

第15条 試験における不正行為とは、次の各号の一に該当する場合をいう。

- (1) 代人が受験したとき。(依頼した者・受験した者)
- (2) 答案を交換したとき。
- (3) カンニングペーパーを廻したとき。
- (4) カンニングペーパーを使用したとき。
- (5) 所持品(電子機器を含む。)その他へ事前に書込みをして、それを使用したとき。
- (6) 他人の答案を写したとき。(見た者・見せた者)
- (7) 言語・動作・電子機器等で連絡したとき。(連絡した者・連絡を受けた者)
- (8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品を使用したとき。
- (9) 他人の学生証で受験したとき。(貸した者・借りた者)
- (10) 偽名答案を提出したとき又は氏名を抹消して提出したとき。
- (11) 故意による答案無記名のとき。
- (12) 答案を提出しなかったとき。
- (13) 使用が許可された参考書等で貸借をしたとき。
- (14) その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めたとき。

(不正行為の確認)

第16条 試験監督者は、不正行為を発見した場合、その受験者の受験を直ちに中止させ、本人を同行して試験委員に報告するものとする。

2 試験委員は、学生部委員の立ち合いのもとに、不正行為の事実確認を行う。

3 試験委員は、不正行為が確認された場合、本人に始末書を提出させ、速やかに当該学部長に報告しなければならない。

(不正行為者の処分)

第17条 不正行為者の処分は、別に定める「定期試験における不正行為者処分規程」による。

(規程の改廃)

第18条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

Ⅲ 定期試験における不正行為者処分規程

第1条 この規程は、専修大学定期試験規程第17条の規定に基づき、定期試験（以下「試験」という。）における不正行為者の処分に関し、必要な事項を定めるものとする。

第2条 不正行為者の処分は、学部長が行う。

第3条 不正行為者の処分は、次の基準による。

- | | |
|---|--|
| (1) 代人受験（依頼した者・受験した者） | 2ヶ月の停学処分とし、当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。 |
| (2) 答案交換 | 第1号に同じ |
| (3) カンニングペーパー廻し | けん責処分とし、当該科目履修期間における定期試験実施科目を無効とする。 |
| (4) カンニングペーパーの使用 | 第3号に同じ |
| (5) 当該試験に関する事項の書込み（所持品・電子機器・身体・机・壁等） | 第3号に同じ |
| (6) 答案を写す（見た者・見せた者） | 第3号に同じ |
| (7) 言語・動作・電子機器等により連絡する行為（連絡した者・連絡を受けた者） | 第3号に同じ |
| (8) 使用が許可されていない参考書・電子機器その他の物品の使用 | 第3号に同じ |
| (9) 他人の学生証を利用した受験（貸した者・借りた者） | 第3号に同じ |
| (10) 偽名又は氏名抹消 | 第3号に同じ |
| (11) 故意による無記名 | 第3号に同じ |
| (12) 答案不提出 | 第3号に同じ |
| (13) 使用が許可された参考書等の貸借（貸した者・借りた者） | けん責処分とし、当該受験科目を無効とする。 |
| (14) その他試験監督者及び試験委員が不正行為と認めた場合 | 第1号から第13号に準じて処分する。 |

2 学部長は、前項の処分について速やかに学長及び教授会に報告しなければならない。

第4条 前条により処分を受けた者が、再度不正行為をした場合は、前条の規定にかかわらず教授会の議を経て2カ月以上1年以下の停学とし、当該不正行為が行われた学期における定期試験実施科目を無効とする。

- 第5条** 試験終了後に不正行為が発覚した場合においても、第3条及び第4条により処分する。
- 第6条** 処分の起算日は、処分決定日とする。
- 第7条** 不正行為者の氏名及び処分は、速やかに掲示し、本人及び保証人に通知する。
- 第8条** 処分事項は、学籍簿に記載するものとする。
- 第9条** 不正行為者が本学奨学生制度による奨学生であるときは、直ちにその資格を失う。
- 第10条** 停学処分中の者は、当該学部長の指導に従わなければならない。
- 第11条** 不正行為者処分に関する事務取扱いは、教務課又は二部事務課が行う。
- 第12条** この規程の改廃は、教授会の議を経て学長が決定する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

